

基礎力測定テスト

PROG 全体傾向報告書 (2024)

2025.03.12
株式会社リアセック

受験日： 2024年6月 ～ 2025年1月

※2・4年次は集計対象外としています。

学部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	81	0	88	0	169
	健康福祉学科	10	0	23	0	33
		91	0	111	0	202
教育文化学部	教育学科	126	0	94	0	220
	芸術学科	34	0	36	0	70
	心理カウンセリング学科	42	0	43	0	85
		202	0	173	0	375
短期大学部	こども学科	62	0	-	-	62
		62	0	-	-	62
合計		355	0	284	0	639

※WEB受験のリテラシーテストにおいて受験時間制限45分のところ解答時間20分未満、または 全30問中解答数10問以下の学生について、解答姿勢が低かったことが想定されるため、これらの学生のスコアを除いて集計しております。
除外対象・集計対象数と除外前スコアは下記の通りです。

学部	学科	学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア		学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア	
						リテラシー 総合	コンピテンシー 総合					リテラシー 総合	コンピテンシー 総合
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	1年	131	50	81	2.82	3.68	3年	136	48	88	3.31	4.12
生涯スポーツ学部	健康福祉学科	1年	24	14	10	1.88	3.83	3年	35	12	23	3.17	2.97
教育文化学部	教育学科	1年	142	16	126	3.46	3.05	3年	128	34	94	3.41	3.30
教育文化学部	芸術学科	1年	39	5	34	3.44	2.90	3年	43	7	36	3.95	3.30
教育文化学部	心理カウンセリング学科	1年	57	15	42	3.42	2.60	3年	52	9	43	3.56	2.80

■2024年度貴学WEB受験者838名の平均解答時間と平均解答数は下記の通りです。

リテラシー解答時間:28分55秒	リテラシー解答数:29.2問
------------------	----------------

Part.1

スポーツ教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※スポーツ教育学科1年次、スポーツ教育学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

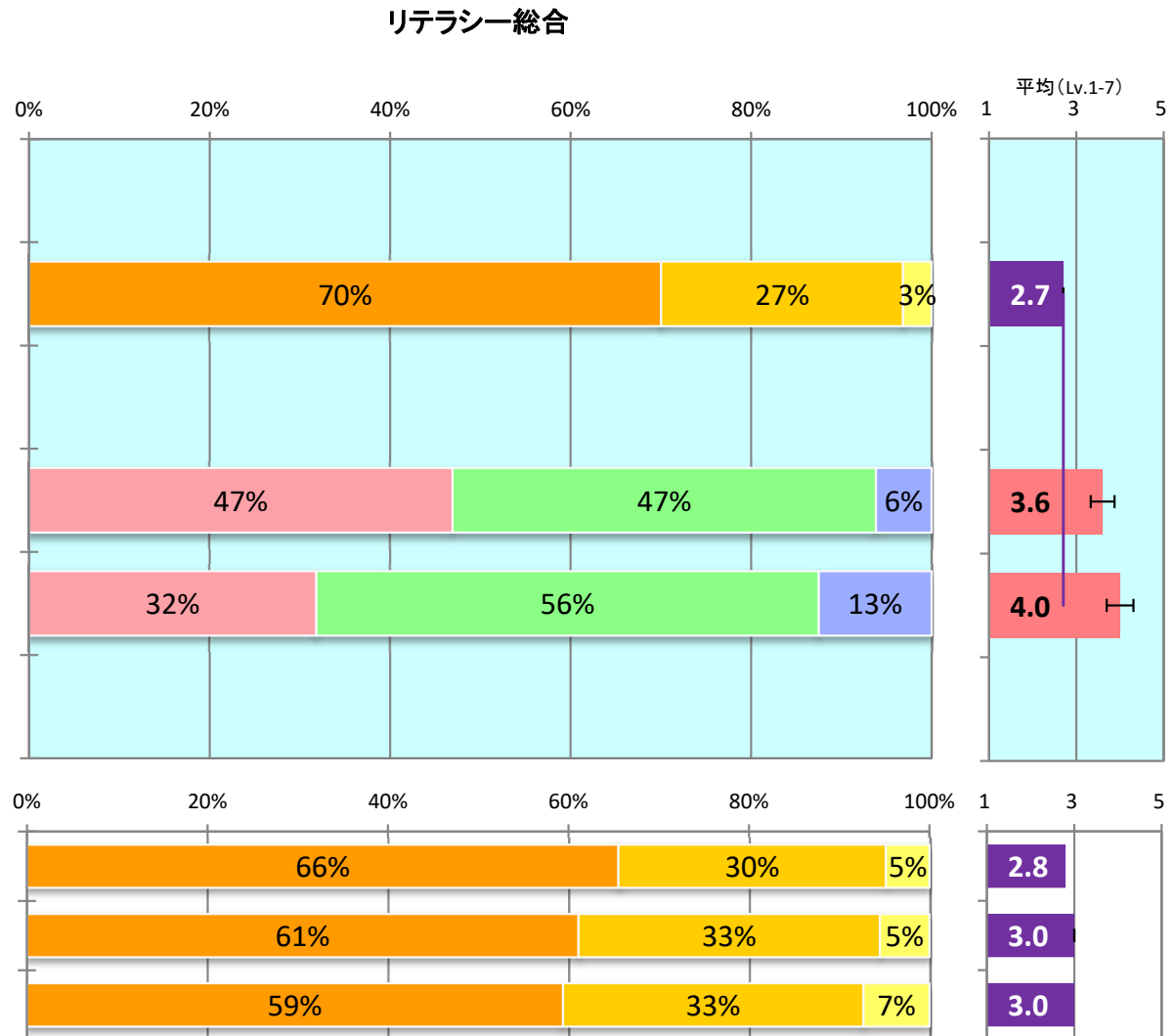
【基準集団】

★私立大学1年(体育学系/入試難易度(偏差値)40未満)	11校 N=3,632
------------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
スポーツ教育学科1年次	20.74	0.00
スポーツ教育学科3年次	69.99	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(体育学系/入試難易度(偏差値)40未満)	12校 N=2,844
私立大学1年(体育学系)	21校 N=8,843
私立大学3年(体育学系)	22校 N=4,928

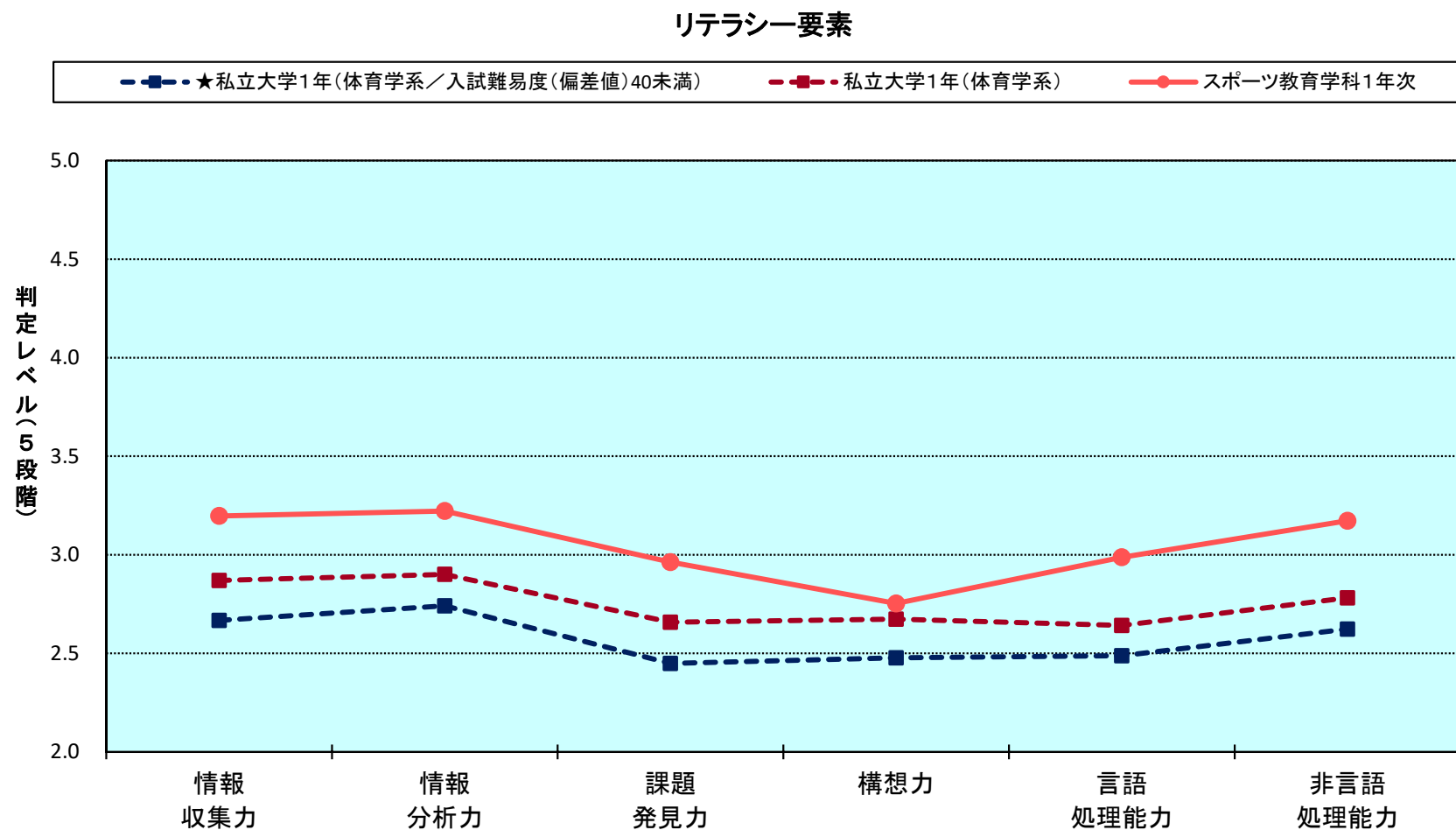


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【スポーツ教育学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

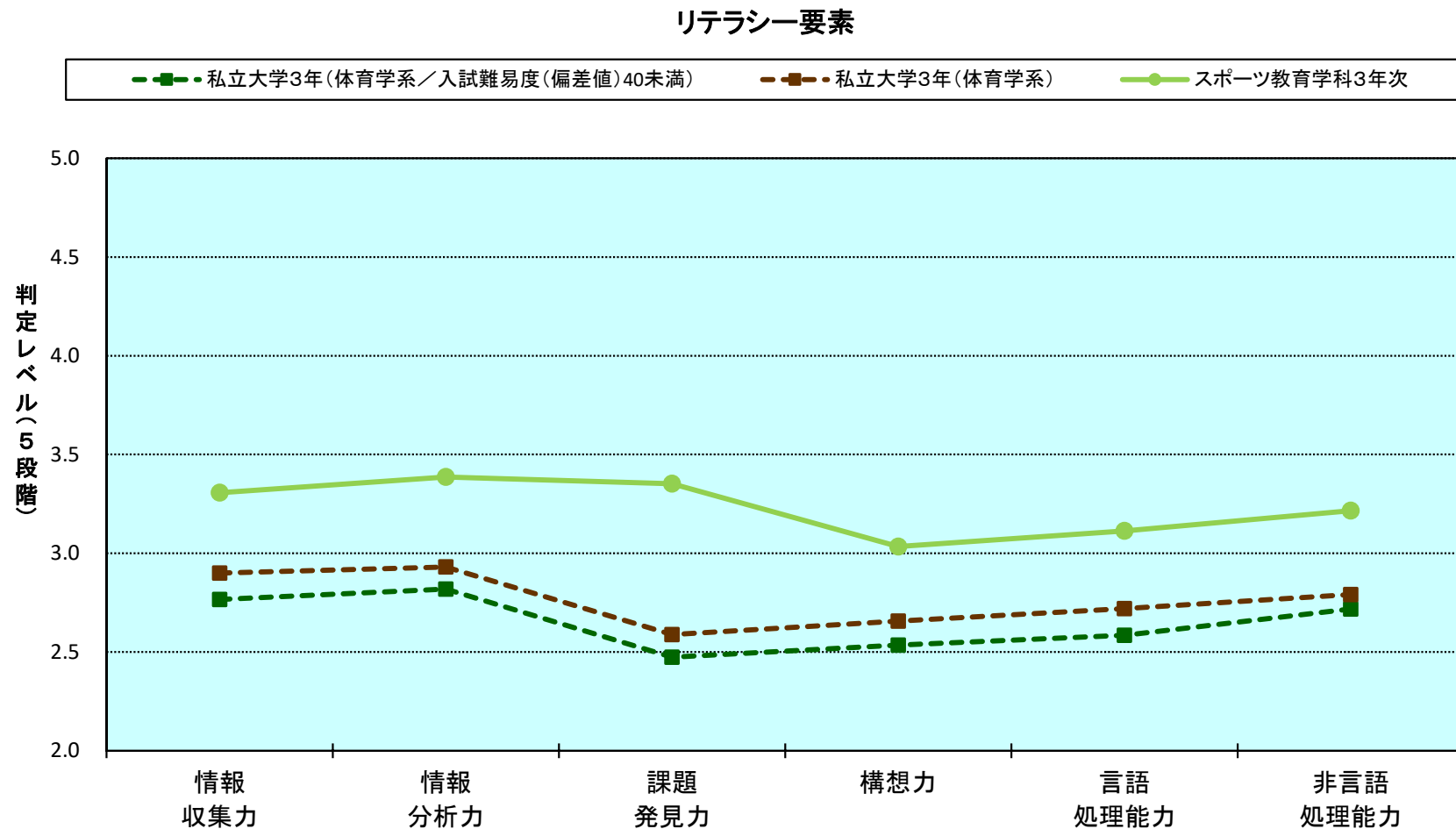
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【スポーツ教育学科3年次】

基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年次は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

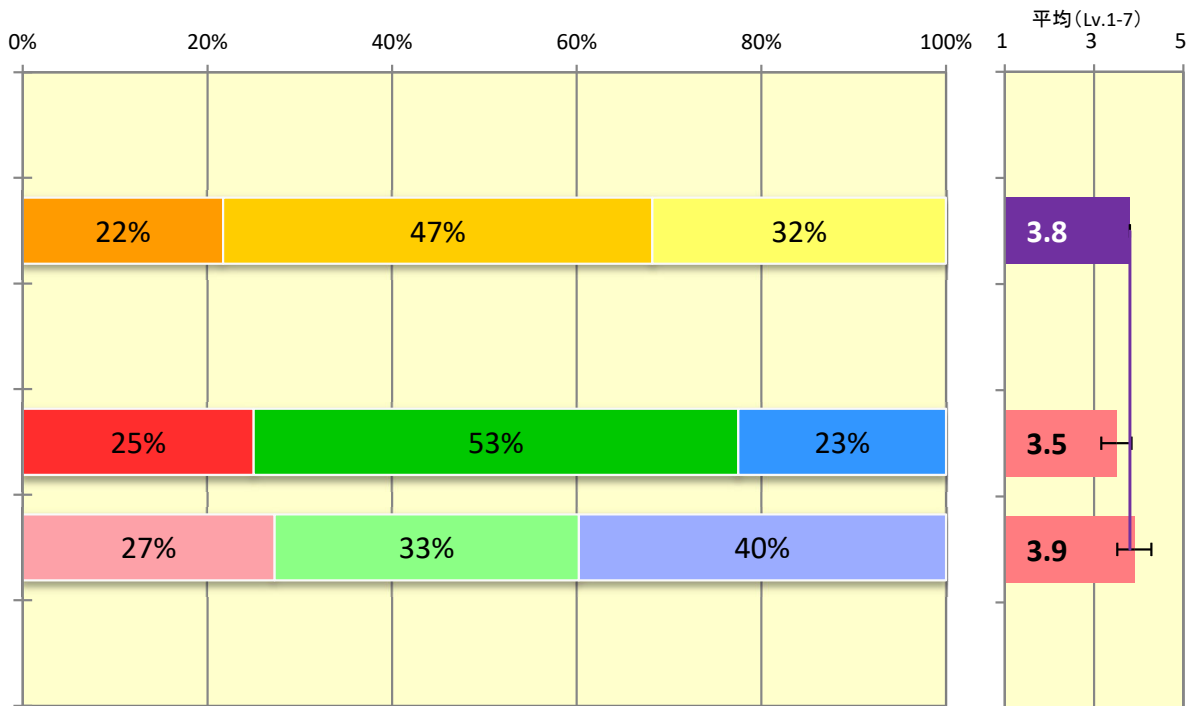
凡例 (コンピテンシー総合・大分類)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

コンピテンシー総合



【基準集団】

★私立大学1年(体育学系/入試難易度(偏差値)40未満)	16校 N=8,917
------------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
スポーツ教育学科1年次	3.20	0.20
スポーツ教育学科3年次	6.50	0.04

【ご参考基準集団】

私立大学3年(体育学系/入試難易度(偏差値)40未満)	16校 N=5,635
私立大学1年(体育学系)	29校 N=19,056
私立大学3年(体育学系)	29校 N=9,552

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

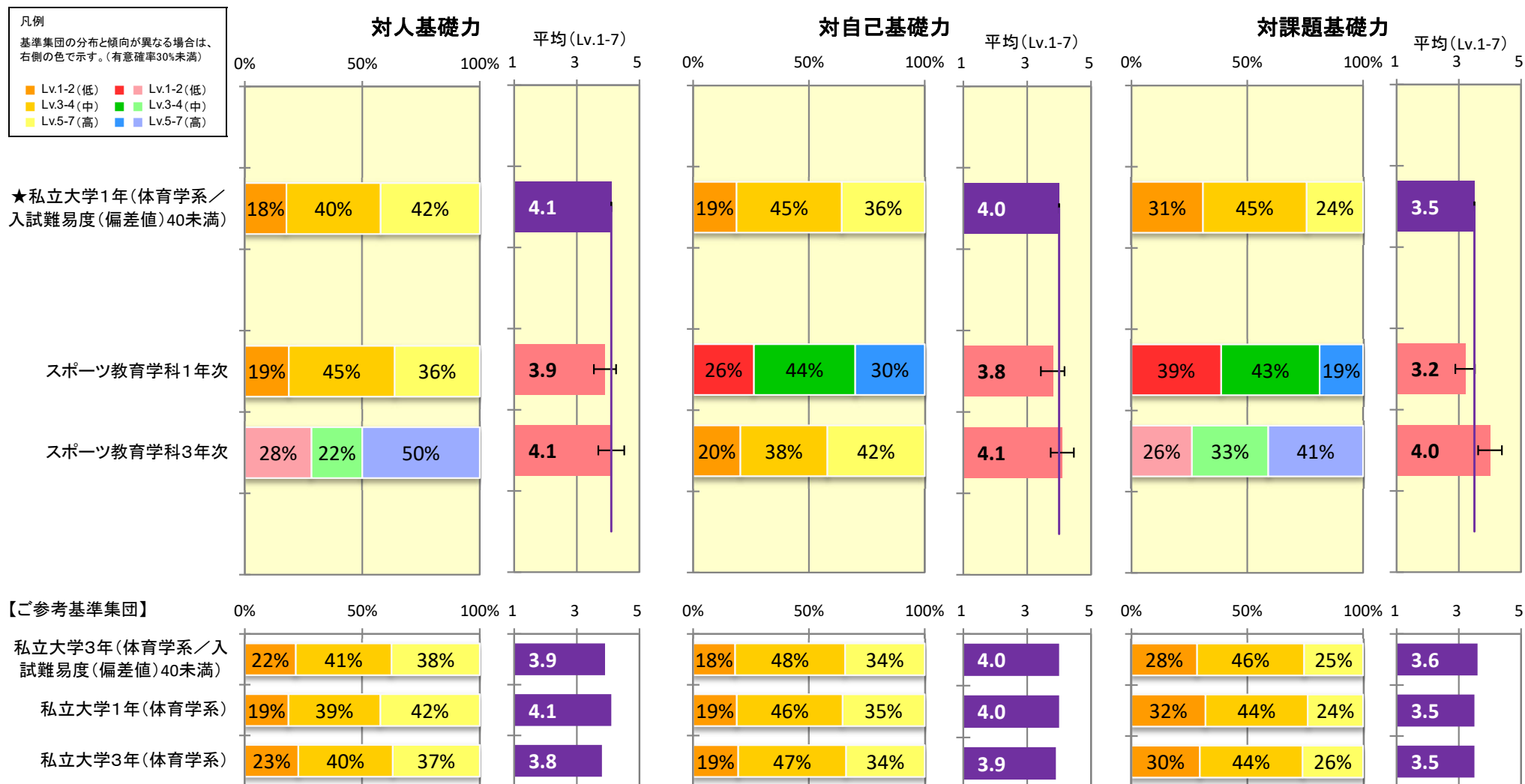
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

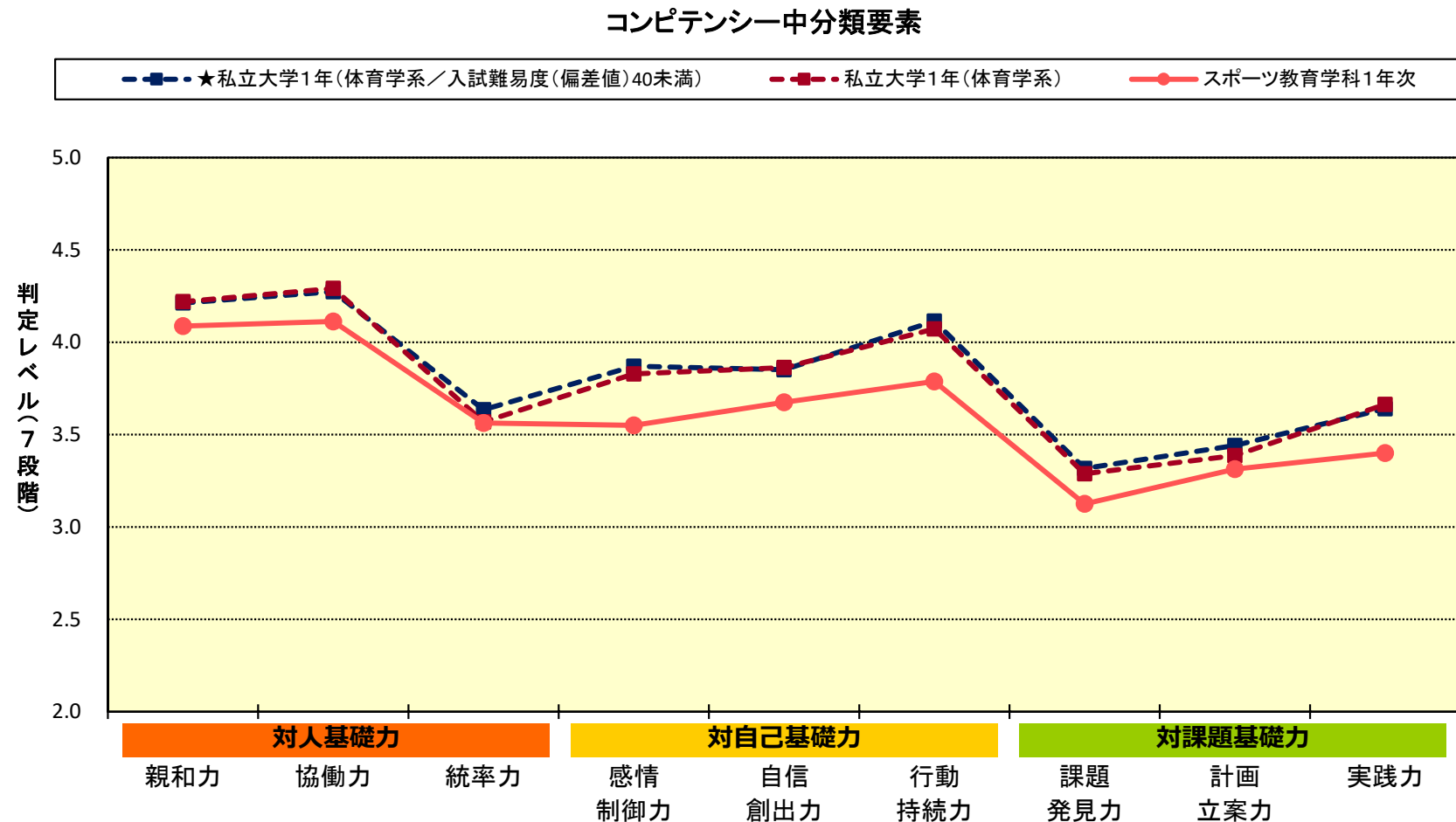
●基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。



コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【スポーツ教育学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、親和力、協働力、統率力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

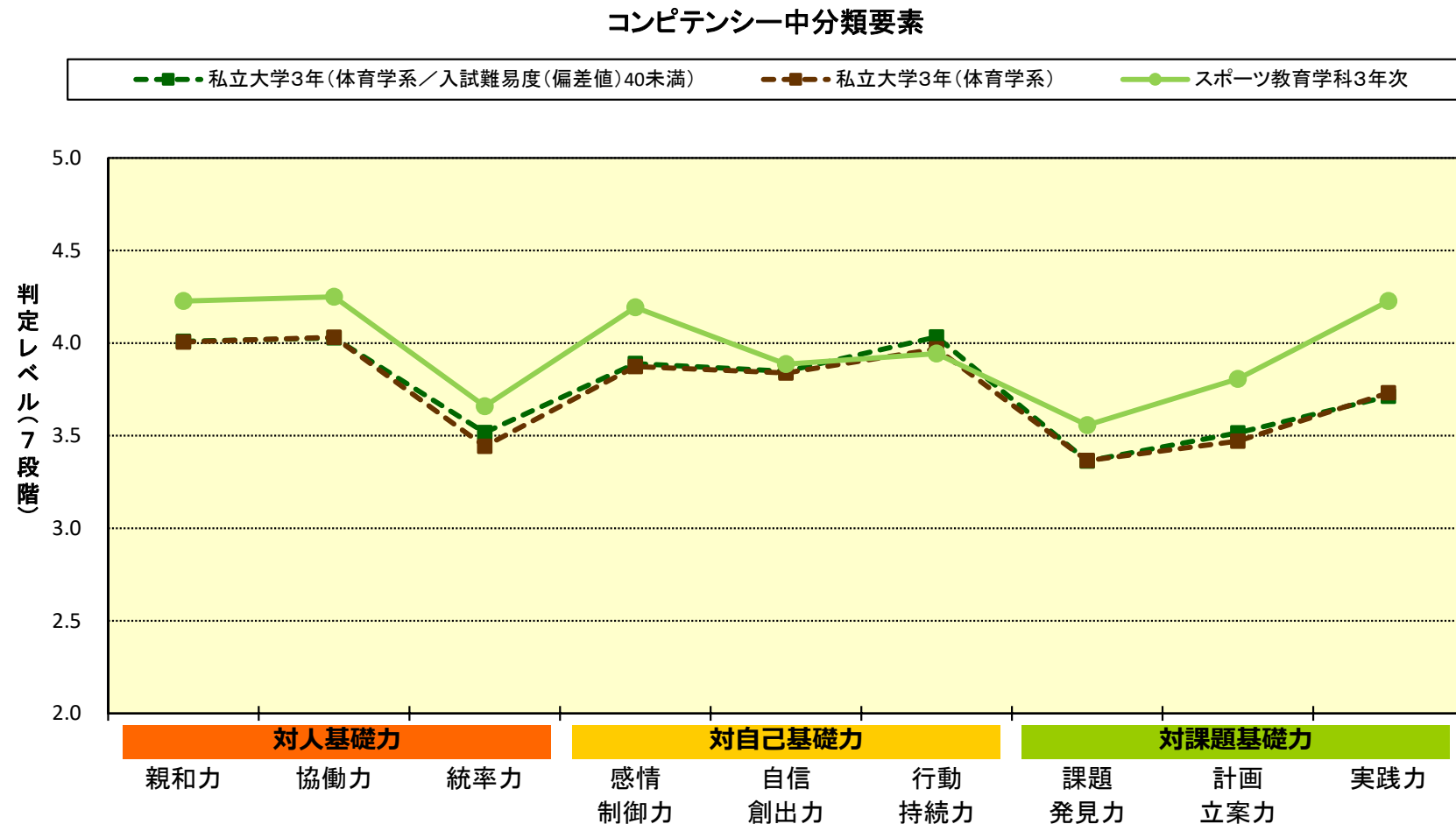
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【スポーツ教育学科3年次】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高く、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。一方、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

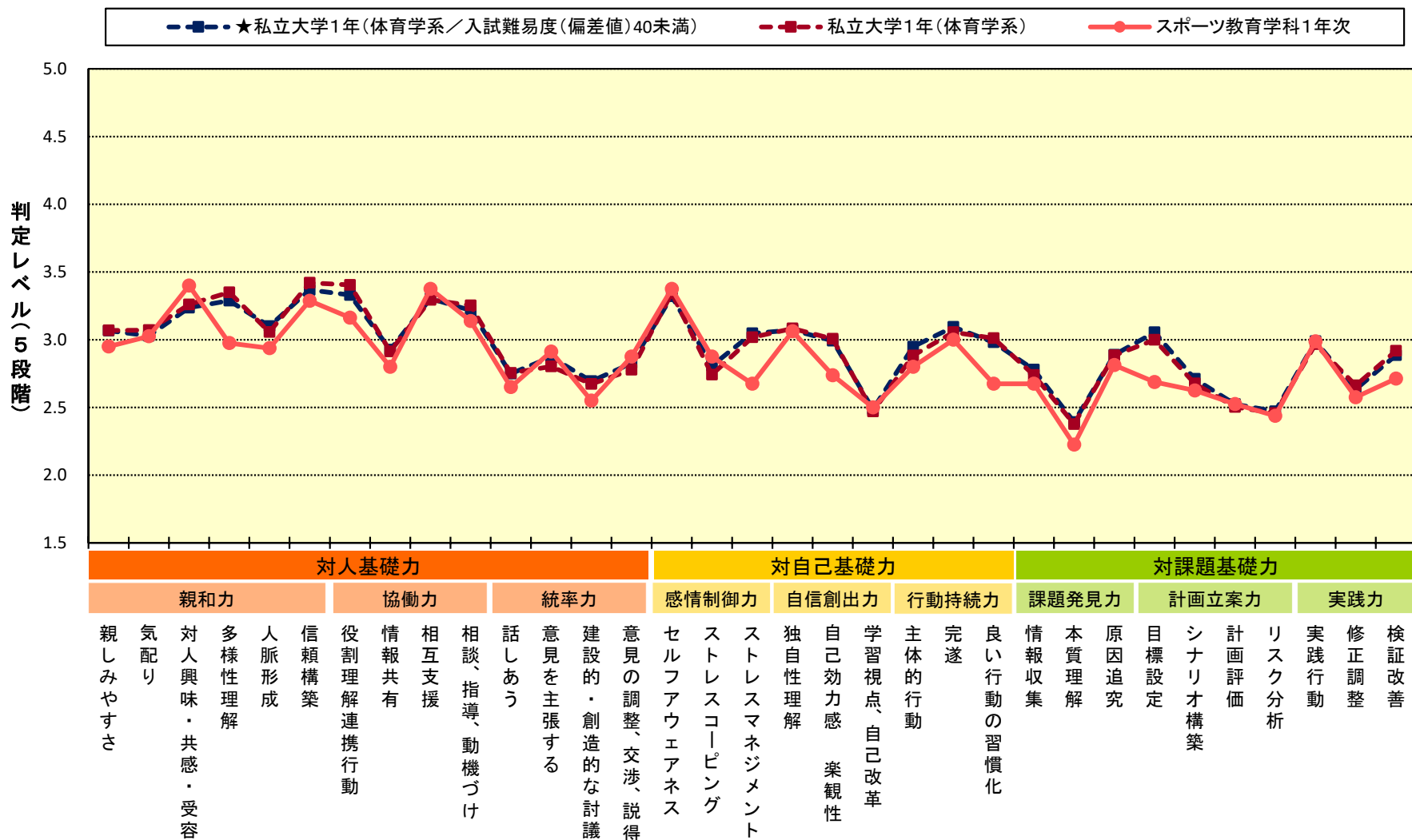
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【スポーツ教育学科1年次】

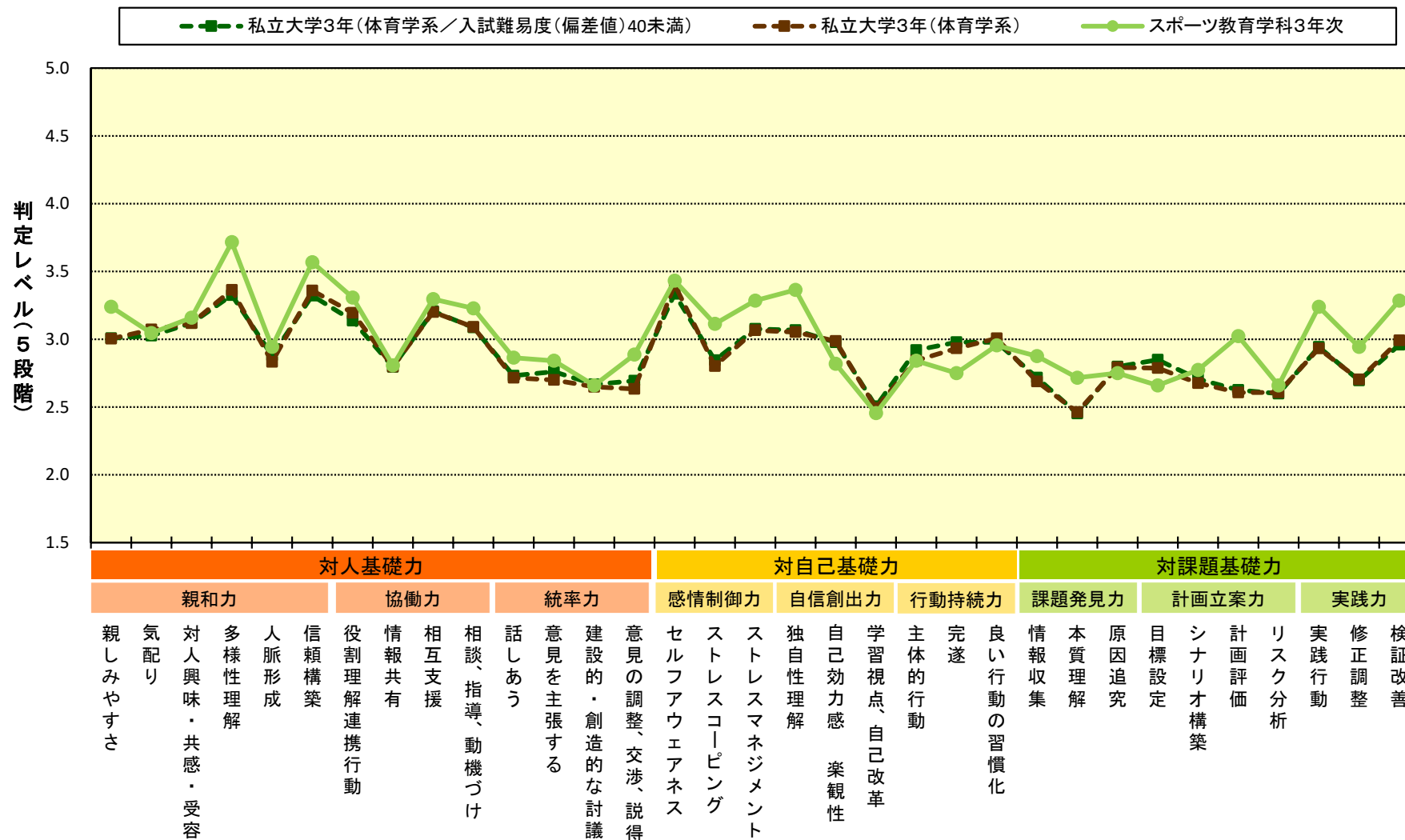
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【スポーツ教育学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
スポーツ教育学科 1 年次	-	◎	◎	◎	◎	▲	-	-	-	▲	▲	▲	▲	-	▲
スポーツ教育学科 3 年次	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	◎	-	-	◎	◎	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【スポーツ教育学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー		
●感情制御力	心を落ち着かせる自分なりの方法をもっている 緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる 自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる	強いプレッシャーの中で、いつもの力を発揮することを繰り返し練習させる 厳しい指摘や質問にも、的確に答えることを繰り返し練習させる ストレスの原因を冷静に見極め、その解決策を考えるよう指導する ストレスの原因に自ら働きかけ、解消させる
●自信創出力	自分の強みや持ち味を活かす機会を逃さないようにしている 常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる どんな仕事や課題でも、主体性と好奇心をもって取り組むことができる 成長の機会を自ら創り出していくことができる	与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する 失敗からも学ぶことが多いことを指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる
●行動持続力	目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げることができる 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に結びつけることができる 課題には、自分が納得できる結果が出るように、期限ぎりぎりまで粘り強く取り組む 検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している	レポートなど、自分の出す成果の質(水準)にとことん拘わらせる 一度始めたことは、結果がでるまで粘り強く取り組むよう指導する 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に向かうよう指導する
●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

【スポーツ教育学科3年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

Part.2

健康福祉学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、健康福祉学科1年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※健康福祉学科1年次、健康福祉学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

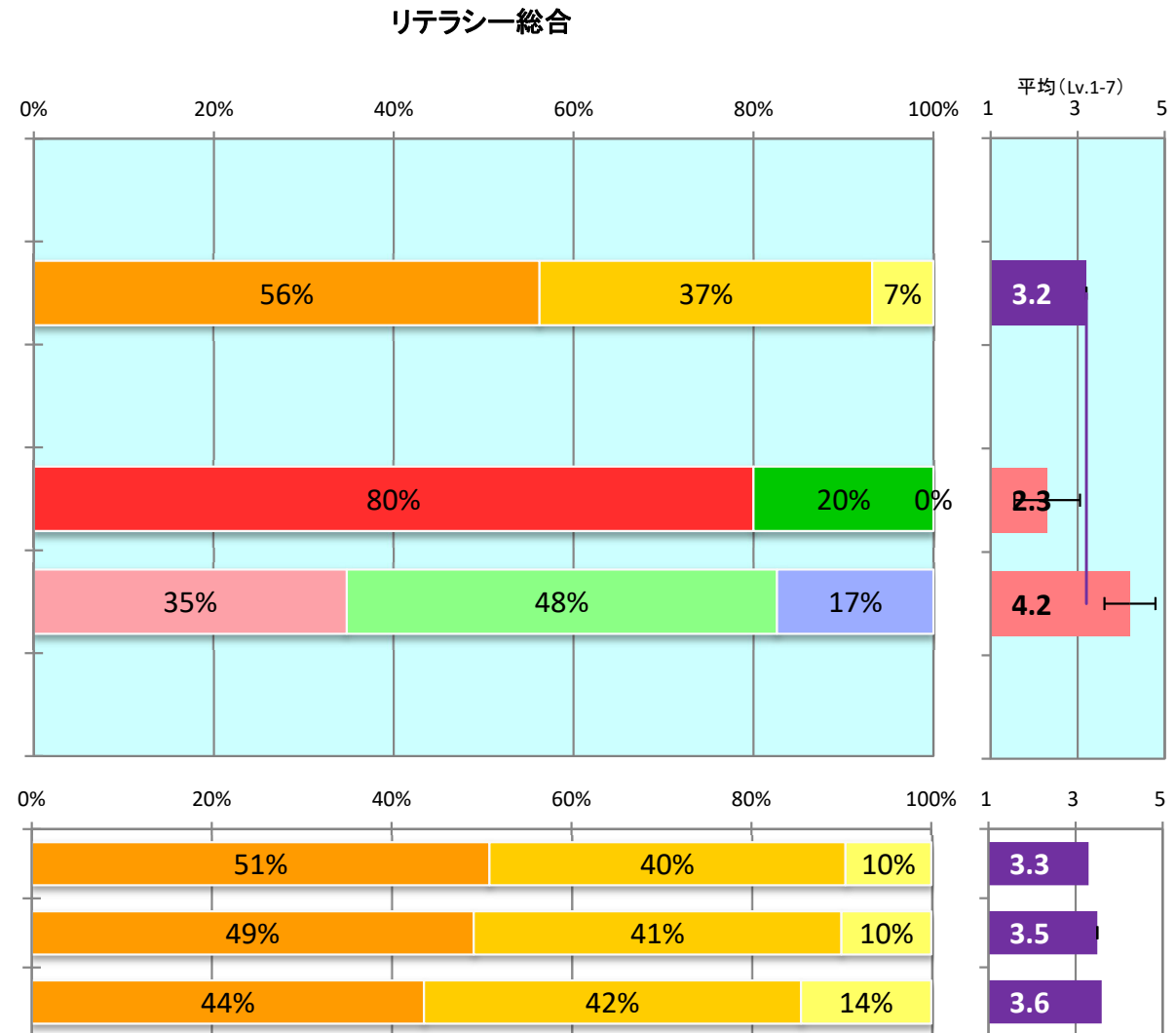
【基準集団】

★私立大学1年(福祉学系／入試難易度(偏差値)40未満)	17校 N=1,852
------------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
健康福祉学科1年次	2.47	0.29
健康福祉学科3年次	6.40	0.04

【ご参考基準集団】

私立大学3年(福祉学系／入試難易度(偏差値)40未満)	18校 N=1,478
私立大学1年(福祉学系)	26校 N=2,846
私立大学3年(福祉学系)	24校 N=2,238



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

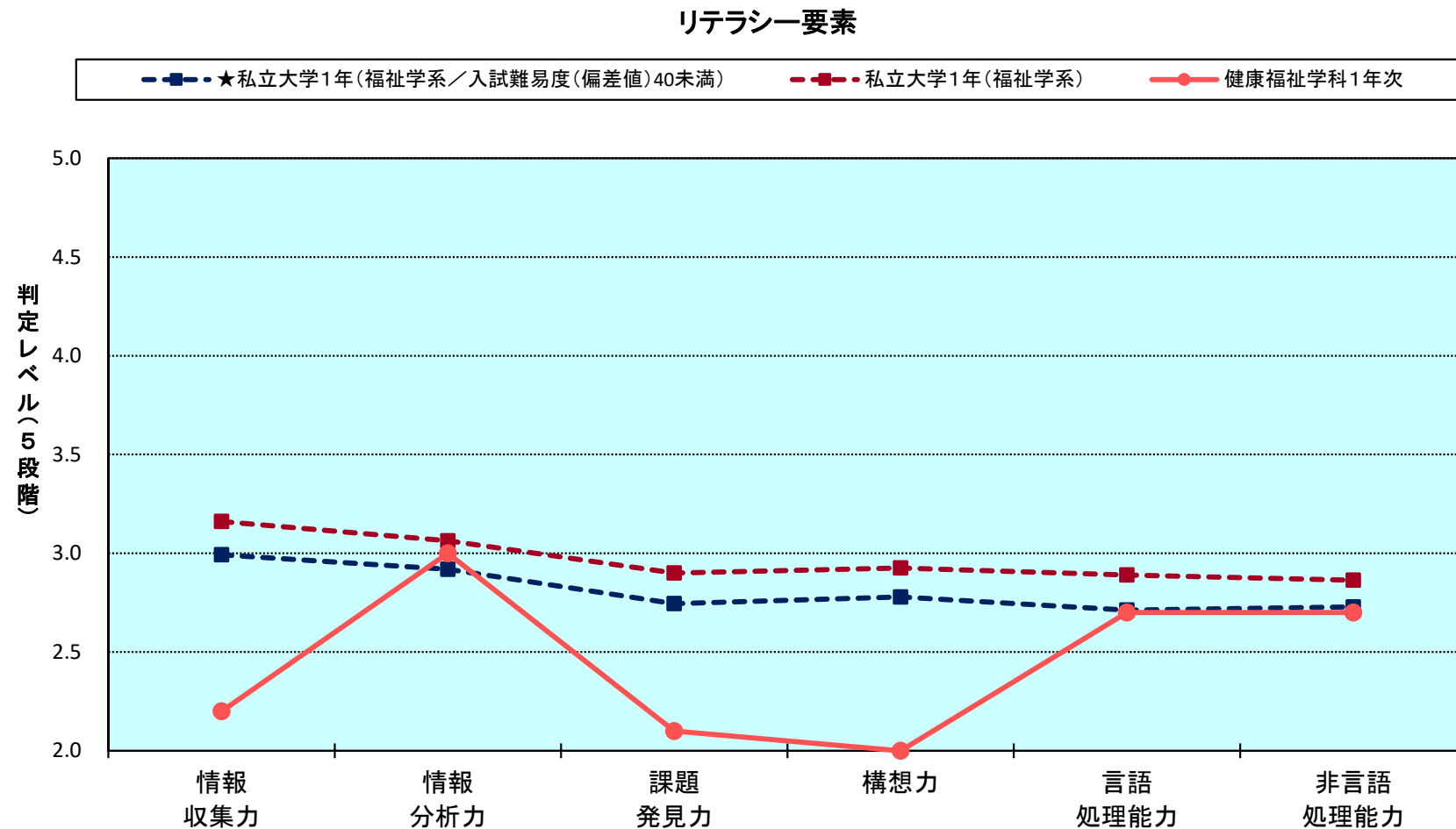
リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【健康福祉学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、情報分析力の平均値は上回る傾向にある。

一方、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、課題発見力、構想力の平均値は低い。

(※健康福祉学科1年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

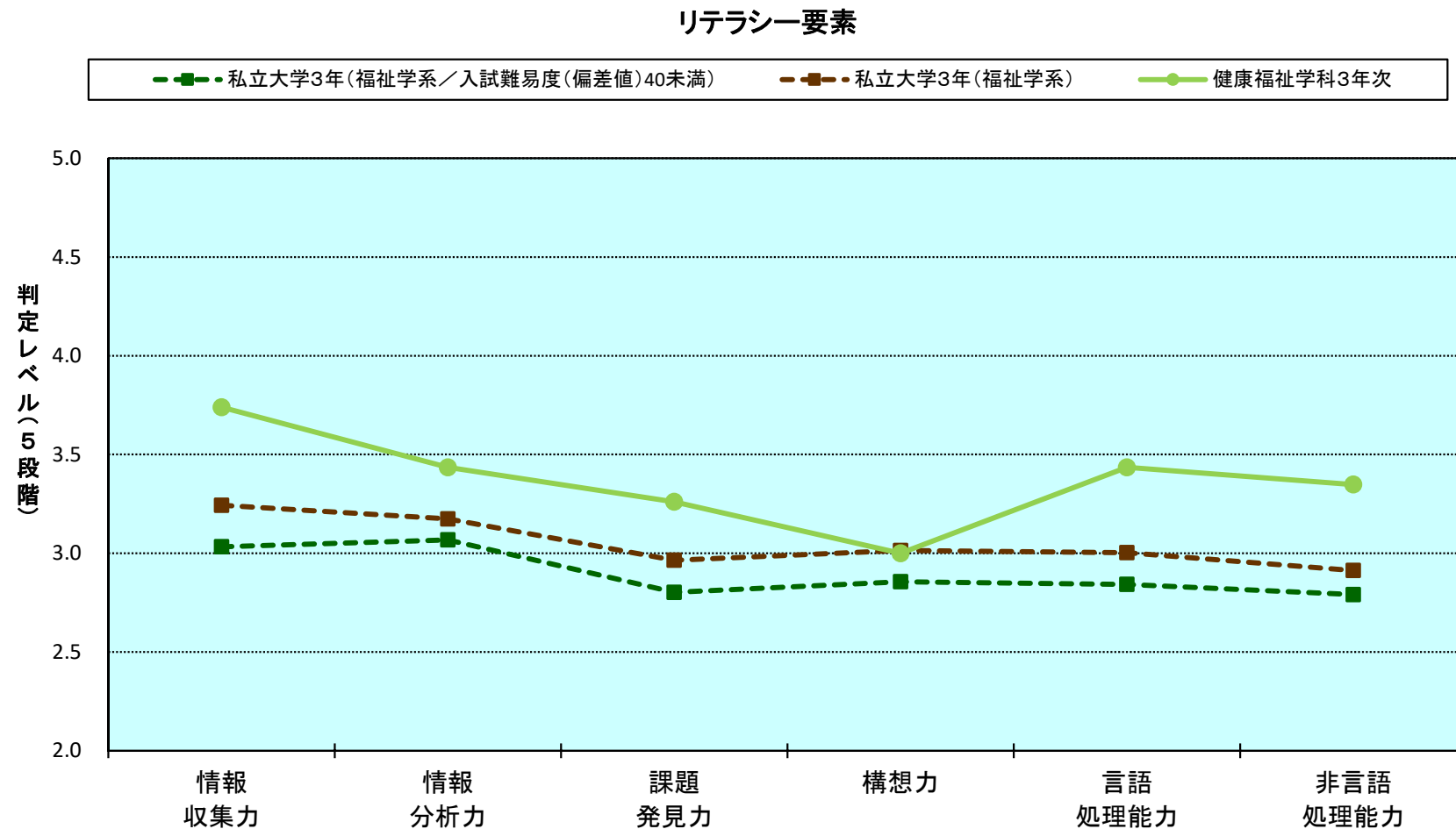
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【健康福祉学科3年次】

基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、
 構想力の平均値は上回る傾向にある。
 (※健康福祉学科3年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、健康福祉学科3年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※健康福祉学科1年次、健康福祉学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

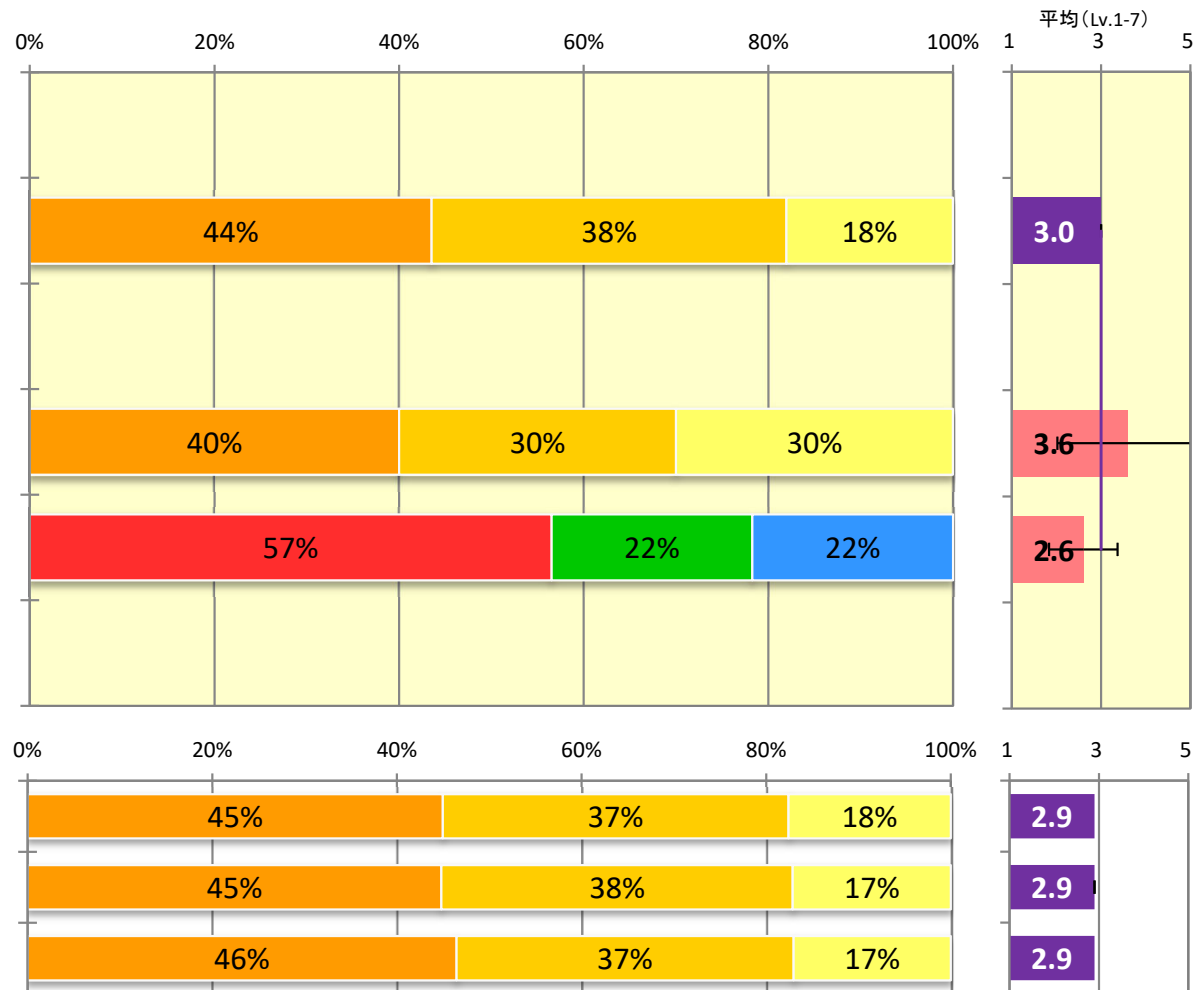
凡例 (コンピテンシー総合・大分類)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

コンピテンシー総合



【基準集団】

★私立大学1年(福祉学系/入試難易度(偏差値)40未満)	29校 N=8,528
------------------------------	-------------

χ²乗値 有意確率

健康福祉学科1年次	1.00	0.61
健康福祉学科3年次	2.73	0.26

【ご参考基準集団】

私立大学3年(福祉学系/入試難易度(偏差値)40未満)	29校 N=6,507
私立大学1年(福祉学系)	41校 N=13,897
私立大学3年(福祉学系)	41校 N=11,074

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

【対人基礎力】

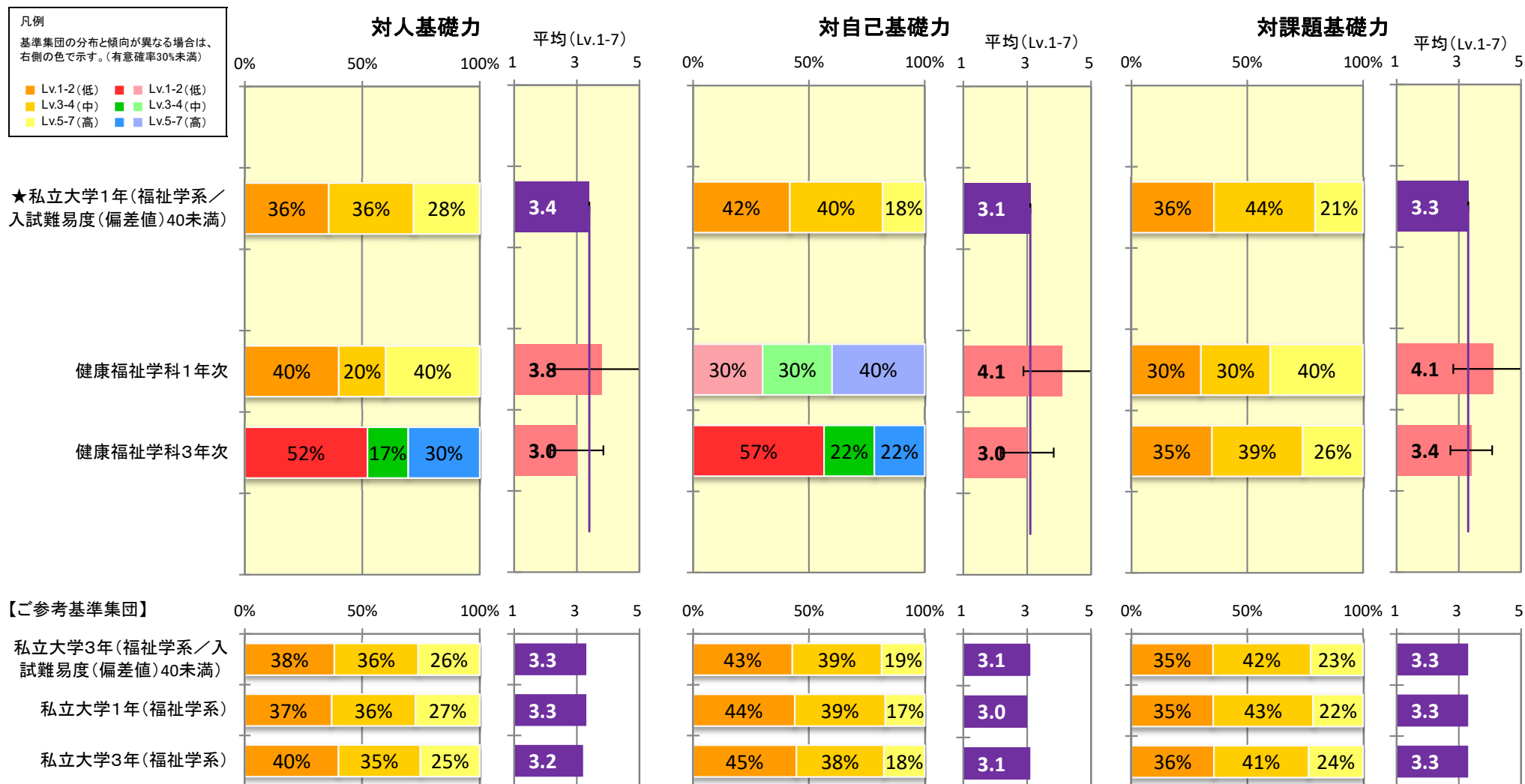
●基準集団(★印)と比較して、健康福祉学科3年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
※健康福祉学科1年次、健康福祉学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、健康福祉学科3年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
※健康福祉学科1年次、健康福祉学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
※健康福祉学科1年次、健康福祉学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

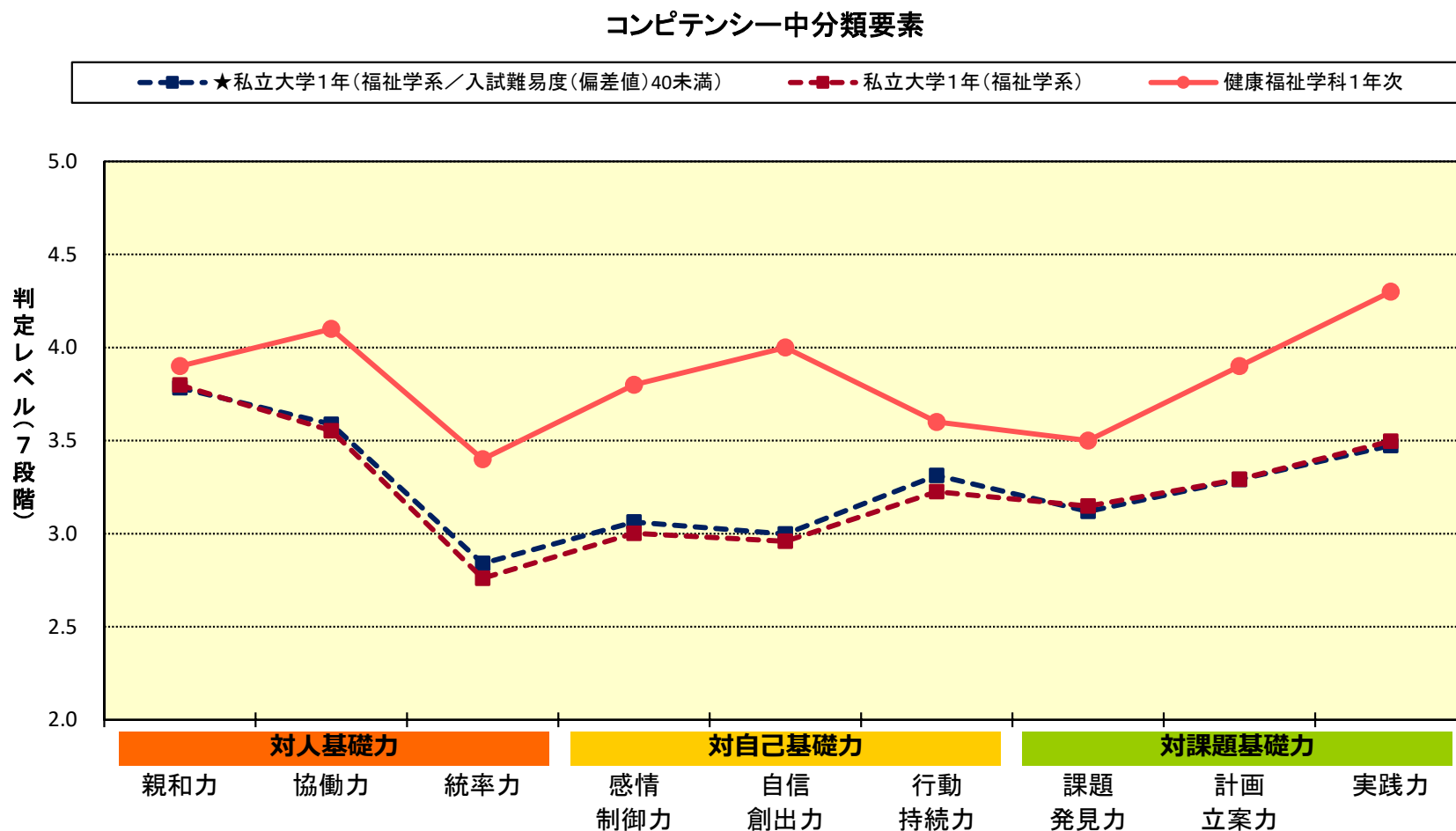


コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【健康福祉学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、感情制御力、自信創出力、実践力の平均値は高く、
親和力、協働力、統率力、行動持続力、課題発見力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

(※健康福祉学科1年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

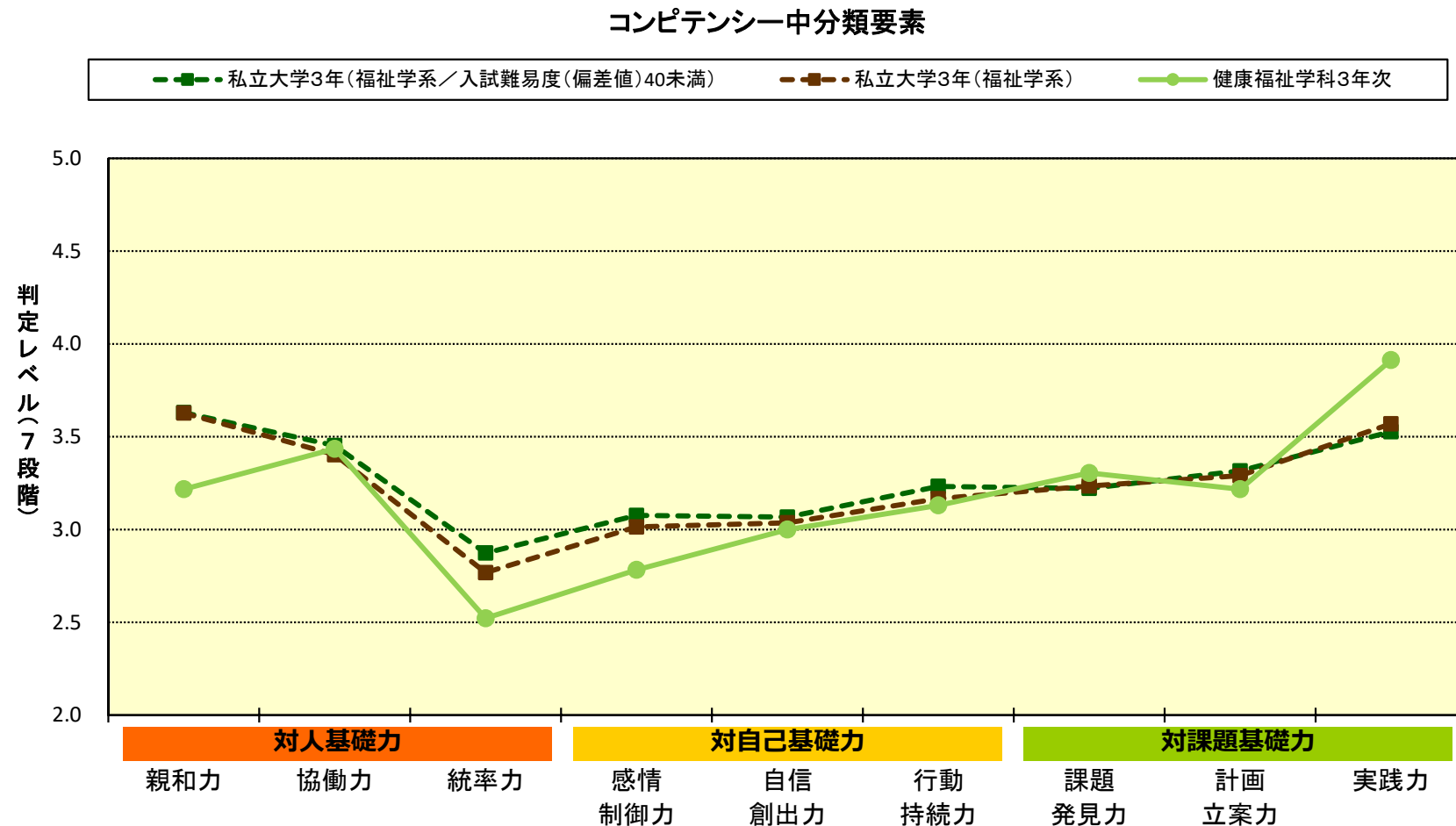
4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【健康福祉学科3年次】

基準集団と比較して、実践力の平均値は高く、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

一方、協働力、自信創出力、行動持続力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、統率力、感情制御力の平均値は低い。
(※健康福祉学科3年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

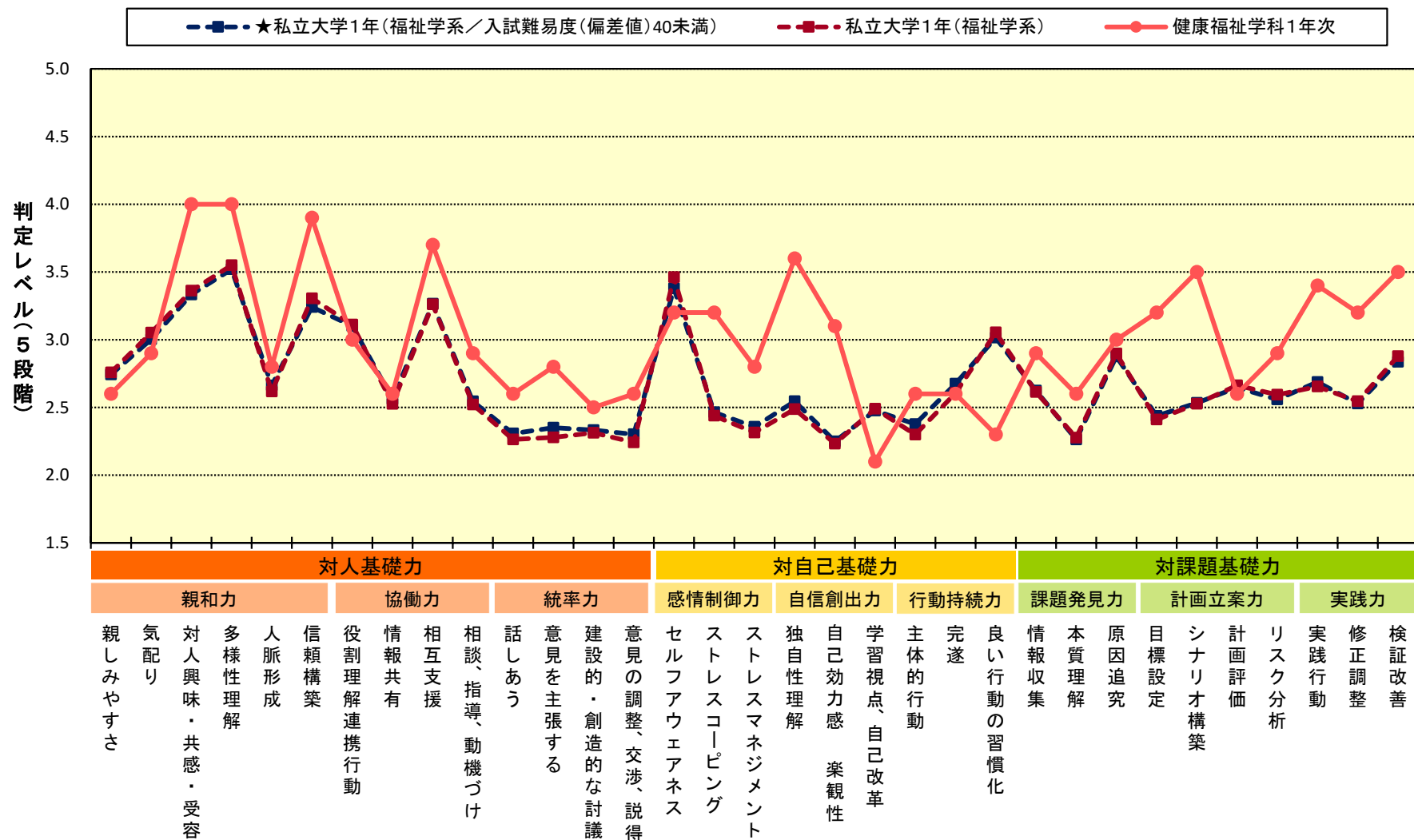
4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【健康福祉学科1年次】

(※健康福祉学科1年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー小分類要素

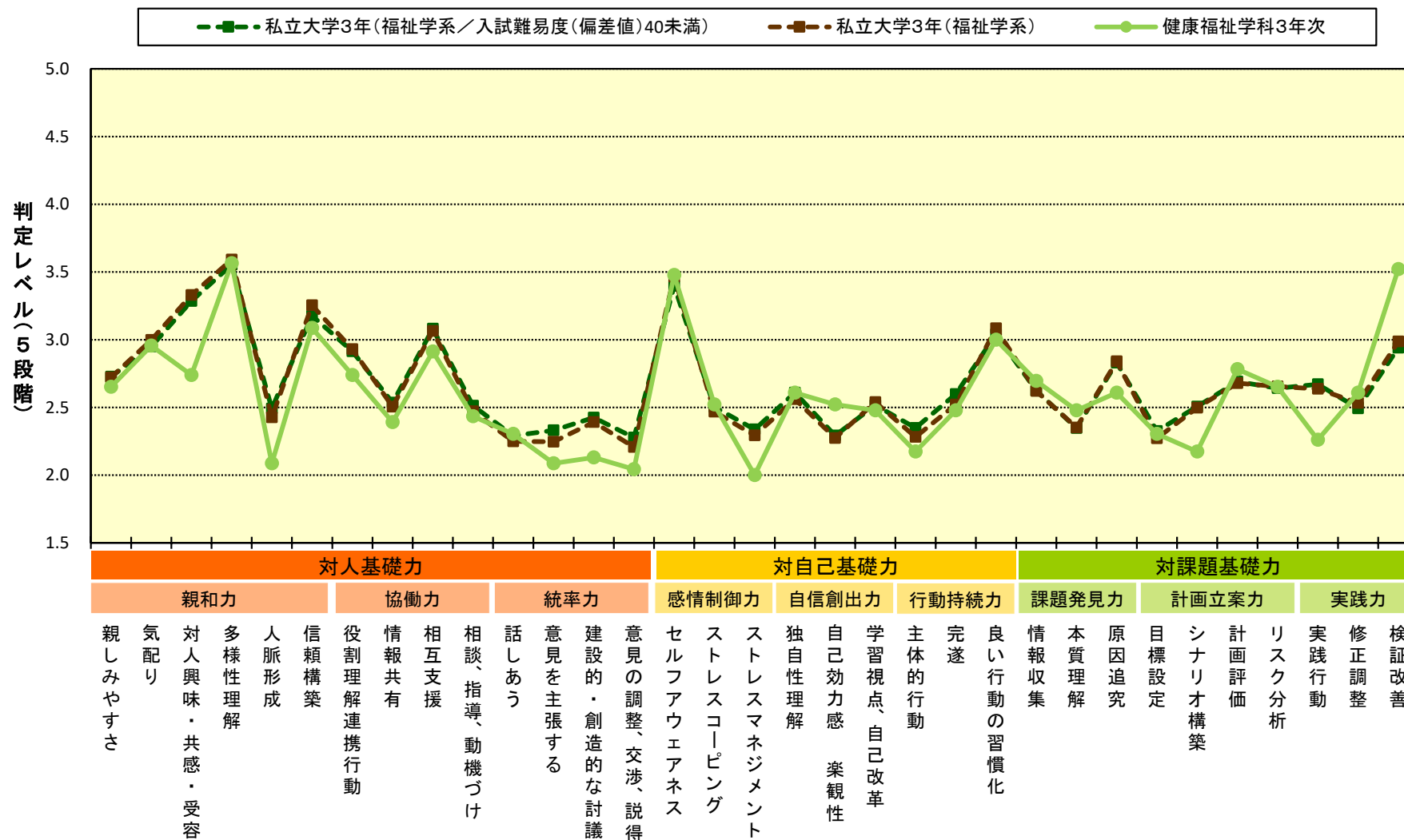


コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【健康福祉学科3年次】

(※健康福祉学科3年次は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
健康福祉学科 1 年次	■	▲	-	▲	▲	-	-	-	-	◎	◎	-	-	-	◎
健康福祉学科 3 年次	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	-	-	-	-	-	-	-	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【健康福祉学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレインストーミングなどの手法を用い既存概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
●構想力	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	解決のためアイデアを自由に発想させる／フローチャートやロジックツリー、マトリクスなどを用いて、プロセス、因果関係、優先順位などを整理させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【健康福祉学科3年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする

Part.3 教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学1年(教育系／入試難易度(偏差値)40未満)

37校 N=6,815

χ^2 乗値 有意確率

教育学科1年次

18.18

0.00

教育学科3年次

29.80

0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(教育系／入試難易度(偏差値)40未満)

32校 N=6,102

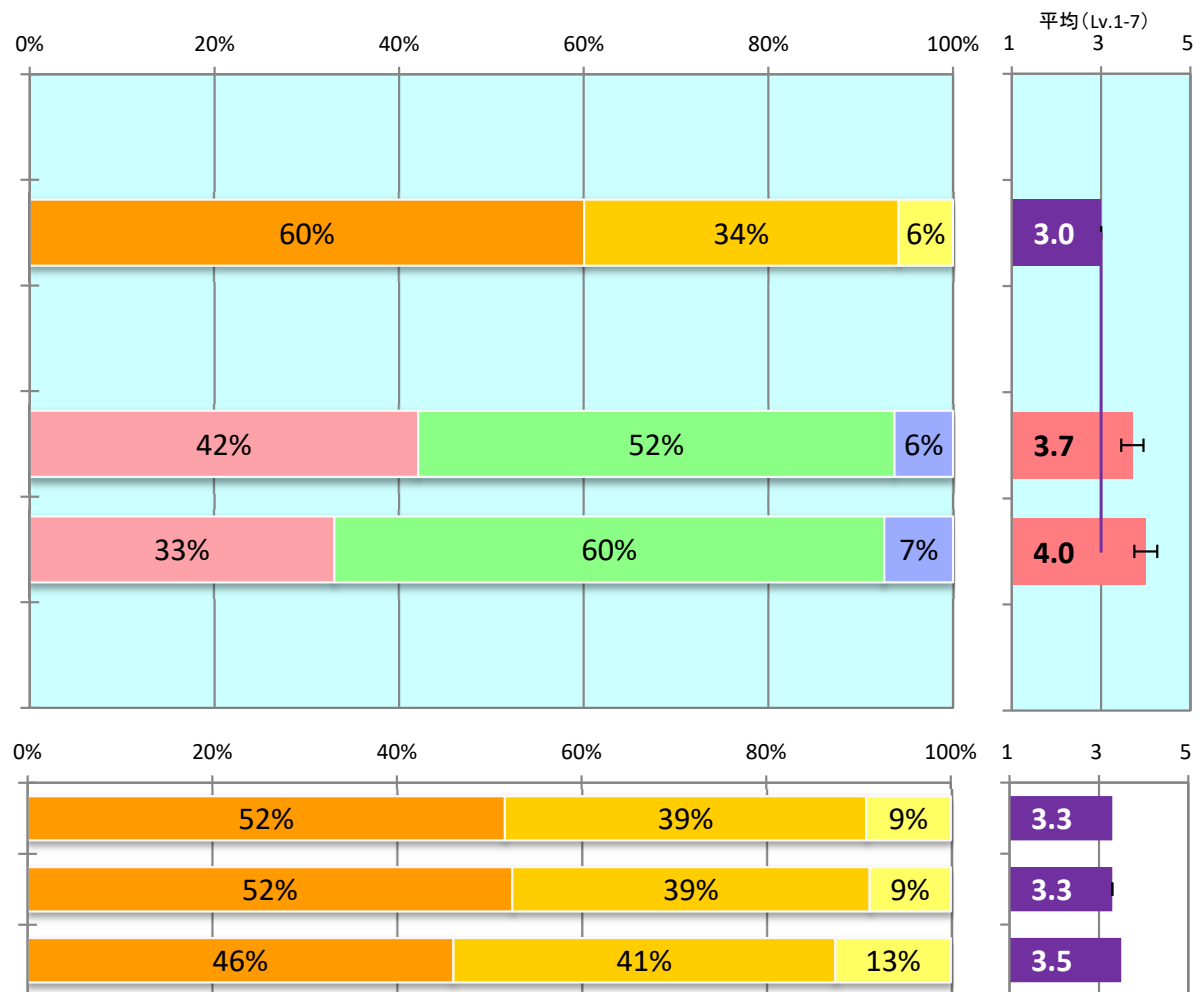
私立大学1年(教育系)

53校 N=15,311

私立大学3年(教育系)

49校 N=11,709

リテラシー総合

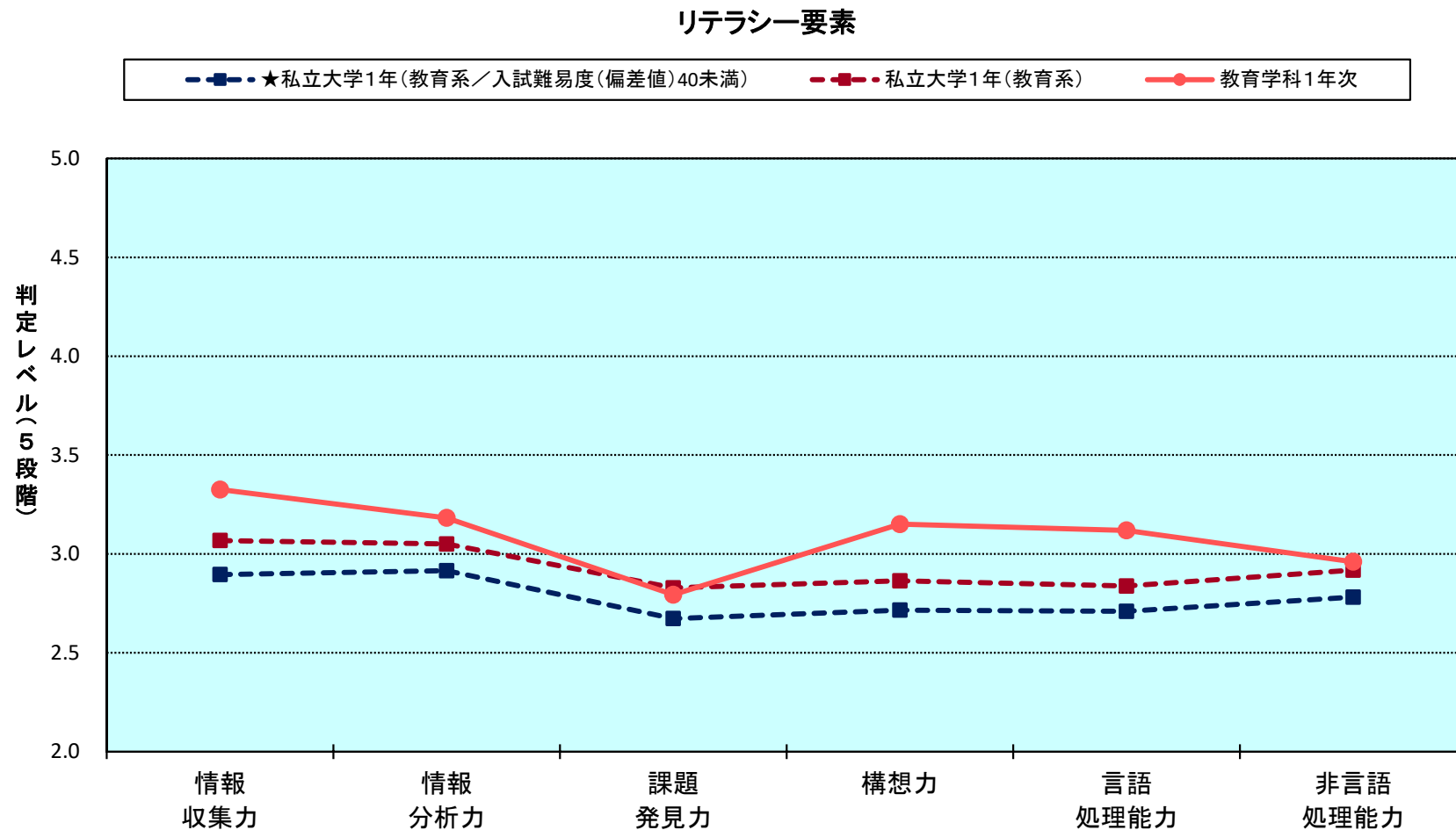


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【教育学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

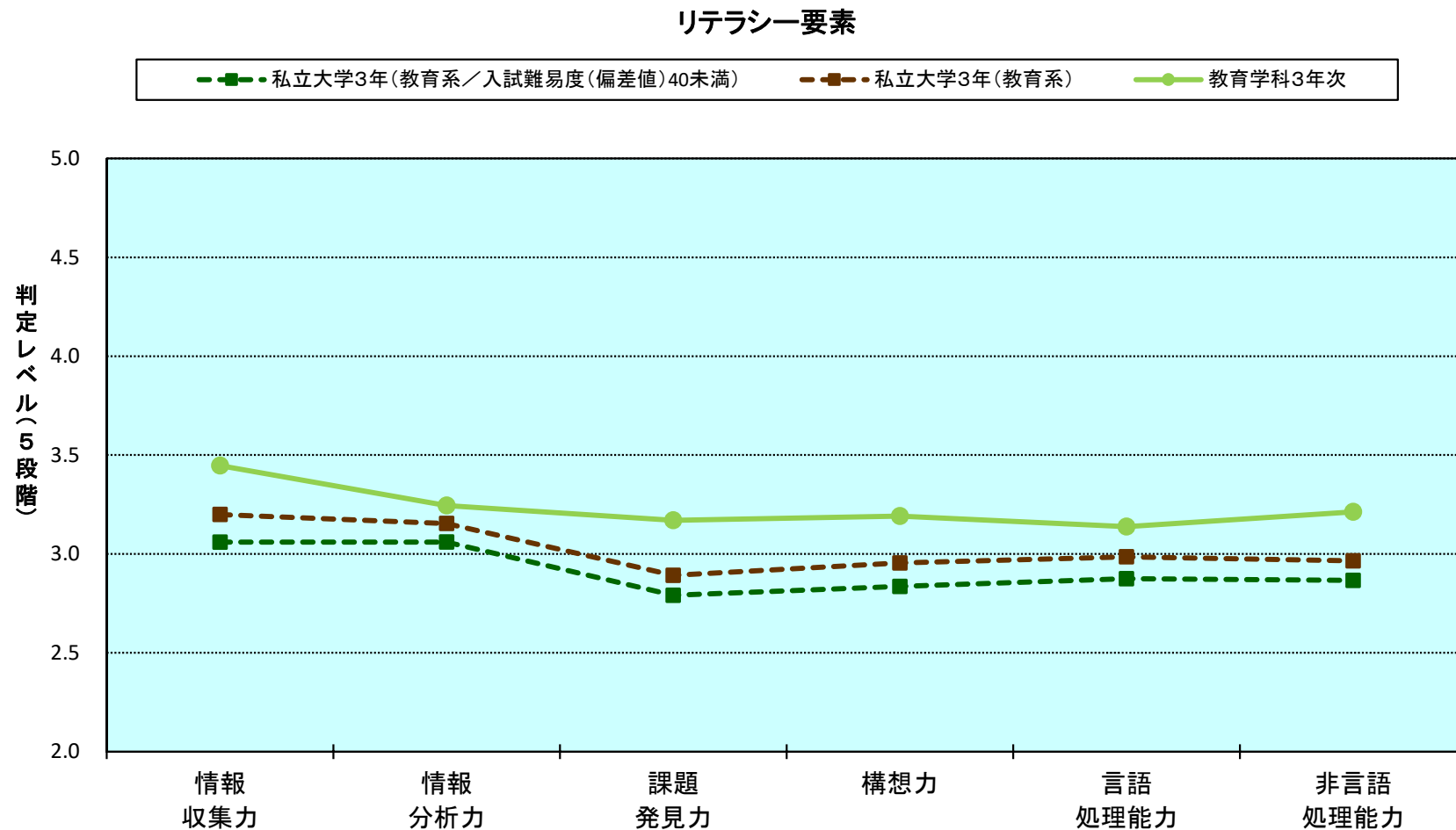
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【教育学科3年次】

基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年次は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

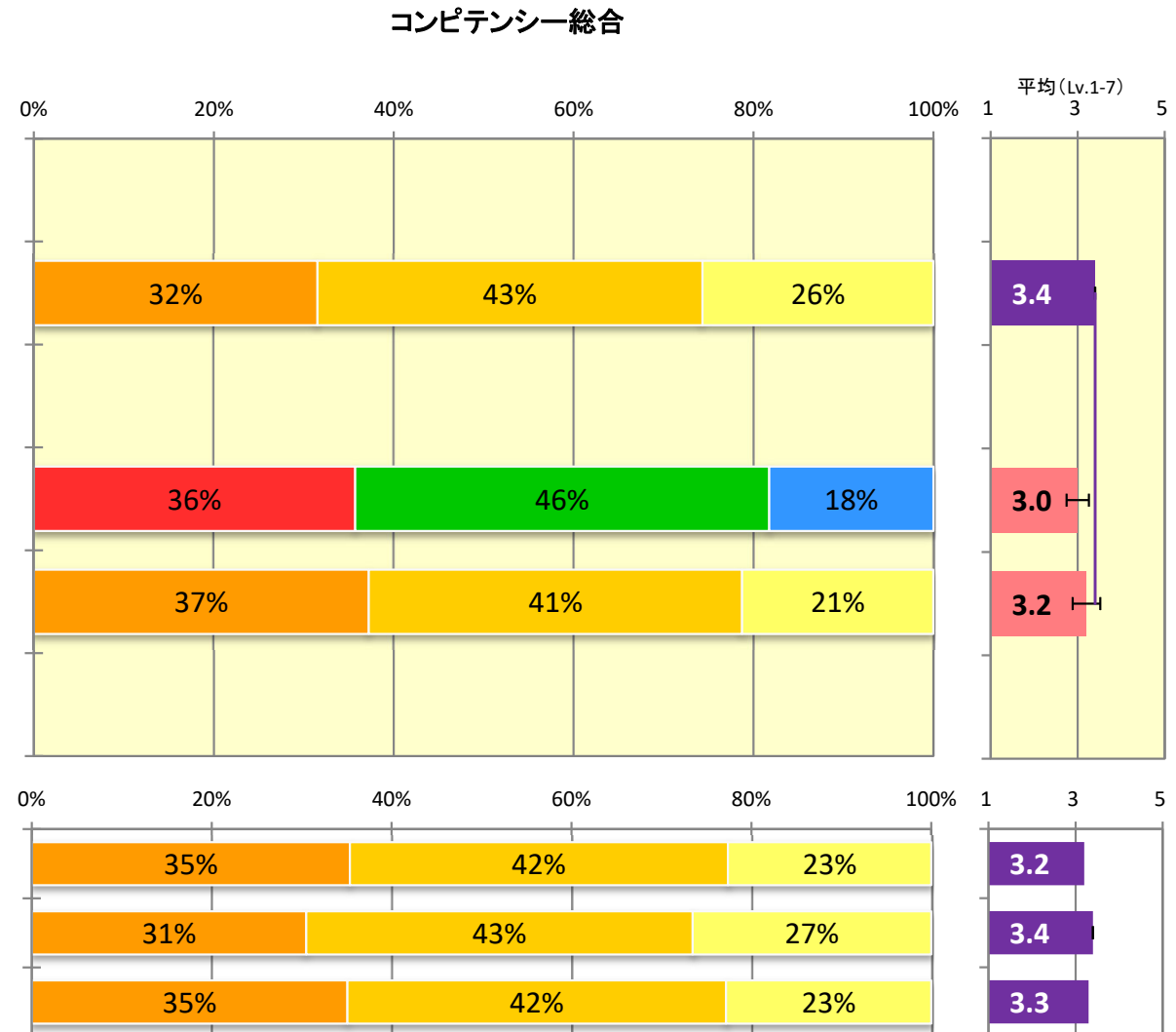
【基準集団】

★私立大学1年(教育系／入試難易度(偏差値)40未満)	50校 N=16,989
-----------------------------	--------------

	χ^2 乗値	有意確率
教育学科1年次	3.71	0.16
教育学科3年次	1.72	0.42

【ご参考基準集団】

私立大学3年(教育系／入試難易度(偏差値)40未満)	41校 N=13,667
私立大学1年(教育系)	71校 N=36,062
私立大学3年(教育系)	62校 N=26,333



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

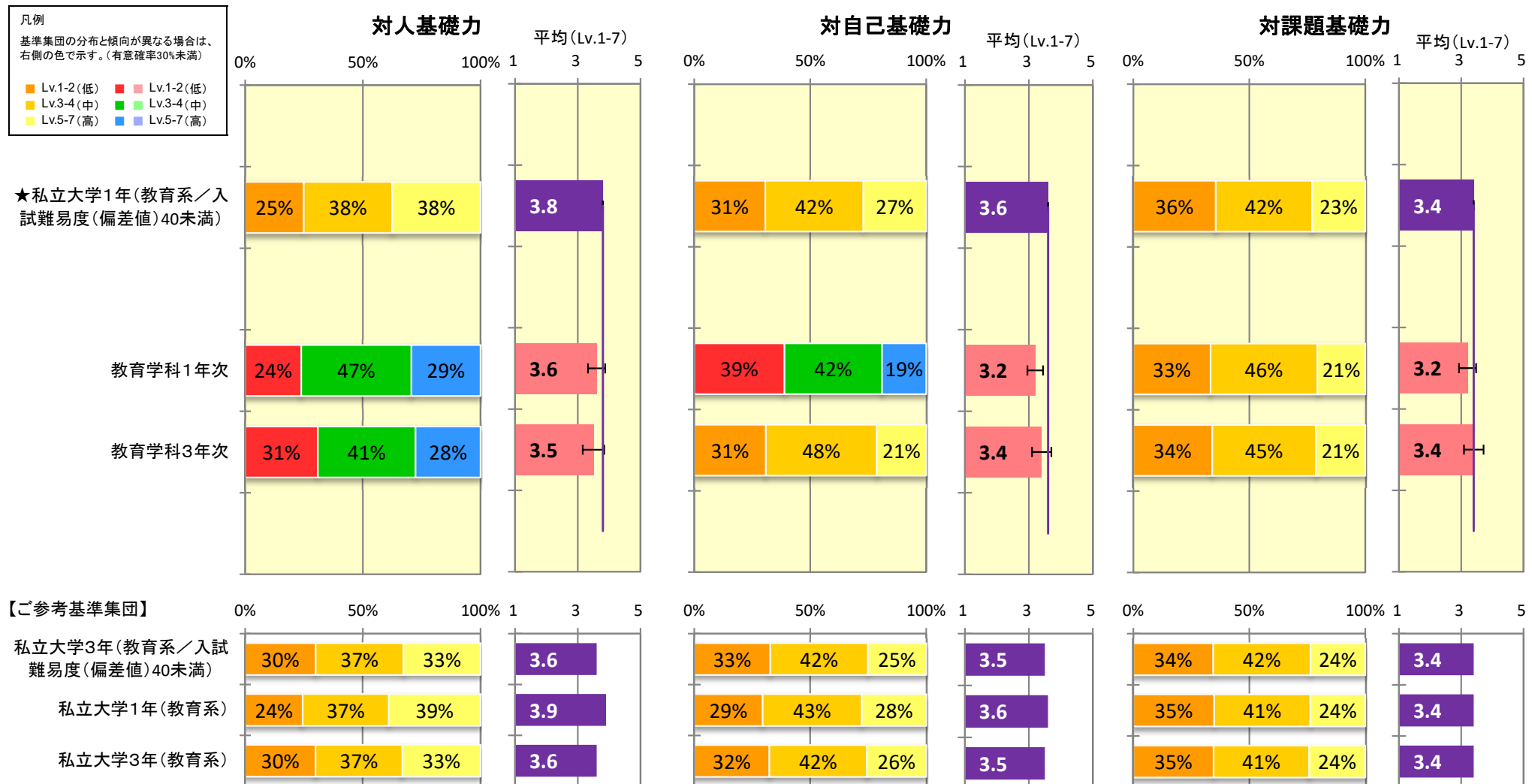
- 基準集団(★印)と比較して、教育学科1年次は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。
- 基準集団(★印)と比較して、教育学科3年次は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

【対自己基礎力】

- 基準集団(★印)と比較して、教育学科1年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

- 基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



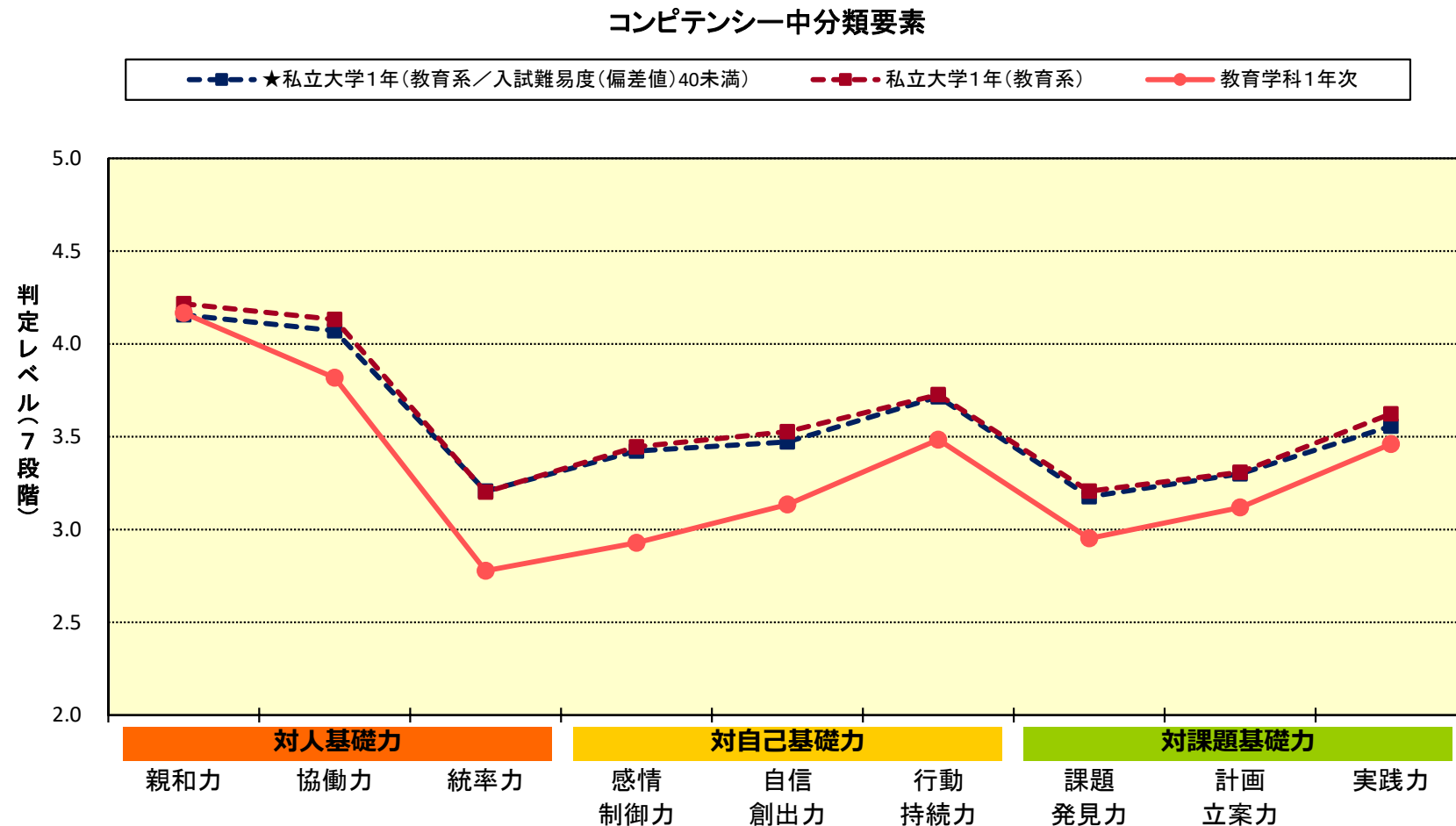
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【教育学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、親和力の平均値は上回る傾向にある。

一方、実践力の平均値は下回る傾向にあり、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

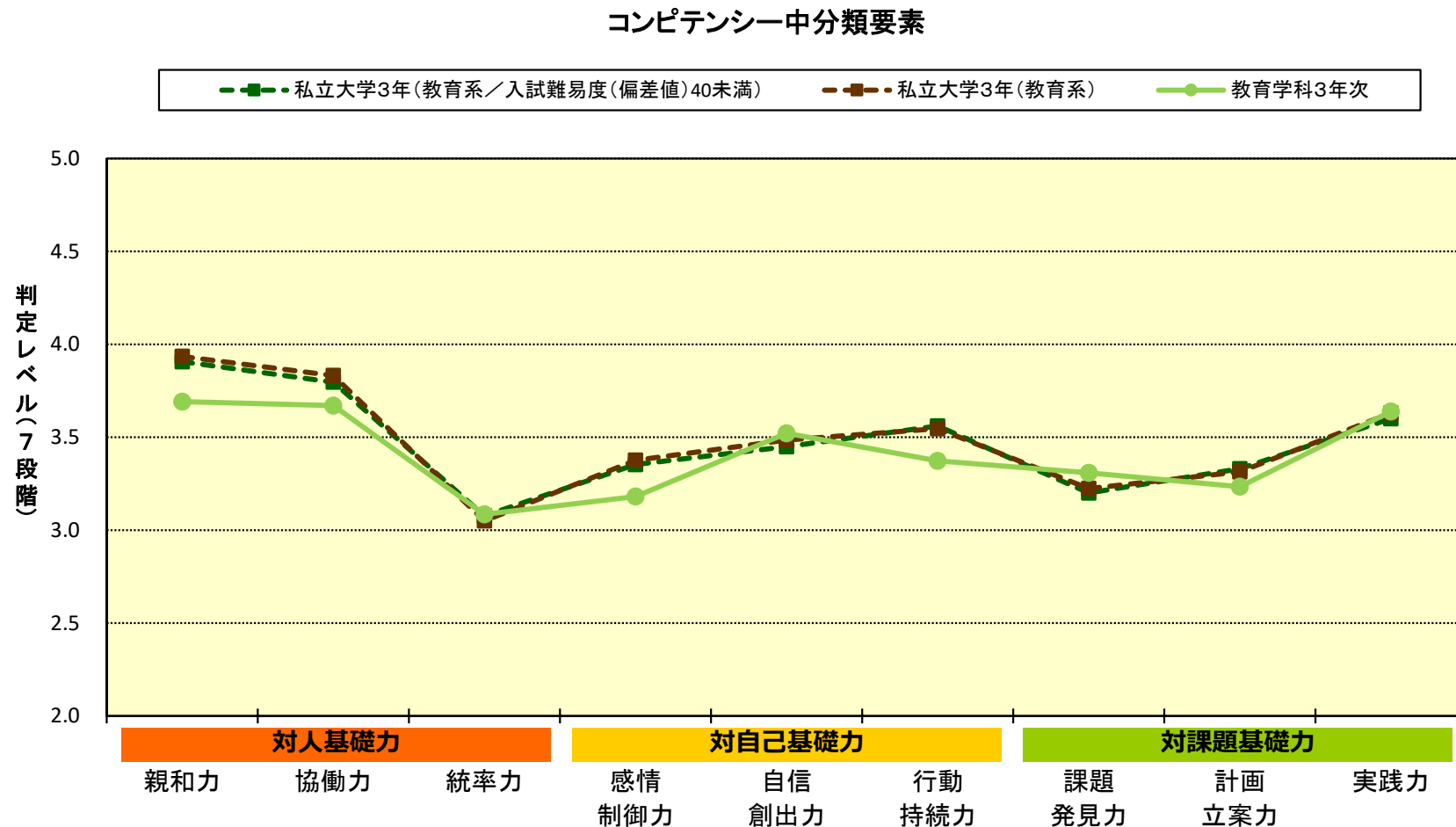
4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【教育学科3年次】

基準集団と比較して、統率力、自信創出力、課題発見力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、感情制御力、行動持続力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

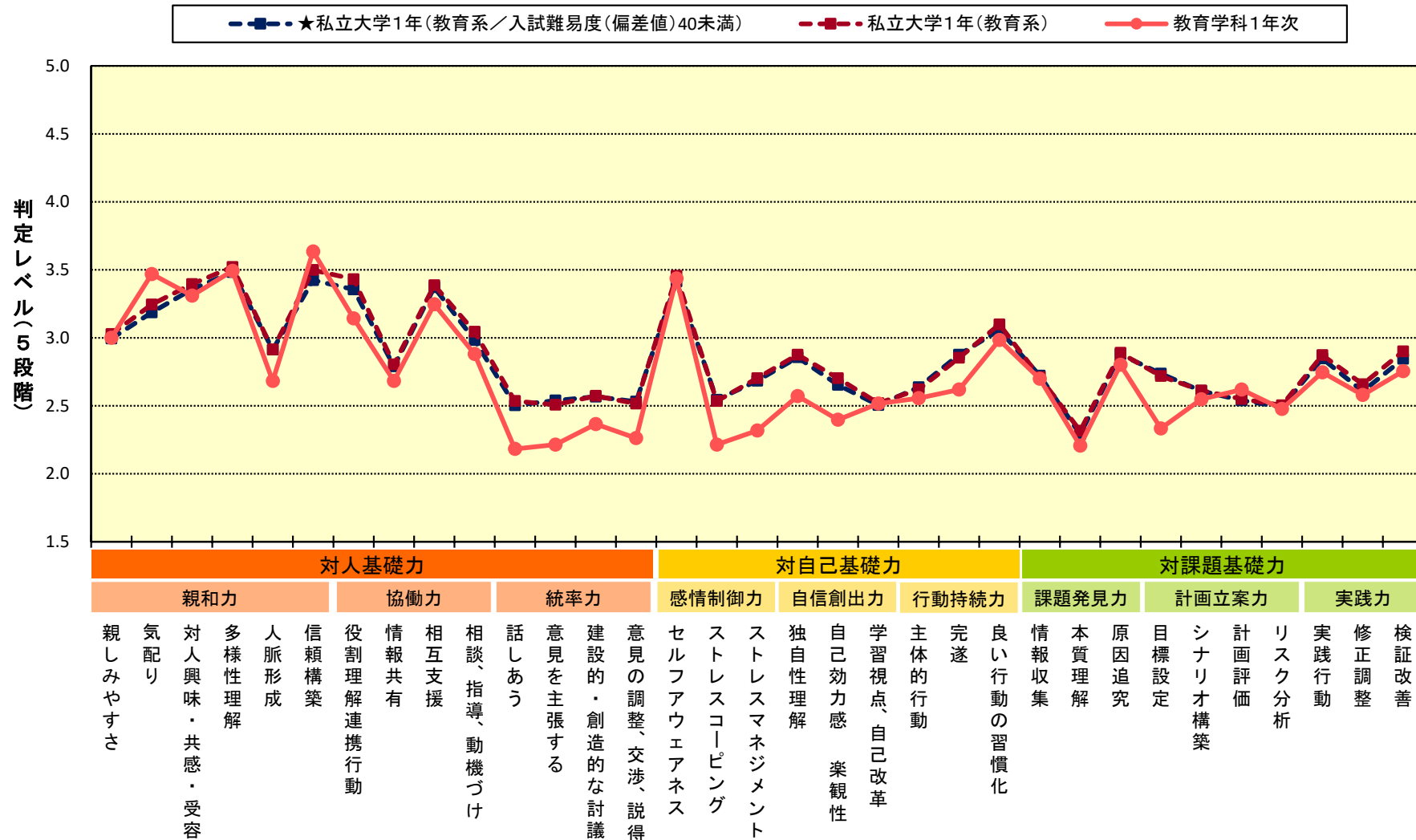
1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

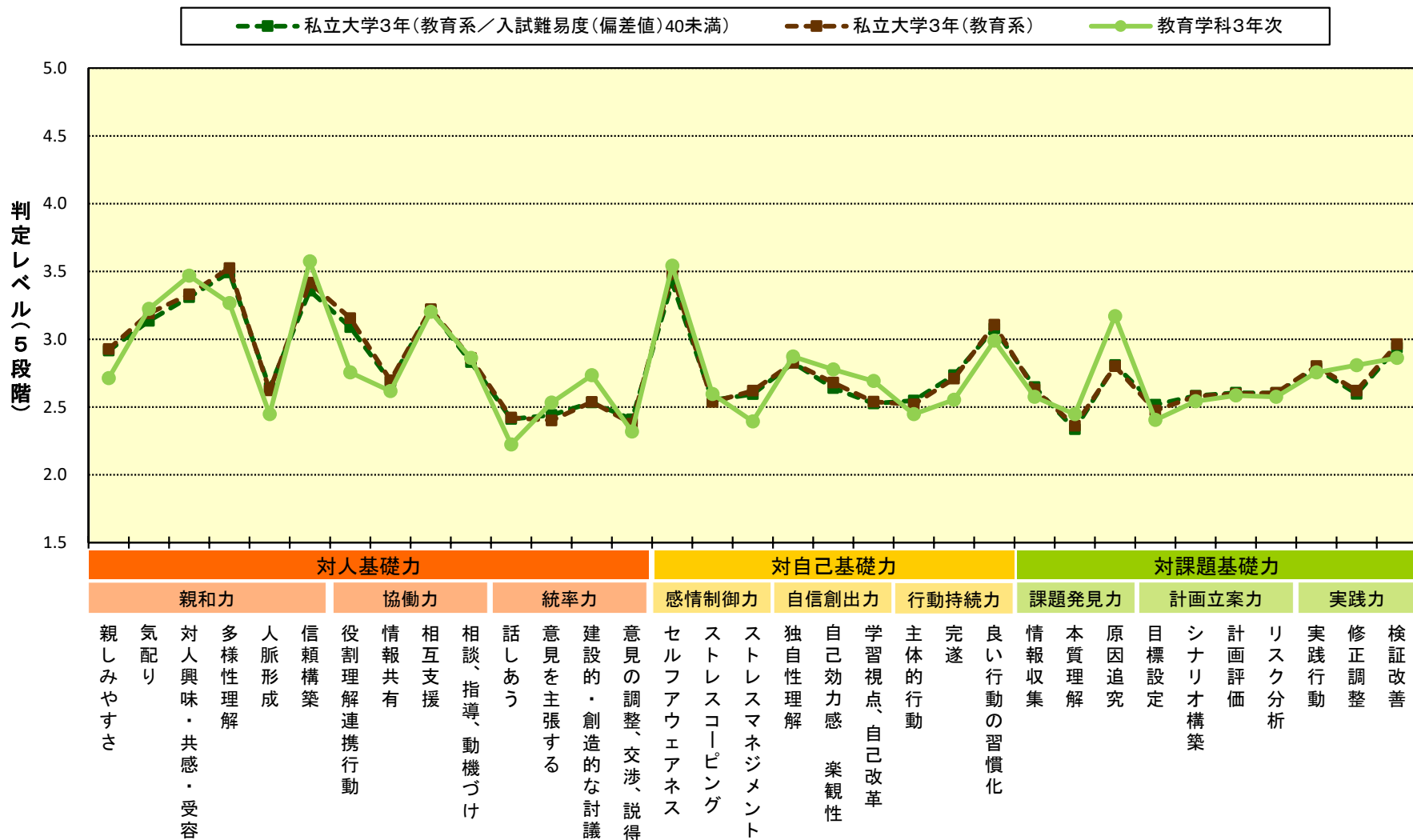
4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素



【教育学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
教育学科 1 年次	-	◎	◎	◎	◎	▲	-	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-
教育学科 3 年次	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	▲	-	▲	-	▲	-	-	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【教育学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●協働力	リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気を高めることができる リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる	他者に教えることで、自分の知識を定着させるような機会を設ける リーダーとして周囲を動かすような機会を設ける リーダーとしてチーム全体のやる気を高めるような機会を設ける
●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
●自信創出力	自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる 初めてのことで、臆せず取り組むことができる 難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする 好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	他者との比較の中で、自分の強みや弱みを自覚させる 初めてことに積極的に挑戦させる 将来の価値を期待せず、眼前のことに楽しんで工夫して取り組むよう指導する
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける

今後の課題と対策 ②

【教育学科3年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー		
●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気を高めることができる リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる	他者に教えることで、自分の知識を定着させるような機会を設ける リーダーとして周囲を動かすような機会を設ける リーダーとしてチーム全体のやる気を高めるような機会を設ける
●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組む、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める

Part.4 芸術学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科1年次、芸術学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

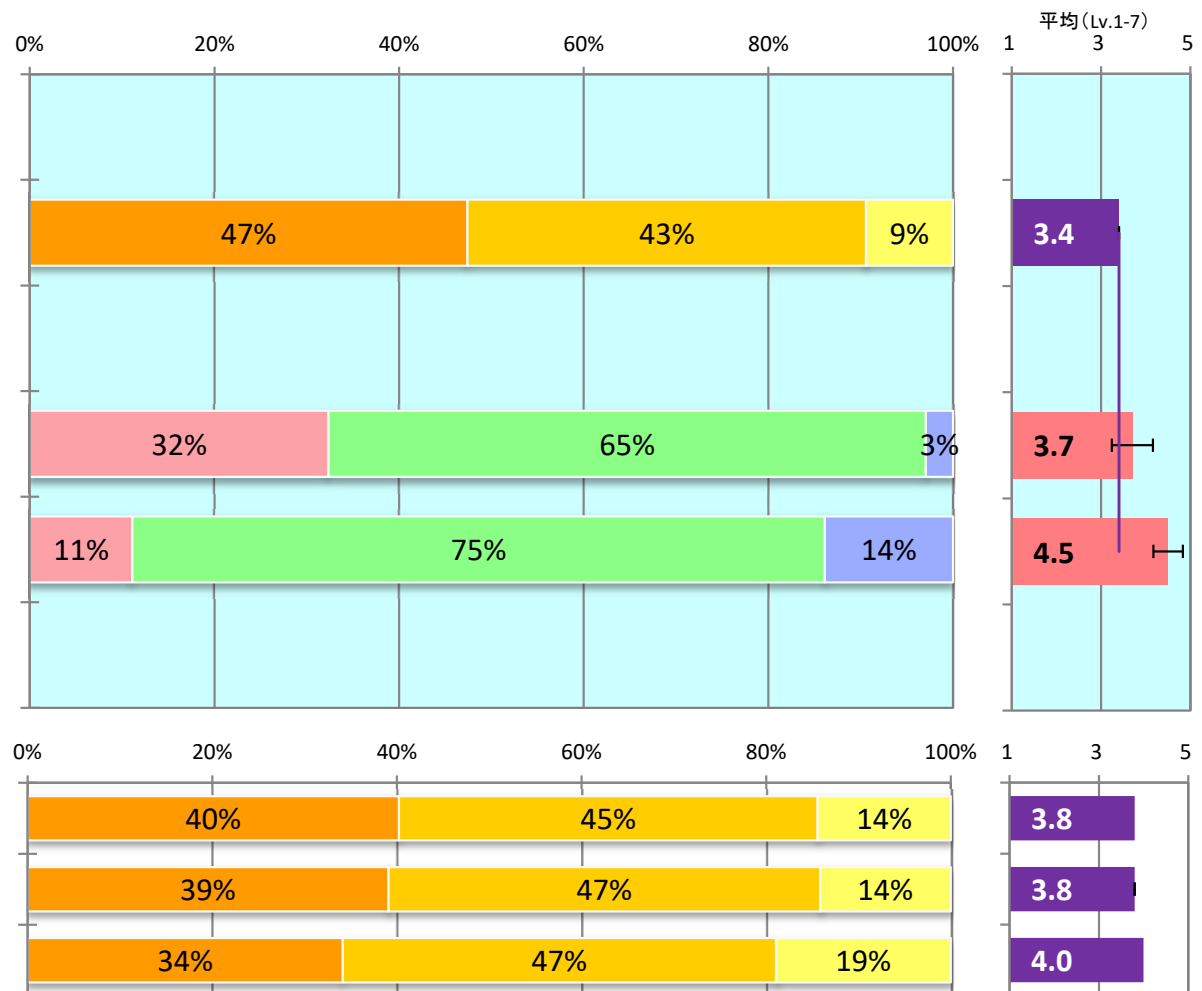
★私立大学1年(芸術系／入試難易度(偏差値)40未満)	9校 N=1,156
-----------------------------	------------

	χ^2 乗値	有意確率
芸術学科1年次	6.80	0.03
芸術学科3年次	19.21	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(芸術系／入試難易度(偏差値)40未満)	9校 N=1,019
私立大学1年(芸術系)	12校 N=4,747
私立大学3年(芸術系)	13校 N=4,113

リテラシー総合

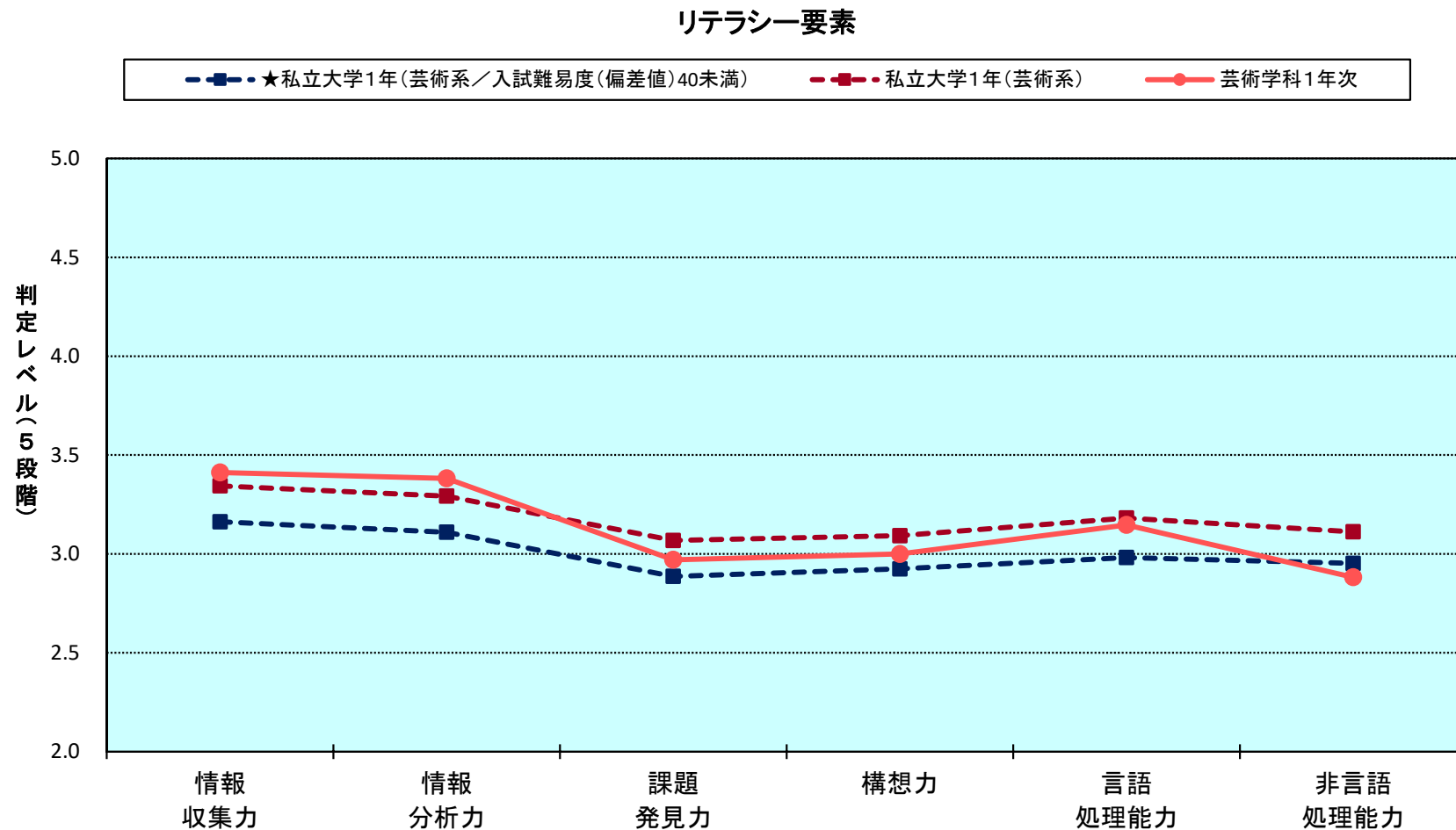


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【芸術学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、言語処理能力の平均値は高く、課題発見力、構想力の平均値は上回る傾向にある。
一方、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

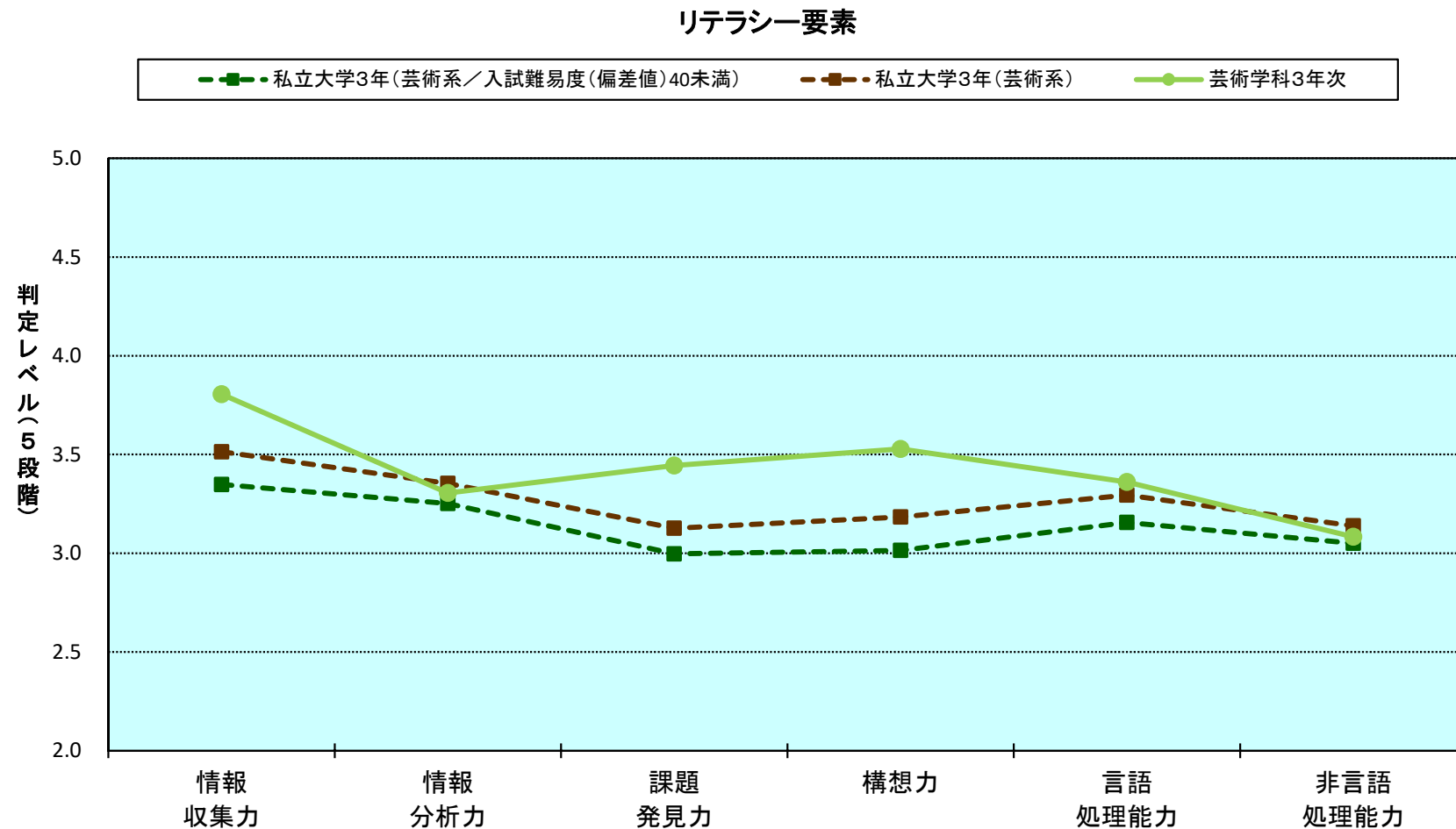
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【芸術学科3年次】

基準集団と比較して、情報収集力、課題発見力、構想力の平均値は高く、
情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科1年次は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

※芸術学科1年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

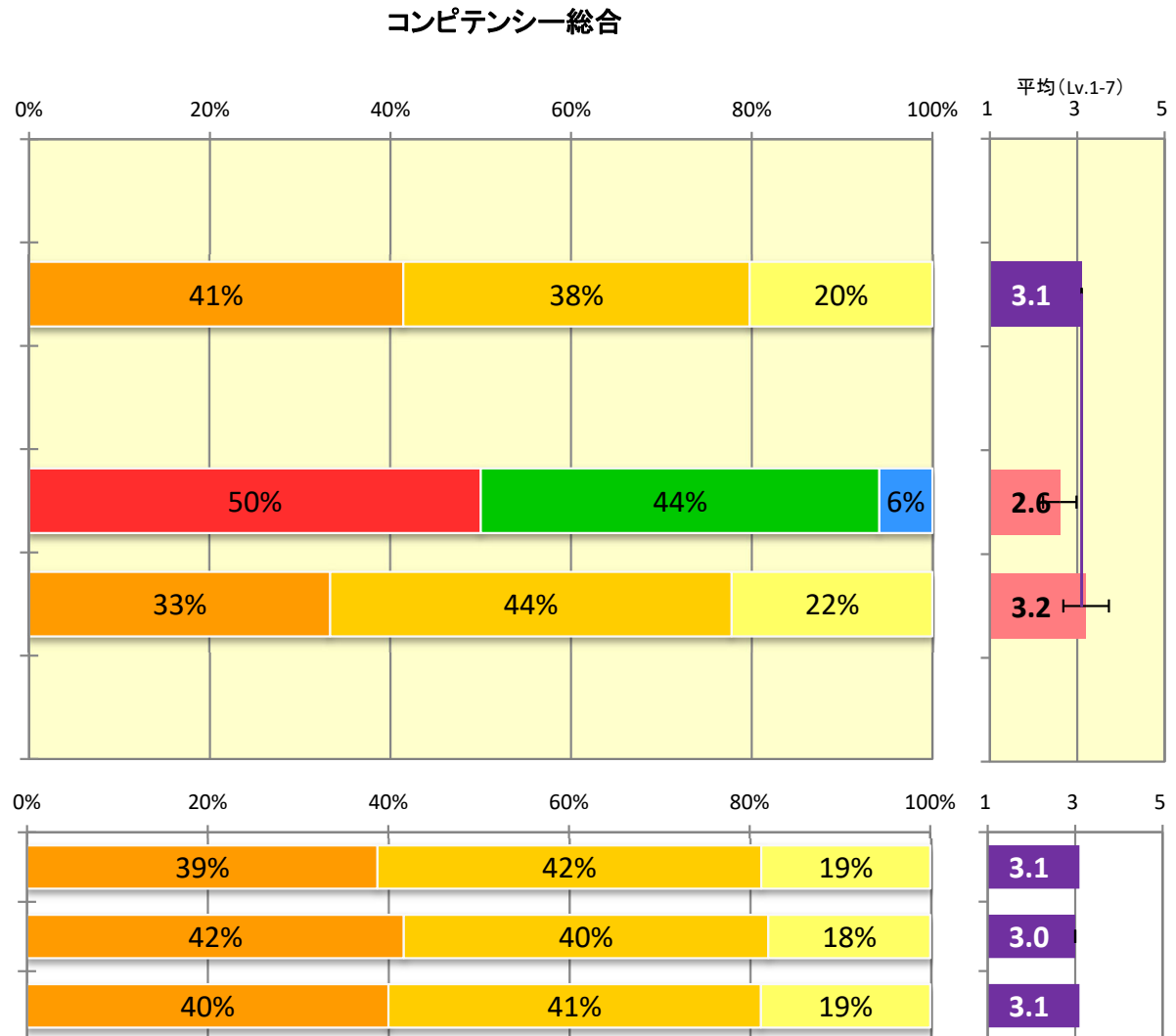
【基準集団】

★私立大学1年(芸術系／入試難易度(偏差値)40未満)	11校 N=2,114
-----------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
芸術学科1年次	4.36	0.11
芸術学科3年次	0.99	0.61

【ご参考基準集団】

私立大学3年(芸術系／入試難易度(偏差値)40未満)	11校 N=1,834
私立大学1年(芸術系)	17校 N=12,687
私立大学3年(芸術系)	17校 N=9,298



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科1年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

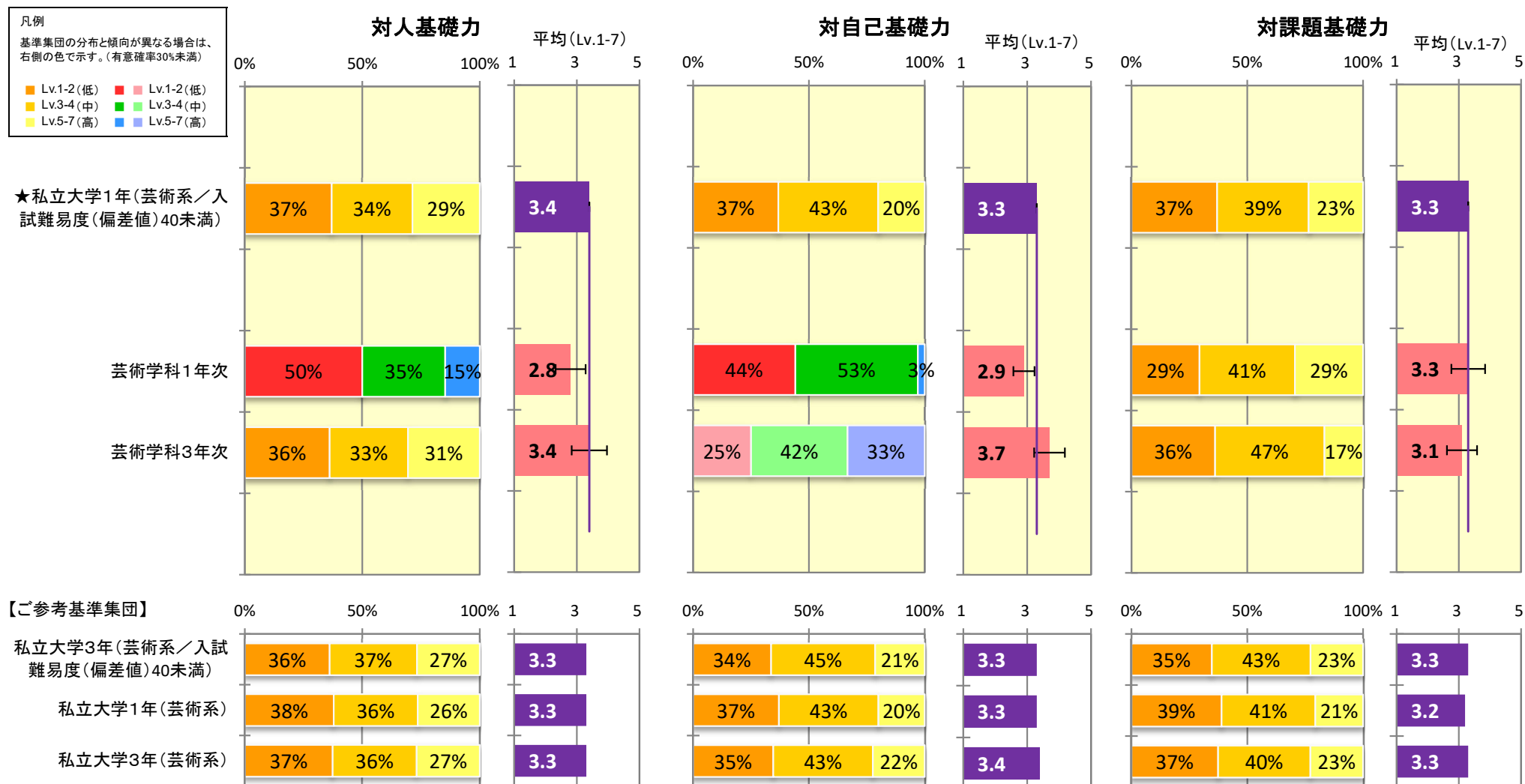
【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科1年次は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

※芸術学科1年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

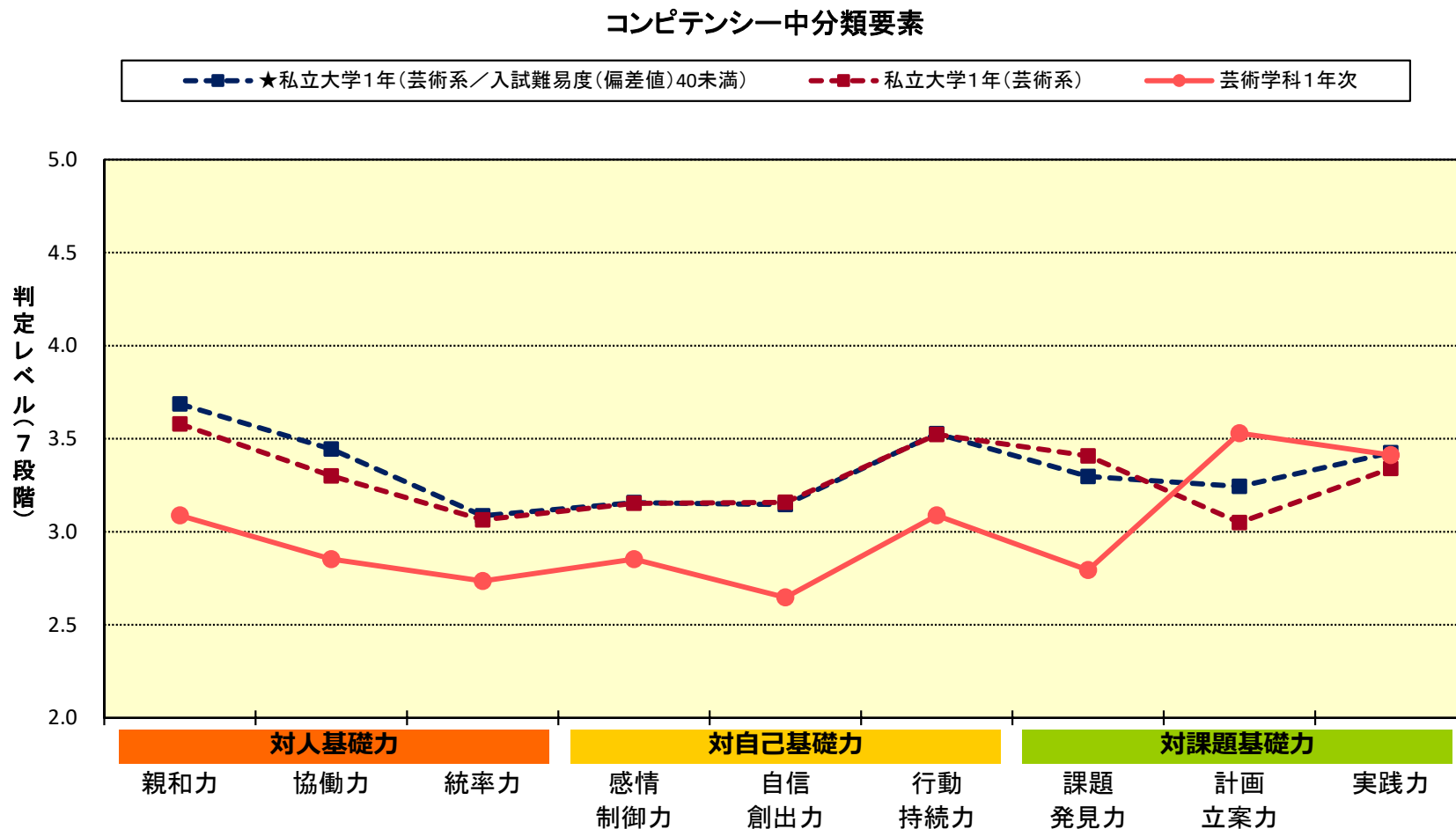


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

【芸術学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

一方、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

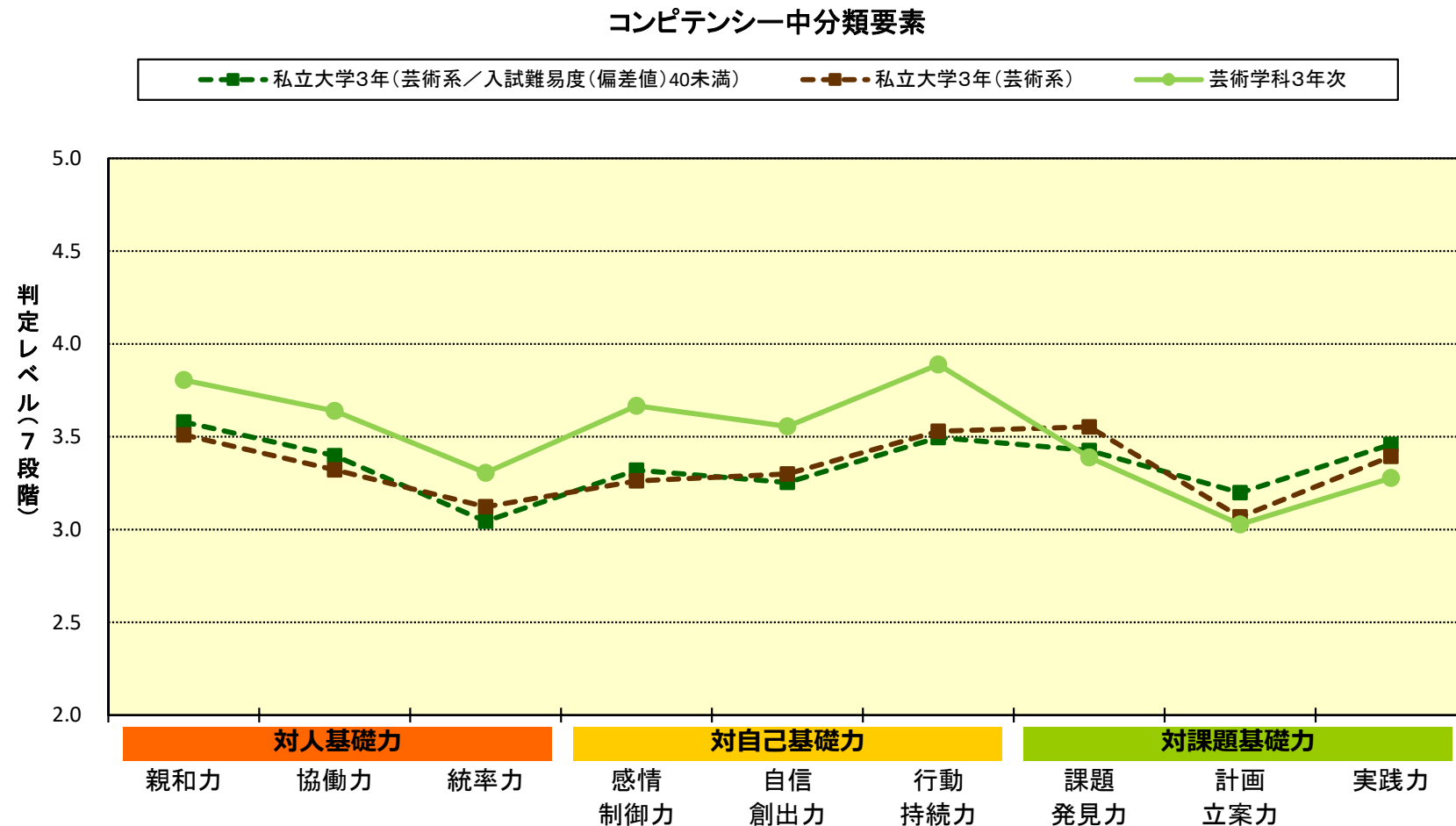
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【芸術学科3年次】

基準集団と比較して、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は高く、親和力、協働力、統率力の平均値は上回る傾向にある。
一方、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

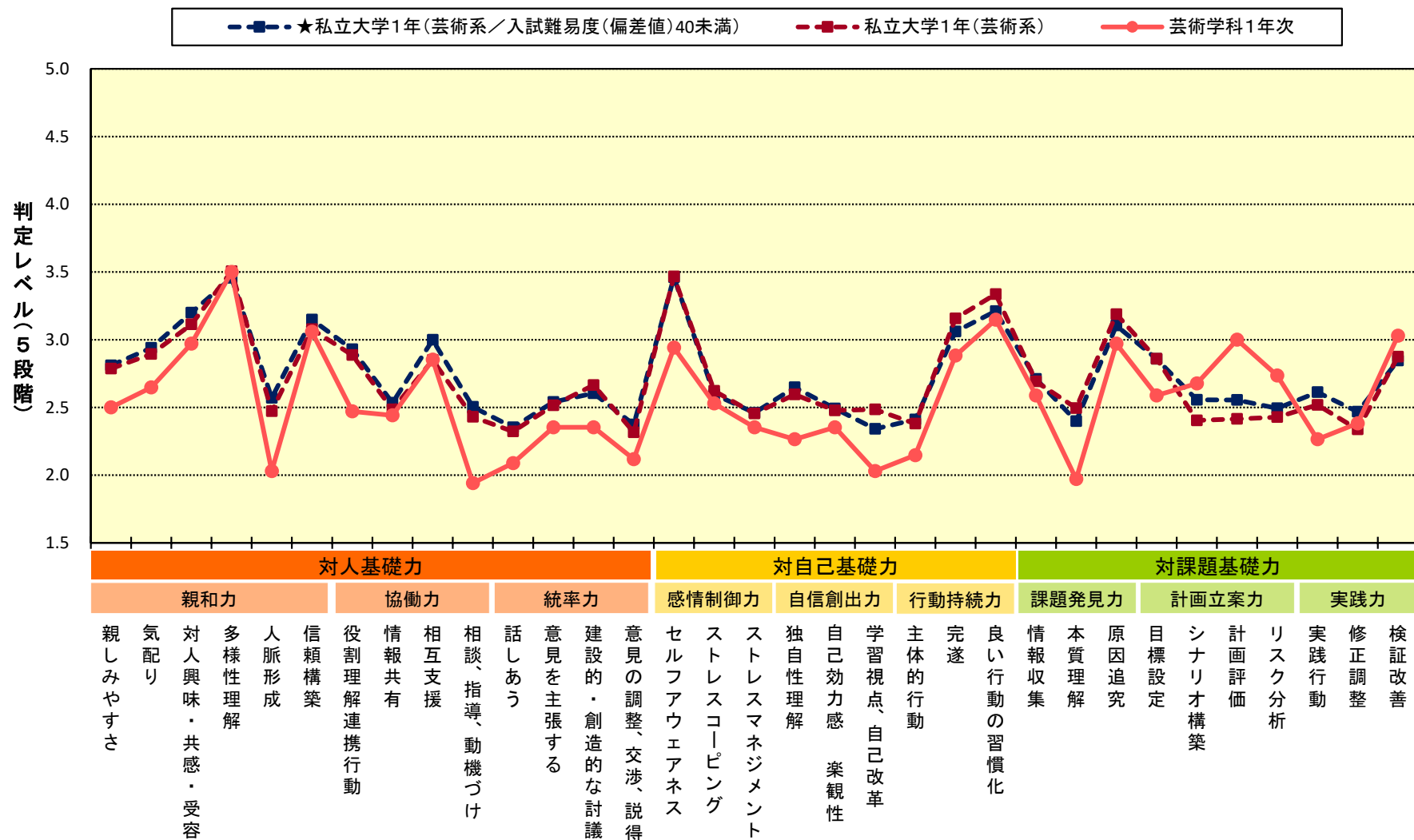
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【芸術学科1年次】

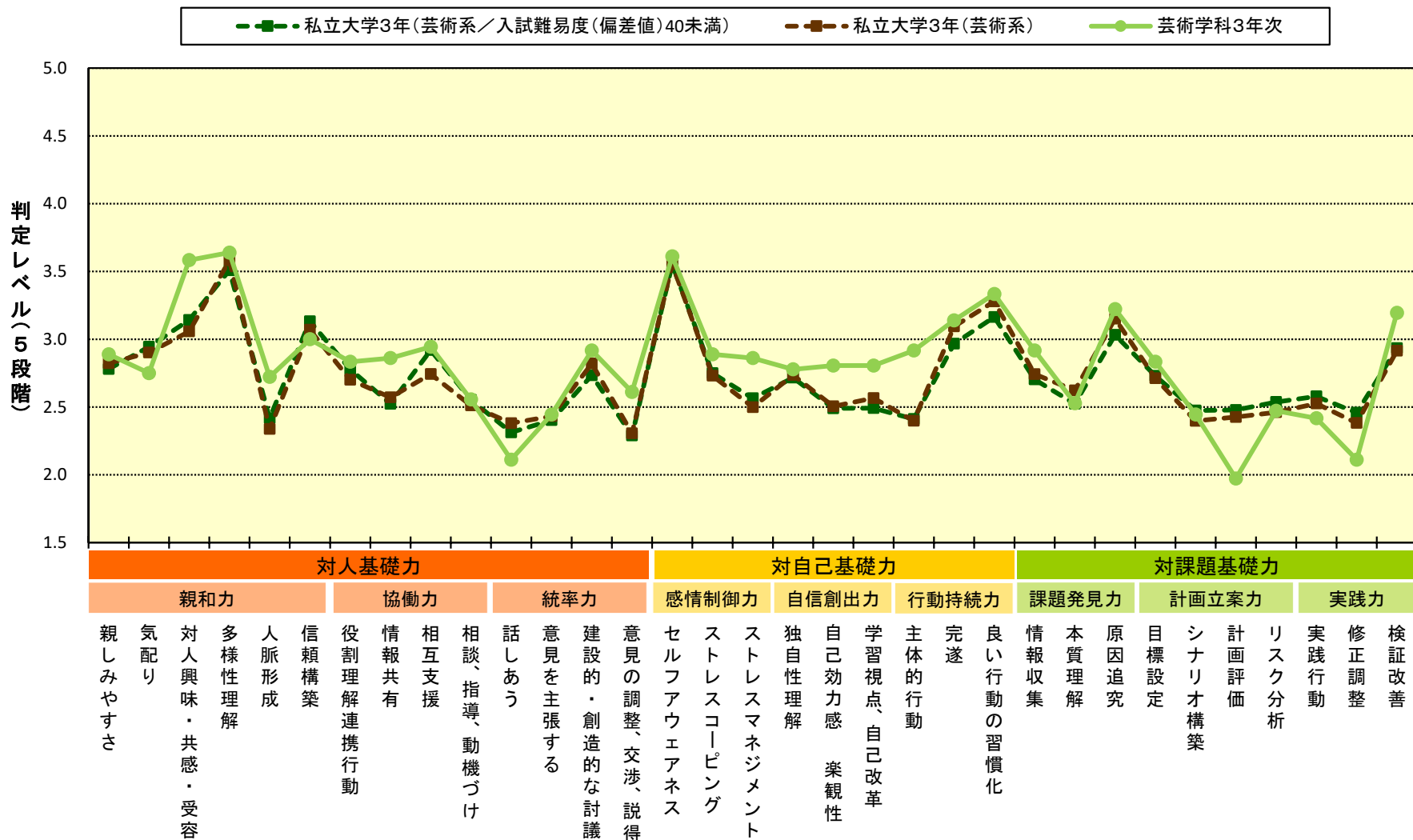
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【芸術学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
芸術学科 1 年次	-	◎	◎	-	-	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	-	-
芸術学科 3 年次	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【芸術学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組むことができる 周囲に気を配り、困っている人には手を貸すことができる チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	各自の貢献する領域を定め責任を果たすようにする 集団の中で自分の役割を実感する機会を設ける 各自で調べたことを全体に共有させる機会を設ける 情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を設ける
●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する

【芸術学科3年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

Part.5

心理カウンセリング学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年次、心理カウンセリング学科3年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

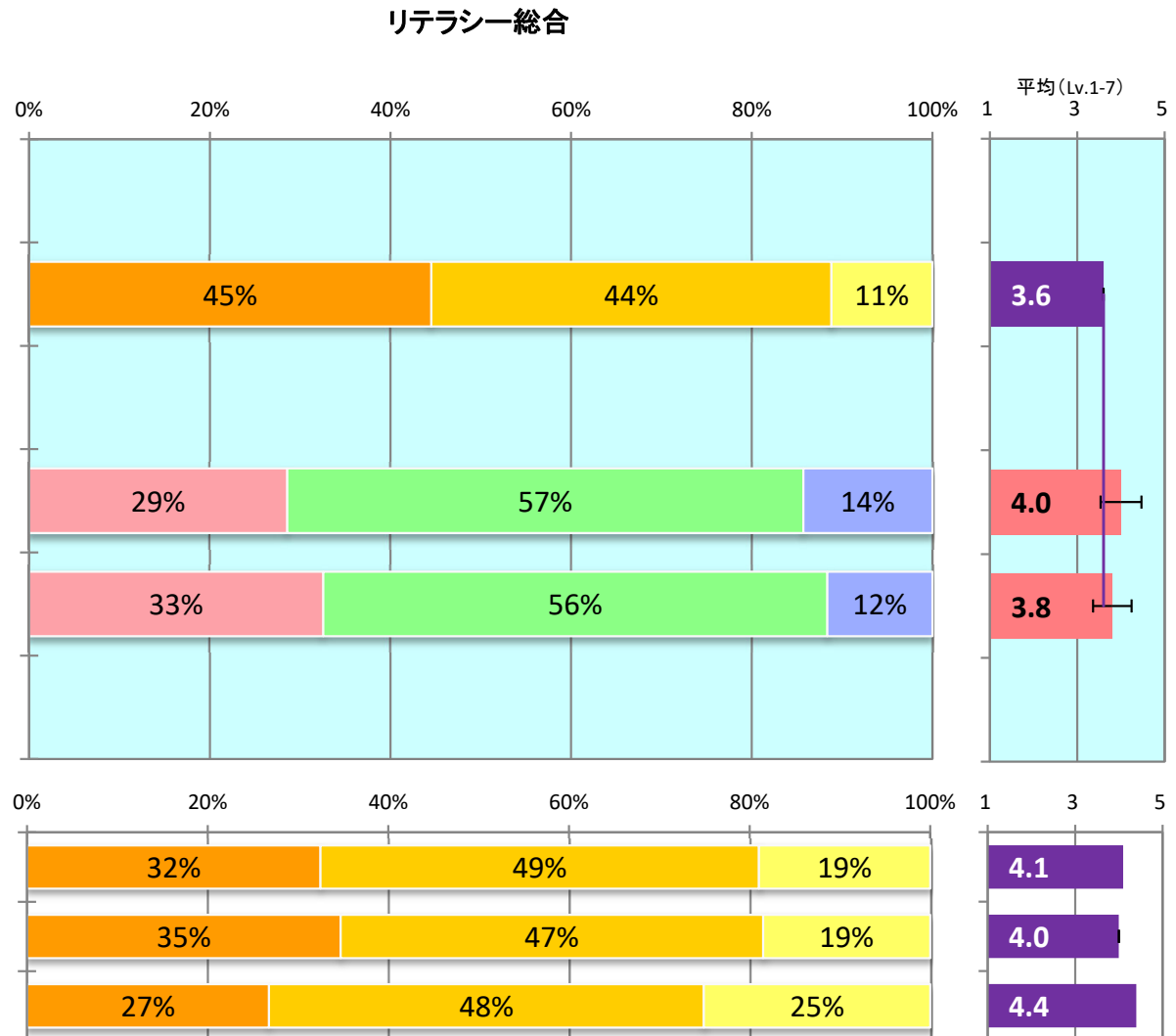
【基準集団】

★私立大学1年(心理学系/入試難易度(偏差値)40未満)	15校 N=2,120
------------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年次	4.33	0.11
心理カウンセリング学科3年次	2.68	0.26

【ご参考基準集団】

私立大学3年(心理学系/入試難易度(偏差値)40未満)	15校 N=1,871
私立大学1年(心理学系)	32校 N=5,365
私立大学3年(心理学系)	29校 N=3,729

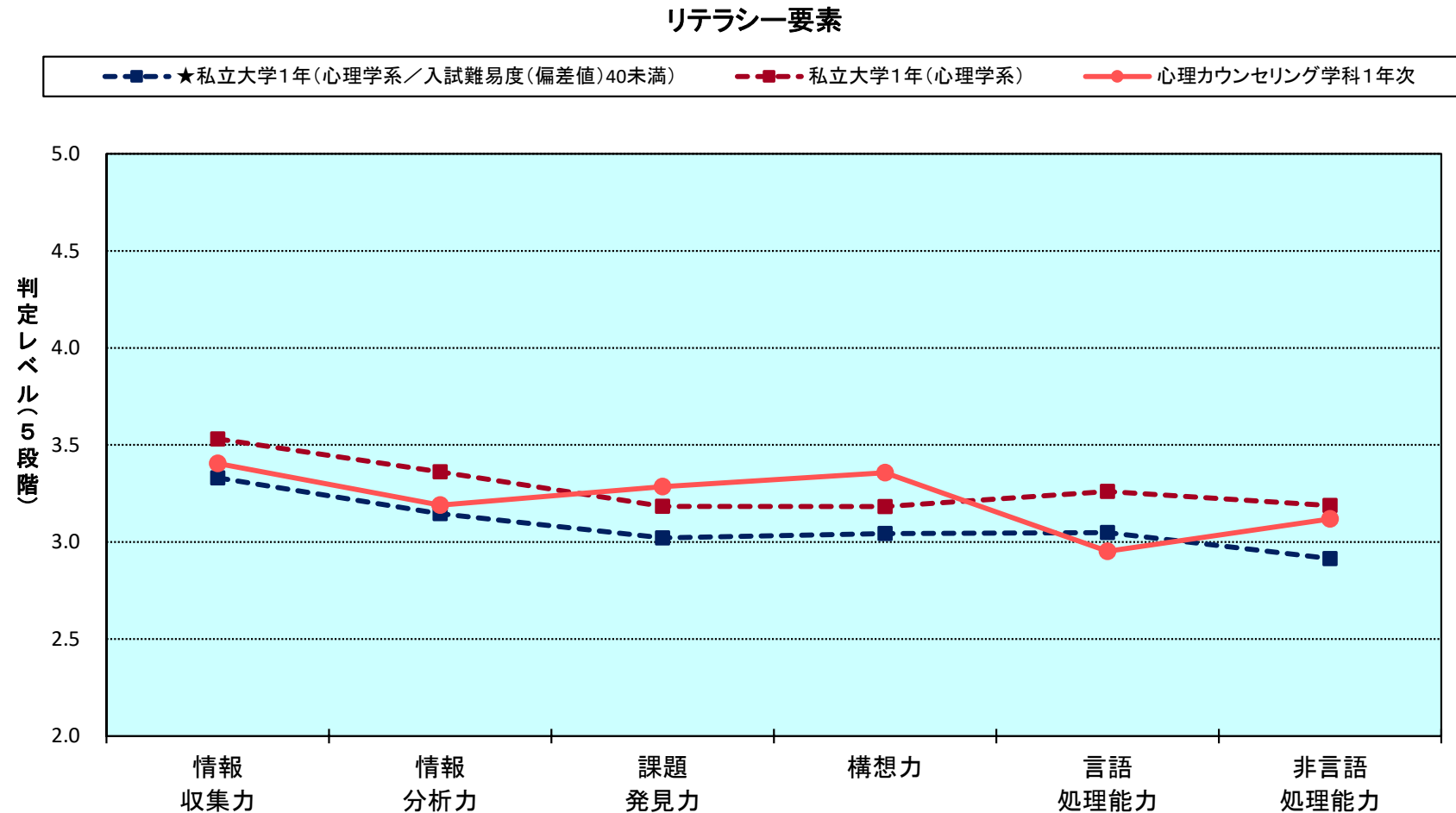


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【心理カウンセリング学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、情報分析力の平均値は上回る傾向にある。
一方、言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

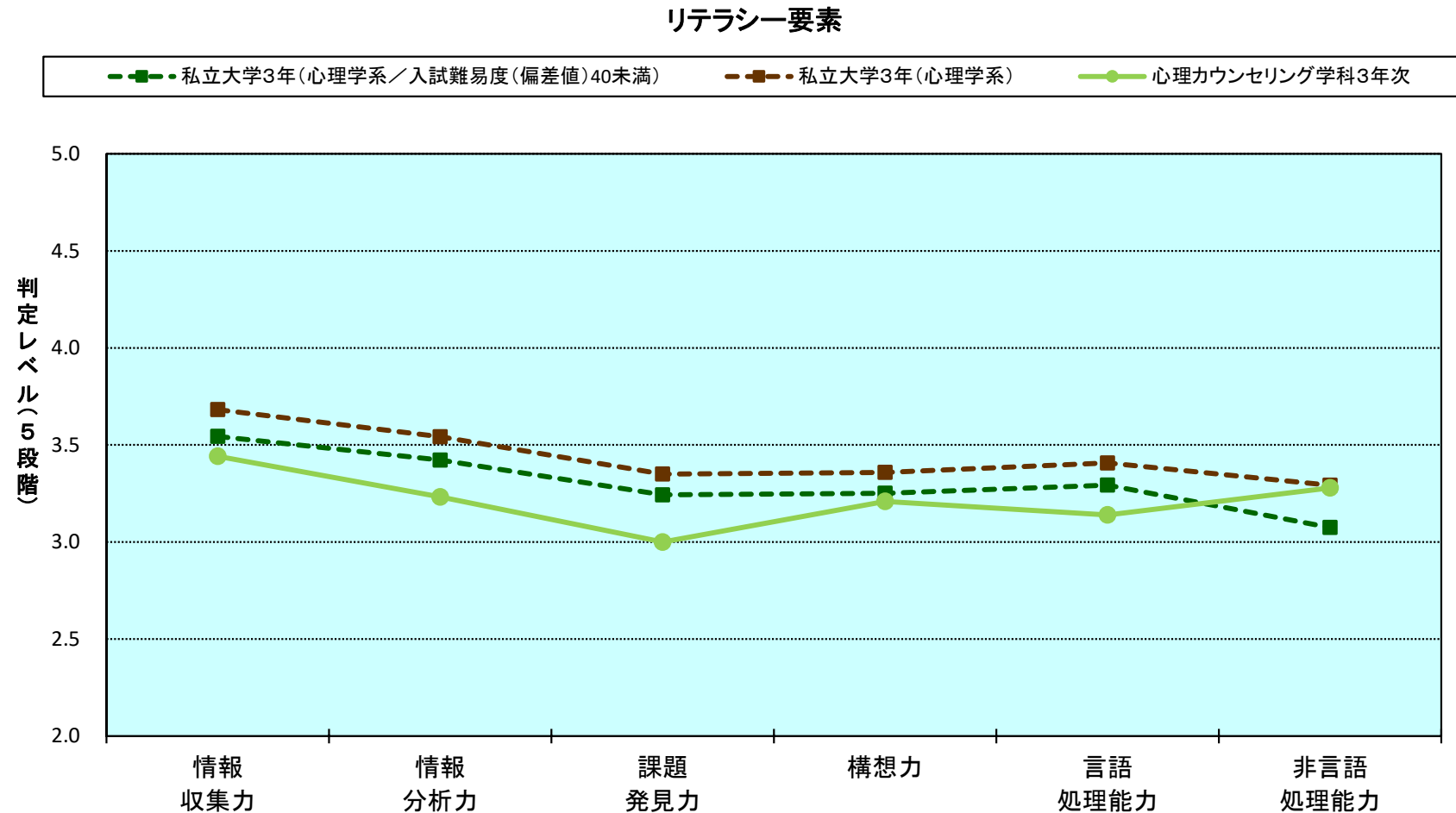
4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【心理カウンセリング学科3年次】

基準集団と比較して、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、構想力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

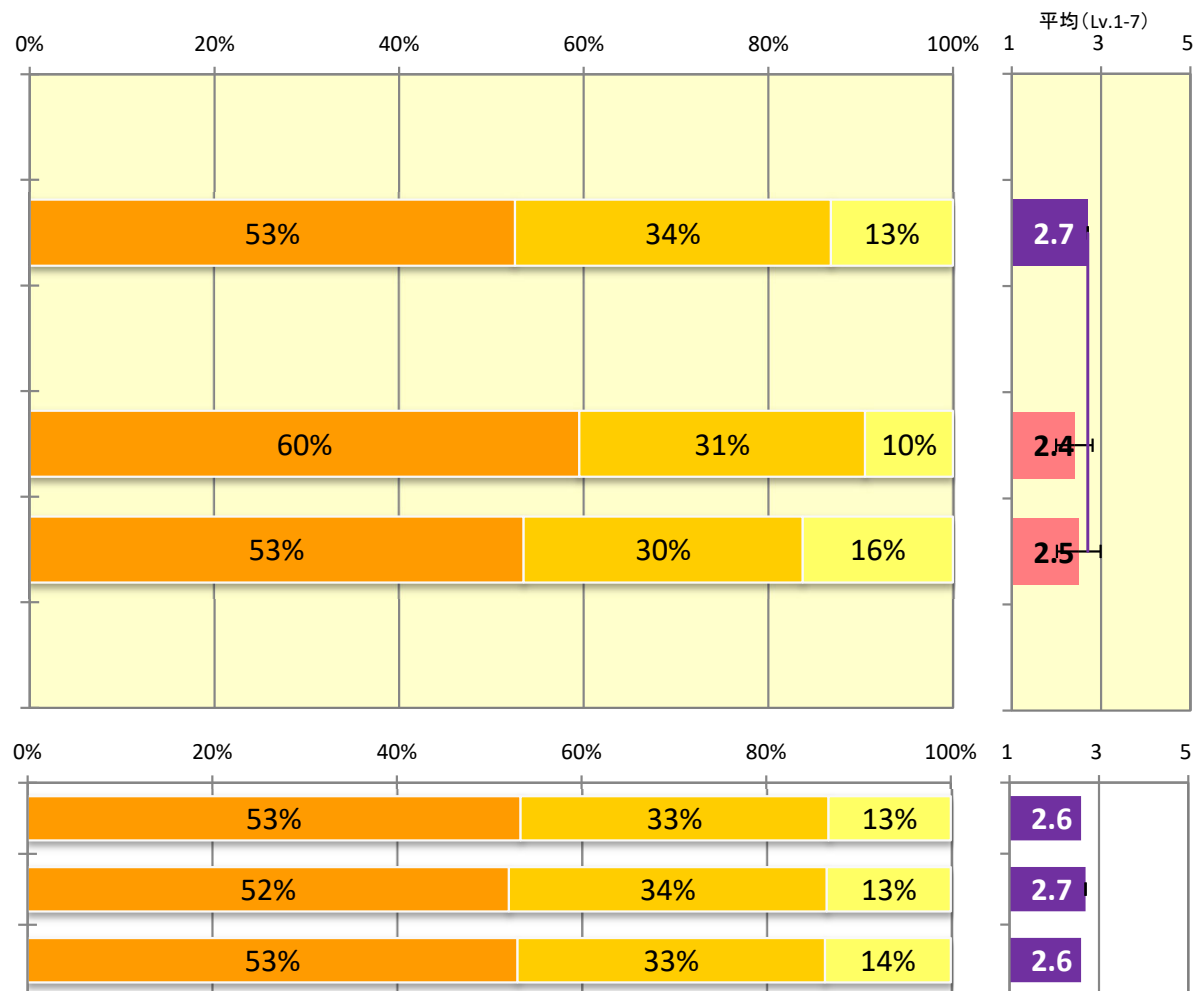
★私立大学1年(心理学系/入試難易度(偏差値)40未満)	21校 N=5,160
------------------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年次	0.96	0.62
心理カウンセリング学科3年次	0.51	0.77

【ご参考基準集団】

私立大学3年(心理学系/入試難易度(偏差値)40未満)	20校 N=4,896
私立大学1年(心理学系)	40校 N=11,736
私立大学3年(心理学系)	37校 N=8,178

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

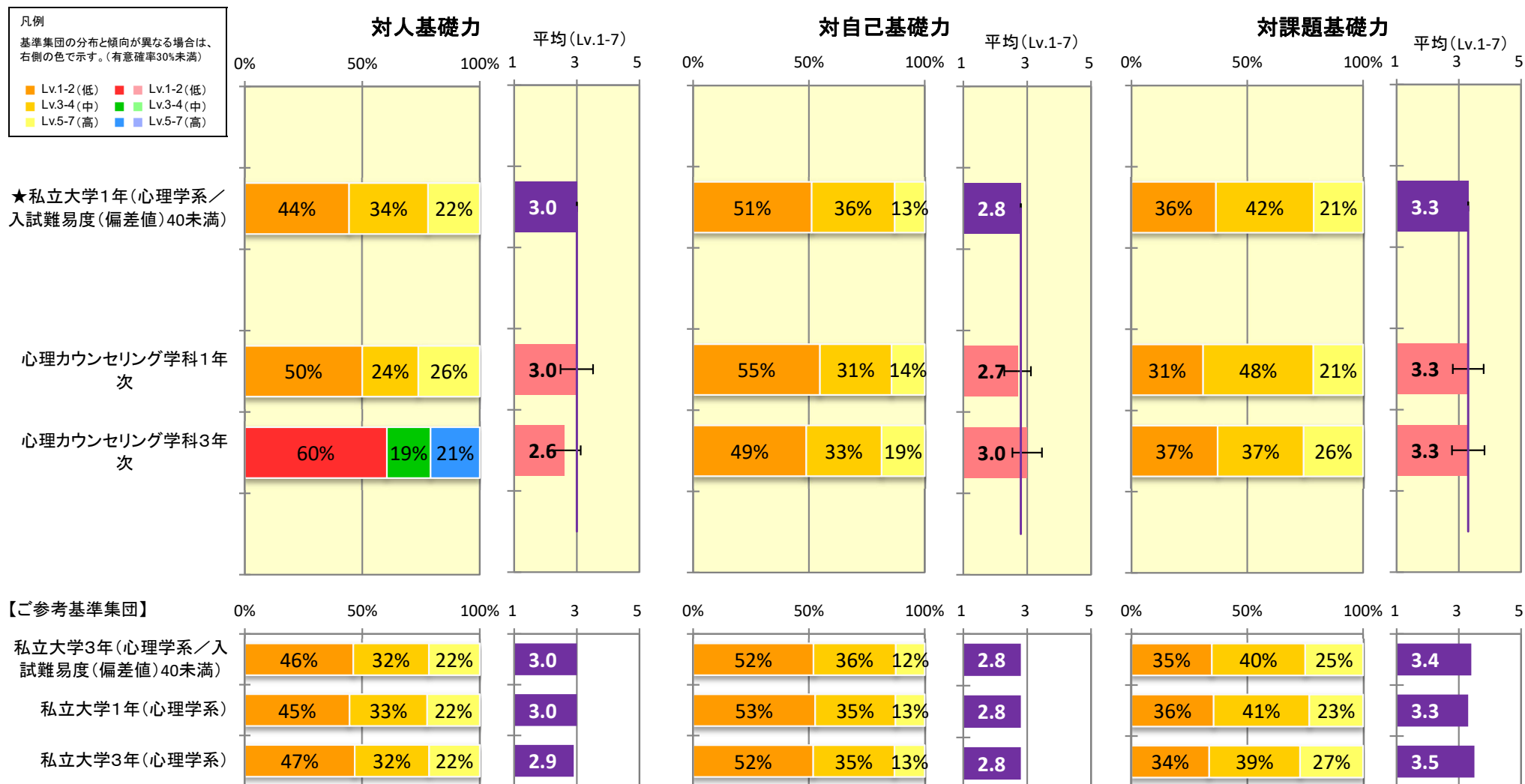
●基準集団(★印)と比較して、心理カウンセリング学科3年次は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

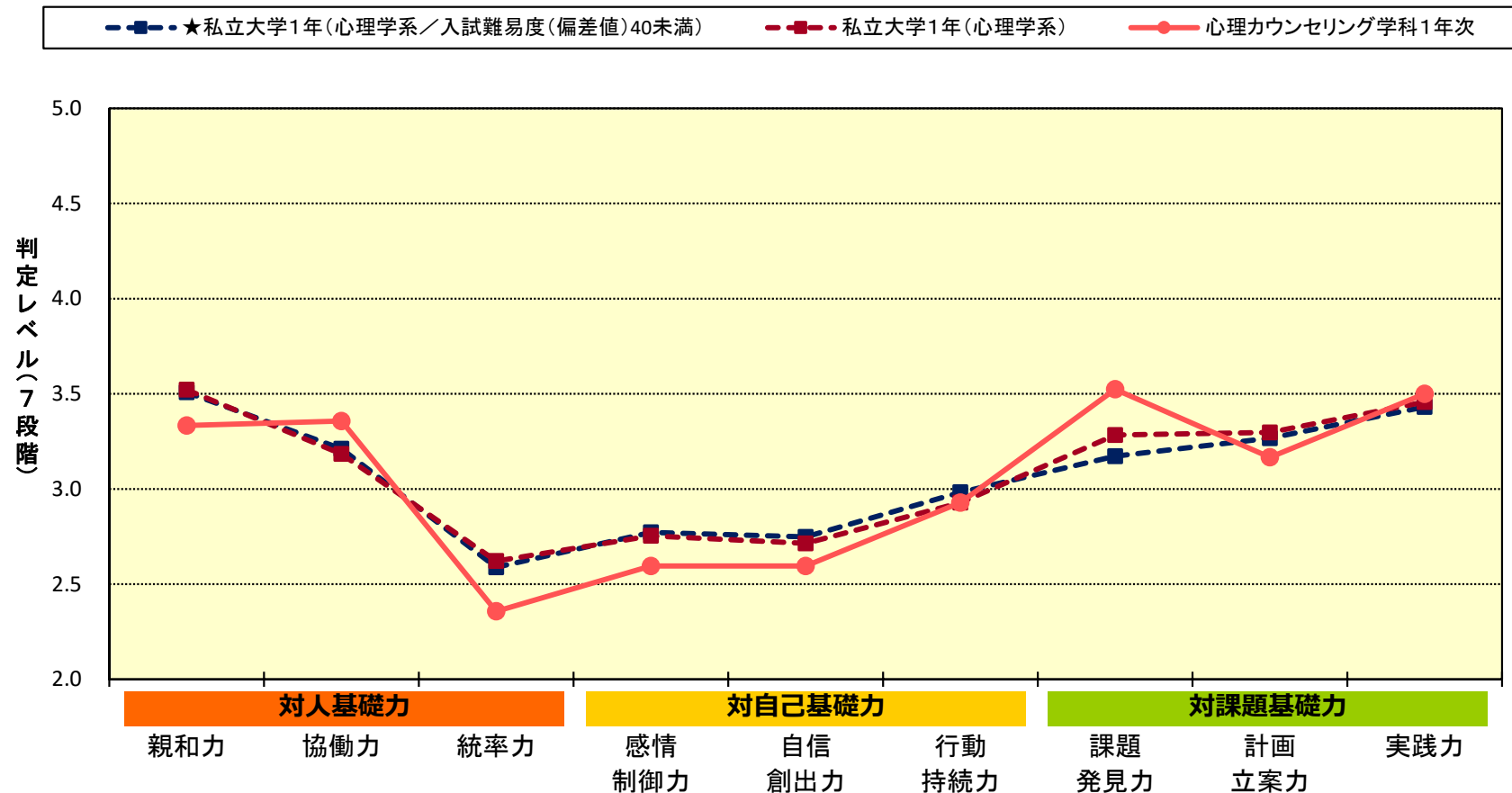
コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【心理カウンセリング学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、課題発見力の平均値は高く、協働力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、親和力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、統率力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

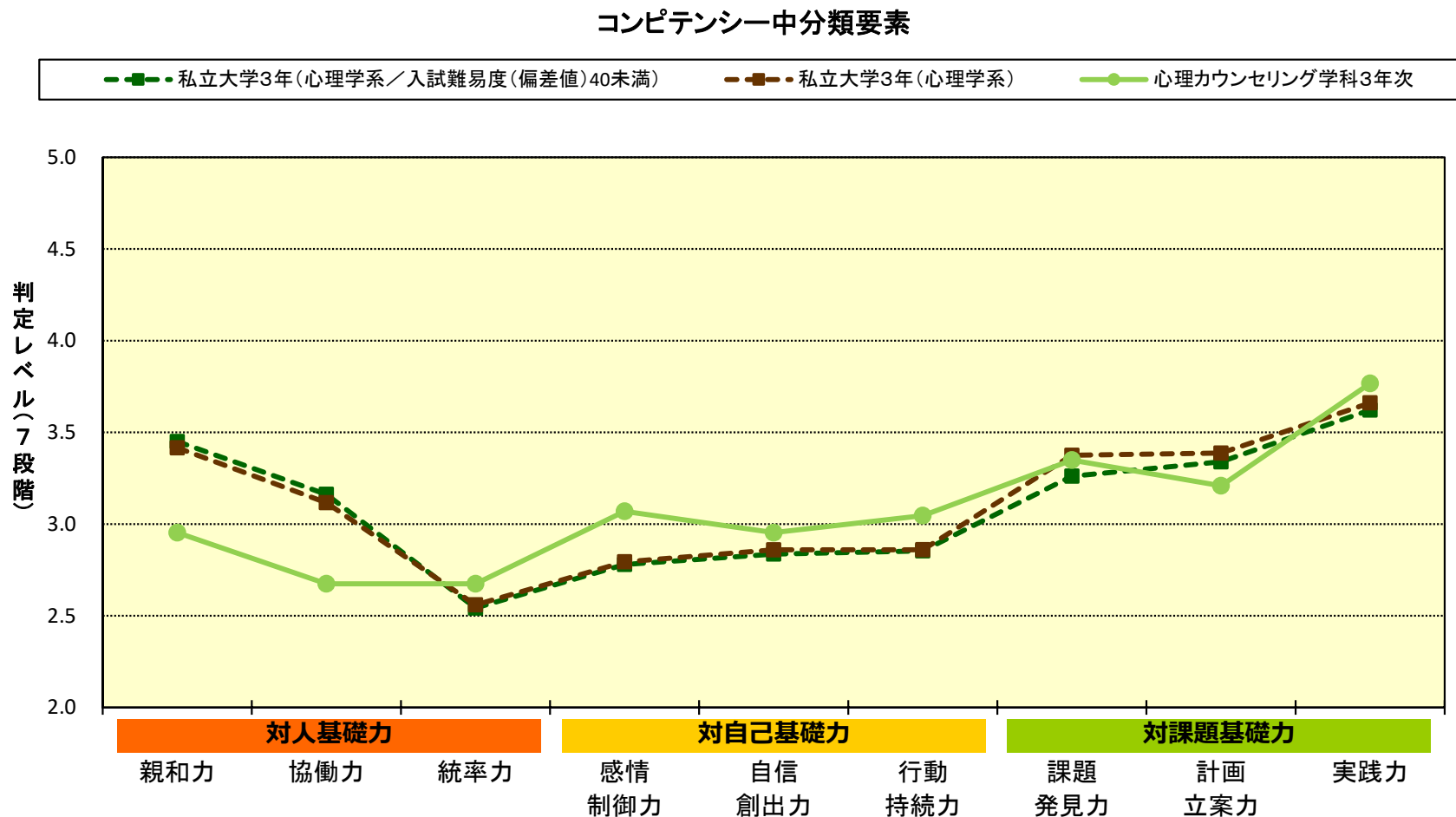
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【心理カウンセリング学科3年次】

基準集団と比較して、感情制御力、実践力の平均値は高く、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。
一方、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

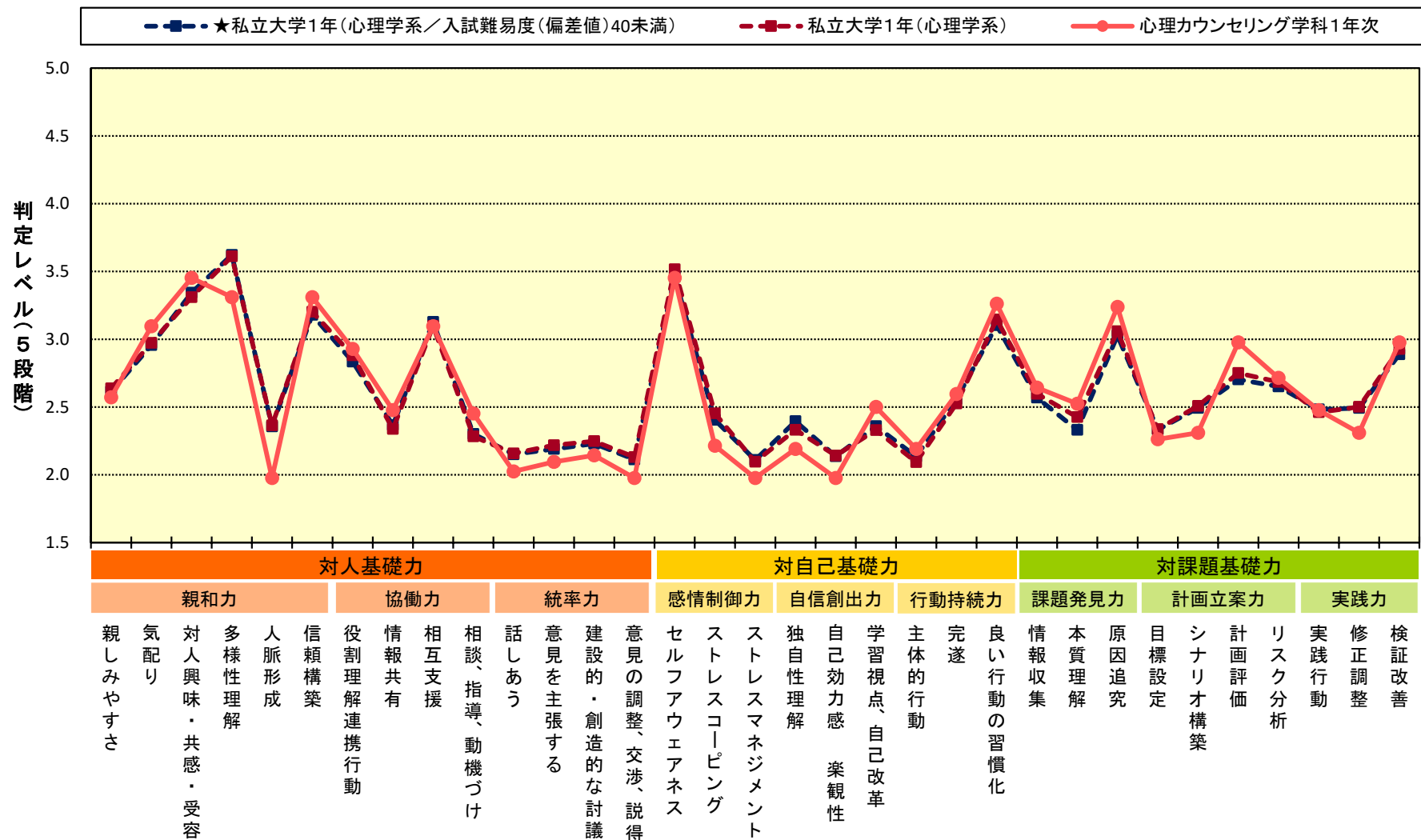
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

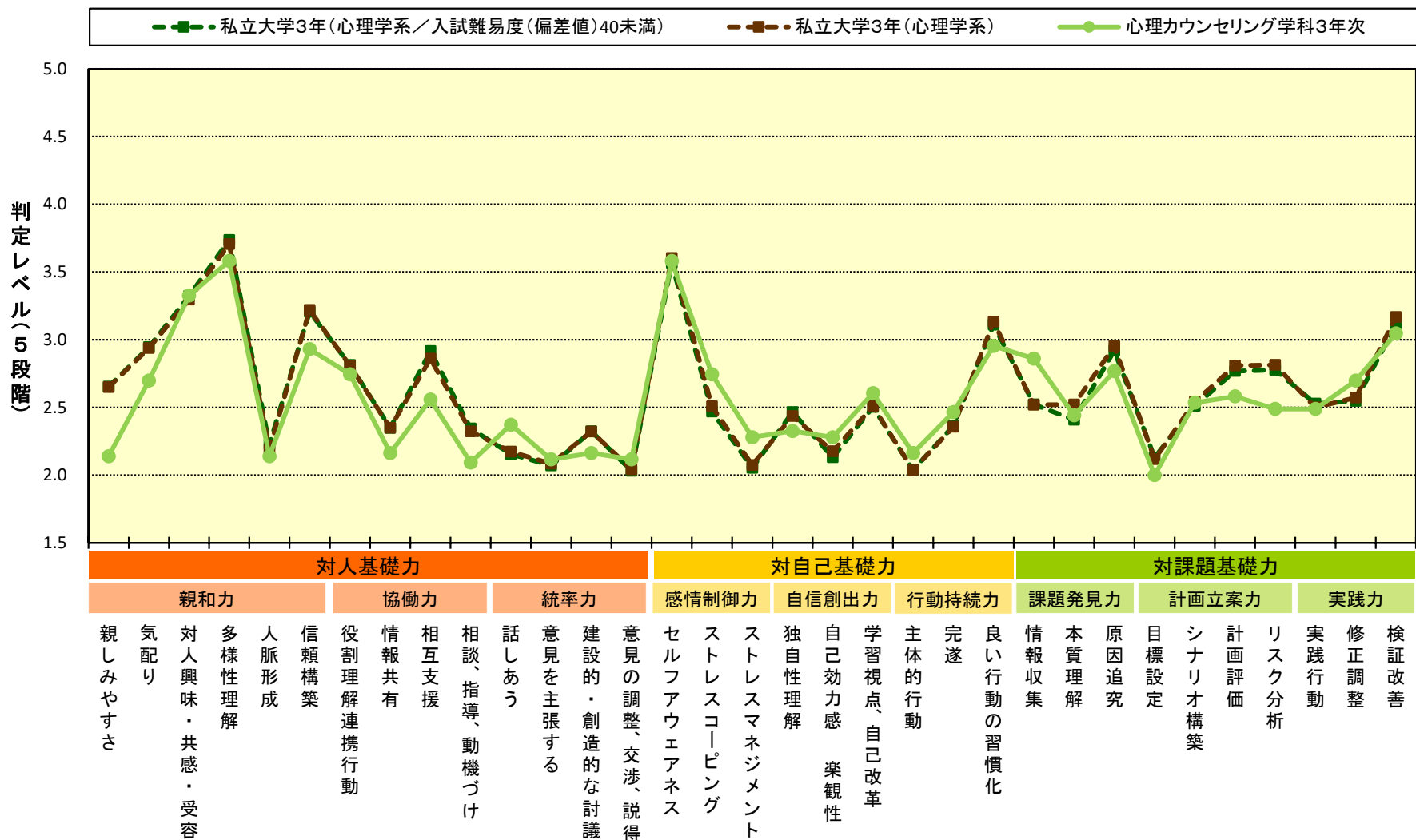
【心理カウンセリング学科1年次】

コンピテンシー小分類要素



【心理カウンセリング学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
心理カウンセリング学科 1 年次	-	-	-	◎	◎	-	-	-	▲	-	-	-	◎	-	-
心理カウンセリング学科 3 年次	-	-	-	-	◎	-	▲	▲	-	◎	-	-	-	-	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【心理カウンセリング学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける

【心理カウンセリング学科3年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	人に対して笑顔で接することができる 相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている 相手に対して自然な気配りができる 自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	学生同士がグループやクラスで和やかに(親和的に)話す機会を設ける 事例や実践を通じて、相手(当事者)の立場になって考えさせる 自分のことだけでなく、クラス全体やグループの都合を考えさせる
●協働力	割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組むことができる 周囲に気を配り、困っている人には手を貸すことができる チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	各自の貢献する領域を定め責任を果たすようにする 集団の中で自分の役割を実感する機会を設ける 各自で調べたことを全体に共有させる機会を設ける 情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を設ける

ループリック リテラシー領域 情報収集力・情報分析力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	・情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる ・情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする ・アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う	簡単な情報収集の仕方について、理解している		様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.1					
		スポーツ教育学科 1 年次	3.2					
		健康福祉学科 1 年次	2.2					
		教育文化学部 1 年次全体	3.4					
		教育学科 1 年次	3.3					
		芸術学科 1 年次	3.4					
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.4					
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.1					
		私立大学 1 年	3.3					

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方	簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.2				
		スポーツ教育学科 1 年次	3.2				
		健康福祉学科 1 年次	3.0				
		教育文化学部 1 年次全体	3.2				
		教育学科 1 年次	3.2				
		芸術学科 1 年次	3.4				
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.2				
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.1				
		私立大学 1 年	3.3				

ループリック リテラシー領域 課題発見力・構想力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	2.9					
		スポーツ教育学科 1 年次	3.0					
		健康福祉学科 1 年次	2.1					
		教育文化学部 1 年次全体	2.9					
		教育学科 1 年次	2.8					
		芸術学科 1 年次	3.0					
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.3					
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	2.9					
		私立大学 1 年	3.0					

構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業を漏れなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	2.7					
		スポーツ教育学科 1 年次	2.8					
		健康福祉学科 1 年次	2.0					
		教育文化学部 1 年次全体	3.2					
		教育学科 1 年次	3.2					
		芸術学科 1 年次	3.0					
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.4					
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	2.9					
		私立大学 1 年	3.0					

ループリック コンピテンシー領域 対人基礎力

コンピテンシー（対人）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受け入れる。また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えたり言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	4.1							
		スポーツ教育学科 1 年次	4.1							
		健康福祉学科 1 年次	3.9							
		教育文化学部 1 年次全体	3.8							
		教育学科 1 年次	4.2							
		芸術学科 1 年次	3.1							
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.3							
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.8							
		私立大学 1 年	3.8							
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくるができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	4.1							
		スポーツ教育学科 1 年次	4.1							
		健康福祉学科 1 年次	4.1							
		教育文化学部 1 年次全体	3.6							
		教育学科 1 年次	3.8							
		芸術学科 1 年次	2.9							
		心理カウンセリング学科 1 年次	3.4							
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.6							
		私立大学 1 年	3.6							
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを入れて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話すことができる	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあっても孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.5							
		スポーツ教育学科 1 年次	3.6							
		健康福祉学科 1 年次	3.4							
		教育文化学部 1 年次全体	2.7							
		教育学科 1 年次	2.8							
		芸術学科 1 年次	2.7							
		心理カウンセリング学科 1 年次	2.4							
		私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.1							
		私立大学 1 年	3.1							

ループリック コンピテンシー領域 対自己基礎力

コンピテンシー（対自己）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなししていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.6							
		スポーツ教育学科 1 年次	3.6							
		健康福祉学科 1 年次	3.8							
		教育文化学部 1 年次全体	2.8							
		教育学科 1 年次	2.9							
		芸術学科 1 年次	2.9							
		心理カウンセリング学科 1 年次	2.6							
自信創出力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力		・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.7							
		スポーツ教育学科 1 年次	3.7							
		健康福祉学科 1 年次	4.0							
		教育文化学部 1 年次全体	2.9							
		教育学科 1 年次	3.1							
		芸術学科 1 年次	2.6							
		心理カウンセリング学科 1 年次	2.6							
行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力		・人からの指示を待つて行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みよう心がけている	・任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
		生涯スポーツ学部 1 年次全体	3.8							
		スポーツ教育学科 1 年次	3.8							
		健康福祉学科 1 年次	3.6							
		教育文化学部 1 年次全体	3.3							
		教育学科 1 年次	3.5							
		芸術学科 1 年次	3.1							
		心理カウンセリング学科 1 年次	2.9							
私立大学 1 年（入試難易度（偏差値）40未満）			3.2							
		私立大学 1 年	3.2							
私立大学 1 年			3.2							
			3.2							

ループリック コンピテンシー領域 対課題基礎力

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題 発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
計画 立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえ具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの分担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
実践 力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることもしない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功が失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる

Part.6

短期大学部 こども学科1年

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※こども学科1年次は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立短大1年(こども系／入試難易度(偏差値)40未満)

3校 N=564

χ^2 乗値 有意確率

こども学科1年次

1.67

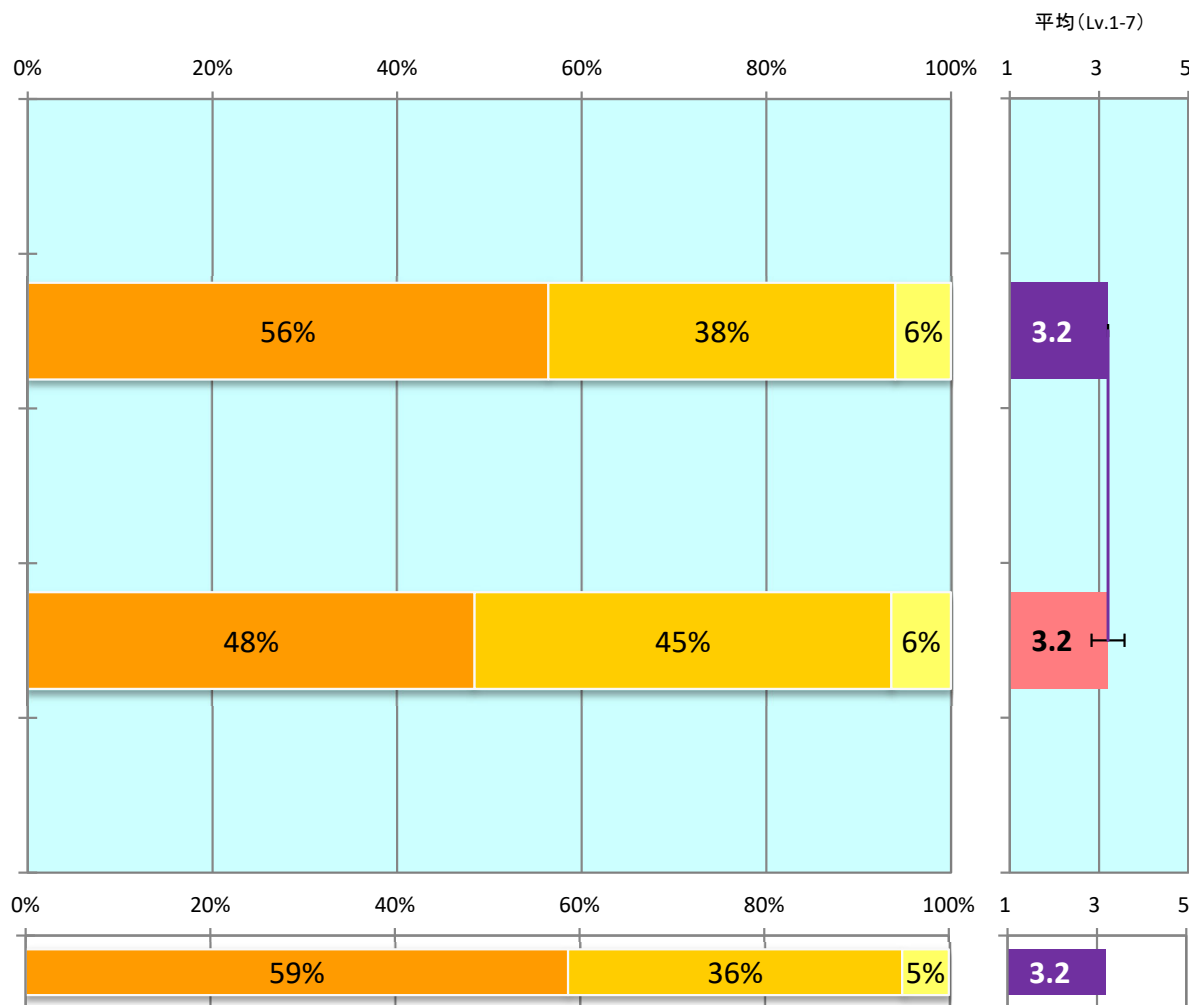
0.43

【ご参考基準集団】

私立短大1年(こども系)

23校 N=3,189

リテラシー総合

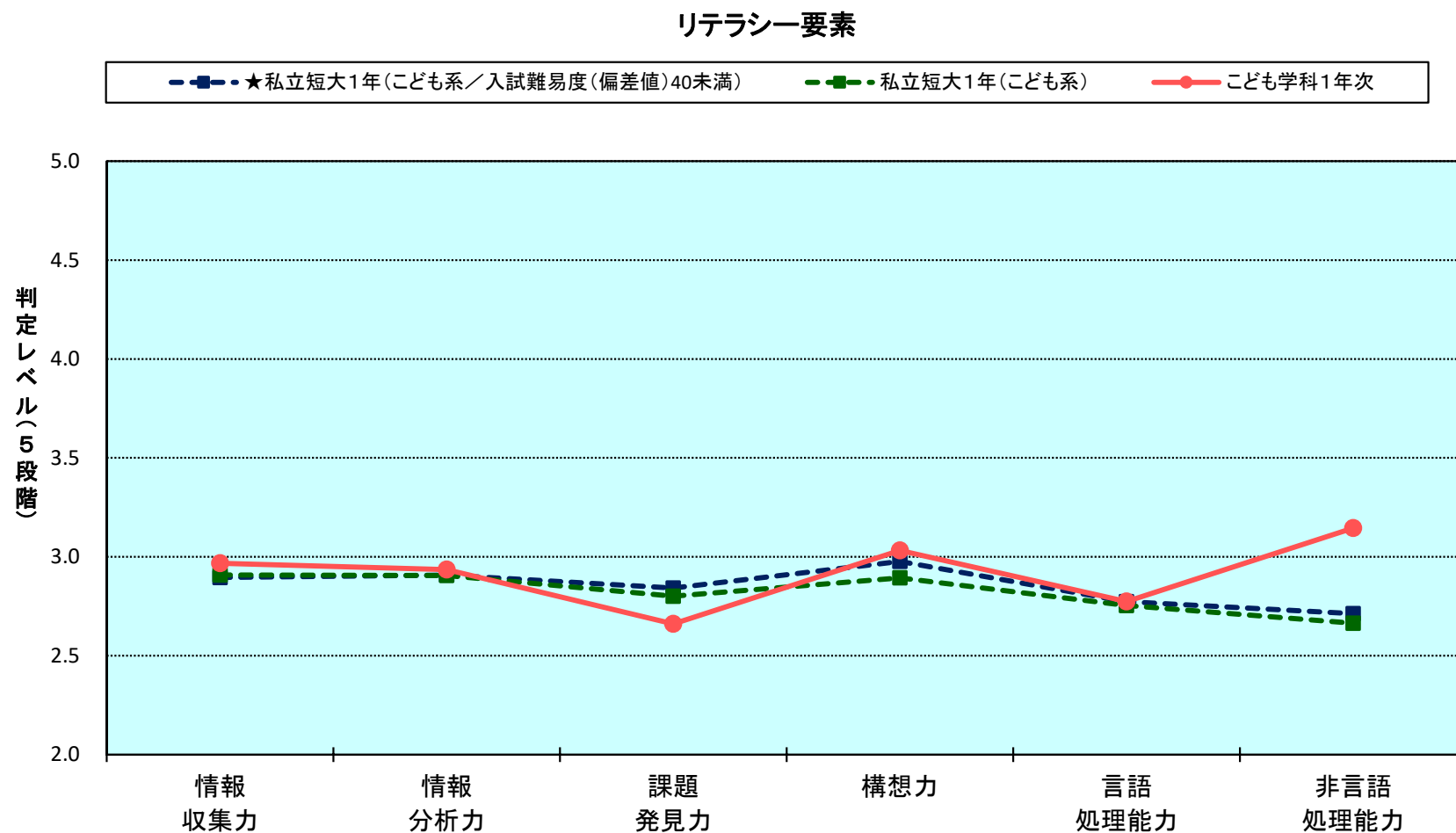


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【こども学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。一方、課題発見力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

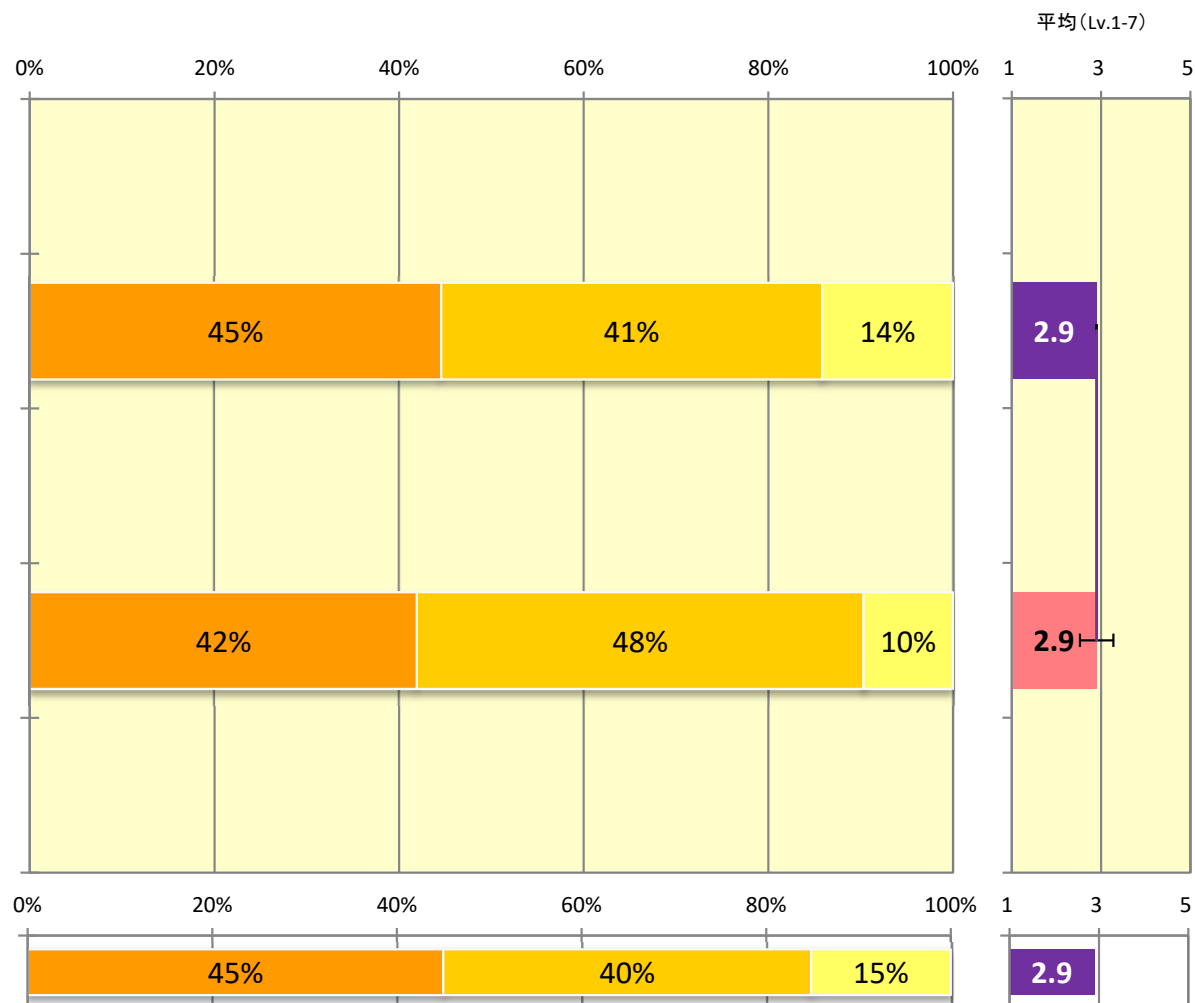
★私立短大1年(こども系／入試難易度(偏差値)40未満)	7校 N=3,261
------------------------------	------------

	χ^2 乗値	有意確率
こども学科1年次	1.75	0.42

【ご参考基準集団】

私立短大1年(こども系)	36校 N=9,547
--------------	-------------

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

【対人基礎力】

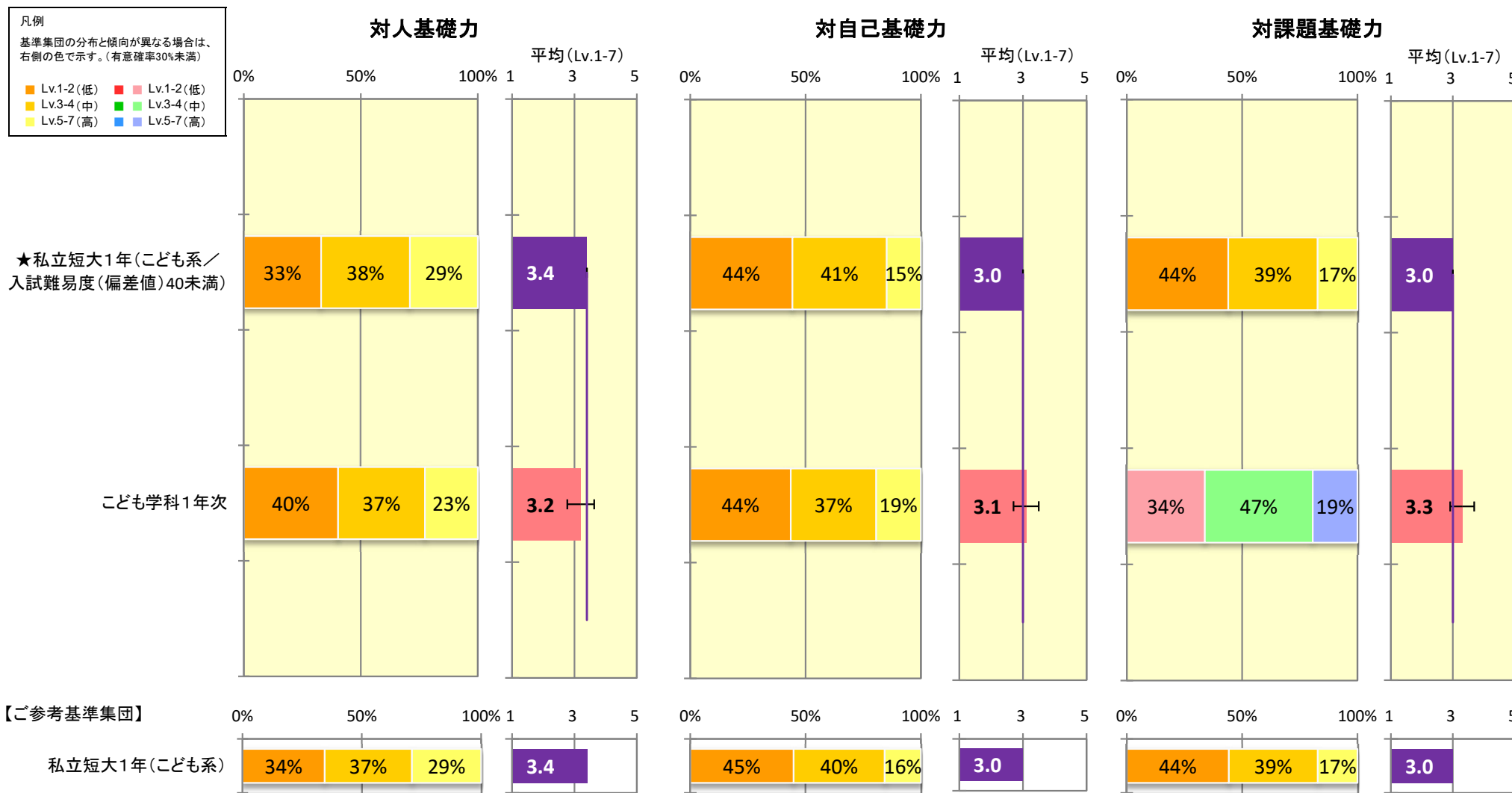
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

【対課題基礎力】

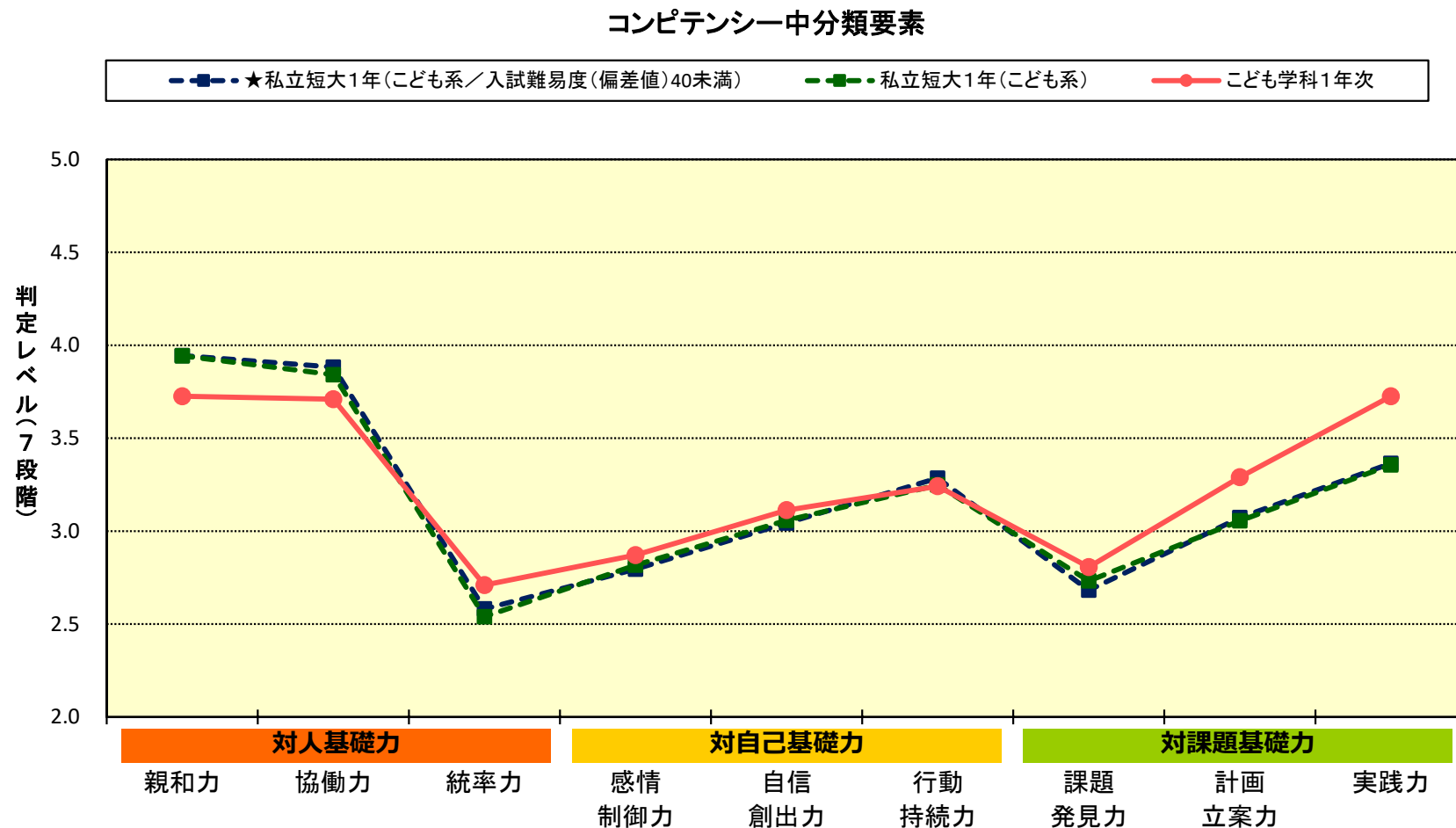
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【こども学科1年次】

基準集団(★印)と比較して、計画立案力、実践力の平均値は高く、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。
一方、親和力、協働力、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

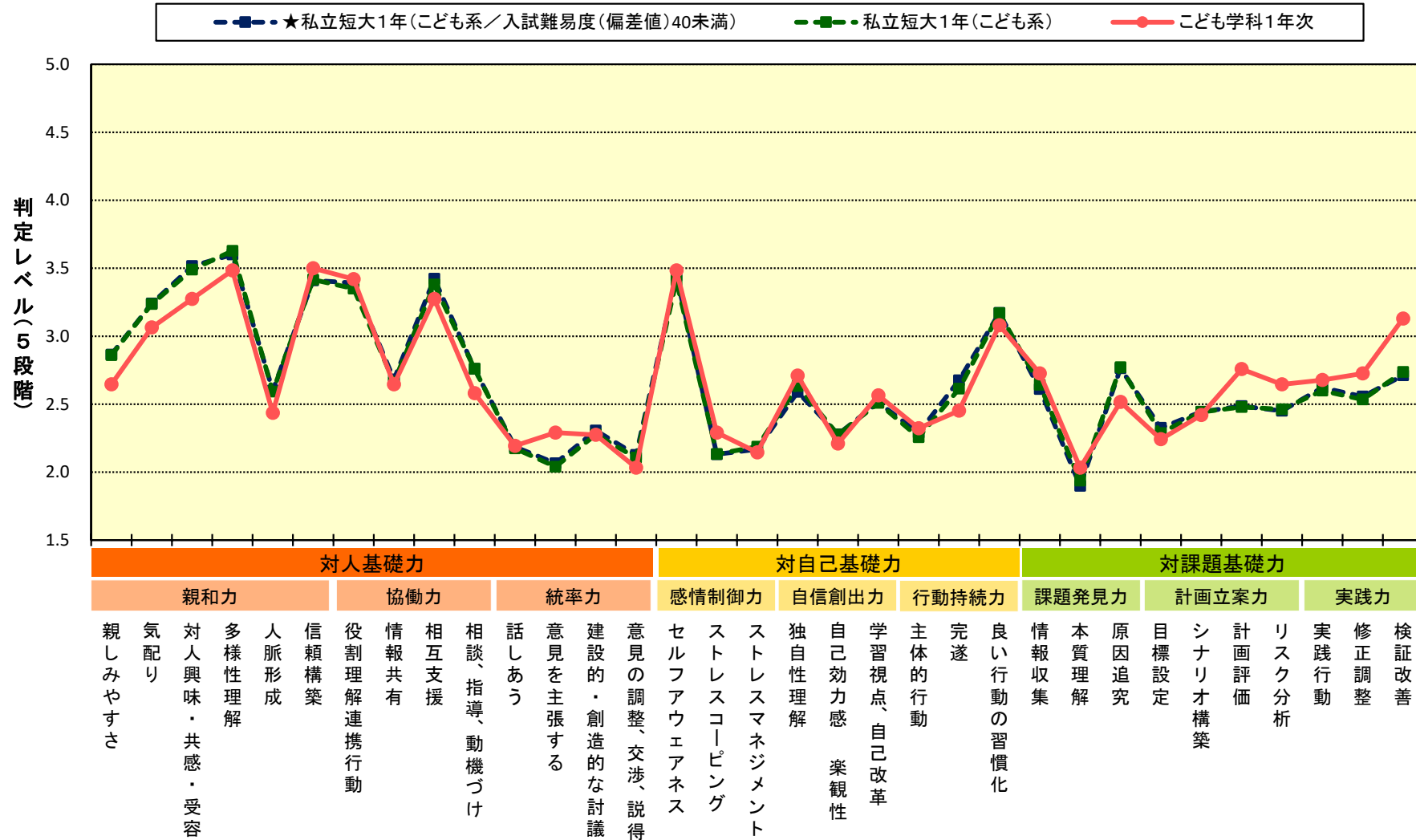
1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素



今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
こども学科 1 年次	-	-	-	▲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【こども学科1年次】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレインストーミングなどの手法を用い既存概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

ループリック リテラシー領域 情報収集力・情報分析力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	・情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる ・情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする ・アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う	簡単な情報収集の仕方について、理解している		様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
こども学科 1 年次			3.0					
私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）			2.9					

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方	簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
こども学科 1 年次			2.9				
私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）			2.9				

ループリック リテラシー領域 課題発見力・構想力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		こども学科 1 年次	2.7					
		私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）	2.8					

構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業をきれいに洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		こども学科 1 年次	3.0					
		私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）	3.0					

ループリック コンピテンシー領域 対人基礎力

コンピテンシー（対人）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えたり言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
			こども学科 1 年次	3.7						
			私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）	3.9						
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくるができる
			こども学科 1 年次	3.7						
			私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）	3.9						
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話すことができる	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあっても孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
			こども学科 1 年次	2.7						
			私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）	2.6						

ループリック コンピテンシー領域 対自己基礎力

コンピテンシー（対自己）			定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情 制 御 力	気持ちの揺れを 制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力	・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる		
こども学科 1 年次			2.9								
私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）			2.8								

自信 創 出 力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力	・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
こども学科 1 年次			3.1						
私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）			3.0						

行動 持 続 力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力	・人からの指示を待つて行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みよう心がけている	・任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
こども学科 1 年次			3.2						
私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）			3.3						

ループリック コンピテンシー領域 対課題基礎力

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題 発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
	こども学科 1 年次		2.8							
	私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）		2.7							
計画 立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえ具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの分担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
	こども学科 1 年次		3.3							
	私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）		3.1							
実践 力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる
	こども学科 1 年次		3.7							
	私立短大 1 年（こども系／入試難易度（偏差値）40未満）		3.4							

Part.7

過去受験者との比較

1年次

学部	学科	2021年度 1年次 2021年6月～8月 受験	2022年度 1年次 2022年5月～8月 受験	2023年度 1年次 2023年5月～8月 受験	2024年度 1年次 2024年5月～7月 受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	173	130	135	81
	健康福祉学科	26	30	23	10
		199	160	158	91
教育文化学部	教育学科	144	123	121	126
	芸術学科	35	36	55	34
	心理カウンセリング学科	47	44	49	42
		226	203	225	202
合計		425	363	383	293

※WEB受験のリテラシーテストにおいて受験時間制限45分のところ解答時間20分未満、または 全30問中解答数10問以下の学生について、解答姿勢が低かったことが想定されるため、これらの学生のスコアを除いて集計しております。

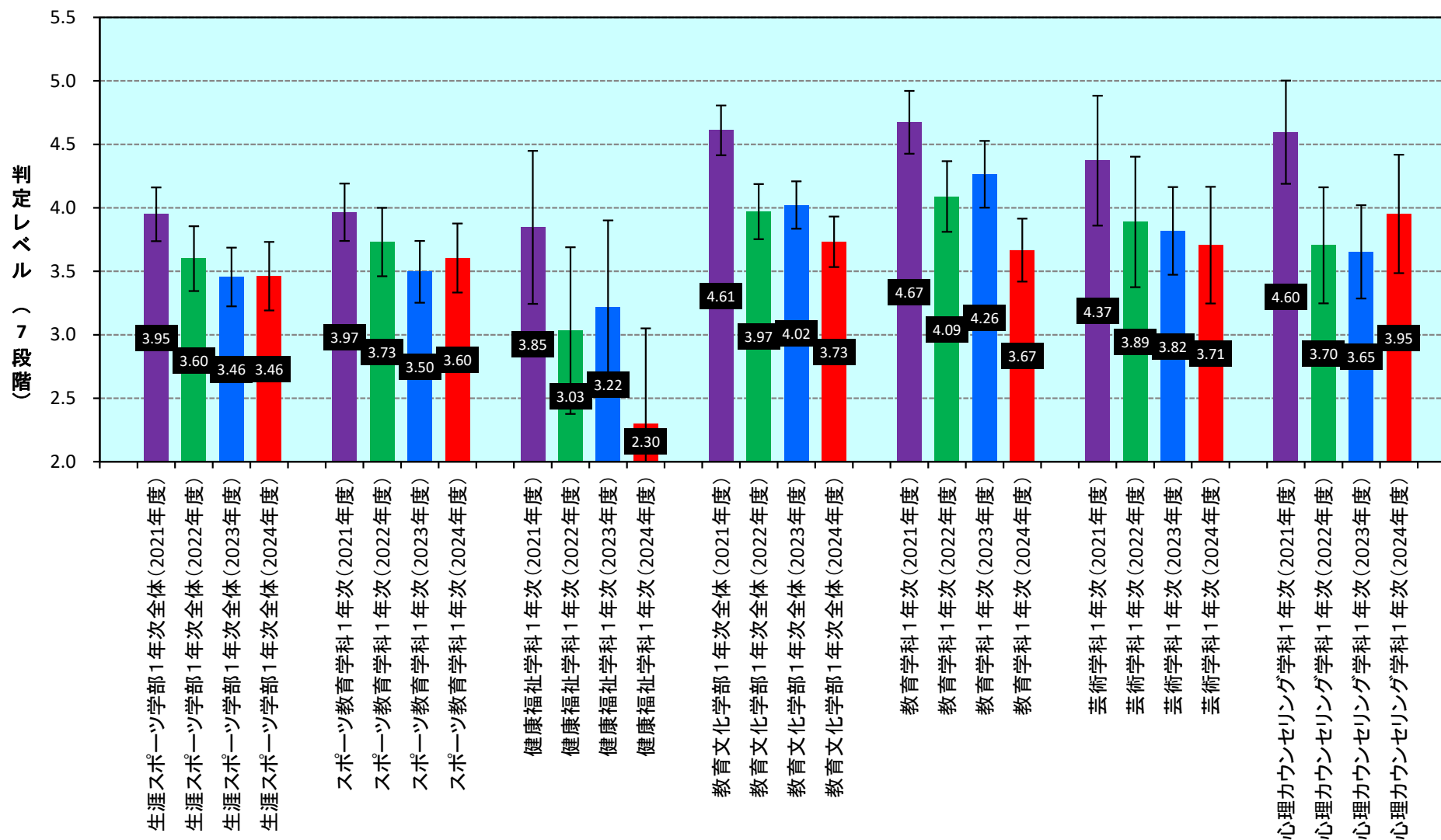
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●生涯スポーツ学部1年次全体、スポーツ教育学科1年次、心理カウンセリング学科1年次は、2023年度のスコアを上回る。

●健康福祉学科1年次、教育文化学部1年次全体、教育学科1年次、芸術学科1年次は、2023年度のスコアを下回る。

（※健康福祉学科1年次（2024年度）は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

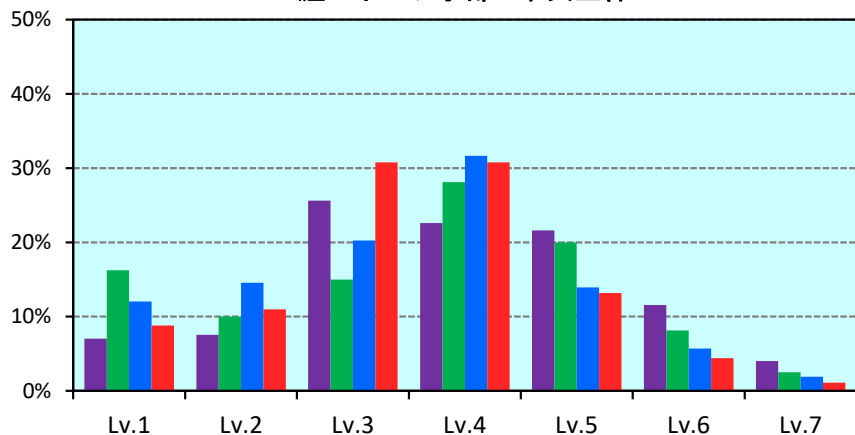
リテラシー総合



リテラシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

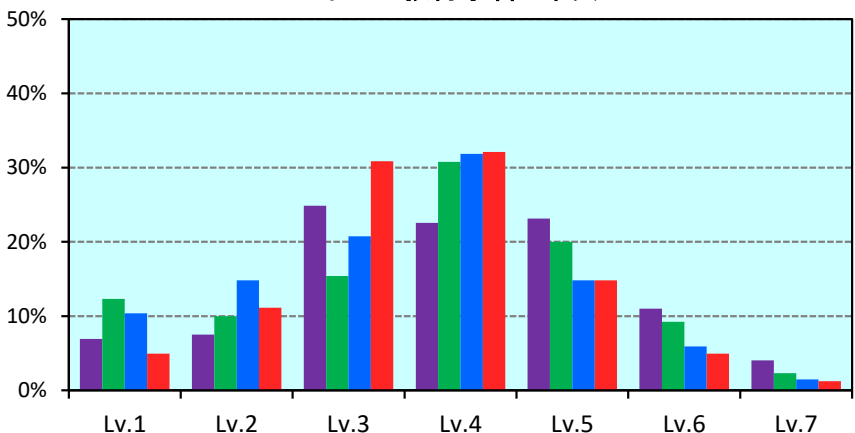
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

生涯スポーツ学部1年次全体



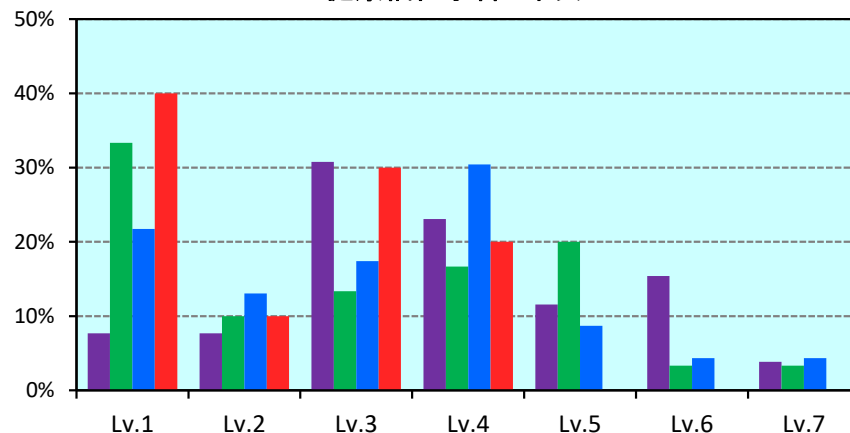
2023年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル3の割合が大きい。

スポーツ教育学科1年次



2023年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル3の割合が大きい。

健康福祉学科1年次

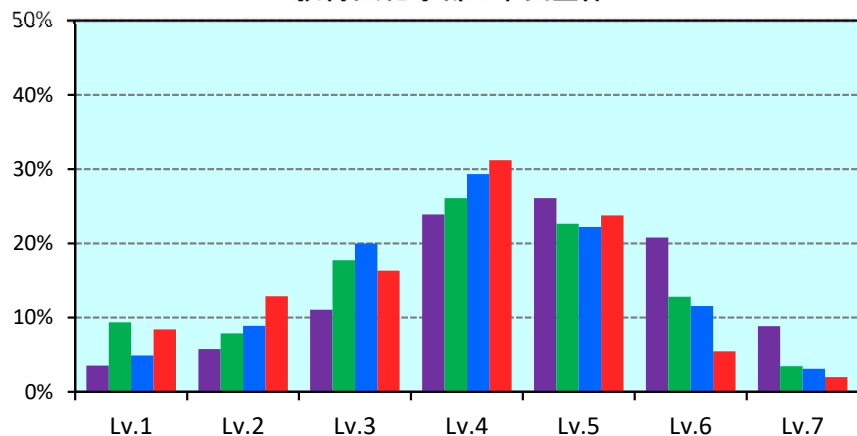


(※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

リテラシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

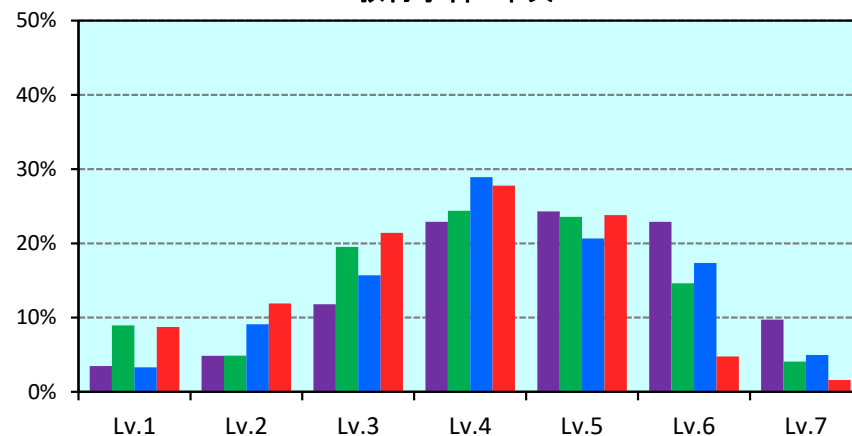
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

教育文化学部1年次全体



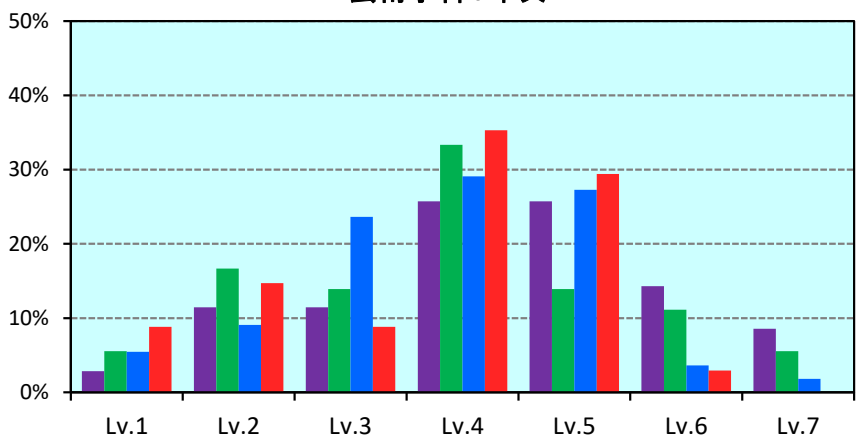
2023年度に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル1～2のボリュームが大きい。

教育学科1年次



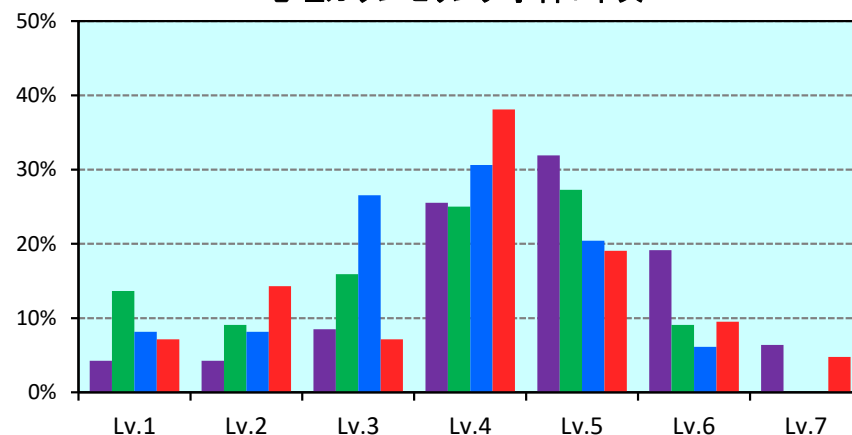
2023年度に比べて、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル1、レベル3、レベル5の割合が大きい。

芸術学科1年次



2023年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1～2、レベル4のボリュームが大きい。

心理カウンセリング学科1年次



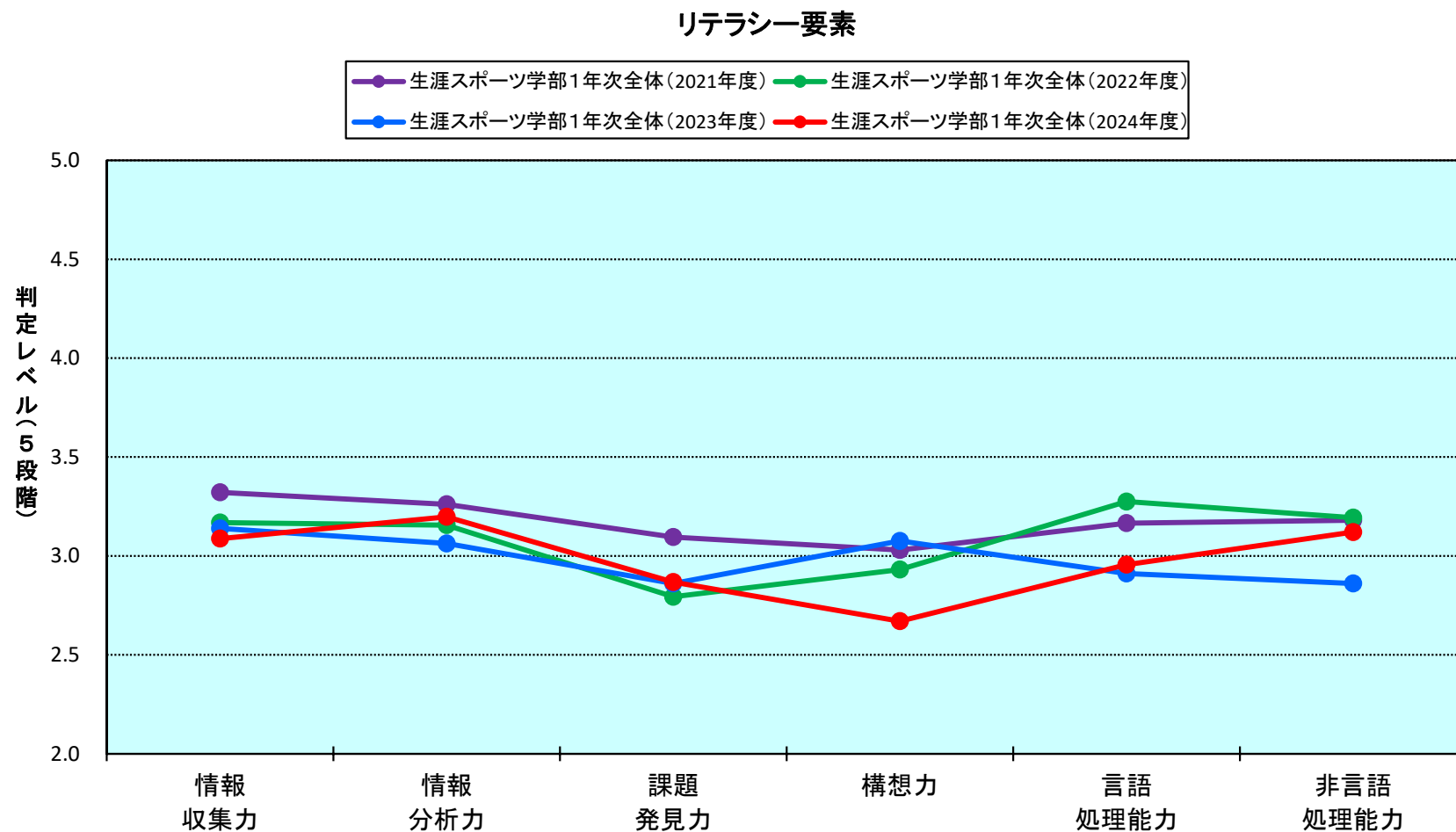
2023年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル4、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年次全体】

情報分析力、課題発見力、言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、構想力は、2023年度のスコアを下回る。

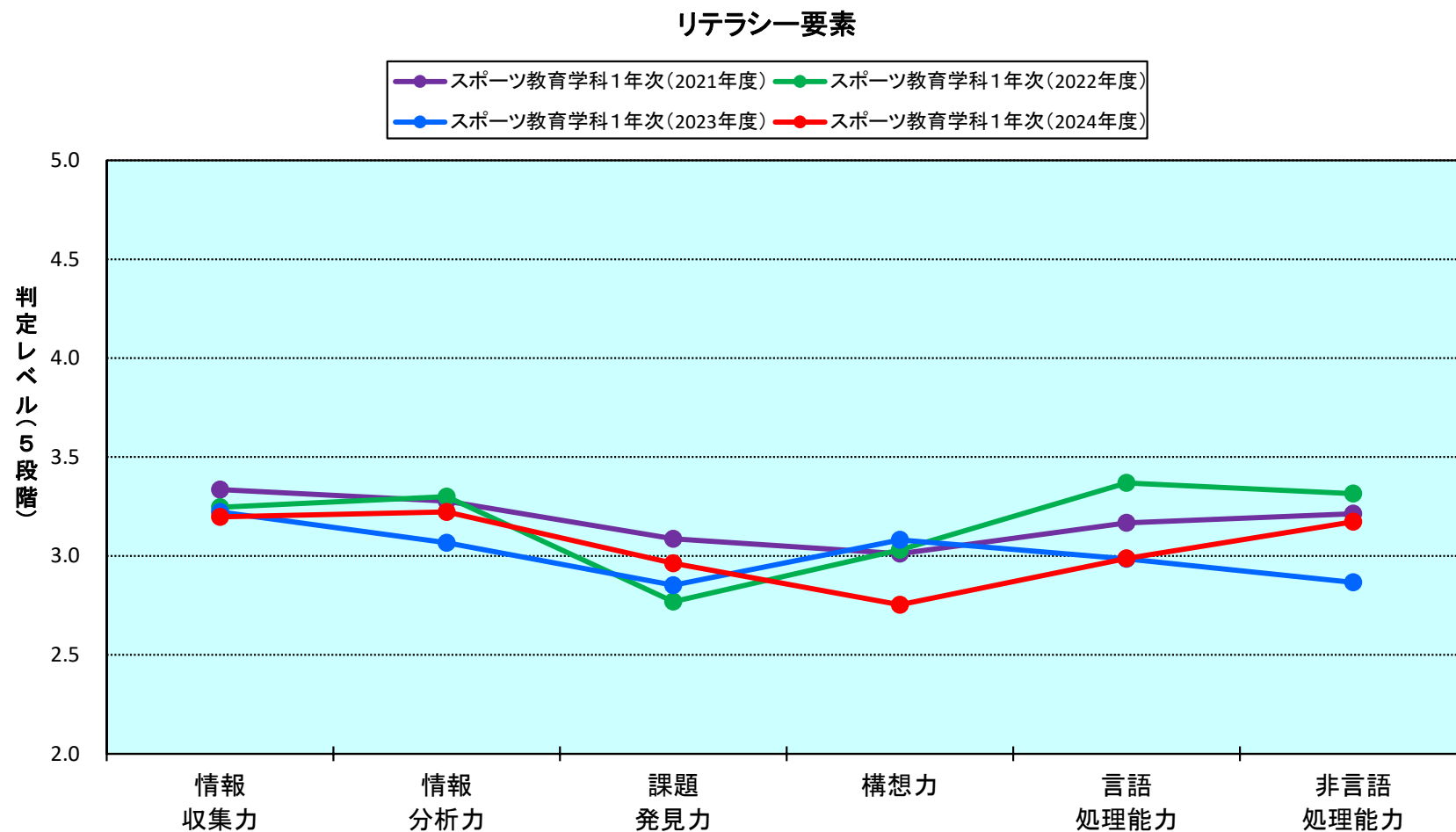


リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年次】

情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、構想力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

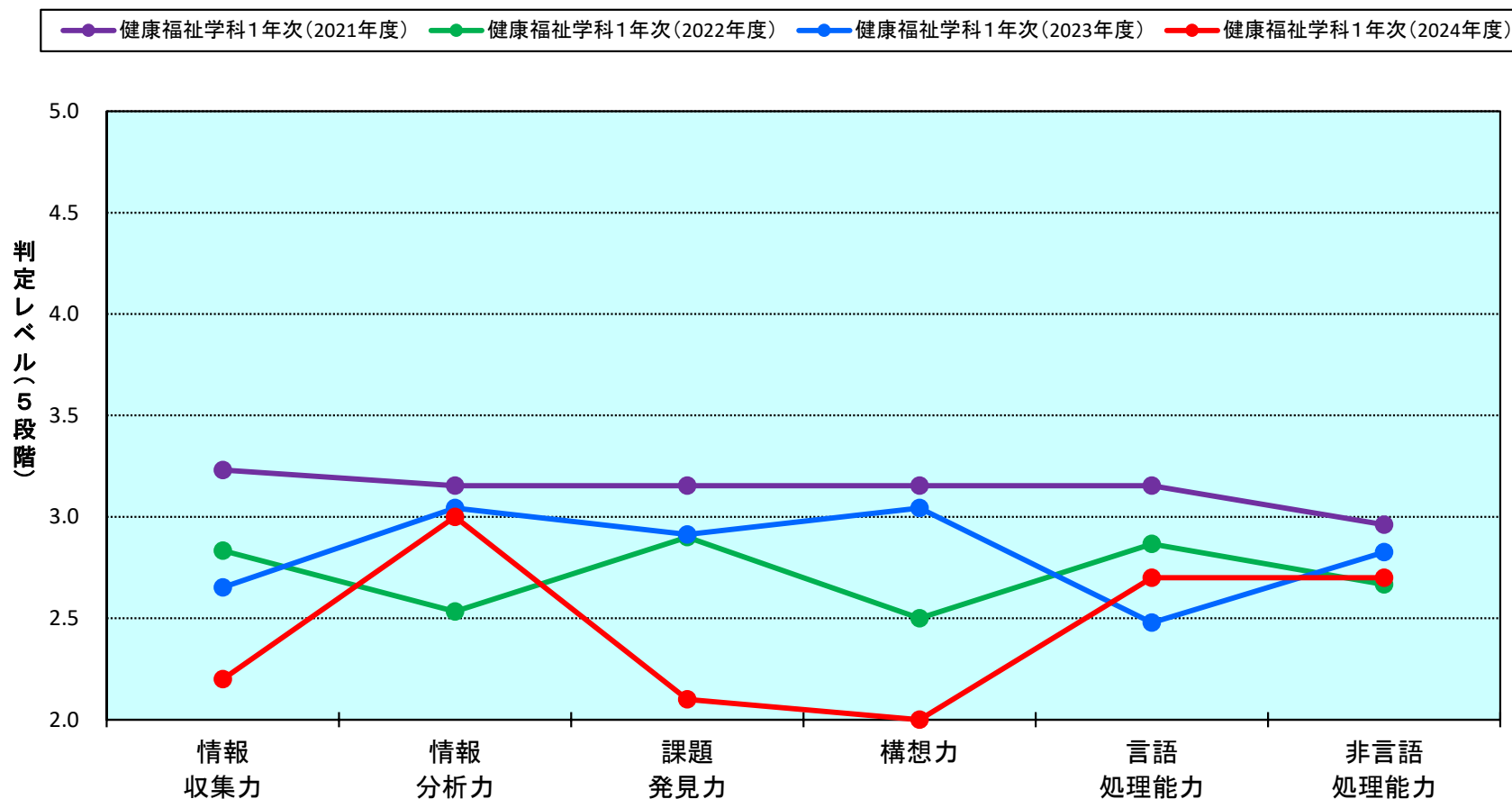
【健康福祉学科1年次】

言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

リテラシー要素

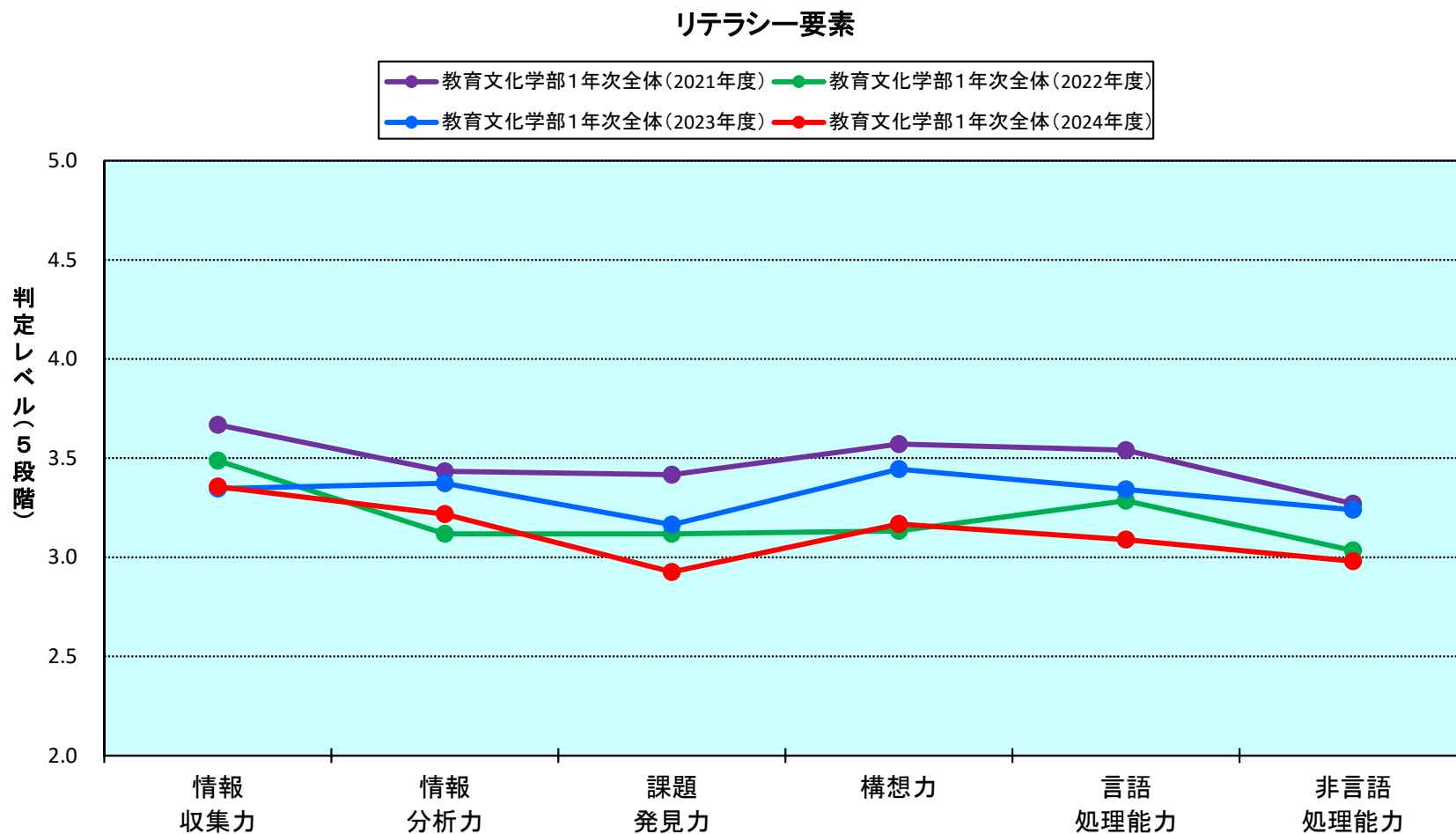


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年次全体】

情報収集力は、2023年度のスコアを上回る。

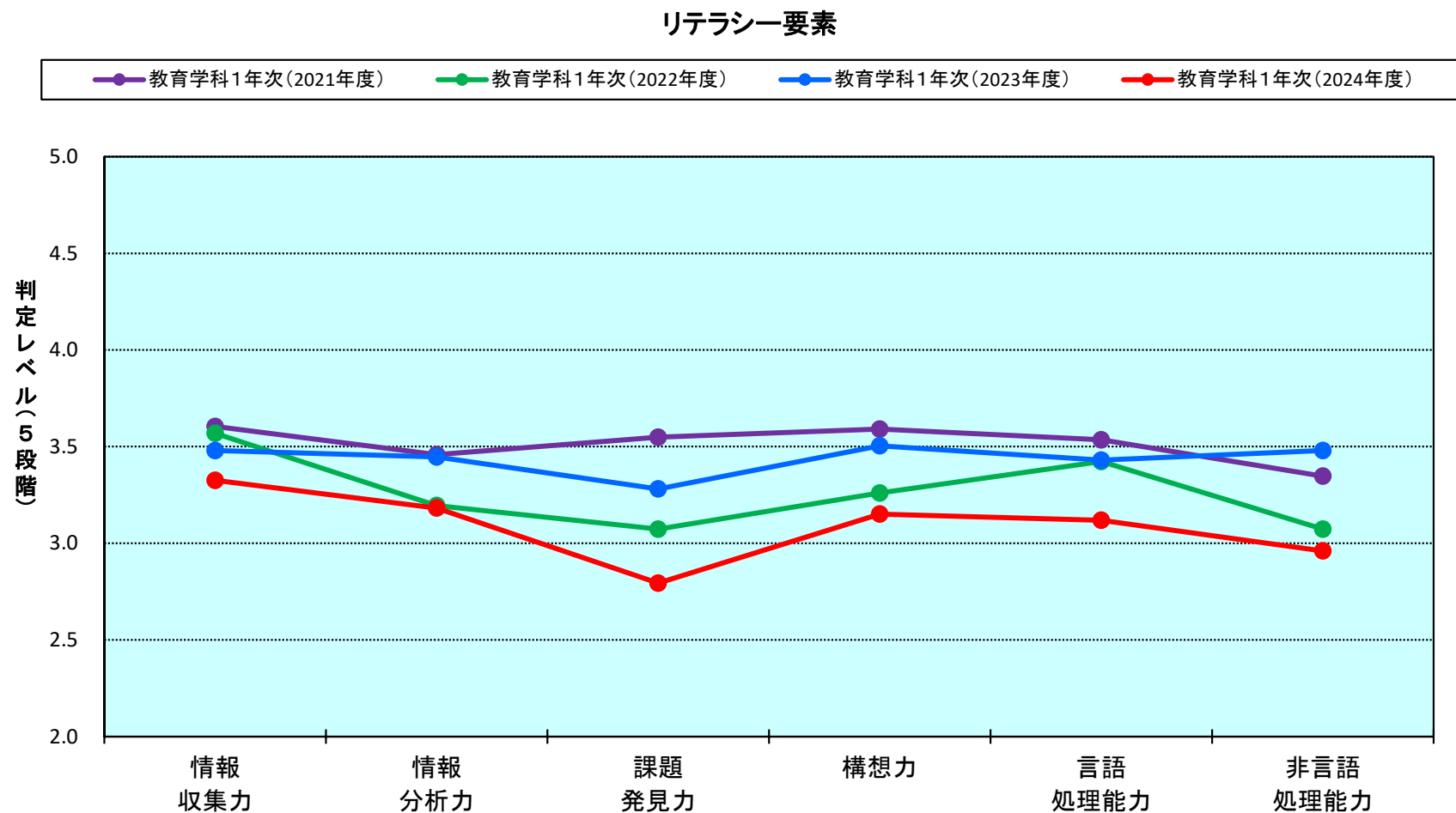
一方、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年次】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

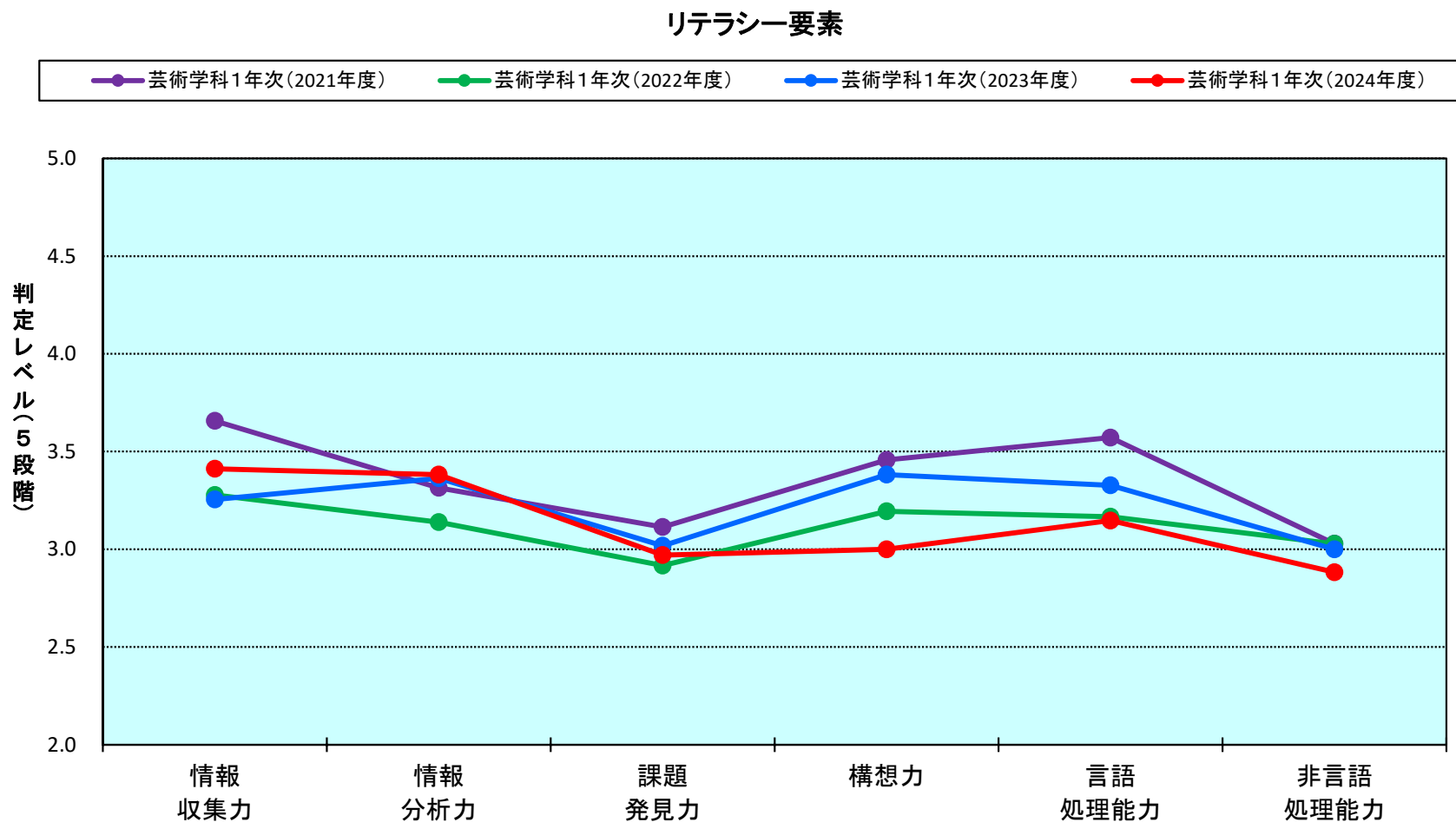


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科1年次】

情報収集力、情報分析力は、2023年度のスコアを上回る。

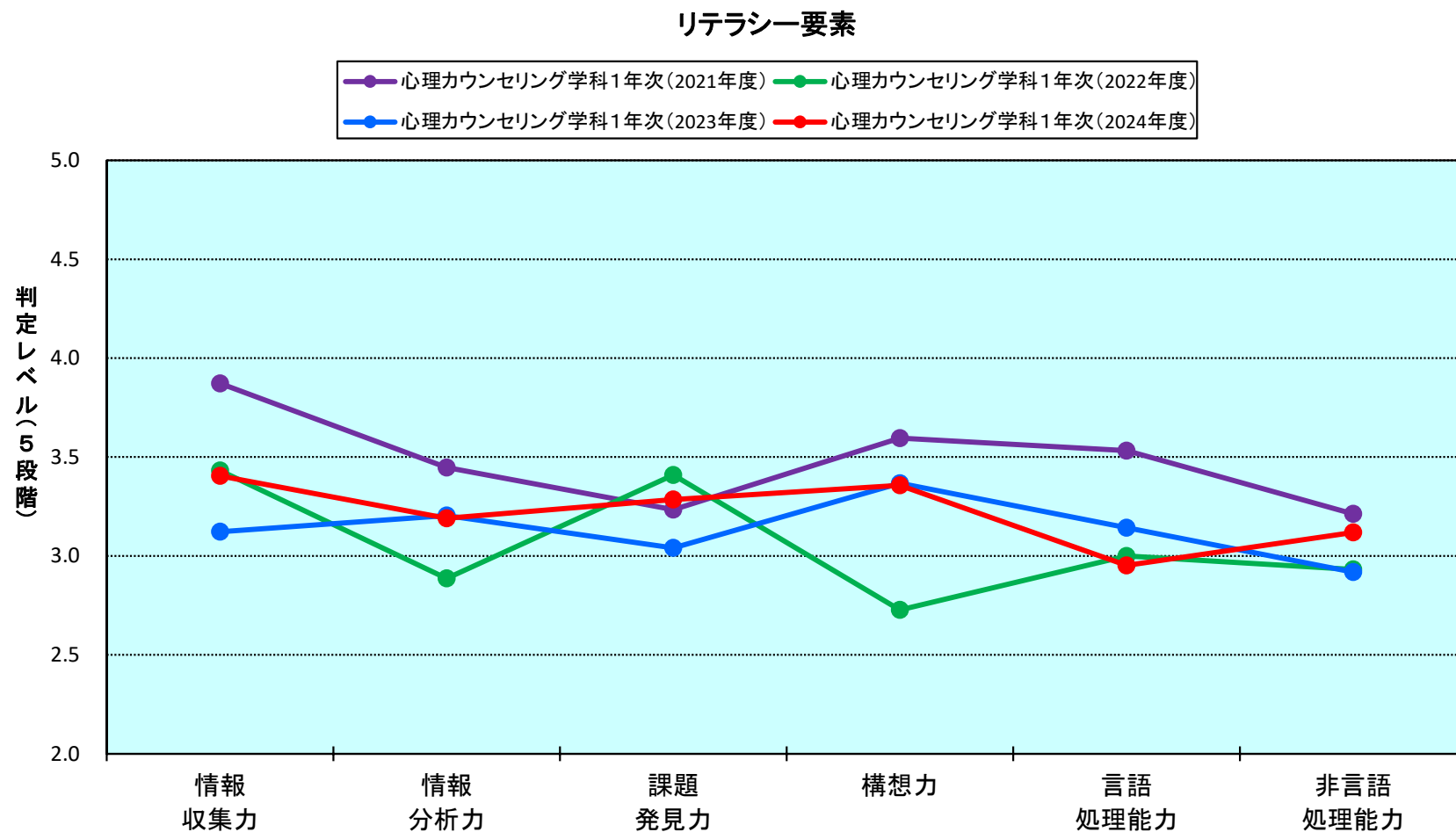
一方、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科1年次】

情報収集力、課題発見力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。
一方、情報分析力、構想力、言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

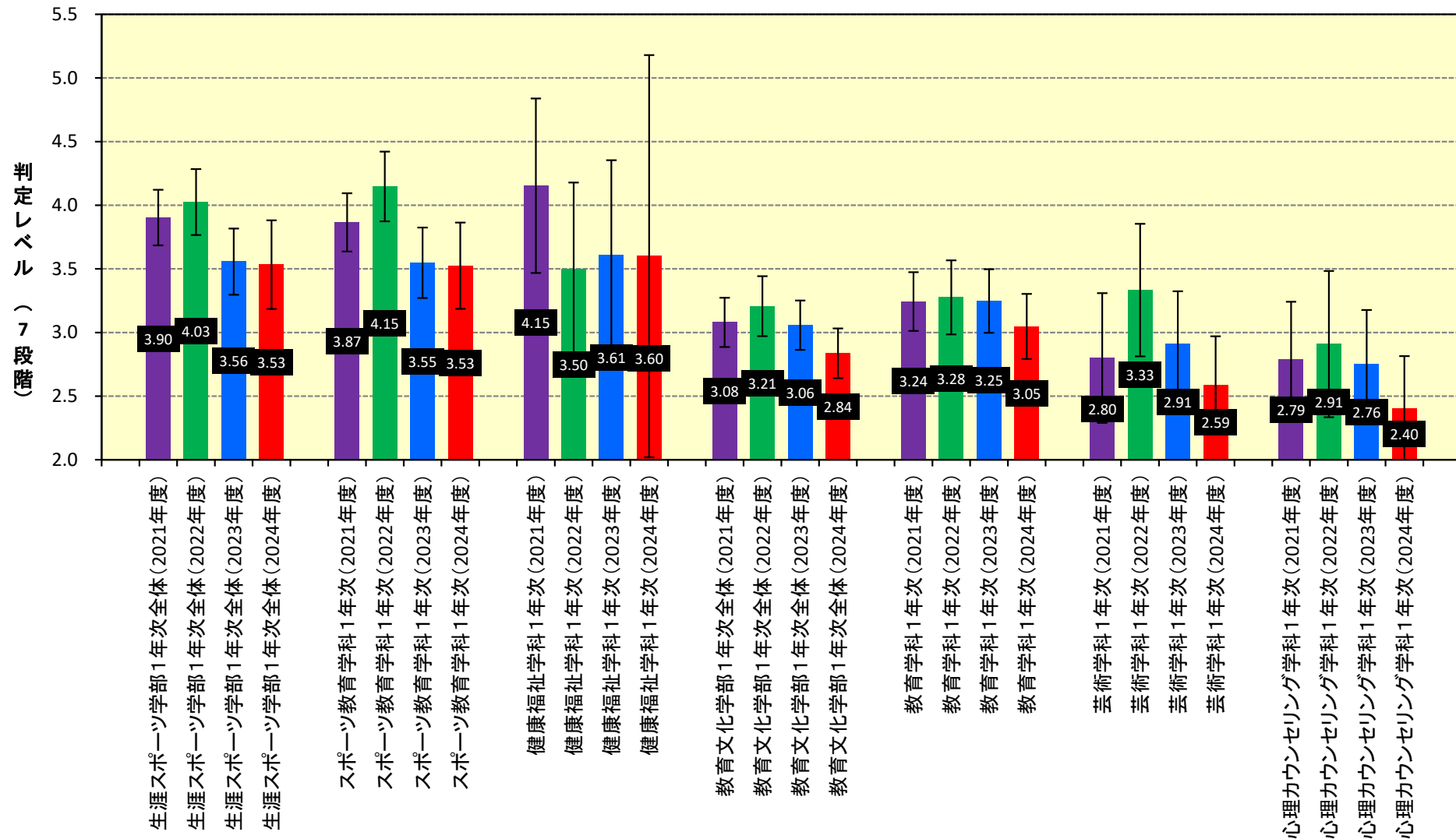


コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

●生涯スポーツ学部1年次全体、スポーツ教育学科1年次、健康福祉学科1年次、教育文化学部1年次全体、教育学科1年次、芸術学科1年次、心理カウンセリング学科1年次は、2023年度のスコアを下回る。

（※健康福祉学科1年次(2024年度)は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

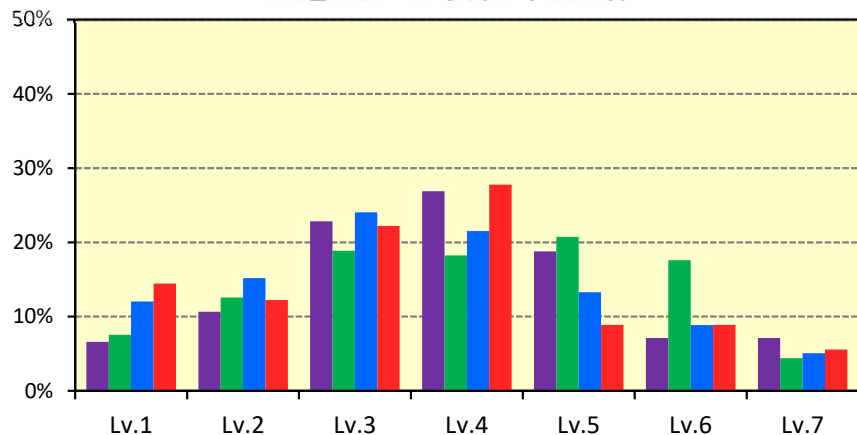
コンピテンシー総合



コンピテンシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

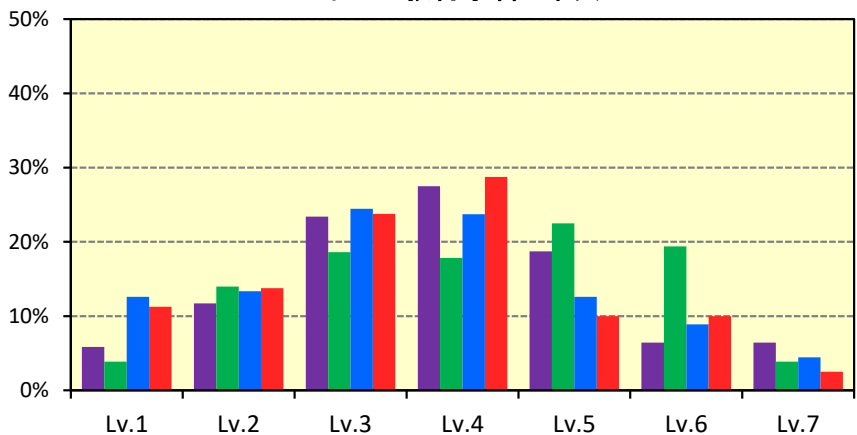
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

生涯スポーツ学部1年次全体



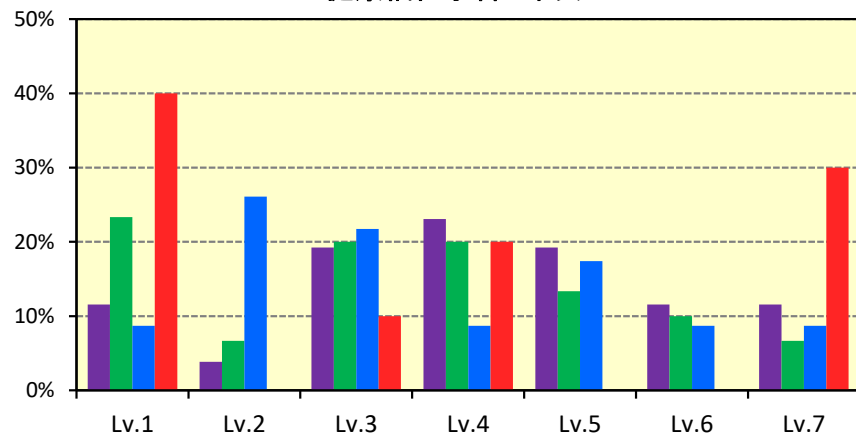
2023年度に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル4の割合が大きい。

スポーツ教育学科1年次



2023年度に比べて、レベル4の割合が大きい。

健康福祉学科1年次

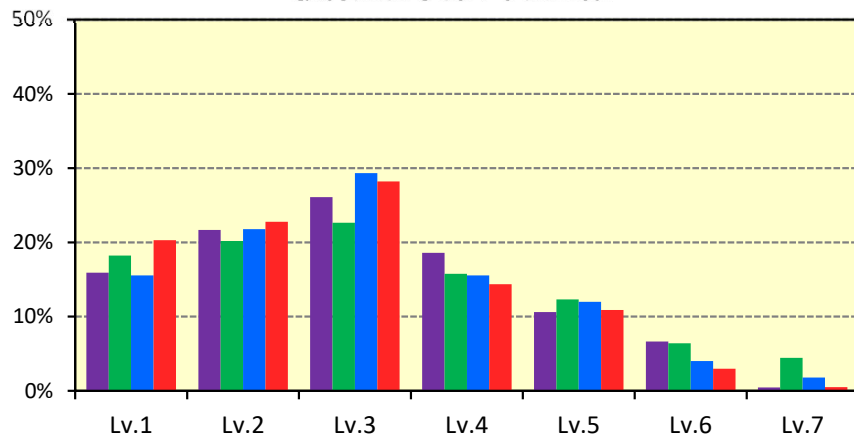


(※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

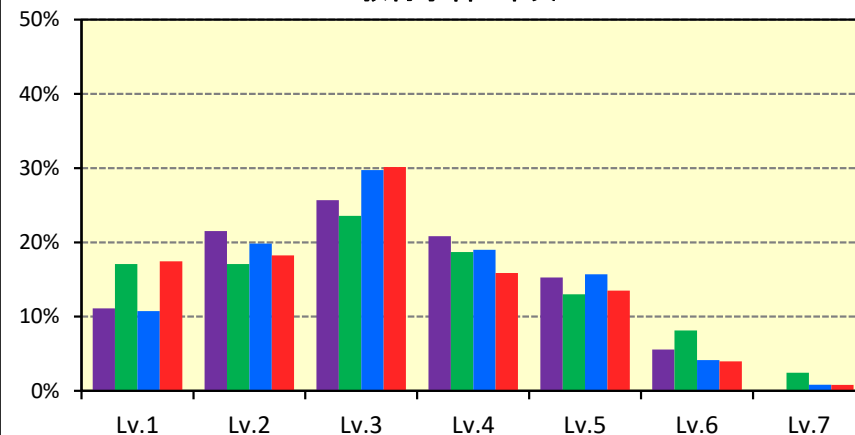
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

教育文化学部1年次全体



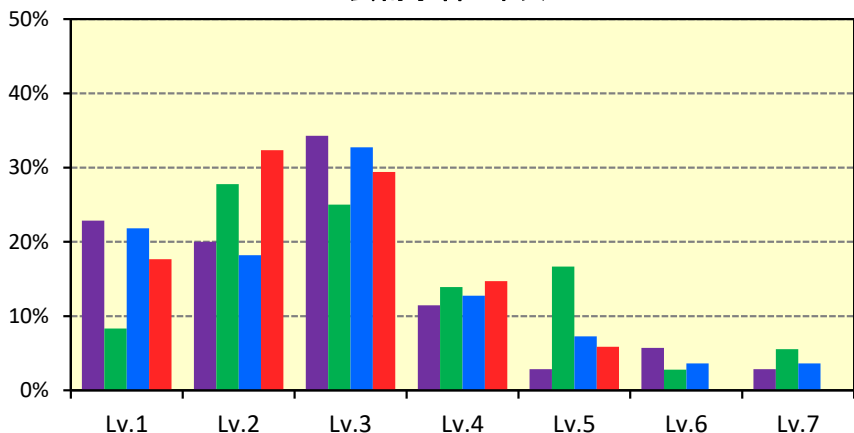
2023年度に比べて、レベル1の割合が大きい。

教育学科1年次



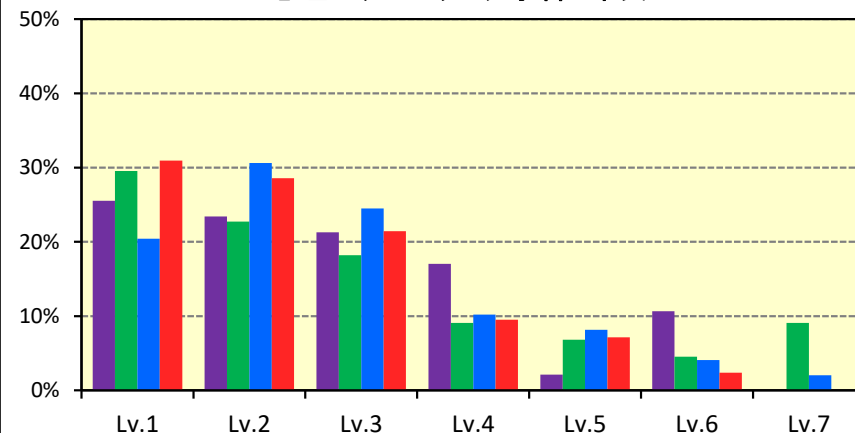
2023年度に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

芸術学科1年次



2023年度に比べて、レベル1、レベル3、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル2の割合が大きい。

心理カウンセリング学科1年次



2023年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

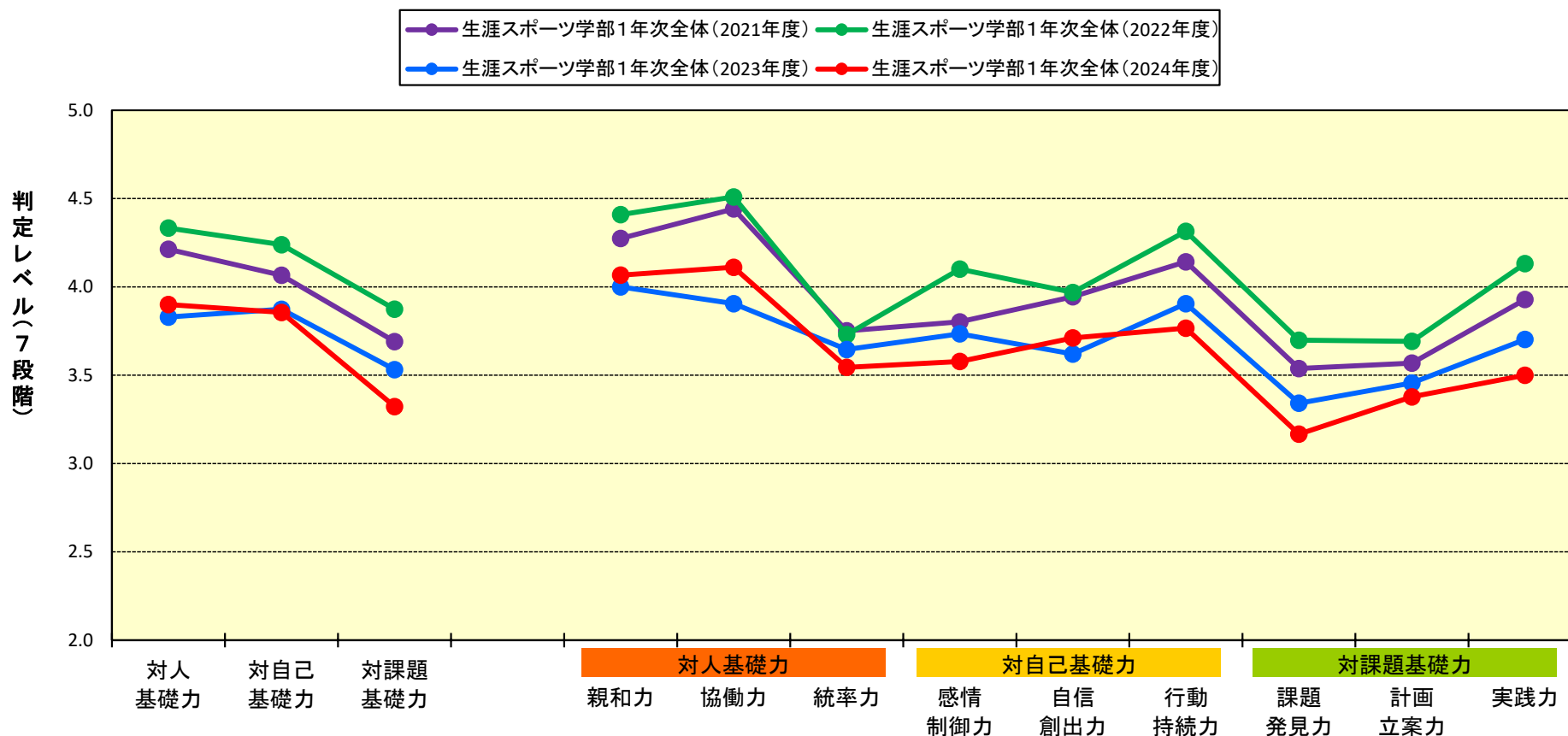
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年次全体】

親和力、協働力、自信創出力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



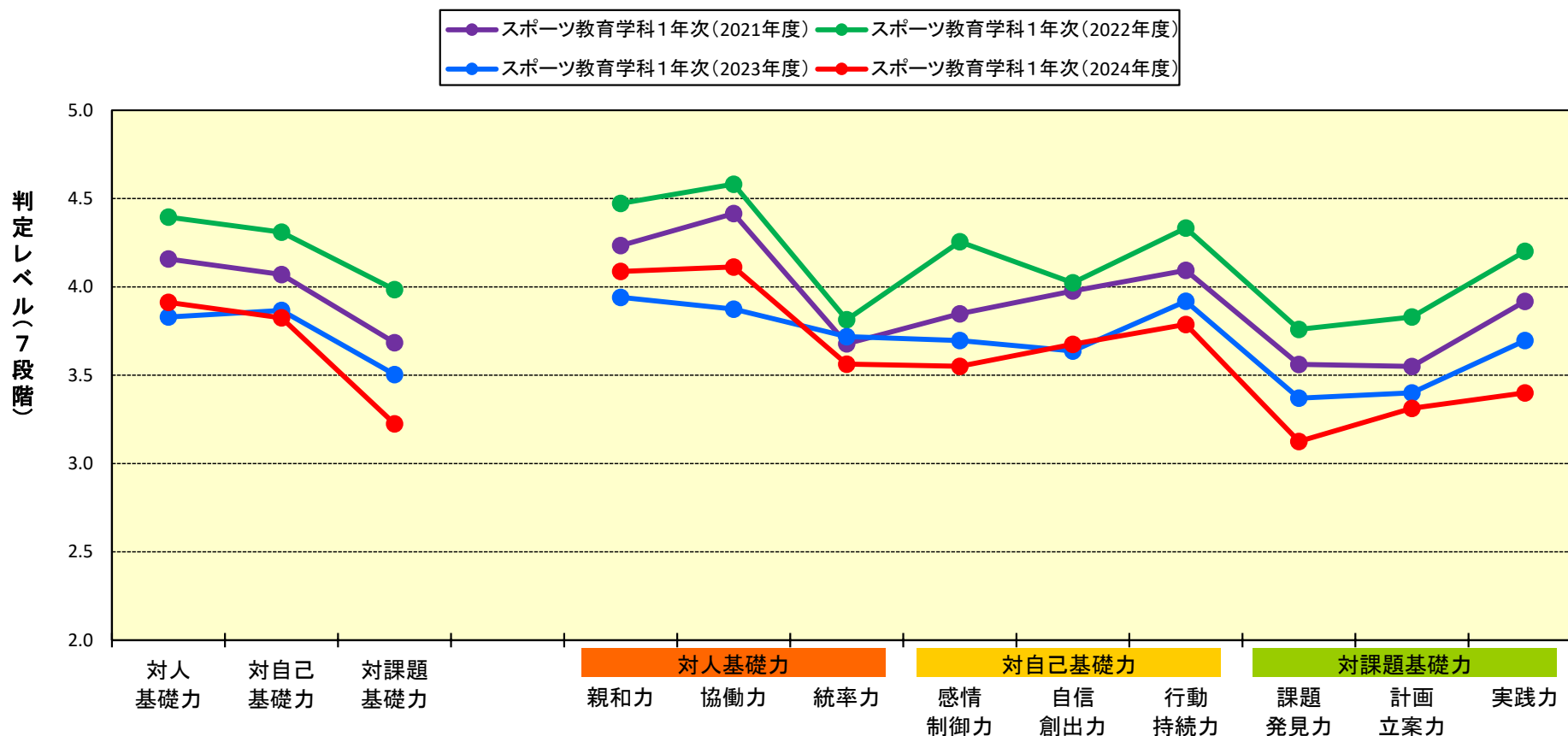
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年次】

親和力、協働力、自信創出力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

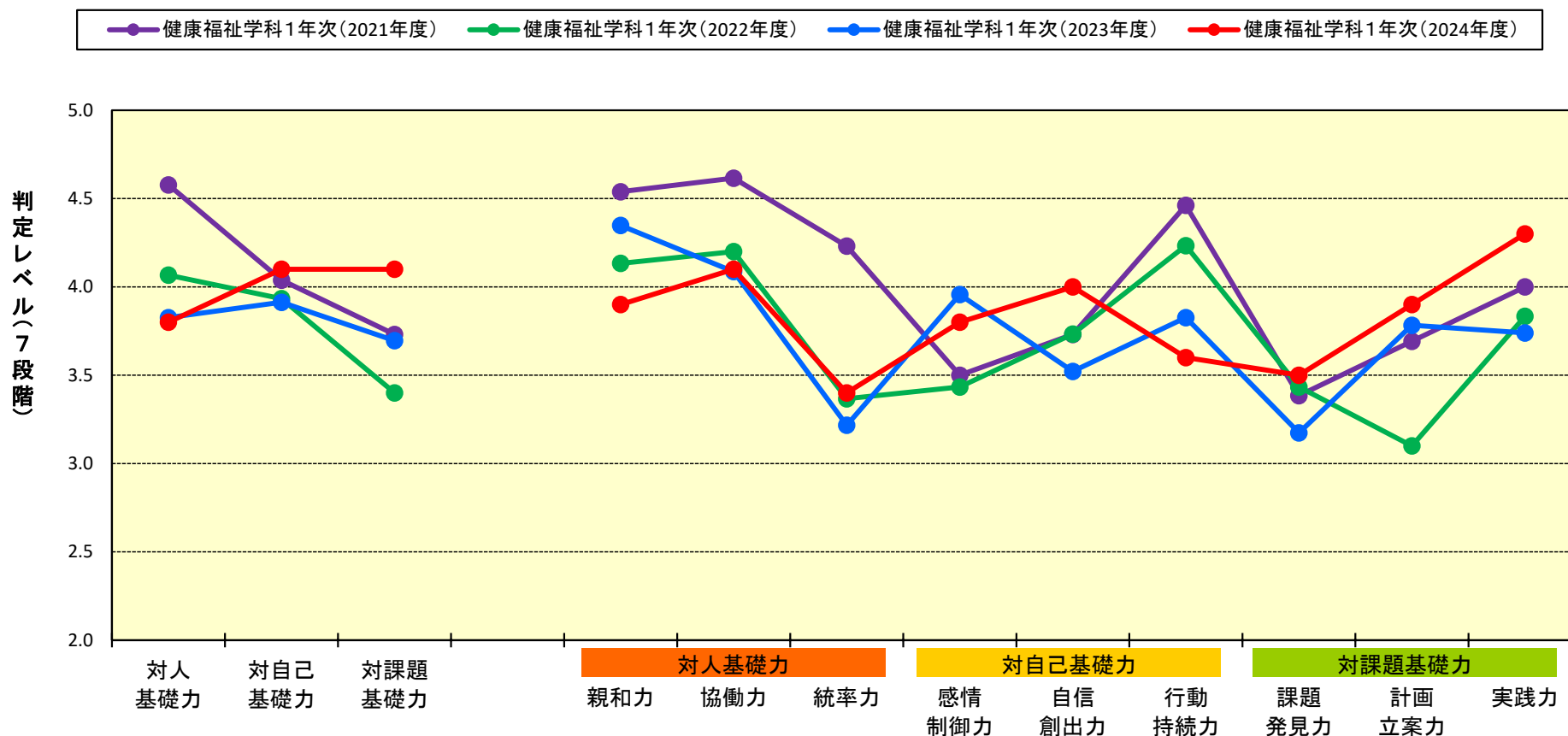
【健康福祉学科1年次】

協働力、統率力、自信創出力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、感情制御力、行動持続力は、2023年度のスコアを下回る。

（※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

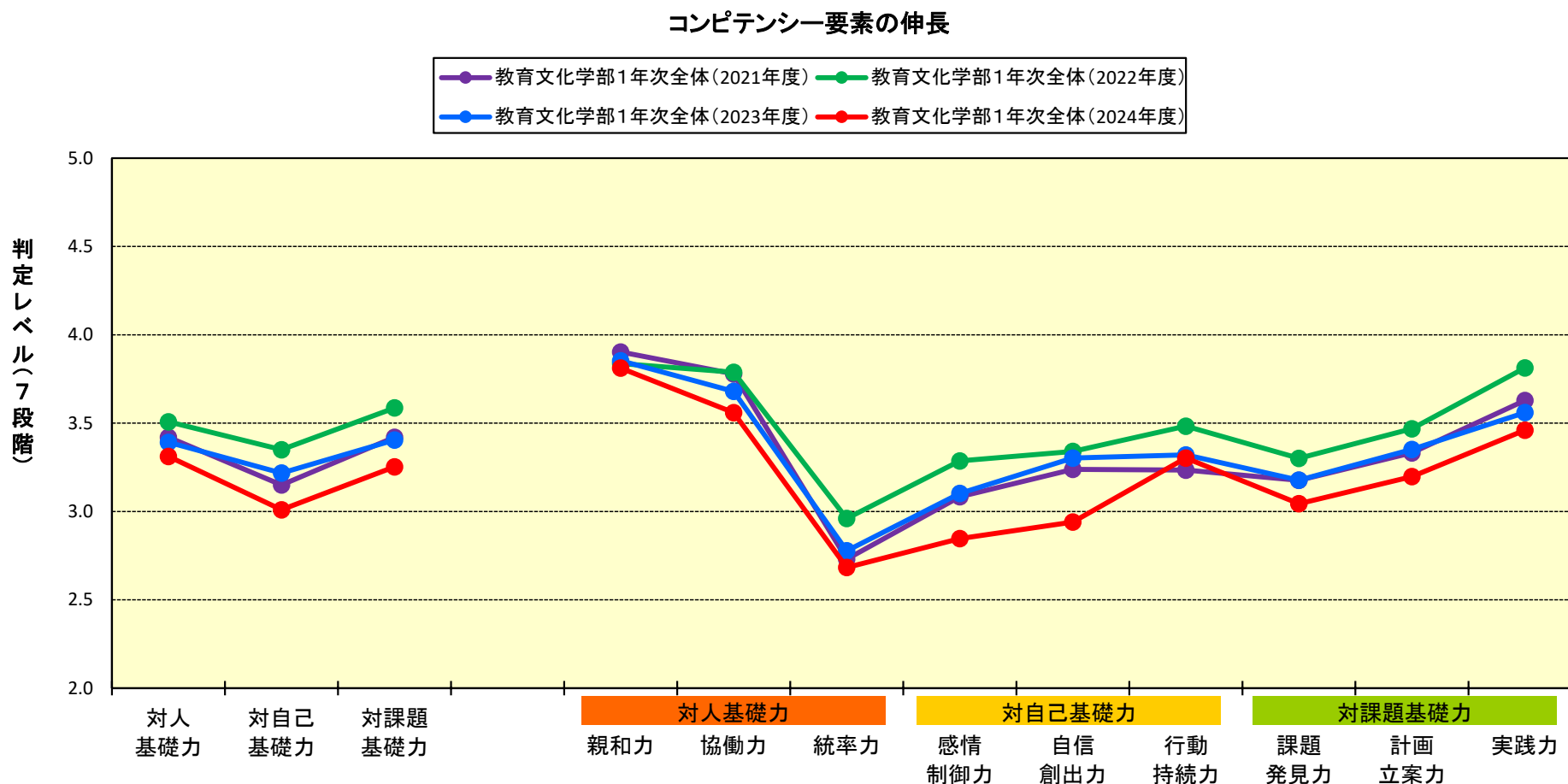
コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年次全体】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。



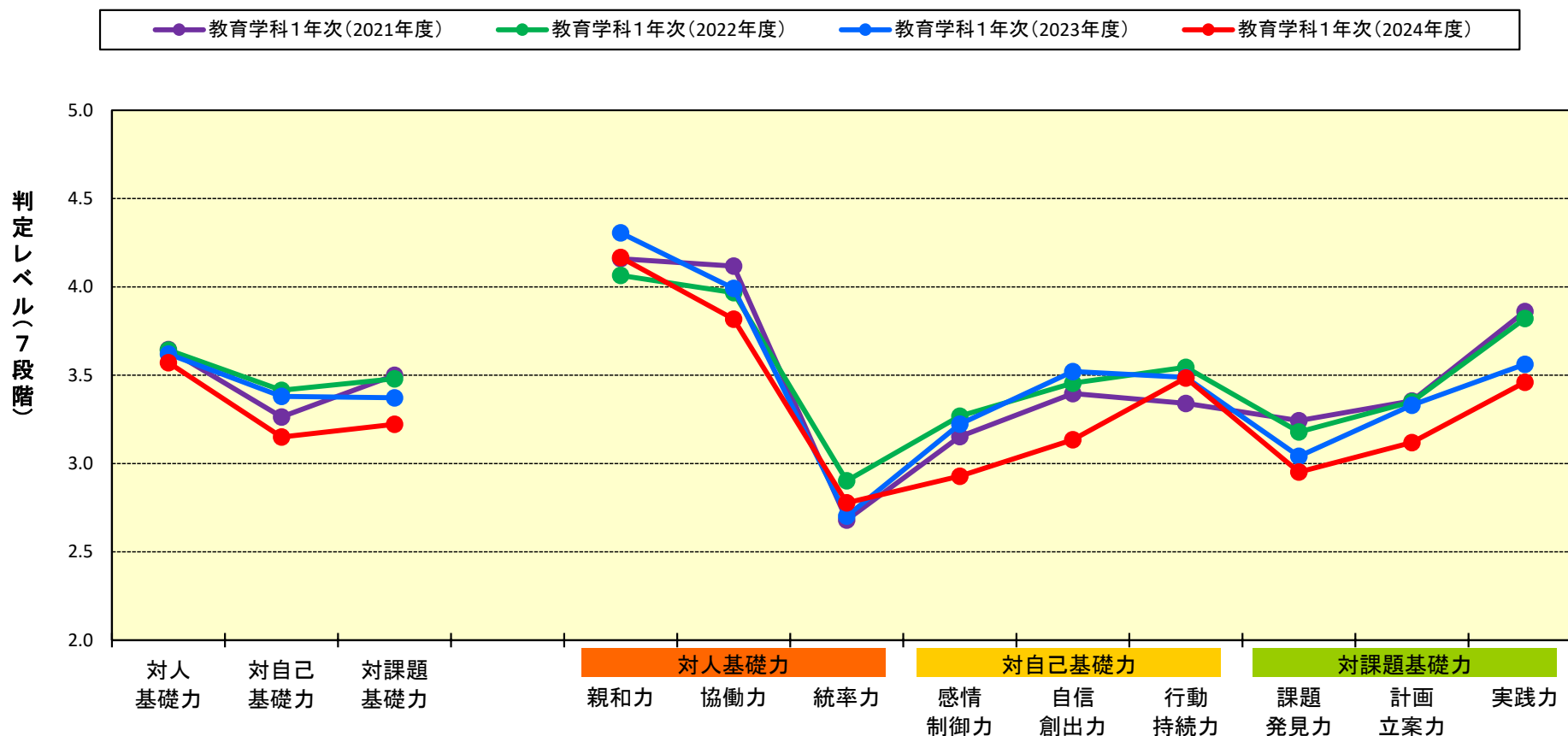
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年次】

統率力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



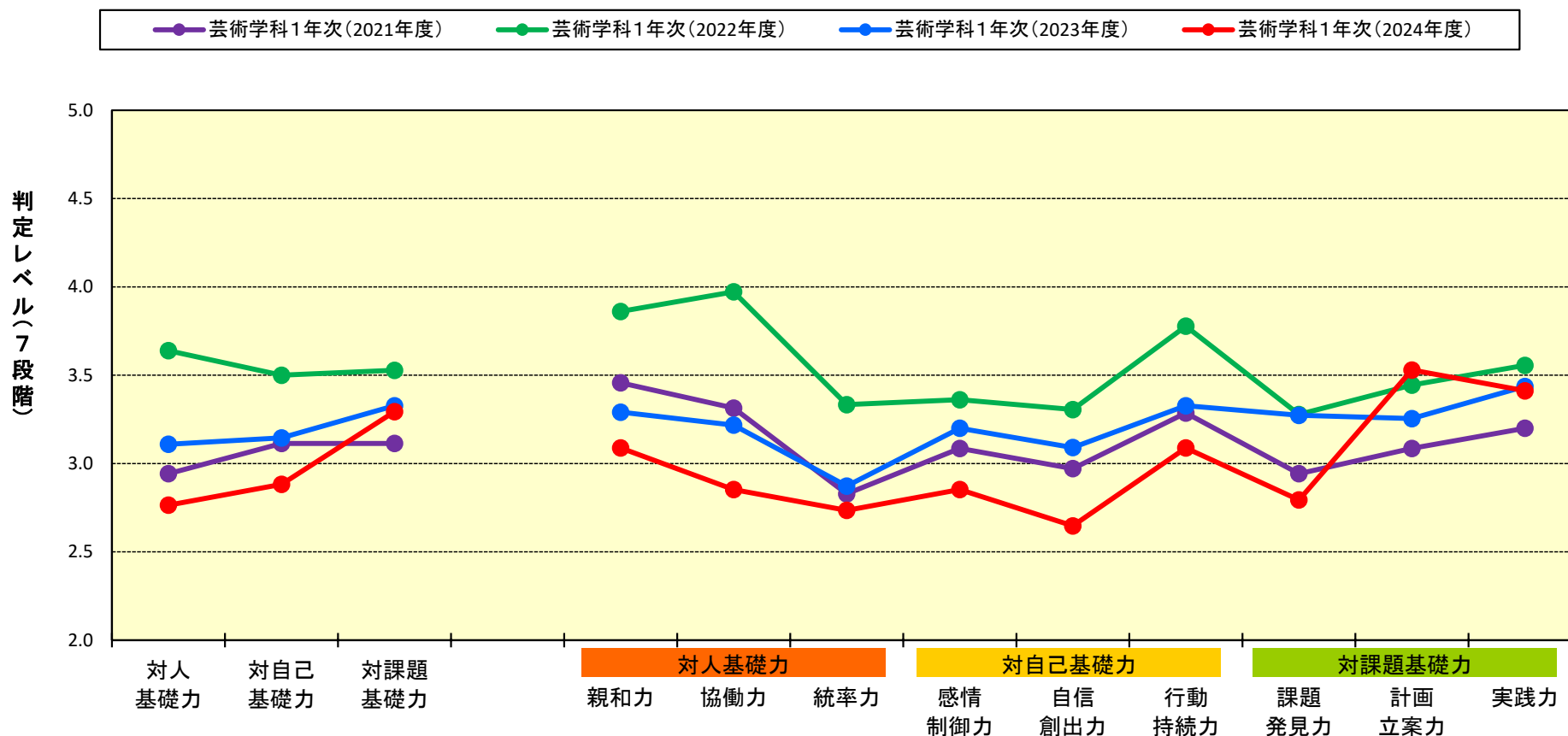
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科1年次】

計画立案力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



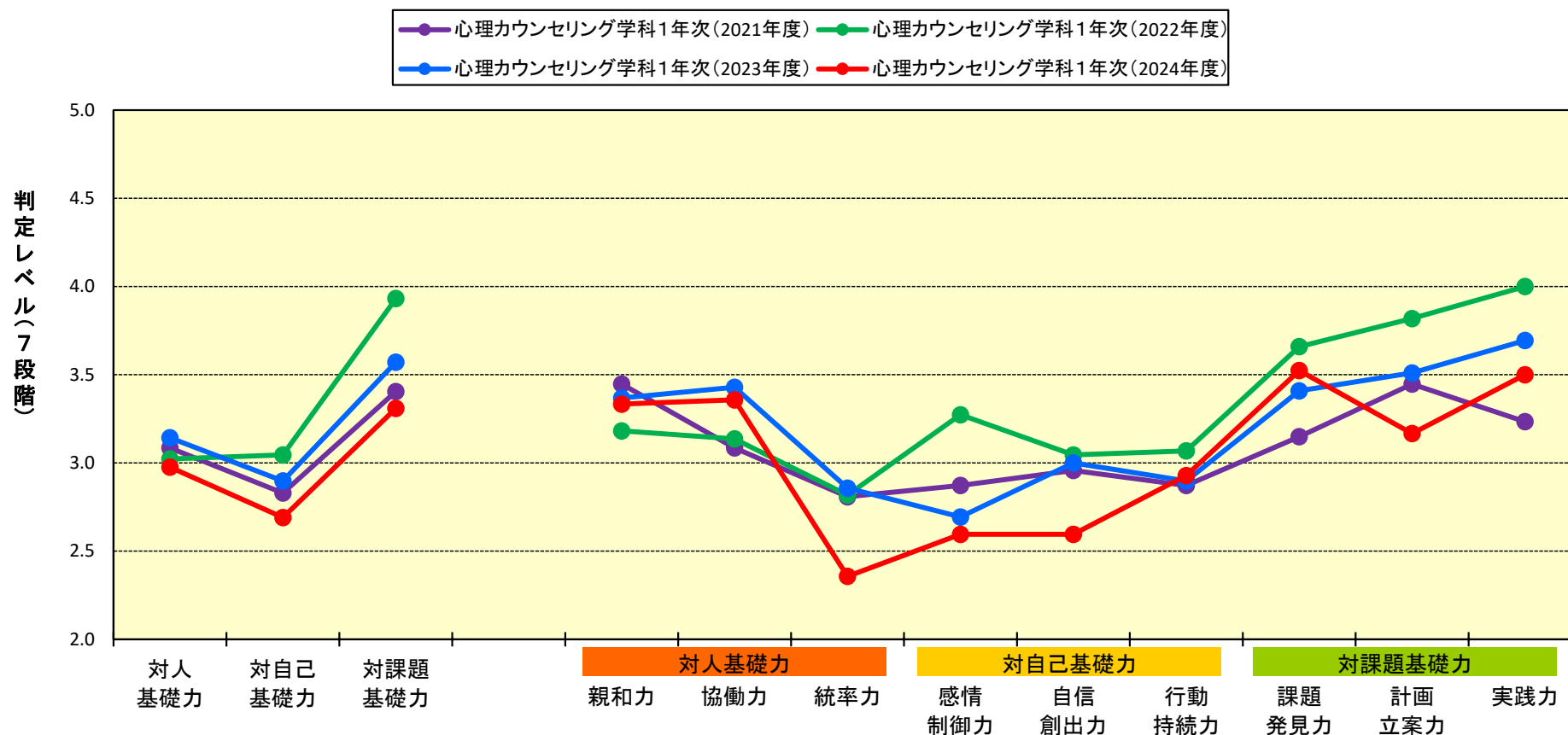
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科1年次】

行動持続力、課題発見力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

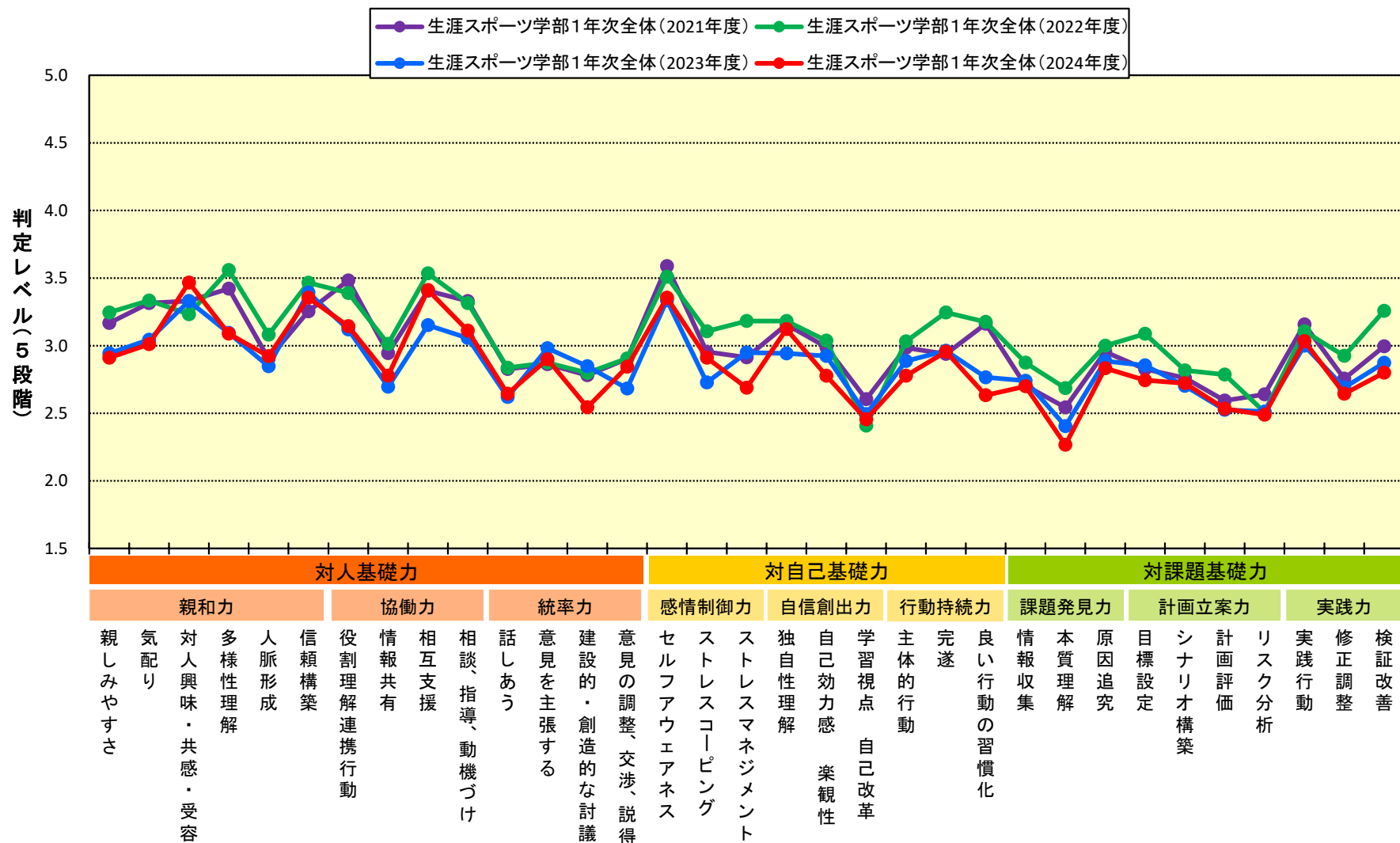
コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年次全体】

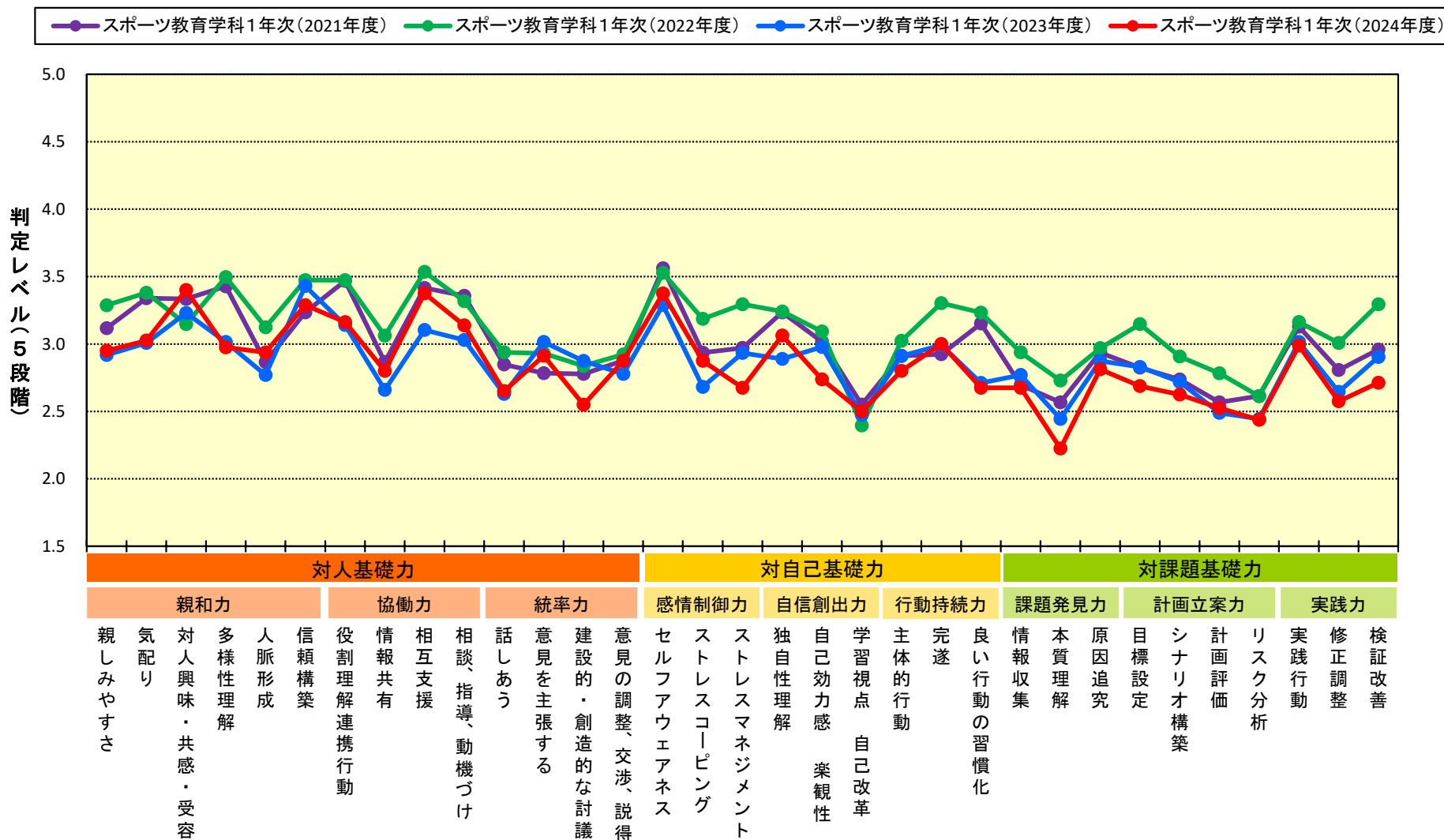
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年次】

コンピテンシー小分類要素

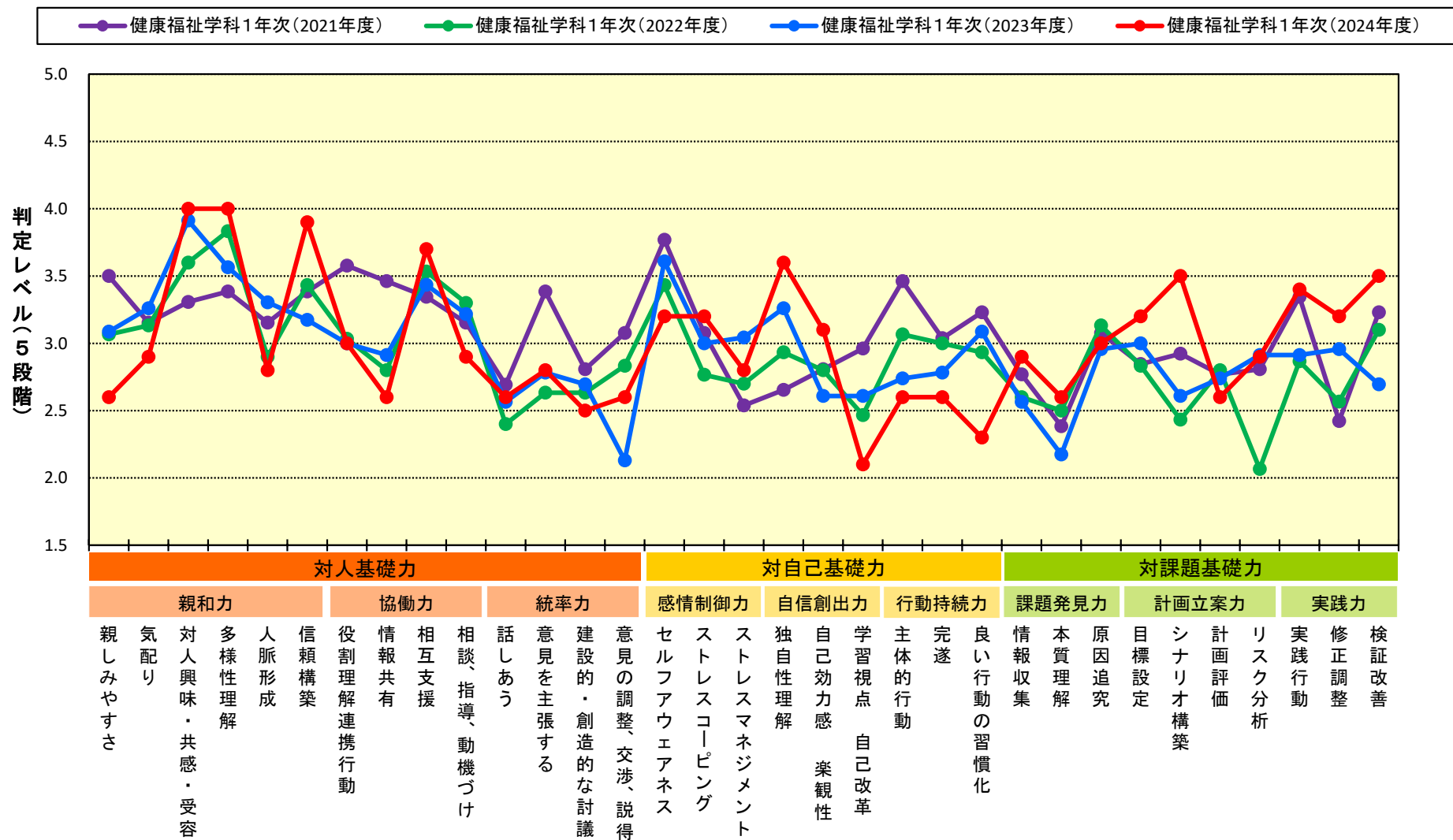


コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科1年次】

(※2024年度は、受験者のサンプル数が少ないため参考値とお考えください。)

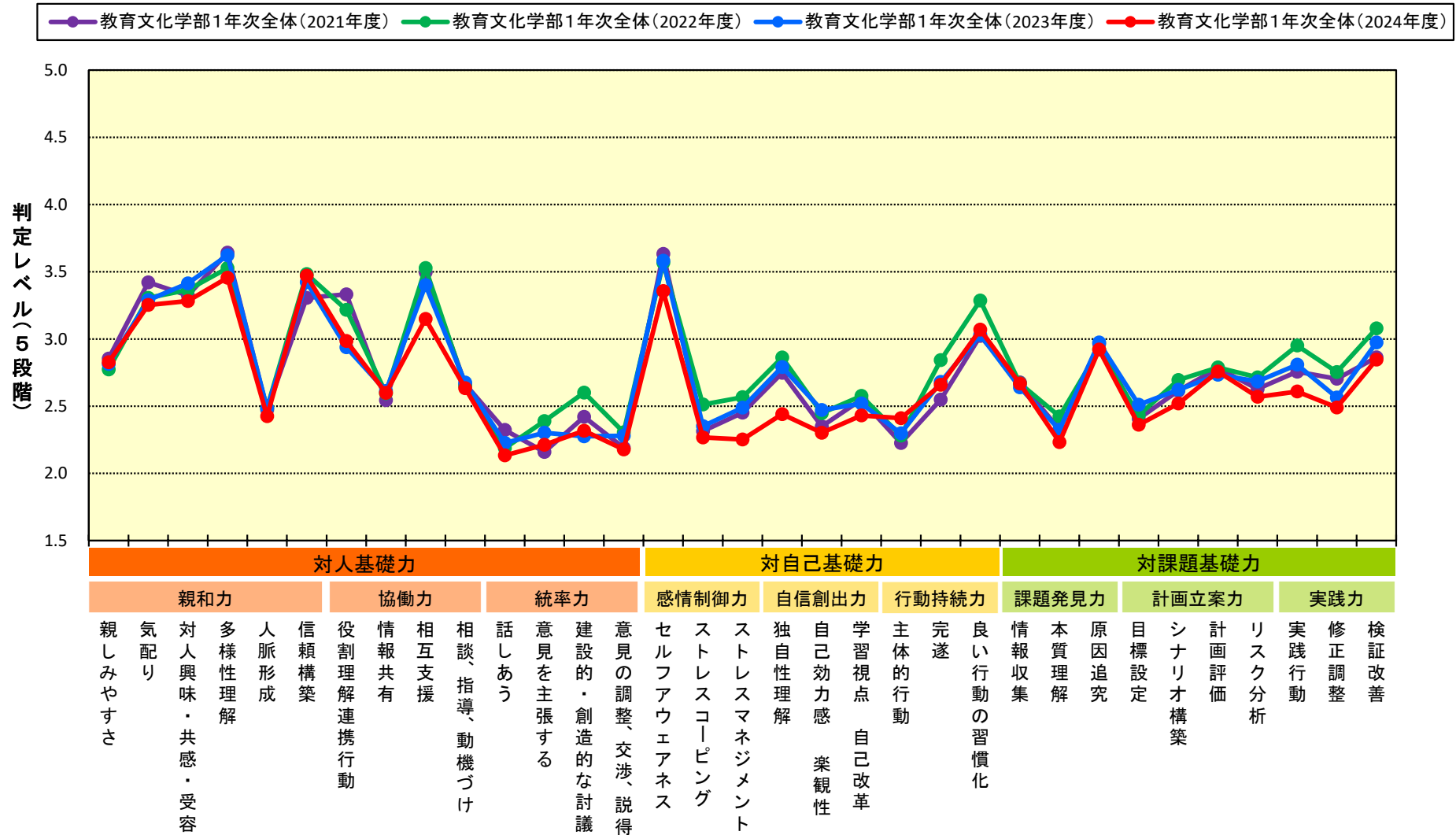
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年次全体】

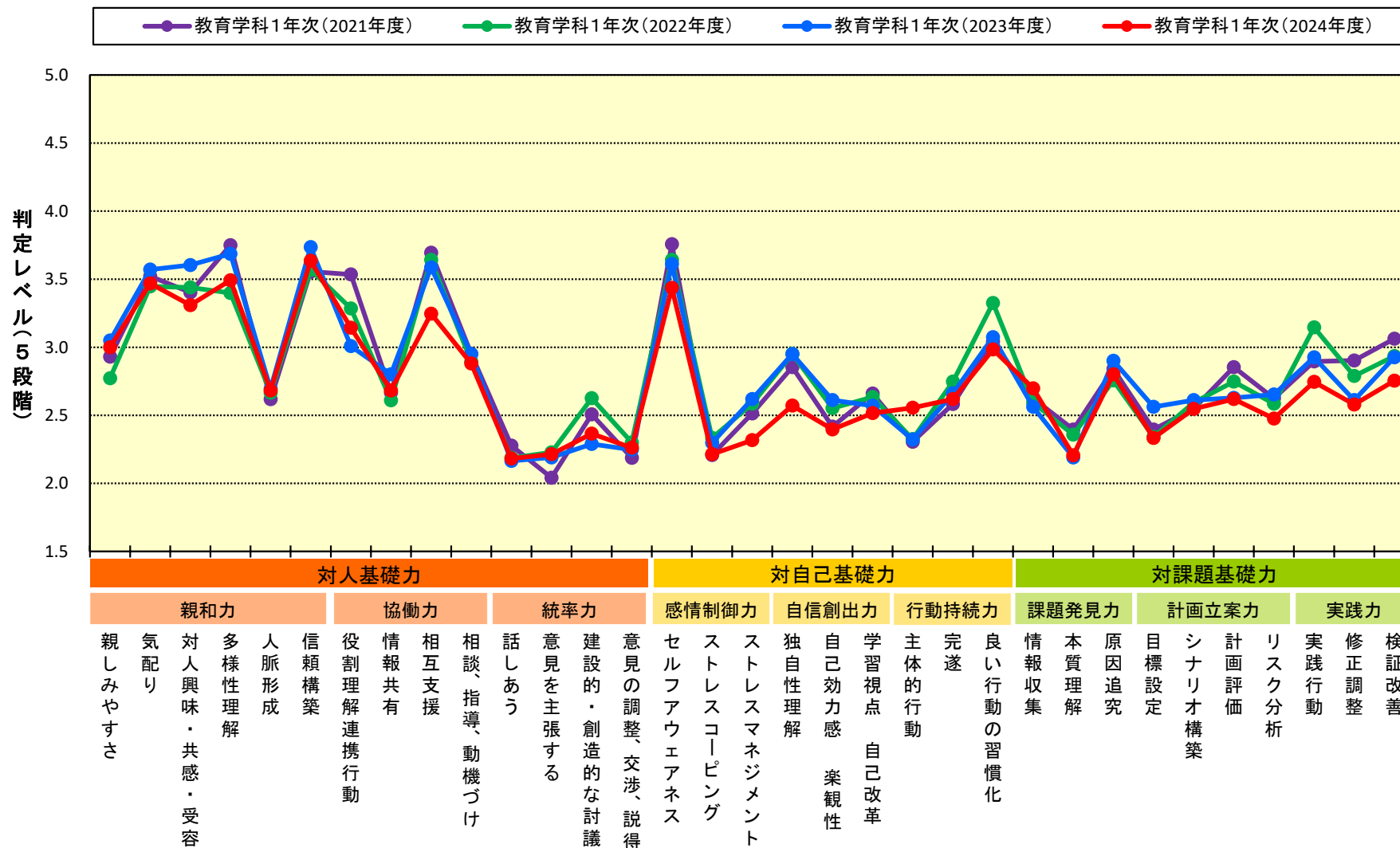
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年次】

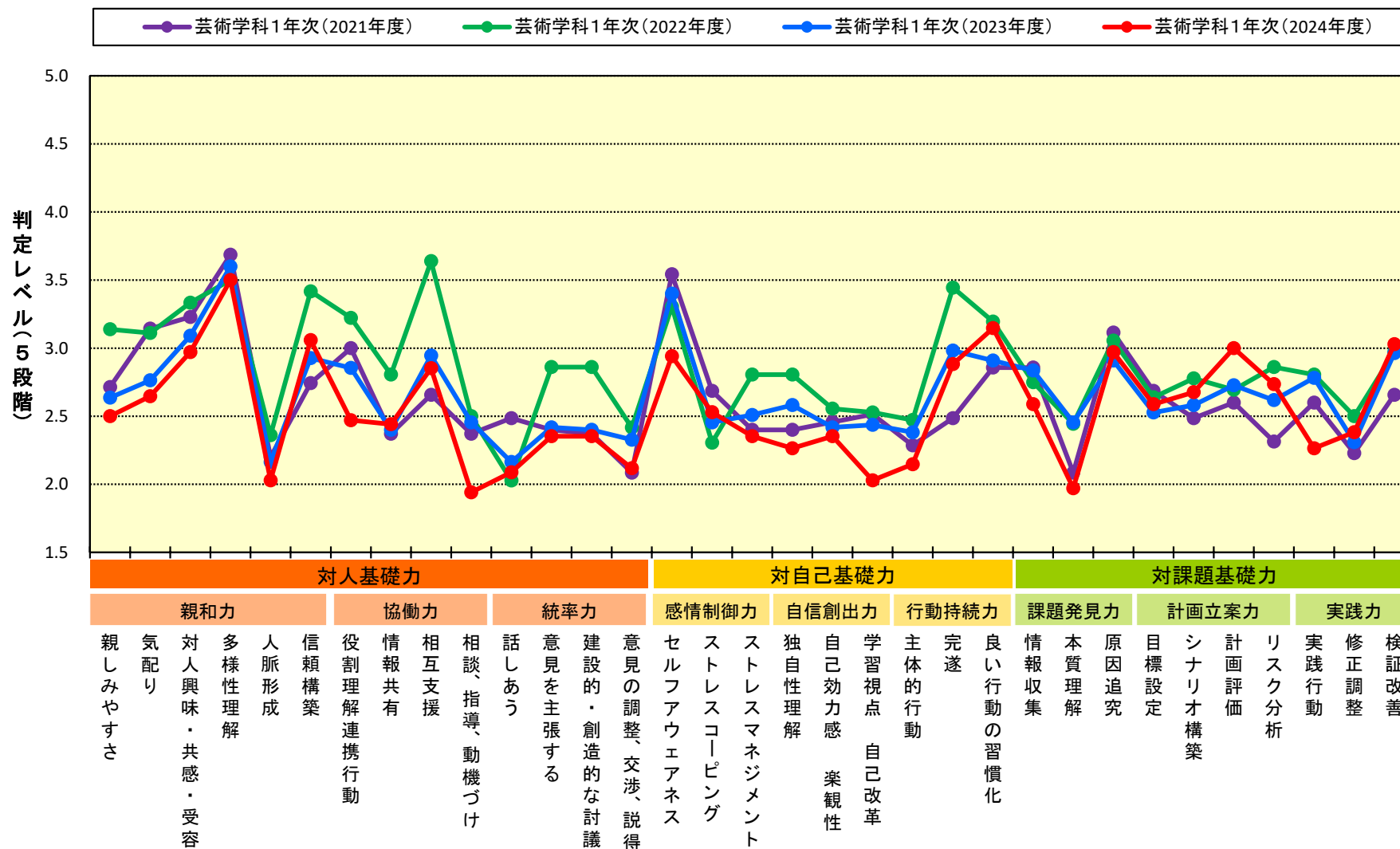
コンピテンシー小分類要素



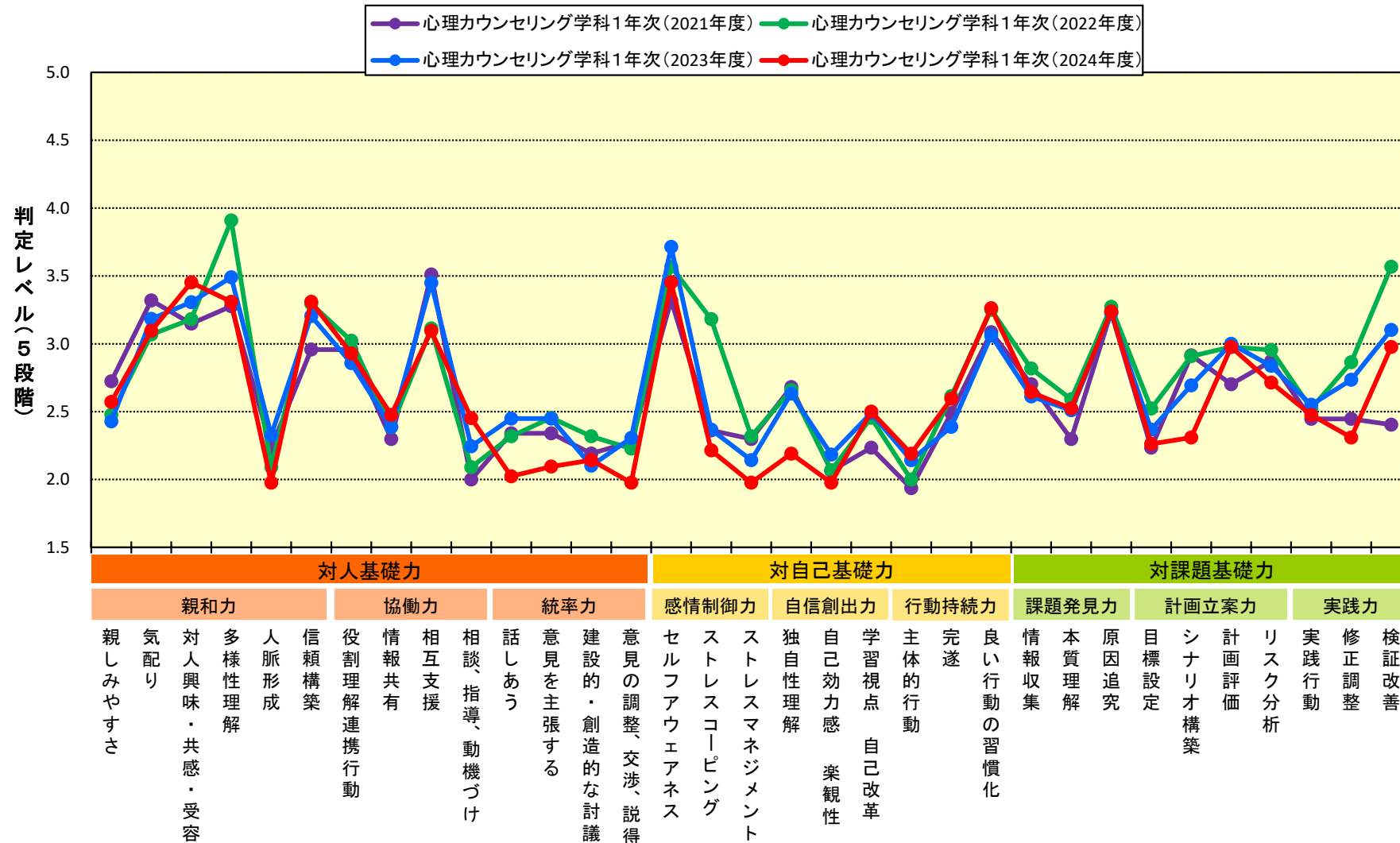
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科1年次】

コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素



Part.8 過去受験者との比較 3年次

学部	学科	2021年度 3年次 2021年11月～ 2022年2月 受験	2022年度 3年次 2022年6月～ 2023年2月 受験	2023年度 3年次 2023年5月～ 2024年2月 受験	2024年度 3年次 2024年10月～ 2025年1月 受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	140	100	142	88
	健康福祉学科	22	31	13	23
		162	131	155	111
教育文化学部	教育学科	129	114	114	94
	芸術学科	26	40	25	36
	心理カウンセリング学科	43	51	41	43
		198	205	180	173
合計		360	336	335	284

※WEB受験のリテラシーテストにおいて受験時間制限45分のところ解答時間20分未満、または 全30問中解答数10問以下の学生について、解答姿勢が低かったことが想定されるため、これらの学生のスコアを除いて集計しております。

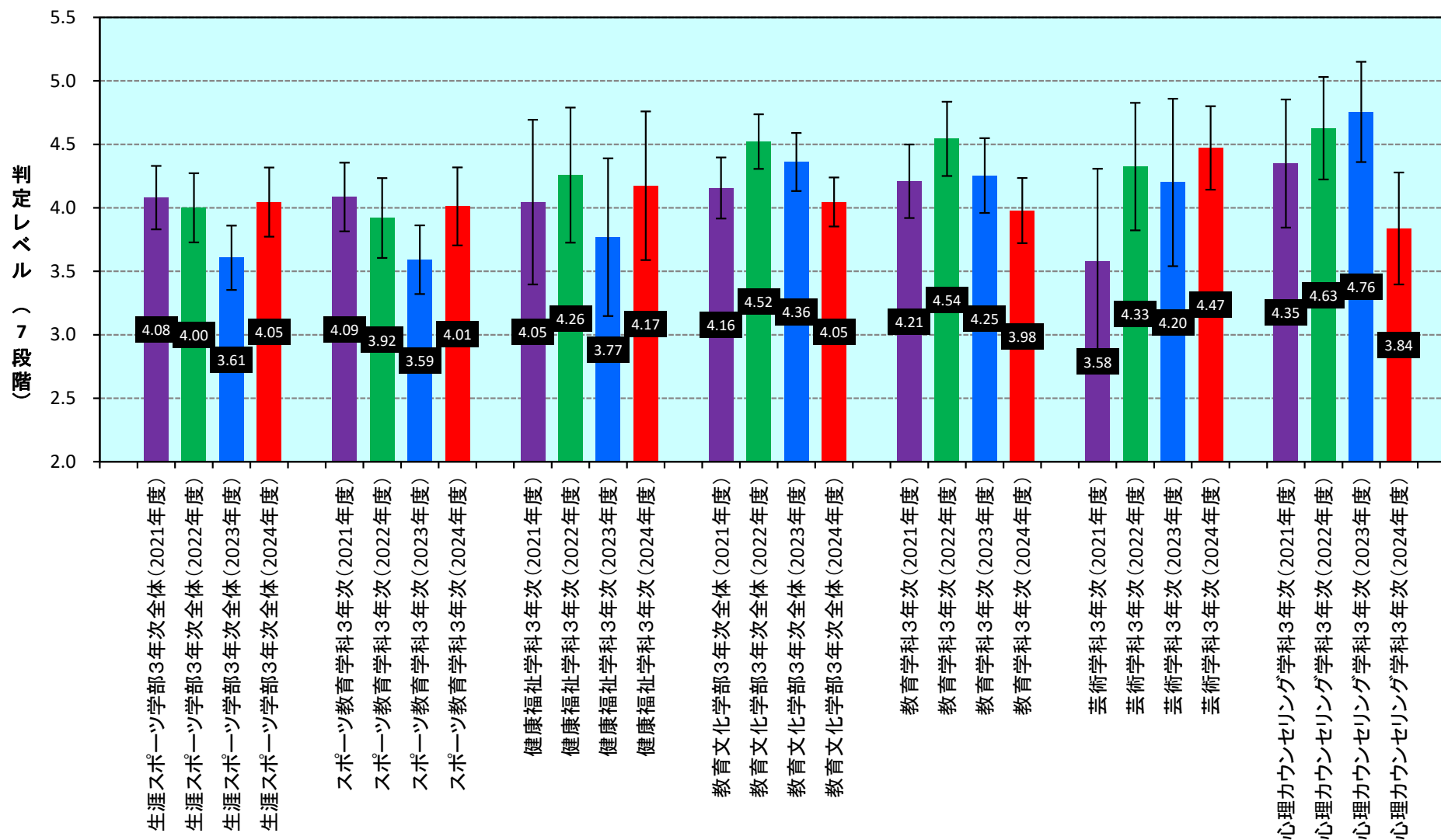
リテラシー総合（過去の受験者との比較）

●生涯スポーツ学部3年次全体、スポーツ教育学科3年次、健康福祉学科3年次、芸術学科3年次は、2023年度のスコアを上回る。

●教育文化学部3年次全体、教育学科3年次、心理カウンセリング学科3年次は、2023年度のスコアを下回る。

（※健康福祉学科3年次（2023年度）は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

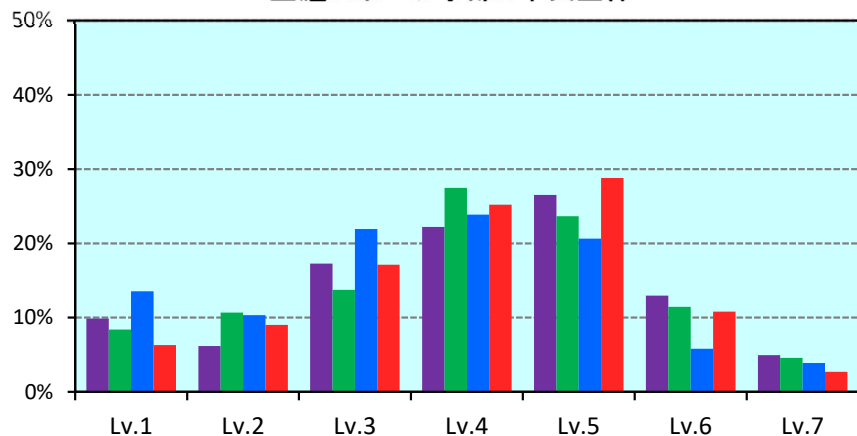
リテラシー総合



リテラシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

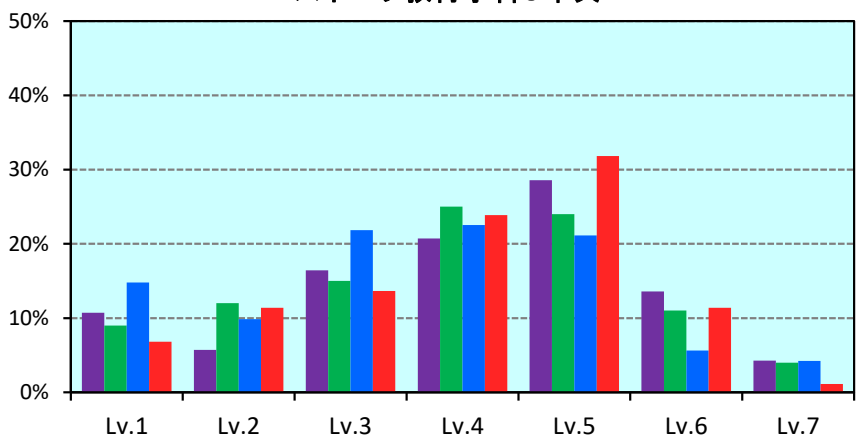
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

生涯スポーツ学部3年次全体



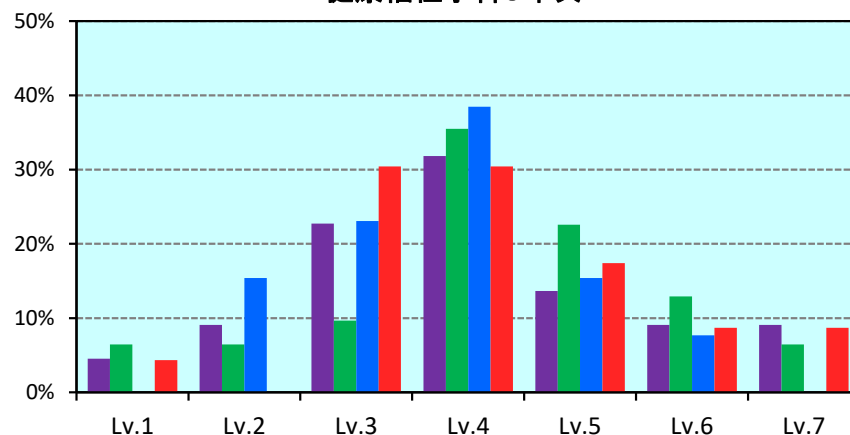
2023年度に比べて、レベル1、レベル3の割合が小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。

スポーツ教育学科3年次



2023年度に比べて、レベル1、レベル3、レベル7の割合が小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。

健康福祉学科3年次

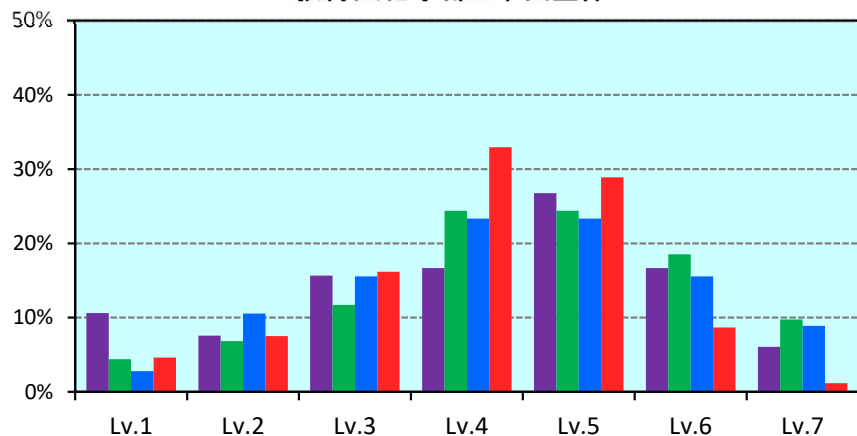


（※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

リテラシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

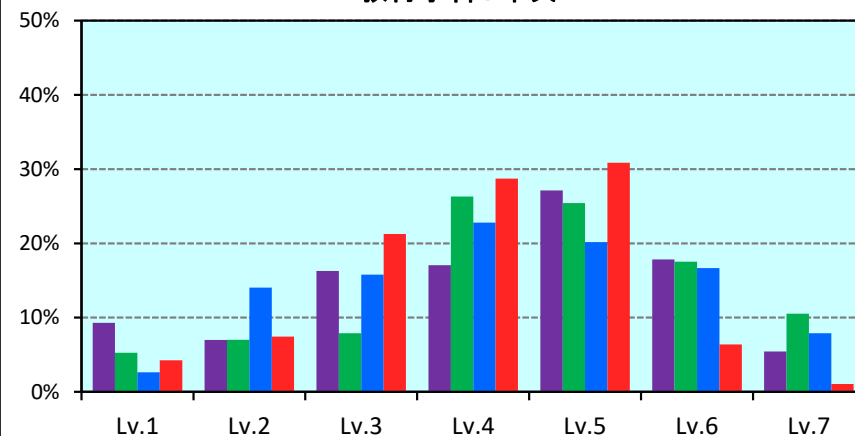
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

教育文化学部3年次全体



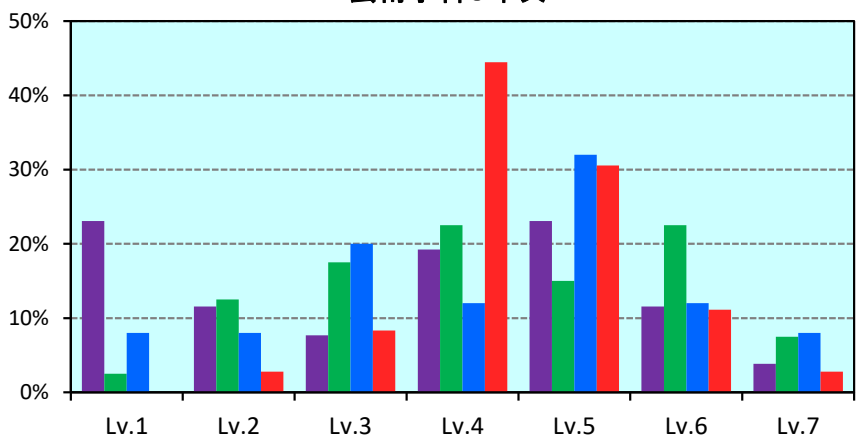
2023年度に比べて、レベル2、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル4～5のボリュームが大きい。

教育学科3年次



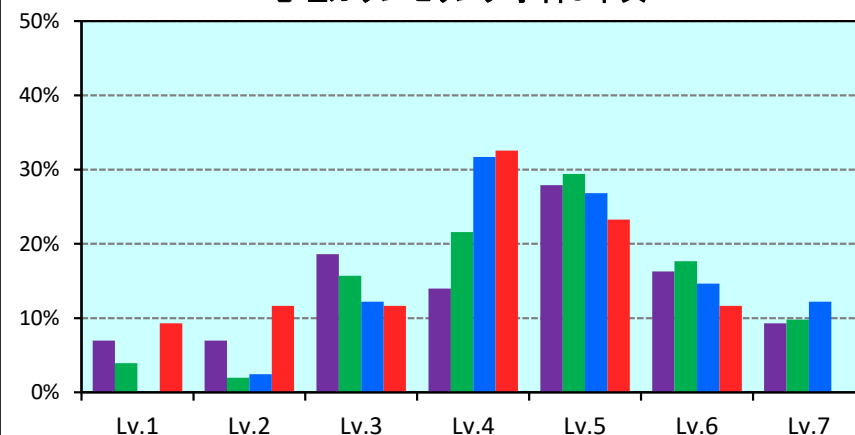
2023年度に比べて、レベル2、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル3～5のボリュームが大きい。

芸術学科3年次



2023年度に比べて、レベル1～3、レベル7のボリュームが小さく、レベル4の割合が大きい。

心理カウンセリング学科3年次

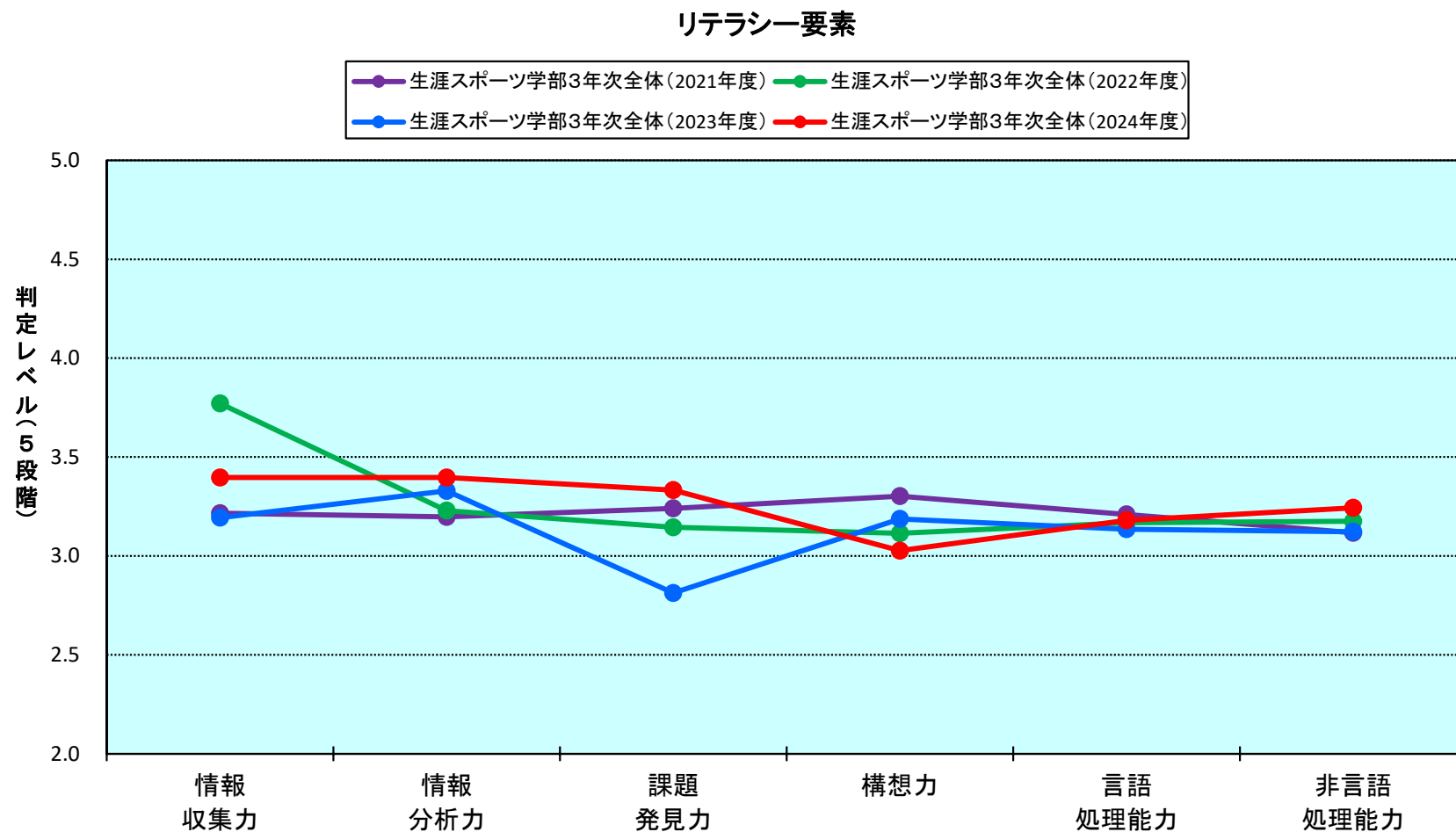


2023年度に比べて、レベル5～7のボリュームが小さく、レベル1～2のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

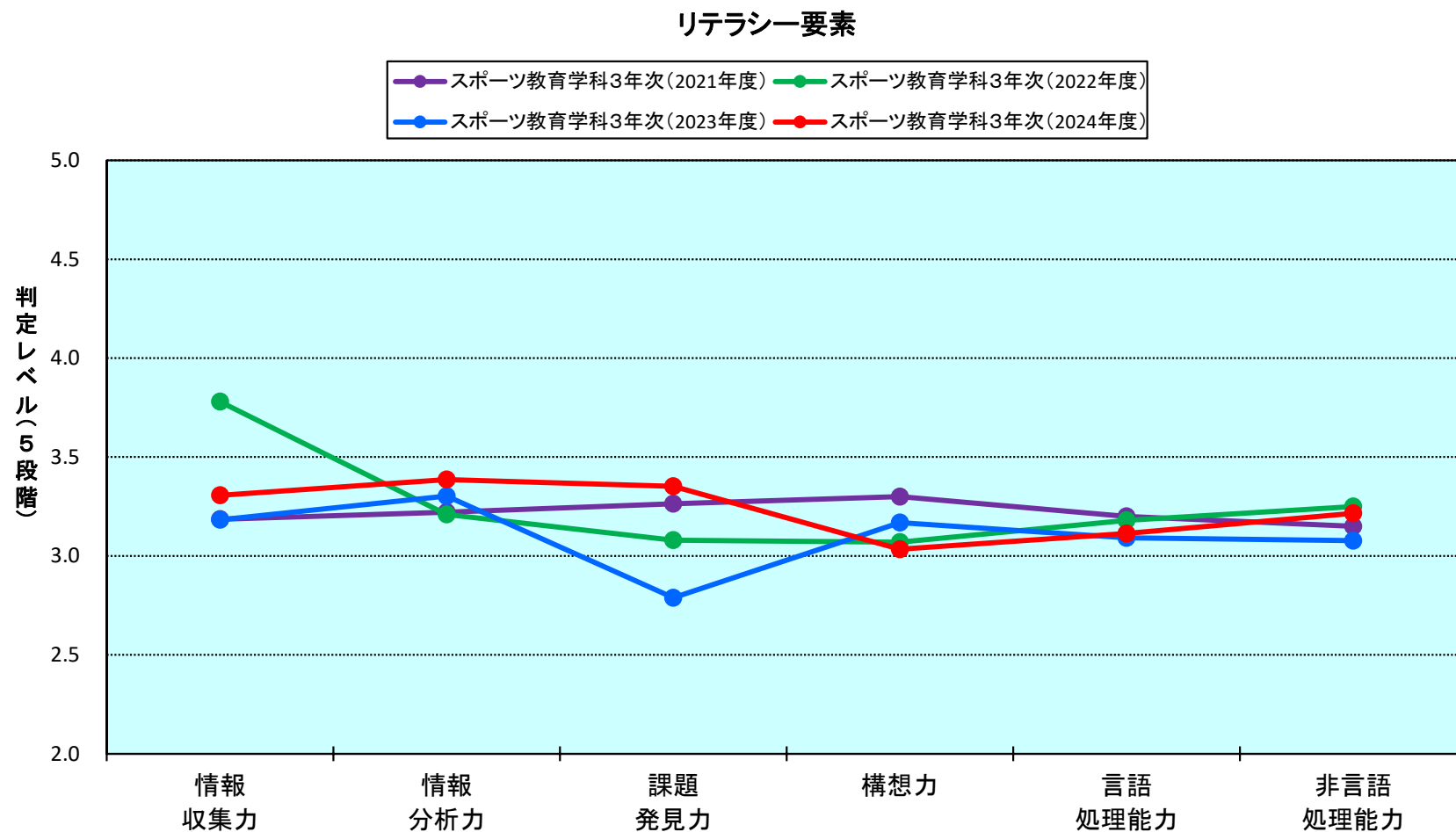
情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。
一方、構想力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科3年次】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。
一方、構想力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

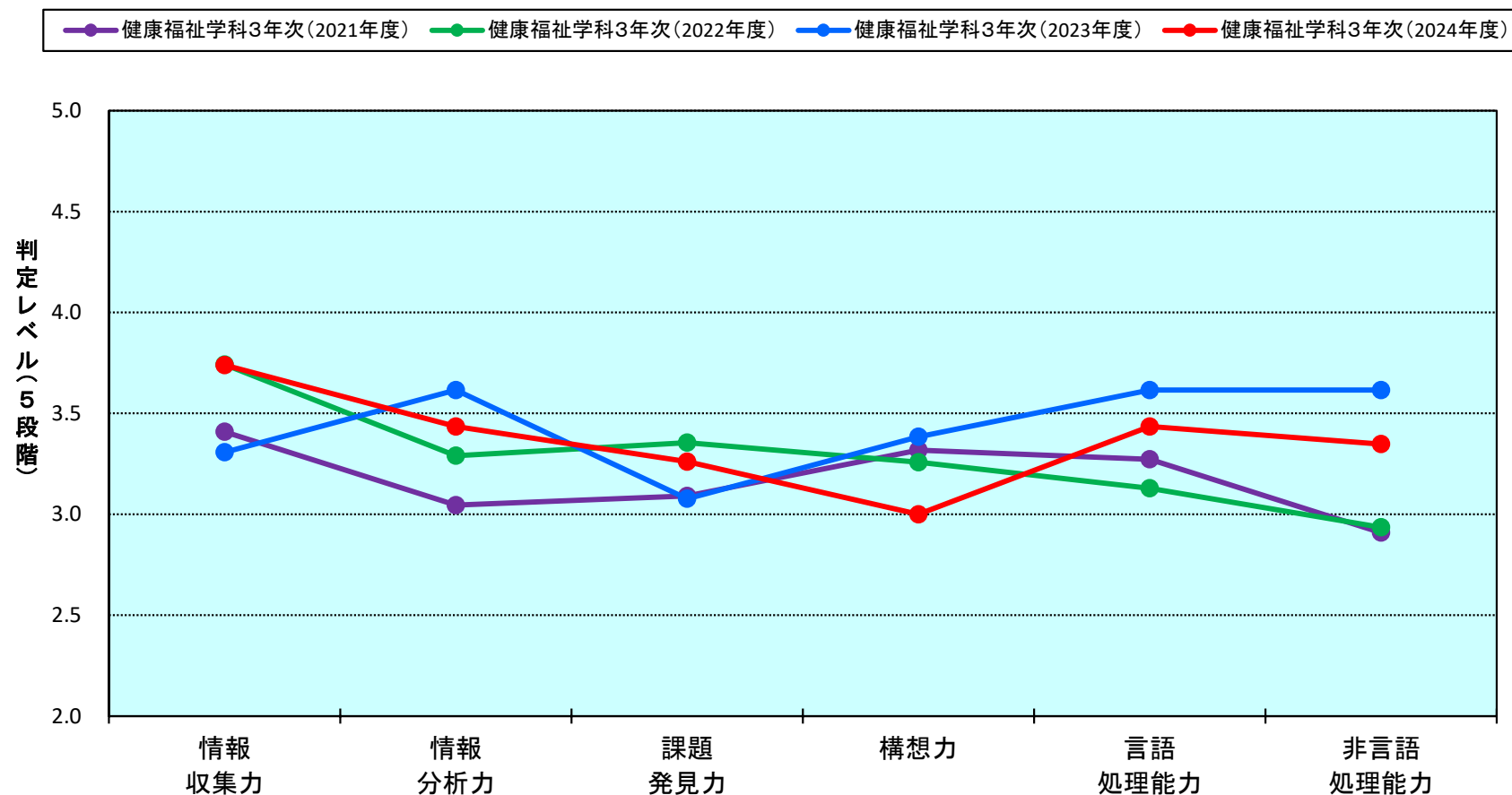
【健康福祉学科3年次】

情報収集力、課題発見力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

（※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

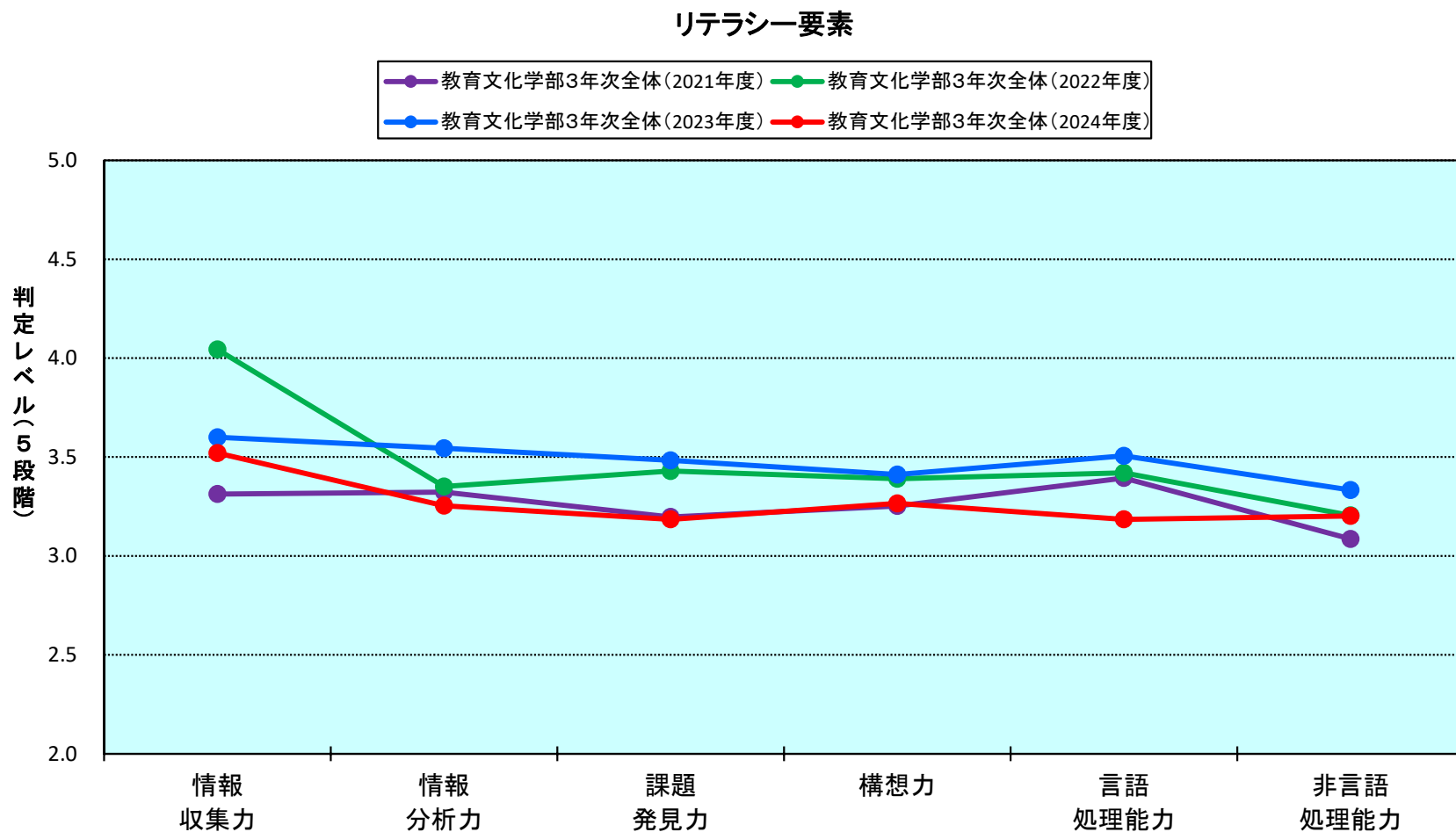
リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年次全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

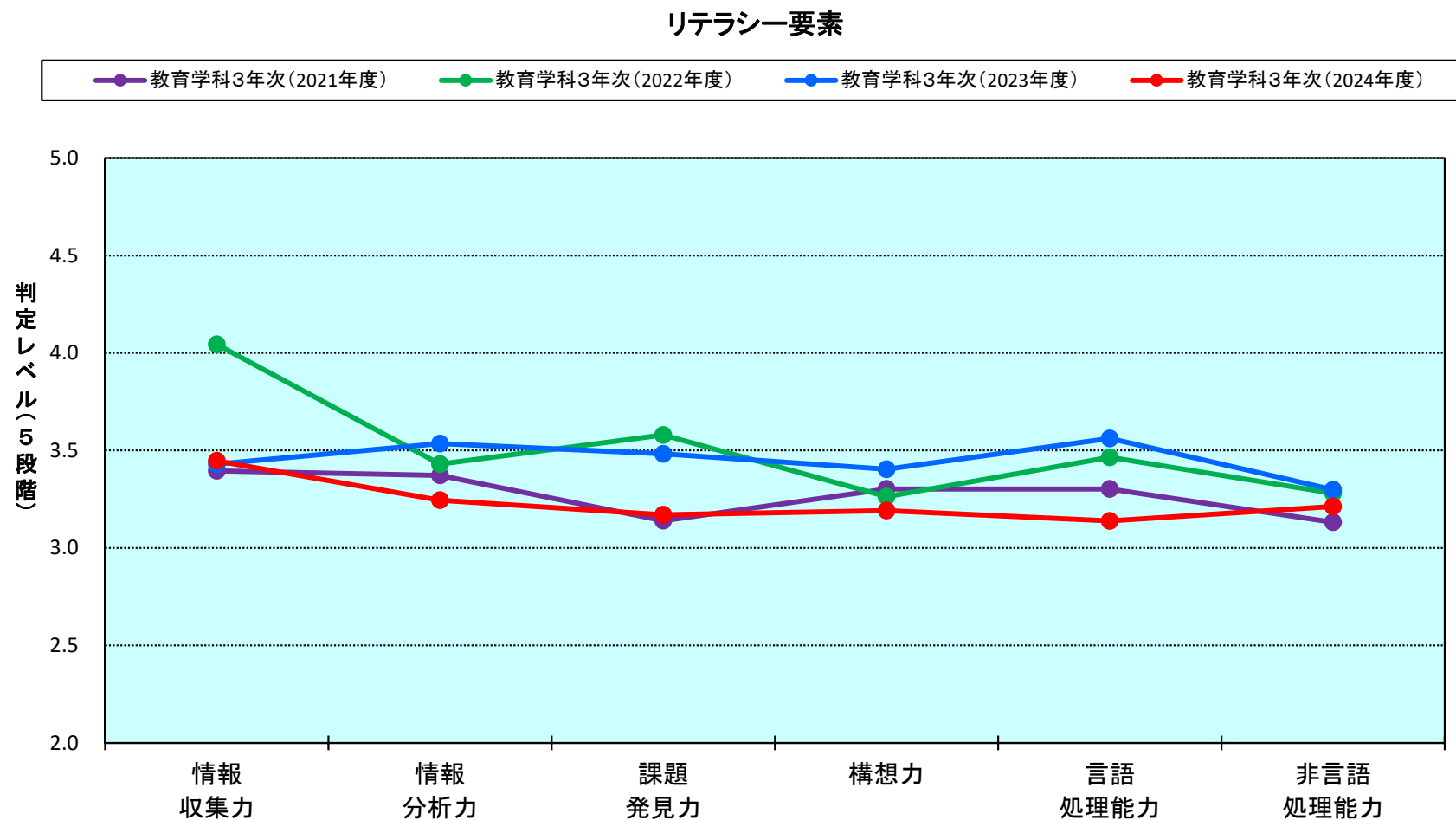


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科3年次】

情報収集力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。

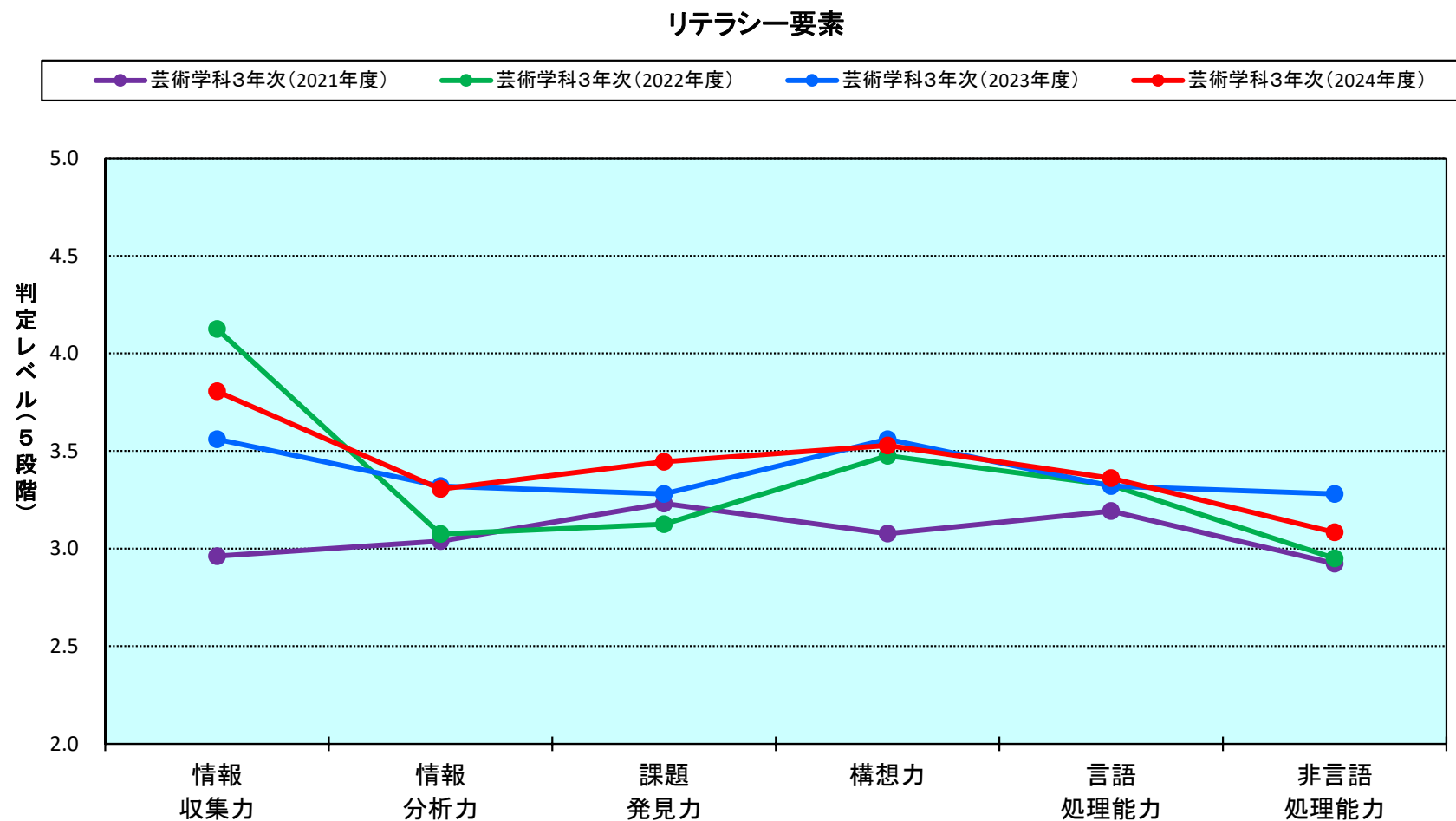


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科3年次】

情報収集力、課題発見力、言語処理能力は、2023年度のスコアを上回る。

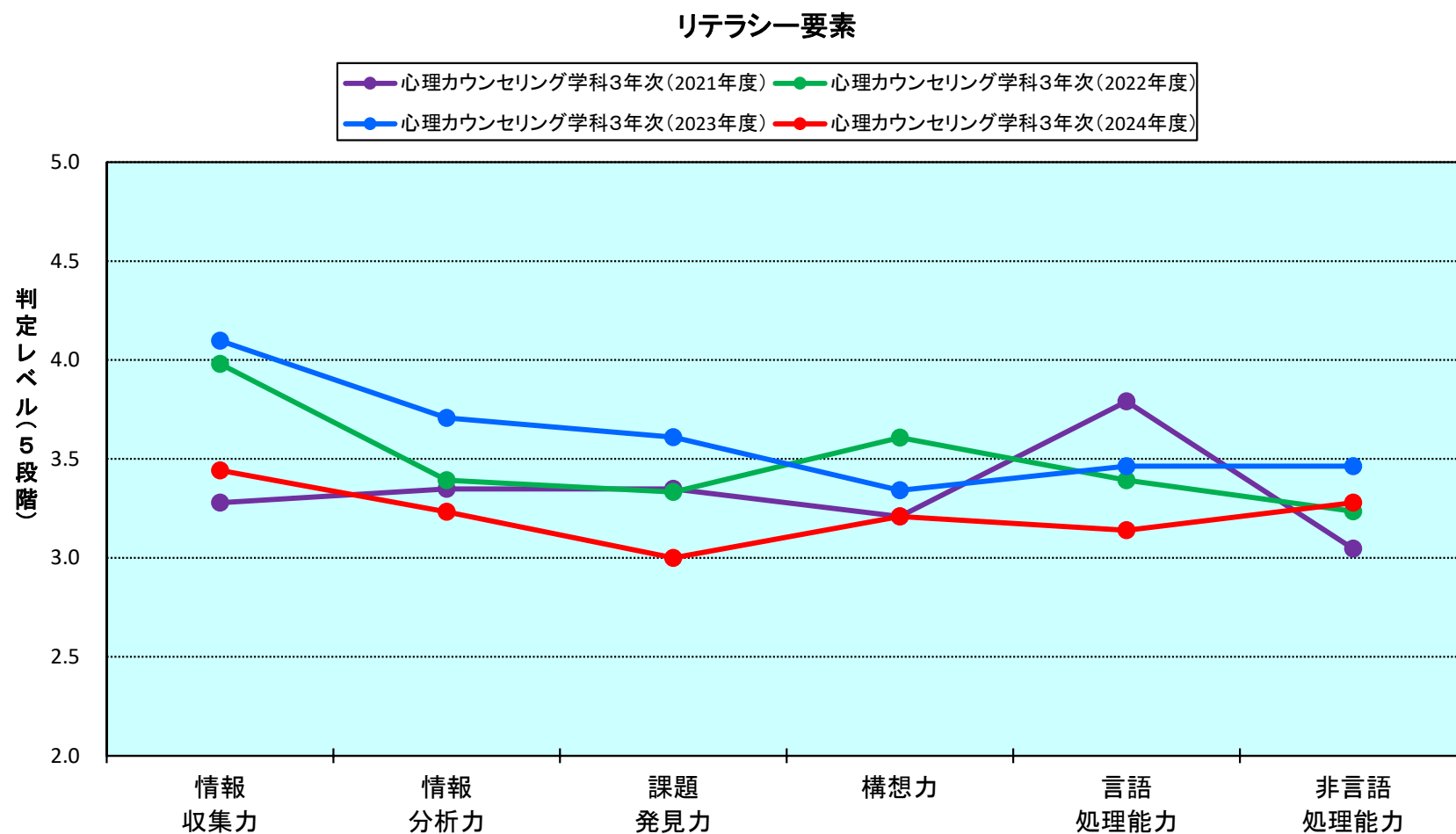
一方、情報分析力、構想力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科3年次】

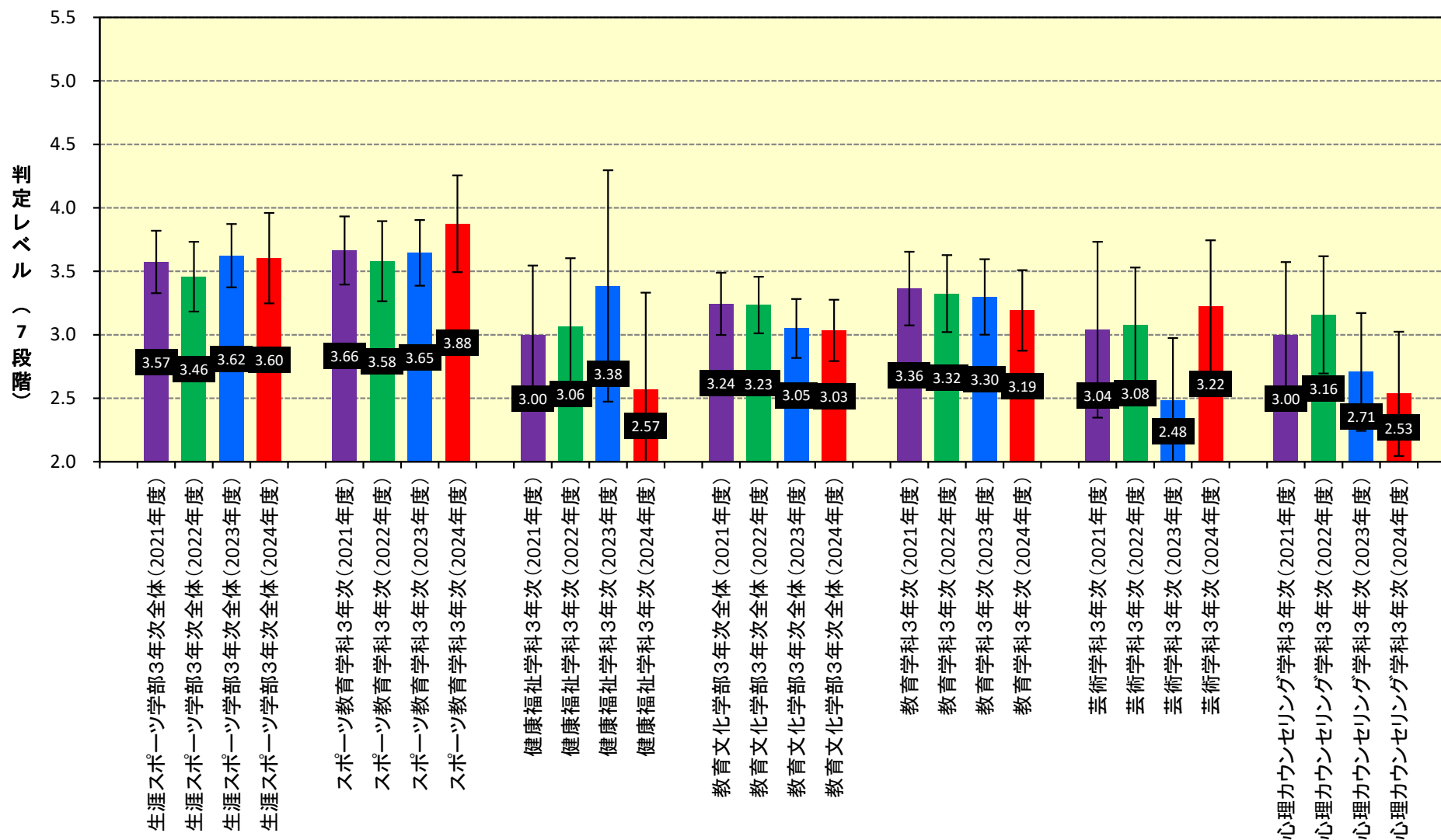
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2023年度のスコアを下回る。



コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

- スポーツ教育学科3年次、芸術学科3年次は、2023年度のスコアを上回る。
 - 生涯スポーツ学部3年次全体、健康福祉学科3年次、教育文化学部3年次全体、教育学科3年次、心理カウンセリング学科3年次は、2023年度のスコアを下回る。
- （※健康福祉学科3年次（2023年度）は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

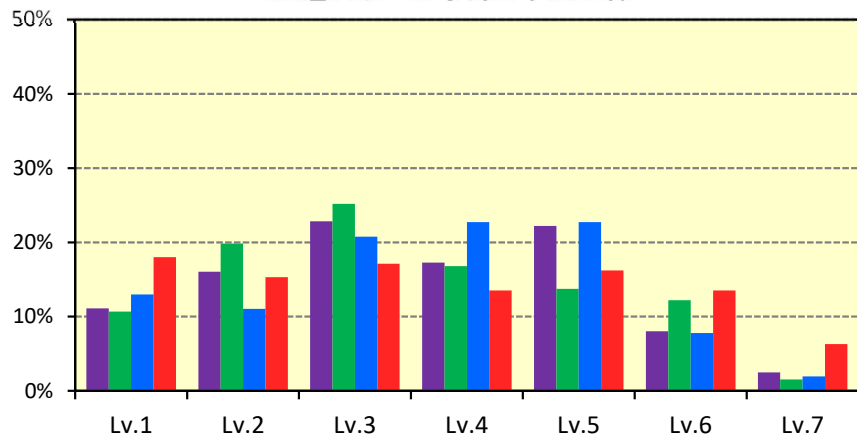
コンピテンシー総合



コンピテンシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）①

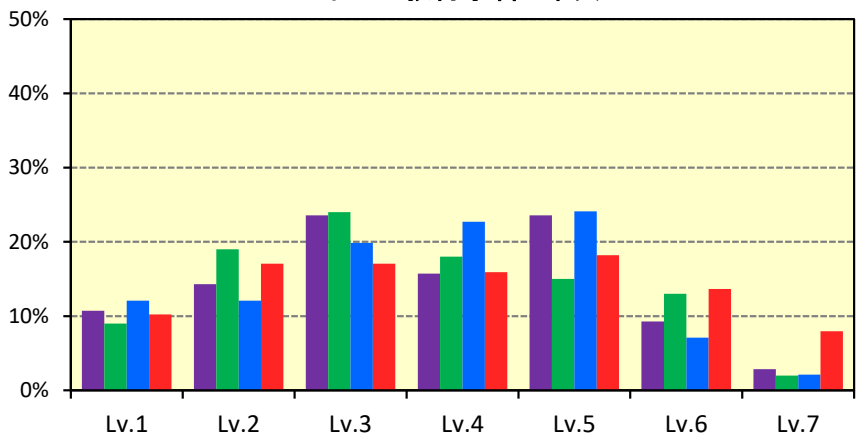
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

生涯スポーツ学部3年次全体



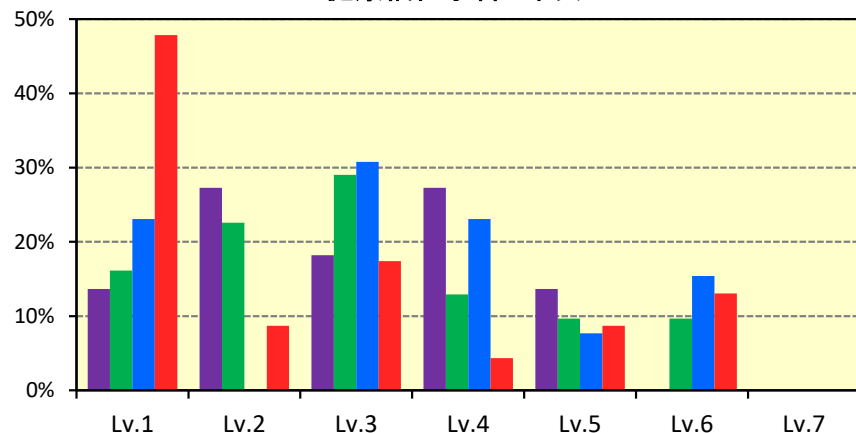
2023年度に比べて、レベル3～5のボリュームが小さく、レベル1～2、レベル6～7のボリュームが大きい。

スポーツ教育学科3年次



2023年度に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル2、レベル6～7のボリュームが大きい。

健康福祉学科3年次

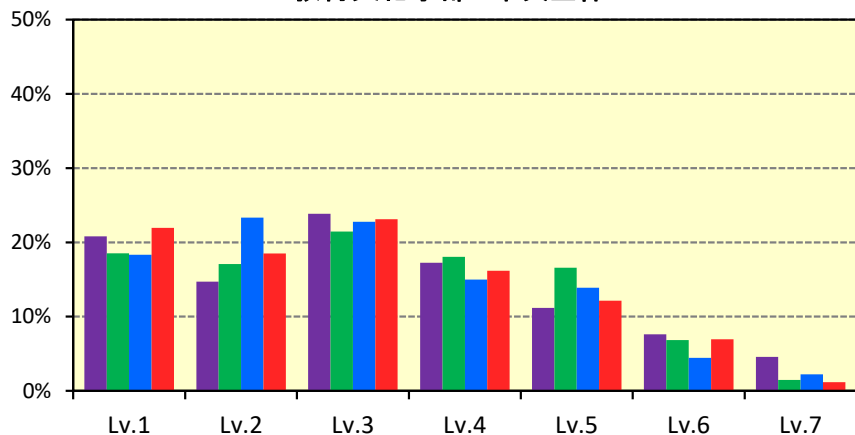


(※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー総合 判定レベルの分布（過去の受験者との比較）②

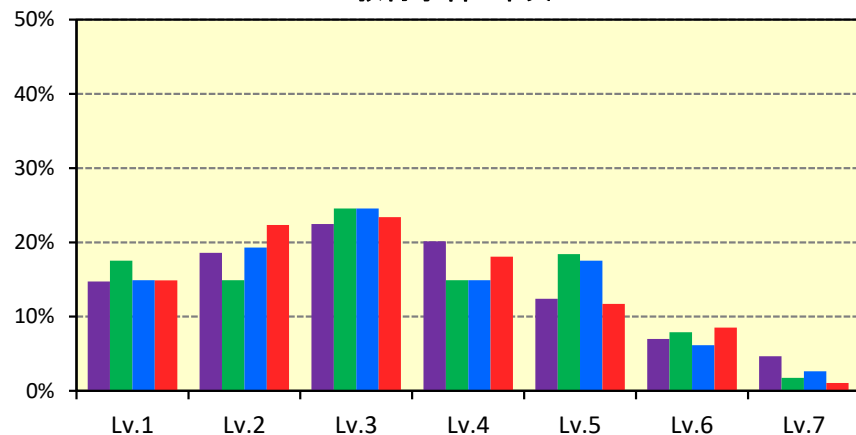
■2021年度 ■2022年度 ■2023年度 ■2024年度

教育文化学部3年次全体



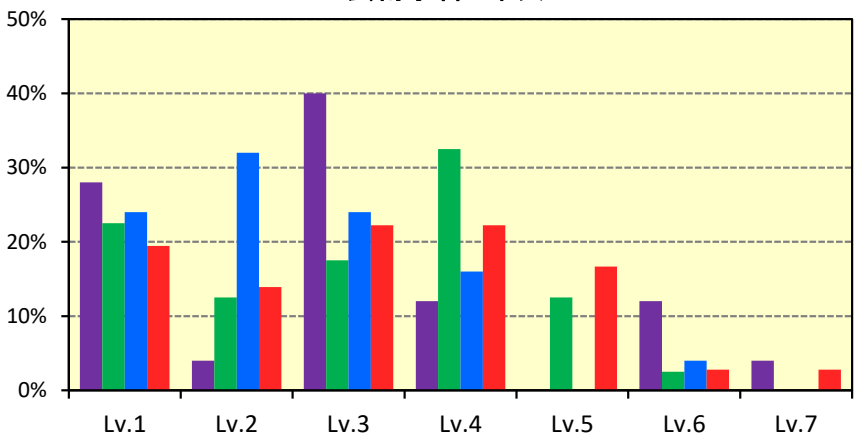
2023年度に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

教育学科3年次



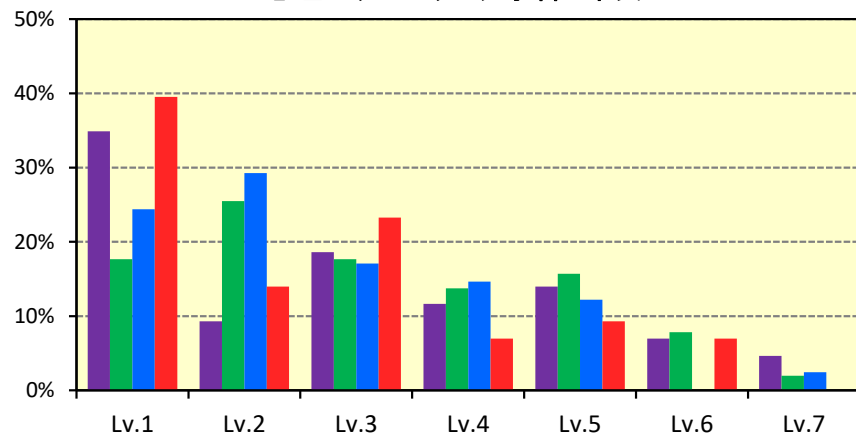
2023年度に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル2、レベル4の割合が大きい。

芸術学科3年次



2023年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル4～5のボリュームが大きい。

心理カウンセリング学科3年次



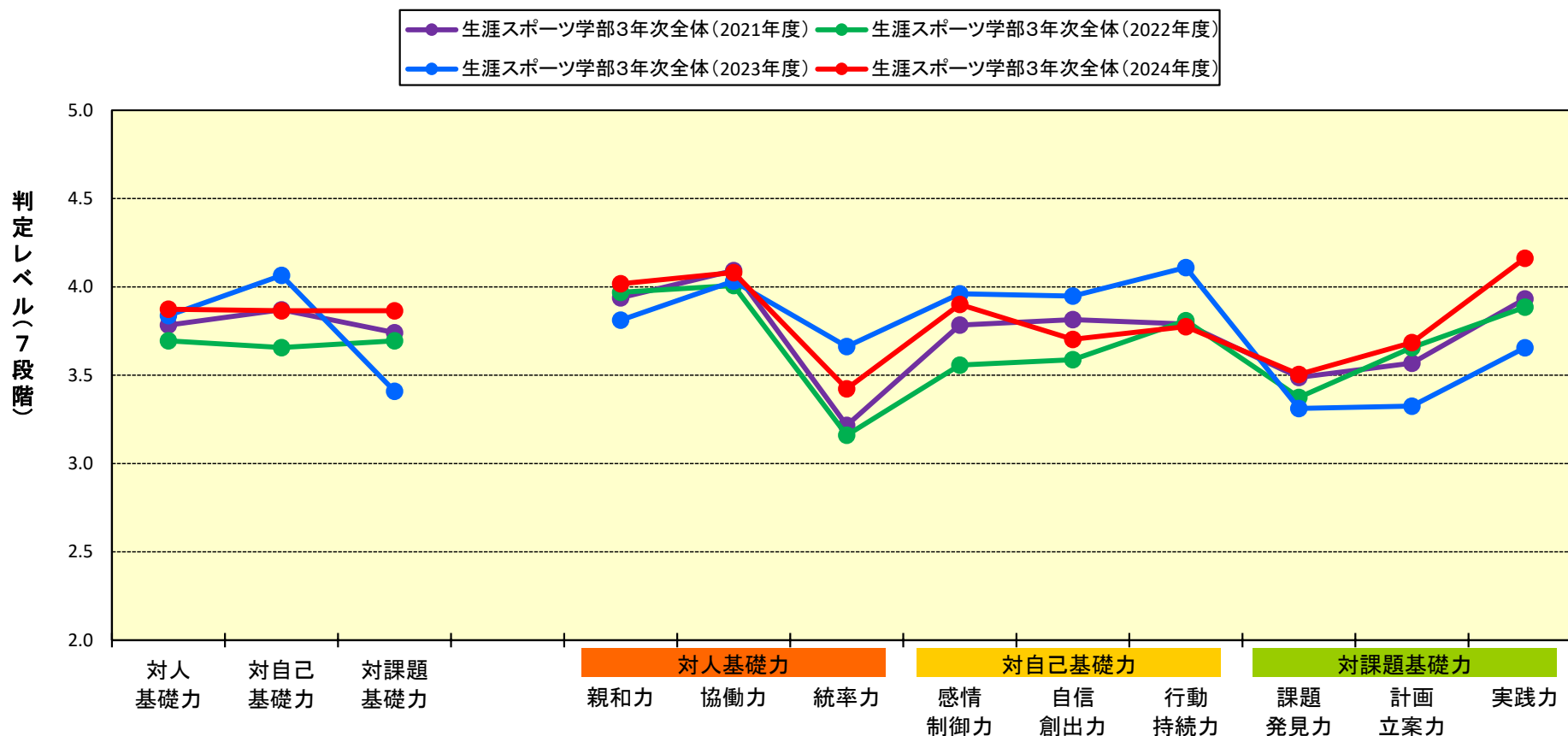
2023年度に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル1、レベル3、レベル6の割合が大きい。

コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。
一方、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



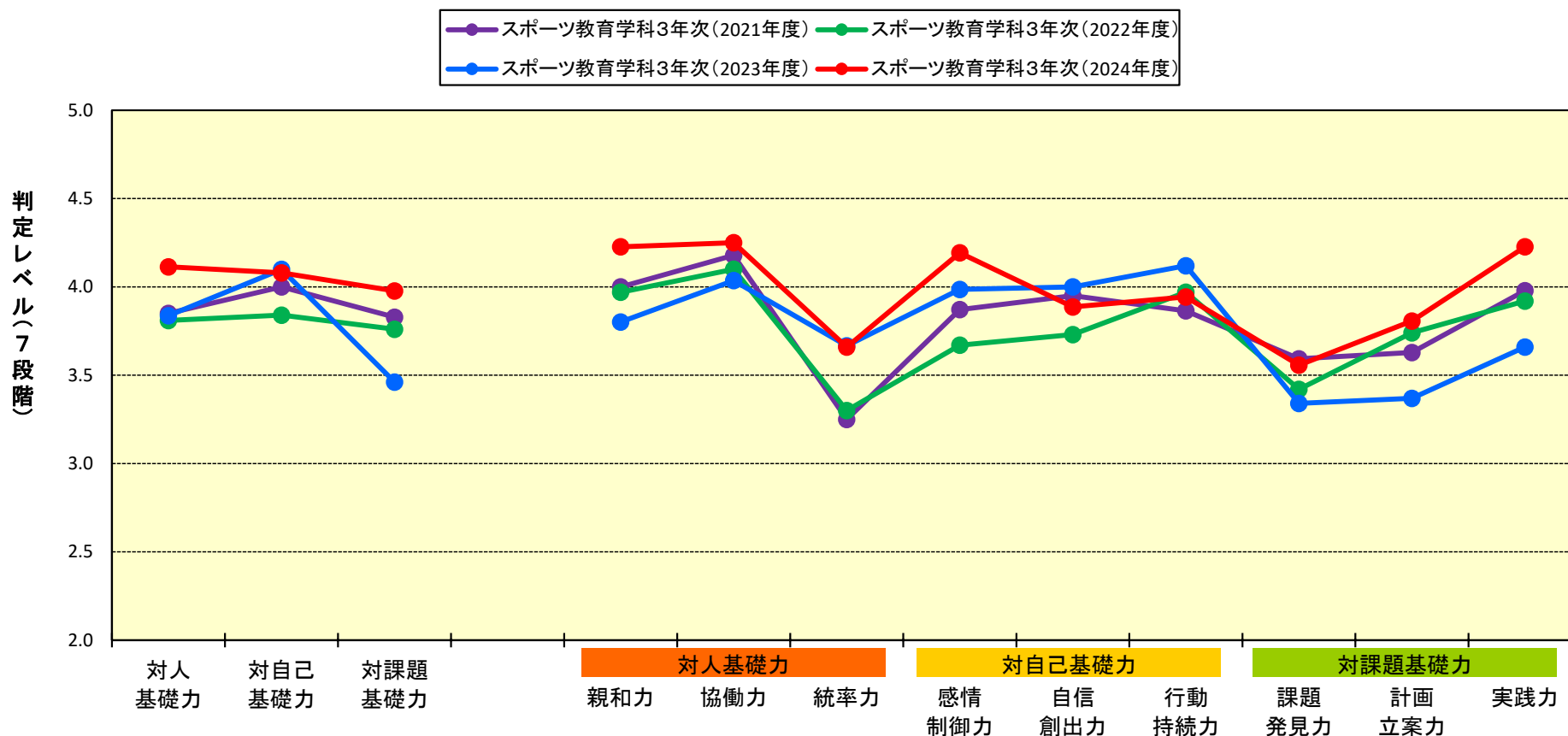
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科3年次】

親和力、協働力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、統率力、自信創出力、行動持続力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）③

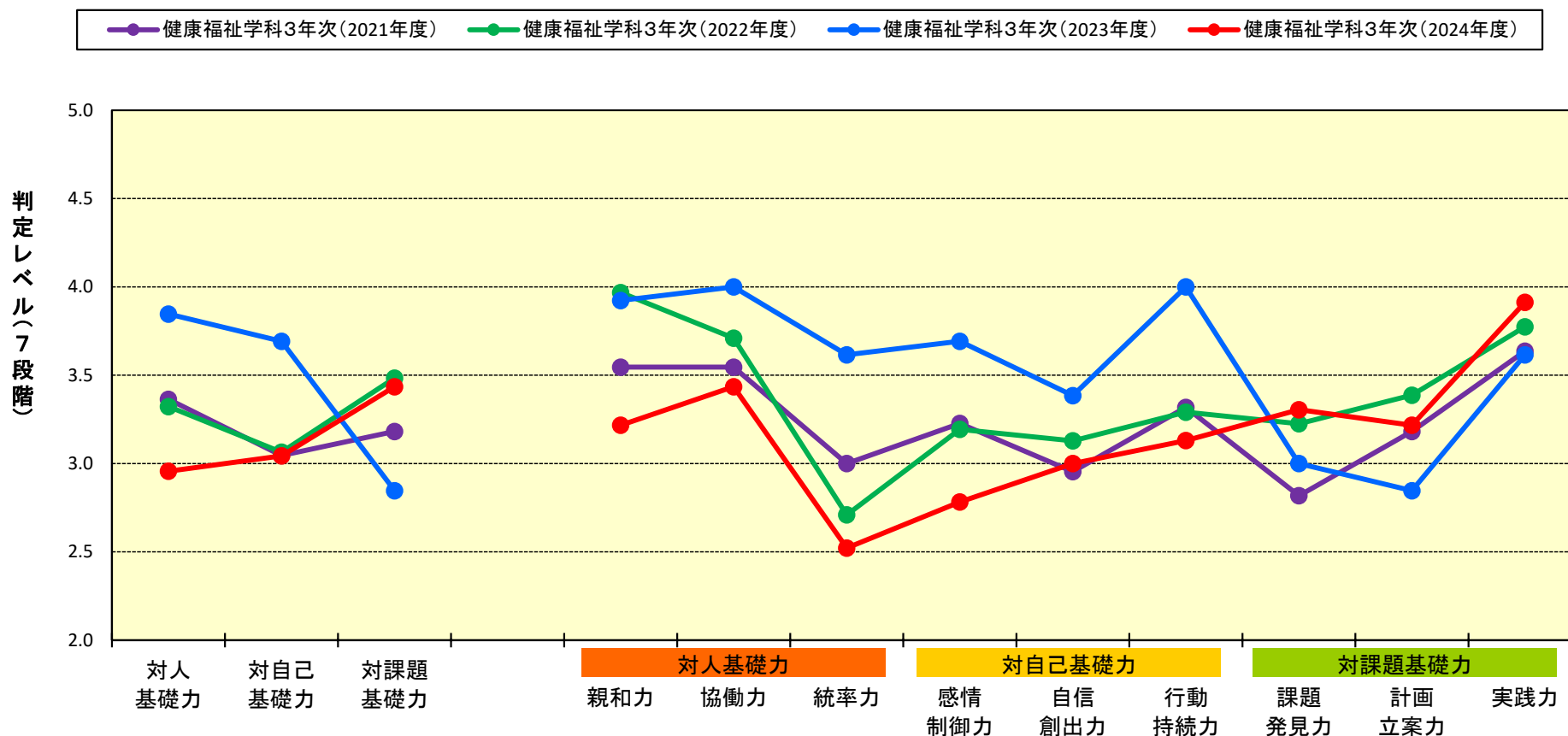
【健康福祉学科3年次】

課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2023年度のスコアを下回る。

（※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

コンピテンシー要素の伸長



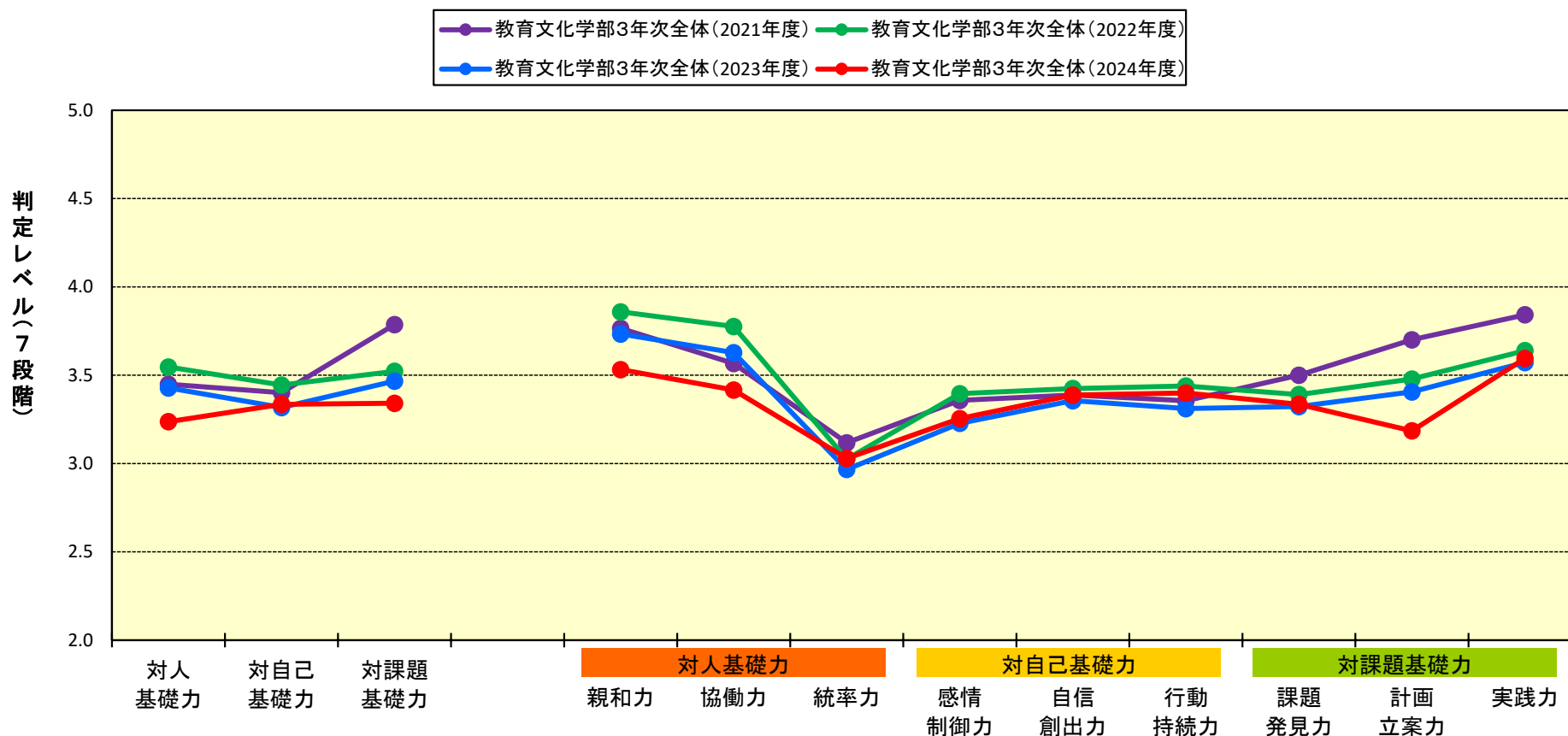
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年次全体】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、計画立案力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

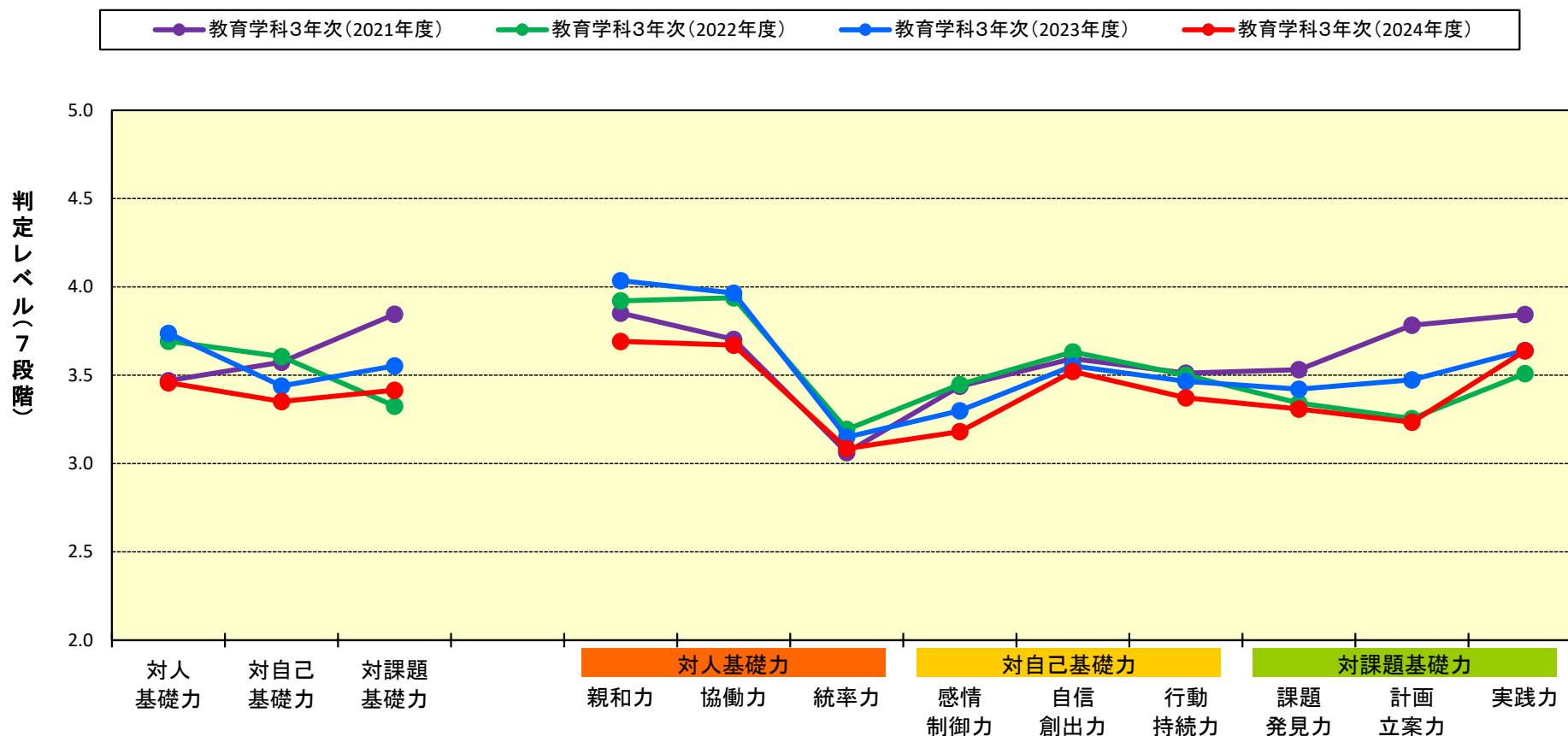


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科3年次】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

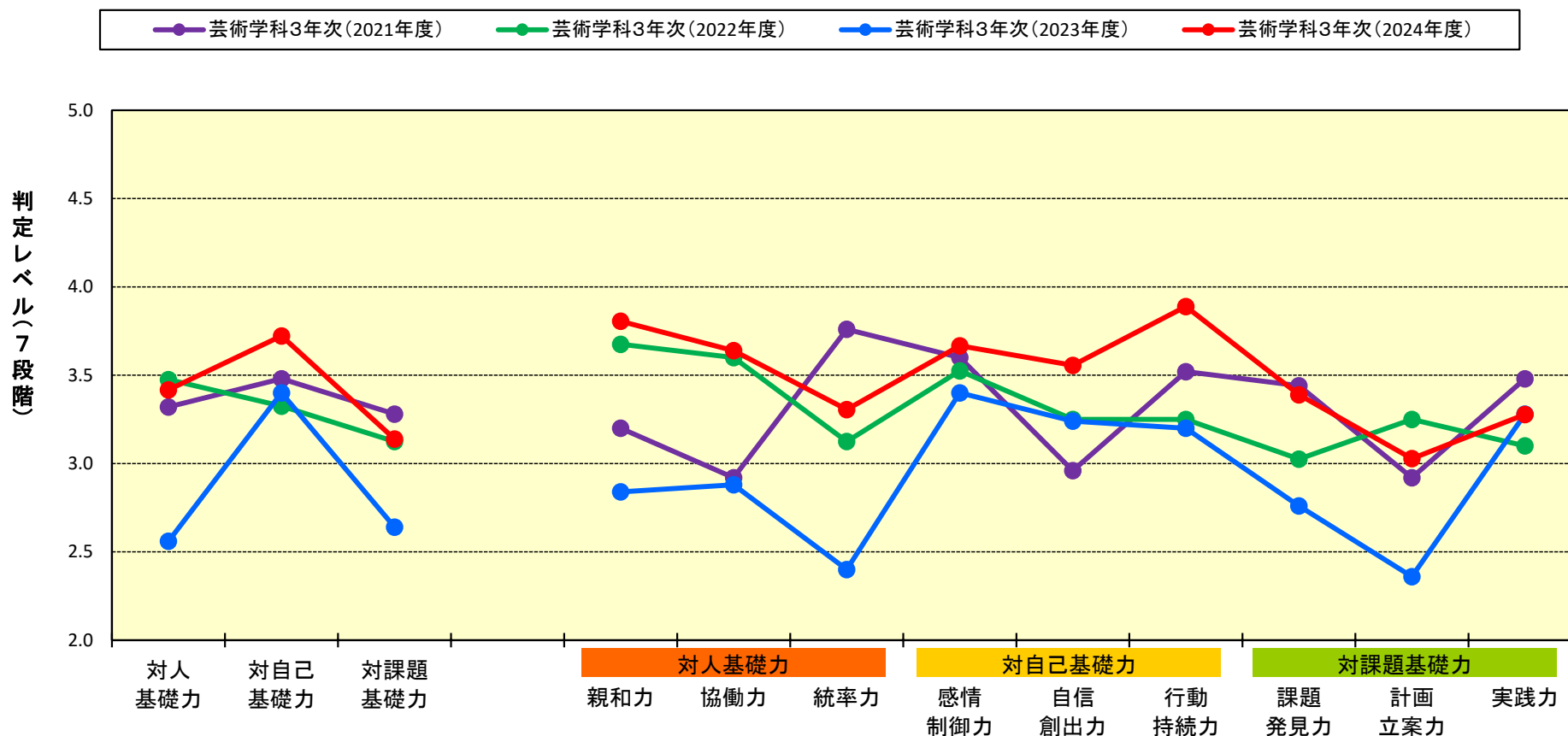


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科3年次】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力は、2023年度のスコアを上回る。
一方、実践力は、2023年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



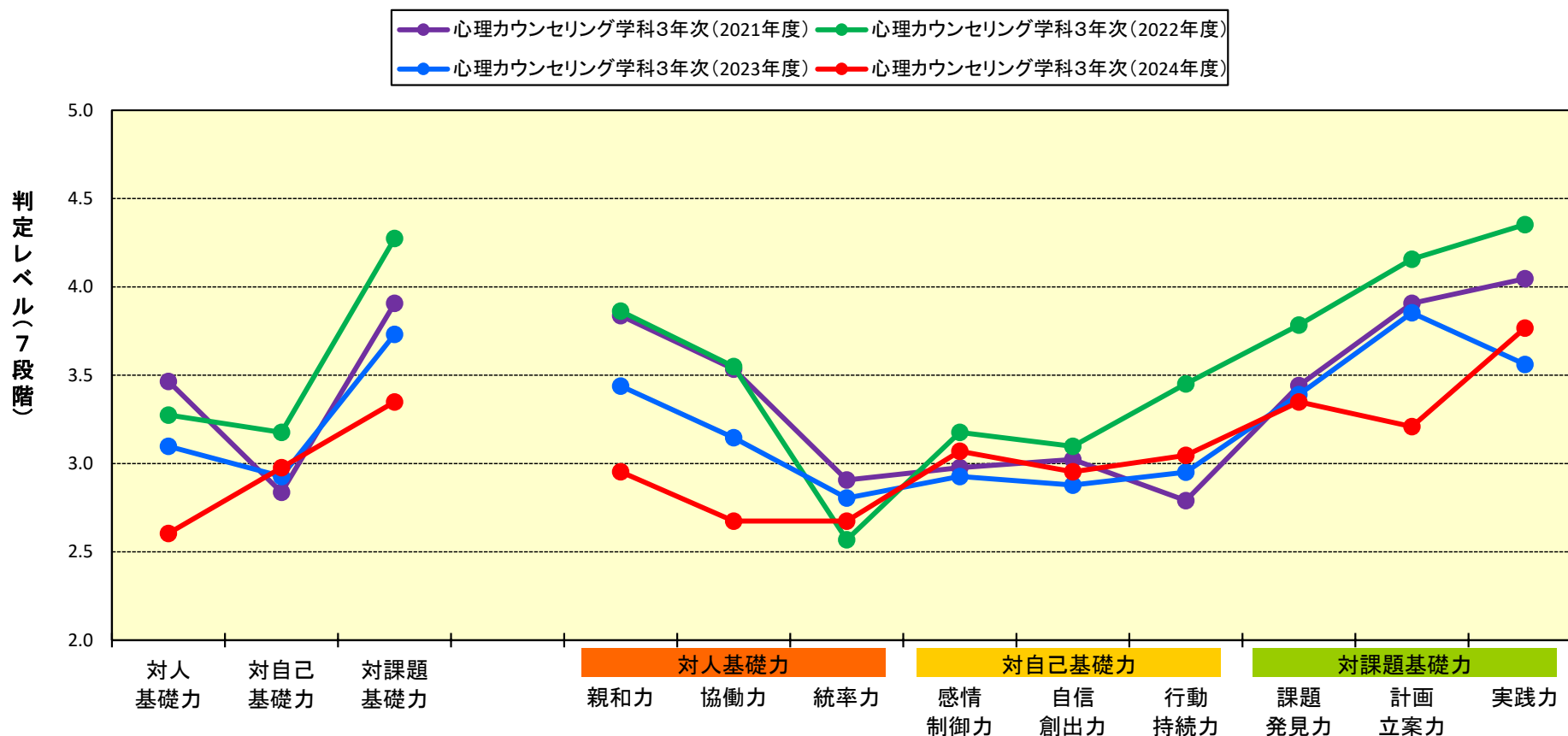
コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科3年次】

感情制御力、自信創出力、行動持続力、実践力は、2023年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、課題発見力、計画立案力は、2023年度のスコアを下回る。

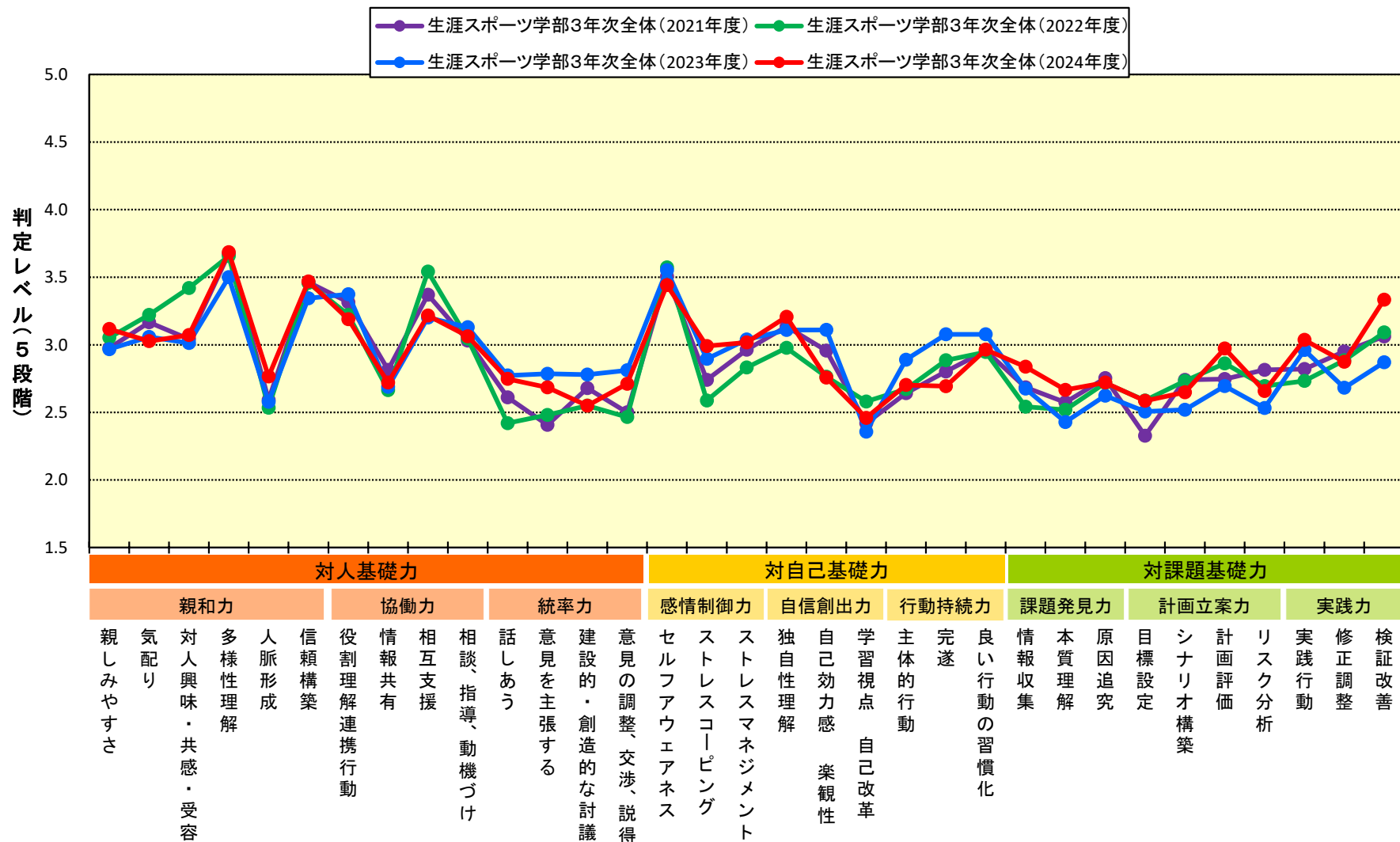
コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

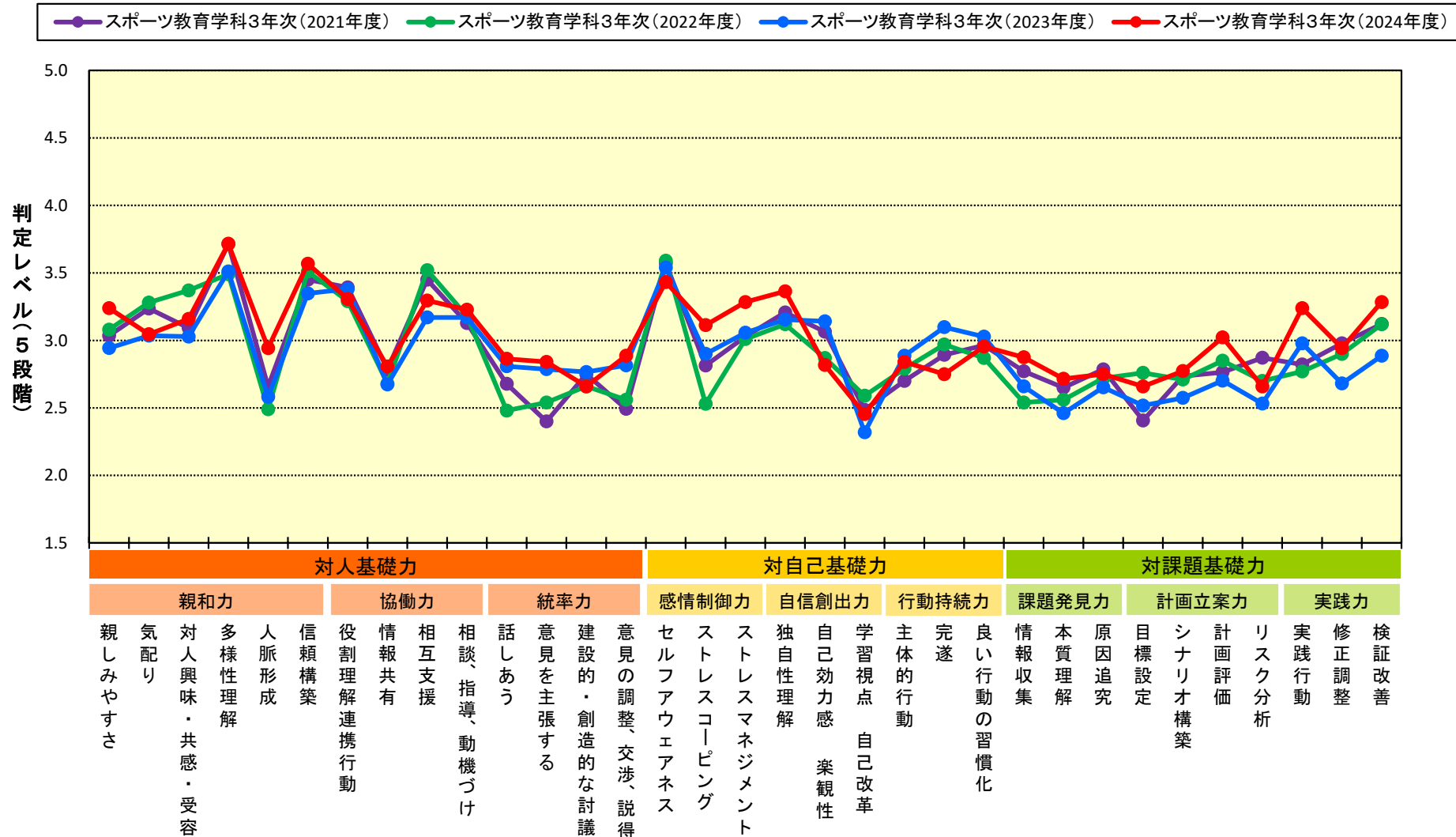
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

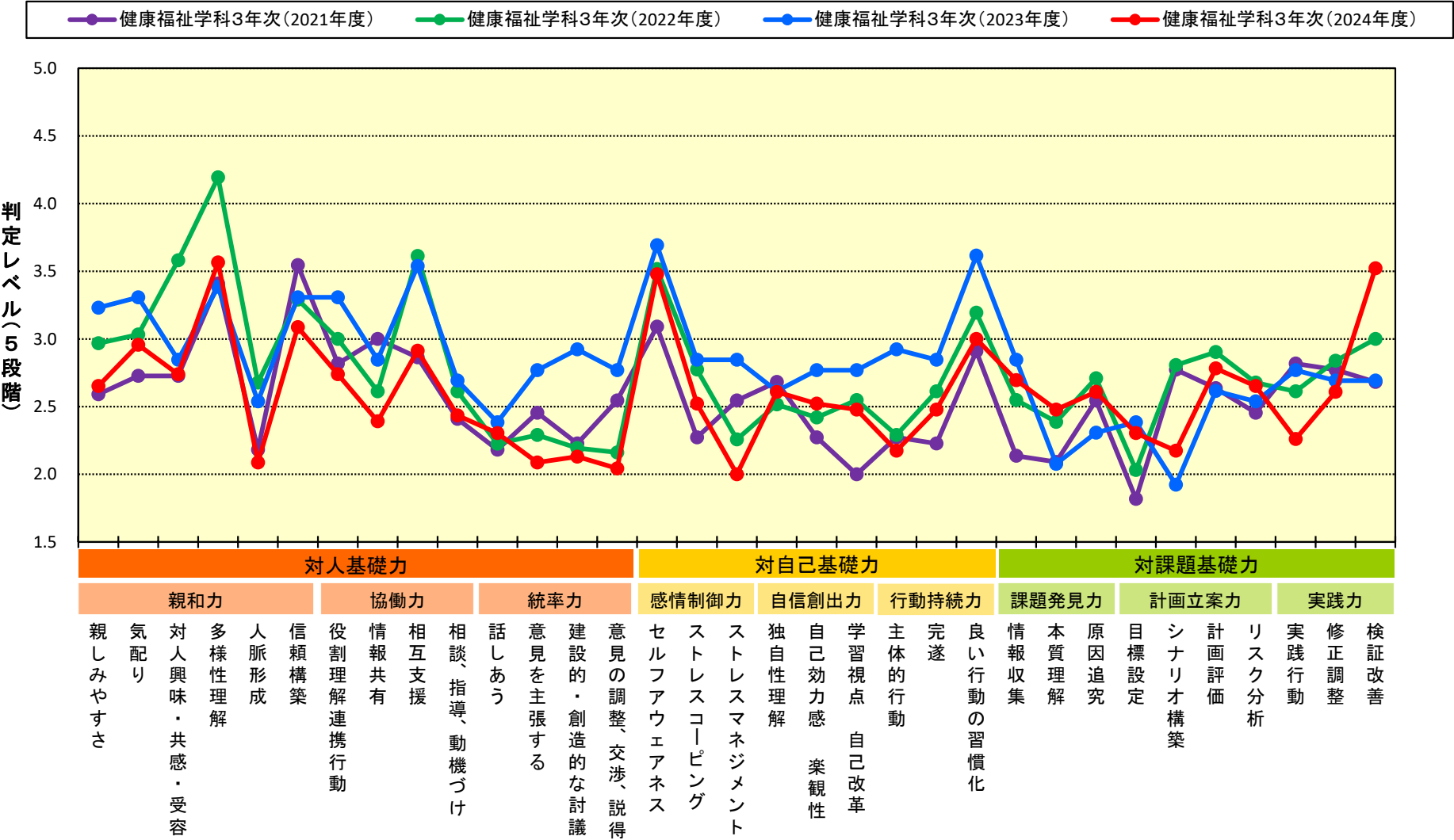
【スポーツ教育学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



【健康福祉学科3年次】
 （※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため参考値とお考えください。）

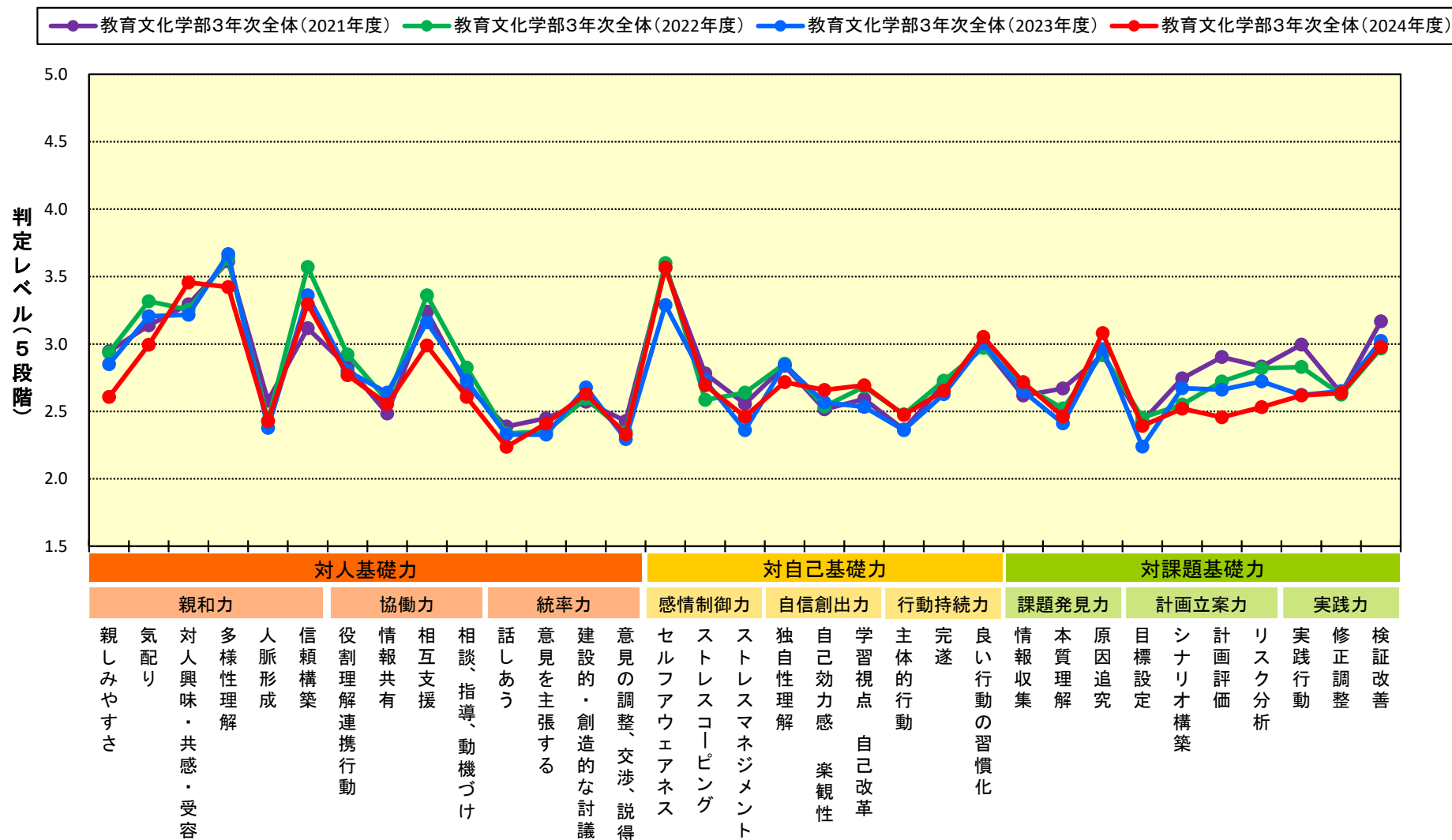
コンピテンシー小分類要素



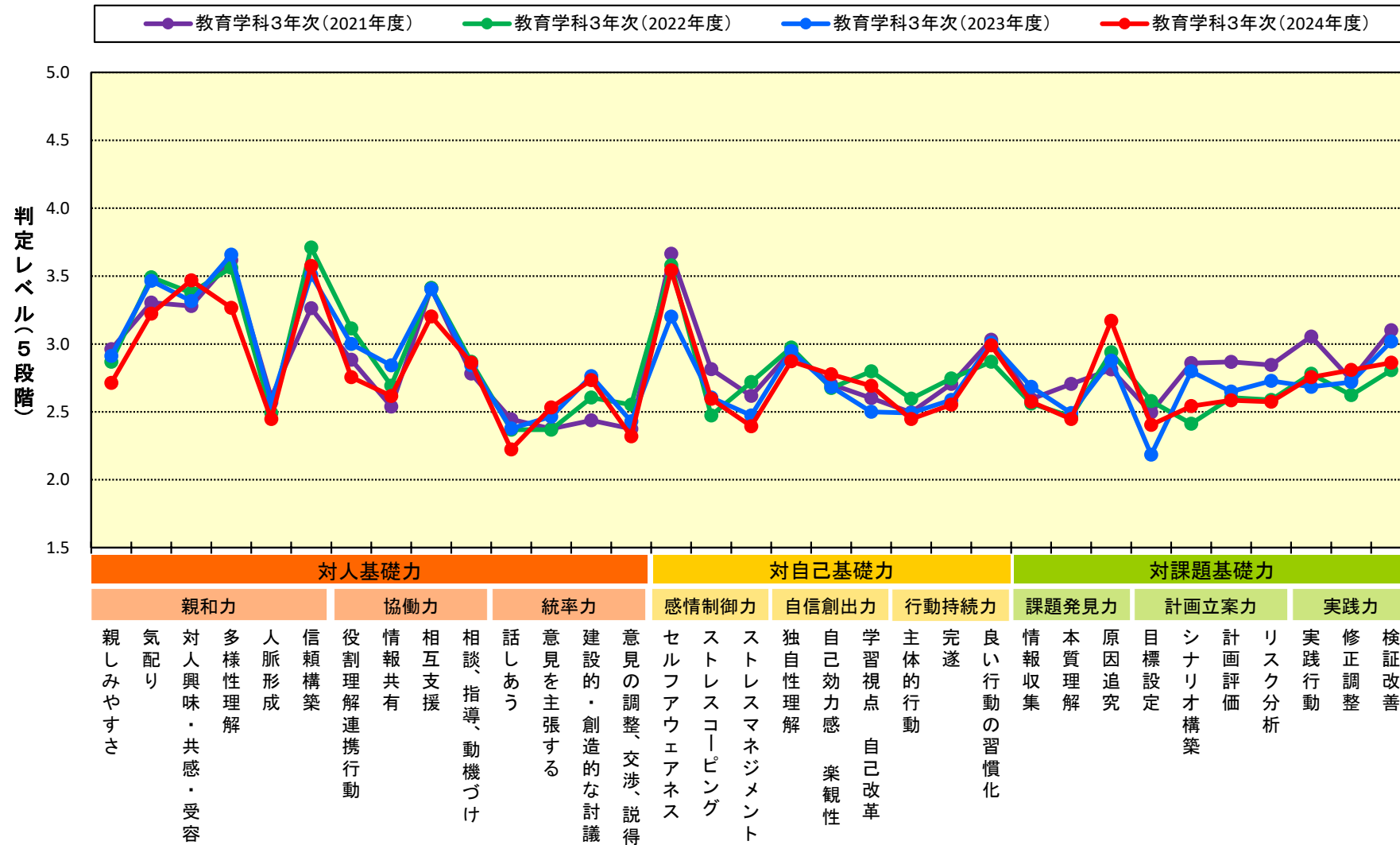
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年次全体】

コンピテンシー小分類要素



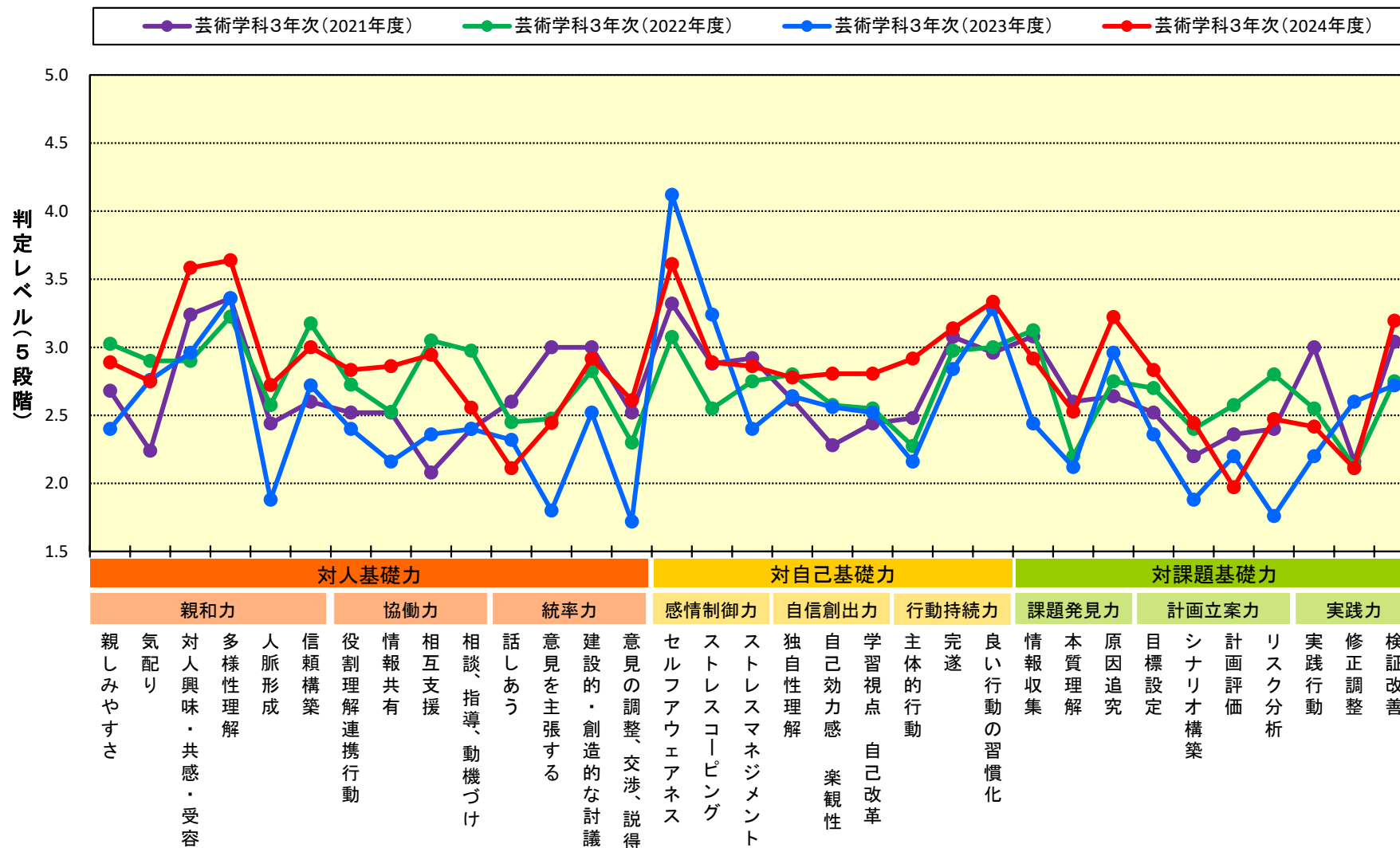
コンピテンシー小分類要素



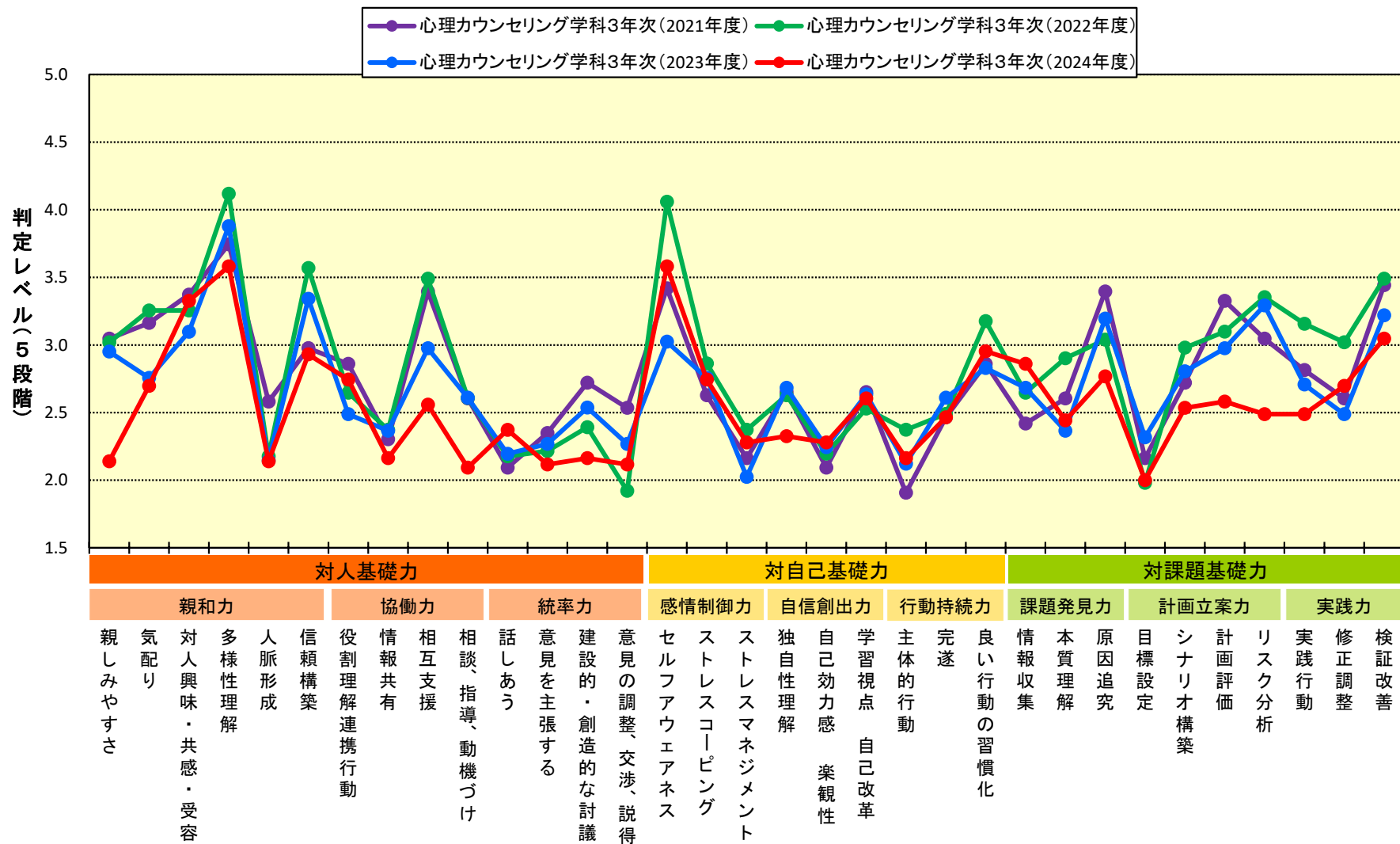
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科3年次】

コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素



Part.9 成長分析 3年次

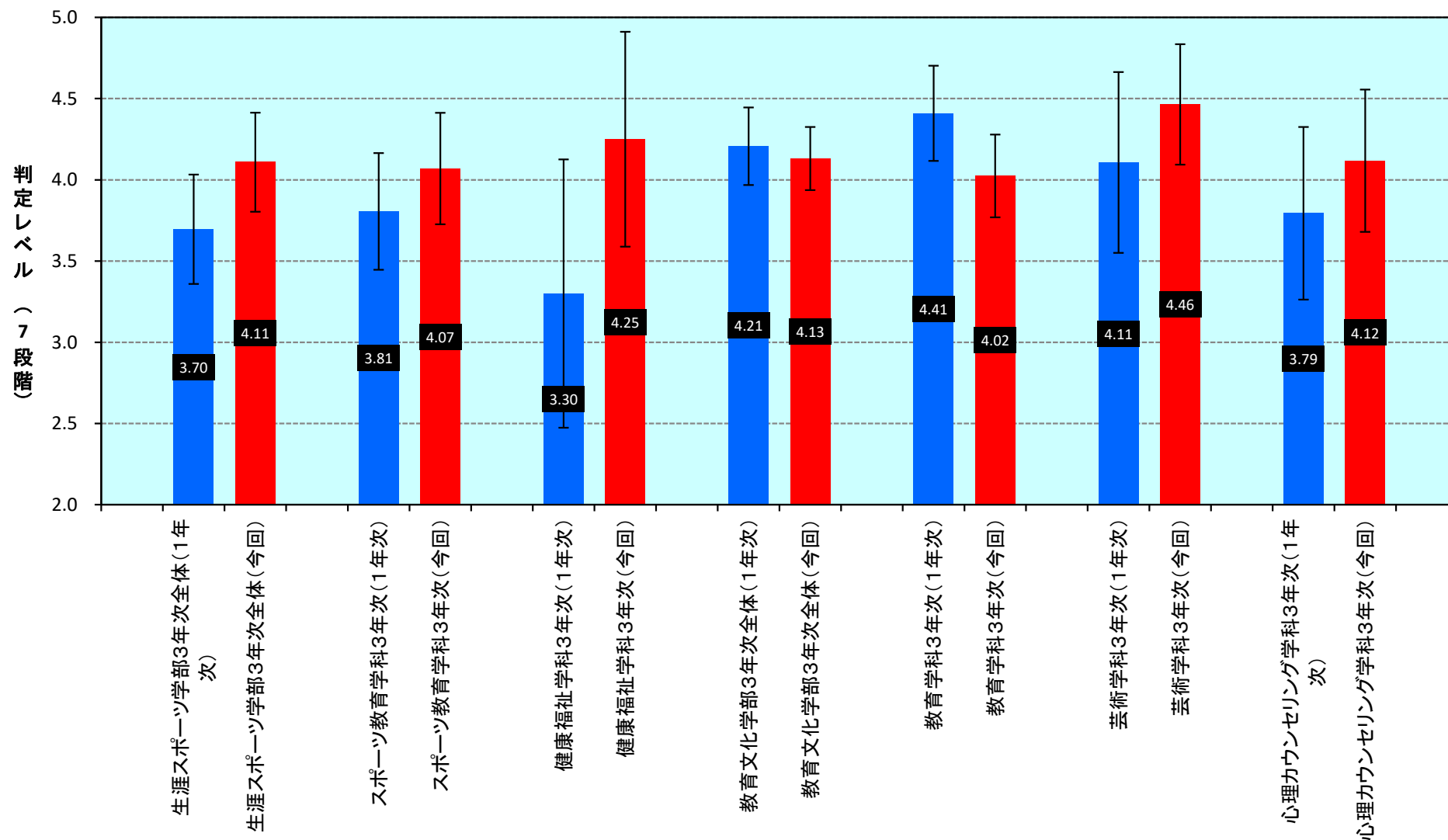
学部	学科	1年次 2022年5月～8月 受験	3年次(今回) 2024年10月～ 2025年1月 受験	集計対象者 (1年次・3年次 いずれも受験)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	130	88	72
	健康福祉学科	30	23	20
		160	111	92
教育文化学部	教育学科	123	94	83
	芸術学科	36	36	28
	心理カウンセリング学科	44	43	34
		203	173	145
合計		363	284	237

※WEB受験のリテラシーテストにおいて受験時間制限45分のところ解答時間20分未満、または 全30問中解答数10問以下の学生について、解答姿勢が低かったことが想定されるため、これらの学生のスコアを除いて集計しております。

リテラシー総合（成長分析）

- 生涯スポーツ学部3年次全体、スポーツ教育学科3年次、健康福祉学科3年次、芸術学科3年次、心理カウンセリング学科3年次は、1年次受験のスコアを上回る。
- 教育文化学部3年次全体、教育学科3年次は、1年次受験のスコアを下回る。

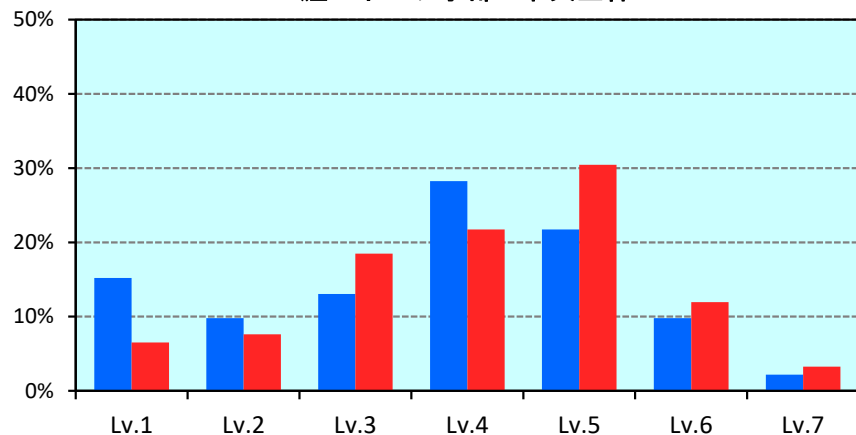
リテラシー総合



■ 1年次受験

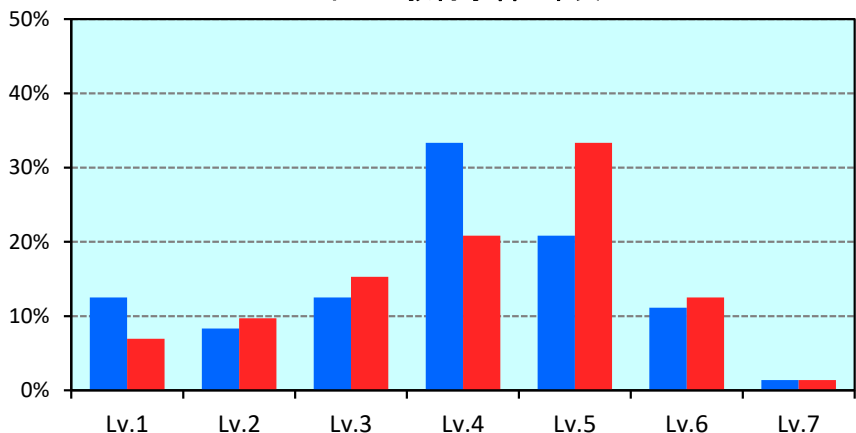
■ 今回受験

生涯スポーツ学部3年次全体



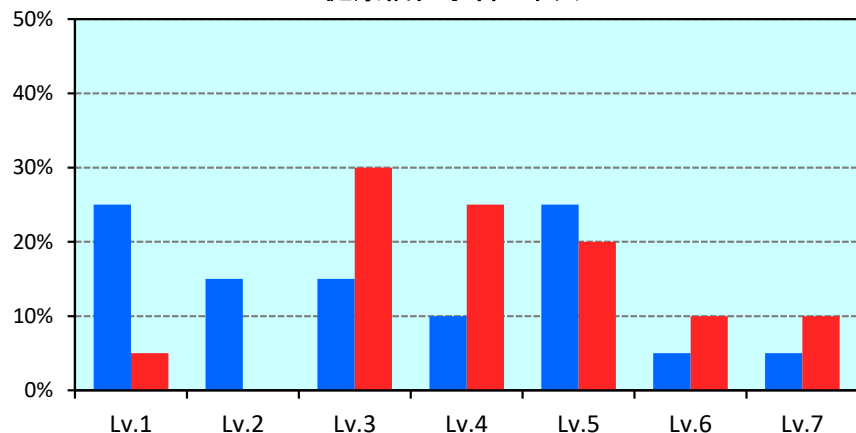
1年次受験に比べて、レベル1、レベル4の割合が小さく、レベル3、レベル5の割合が大きい。

スポーツ教育学科3年次



1年次受験に比べて、レベル1、レベル4の割合が小さく、レベル5の割合が大きい。

健康福祉学科3年次

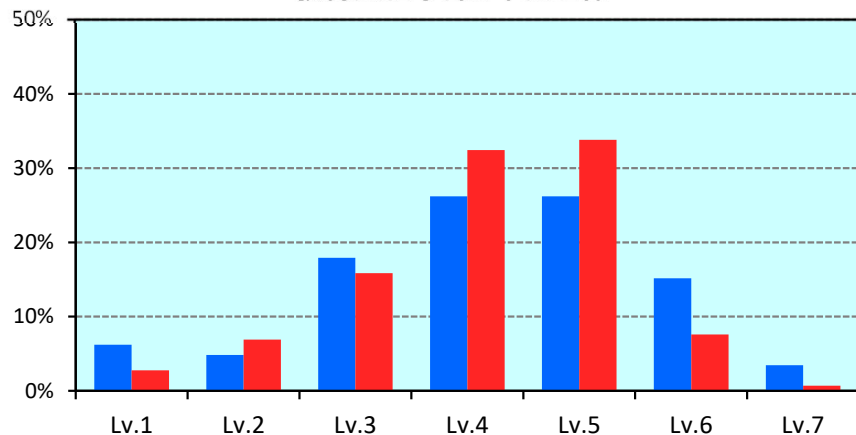


1年次受験に比べて、レベル1～2、レベル5のボリュームが小さく、レベル3～4、レベル6～7のボリュームが大きい。

■ 1年次受験

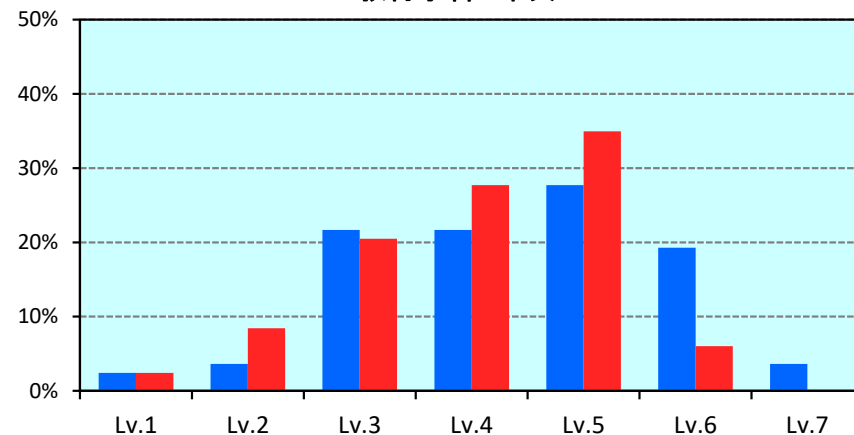
■ 今回受験

教育文化学部3年次全体



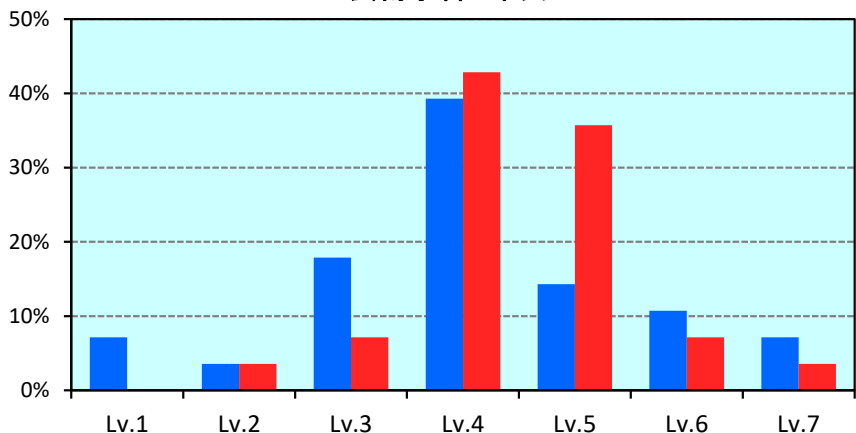
1年次受験に比べて、レベル1、レベル6の割合が小さく、レベル4～5のボリュームが大きい。

教育学科3年次



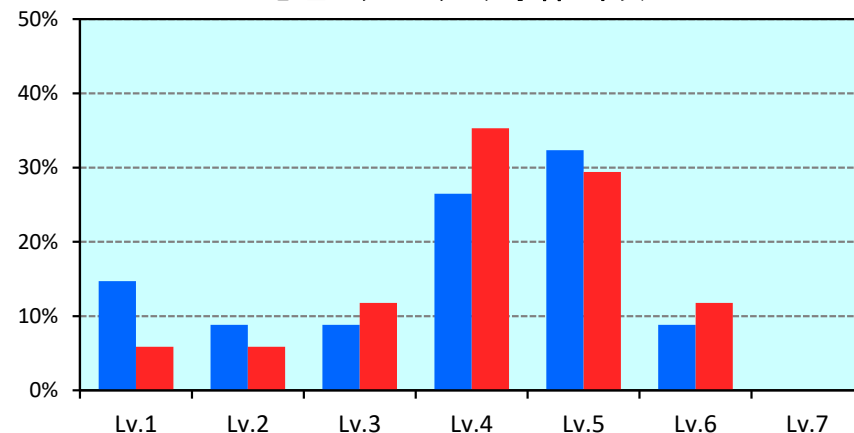
1年次受験に比べて、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル2、レベル4～5のボリュームが大きい。

芸術学科3年次



1年次受験に比べて、レベル1、レベル3、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル4～5のボリュームが大きい。

心理カウンセリング学科3年次



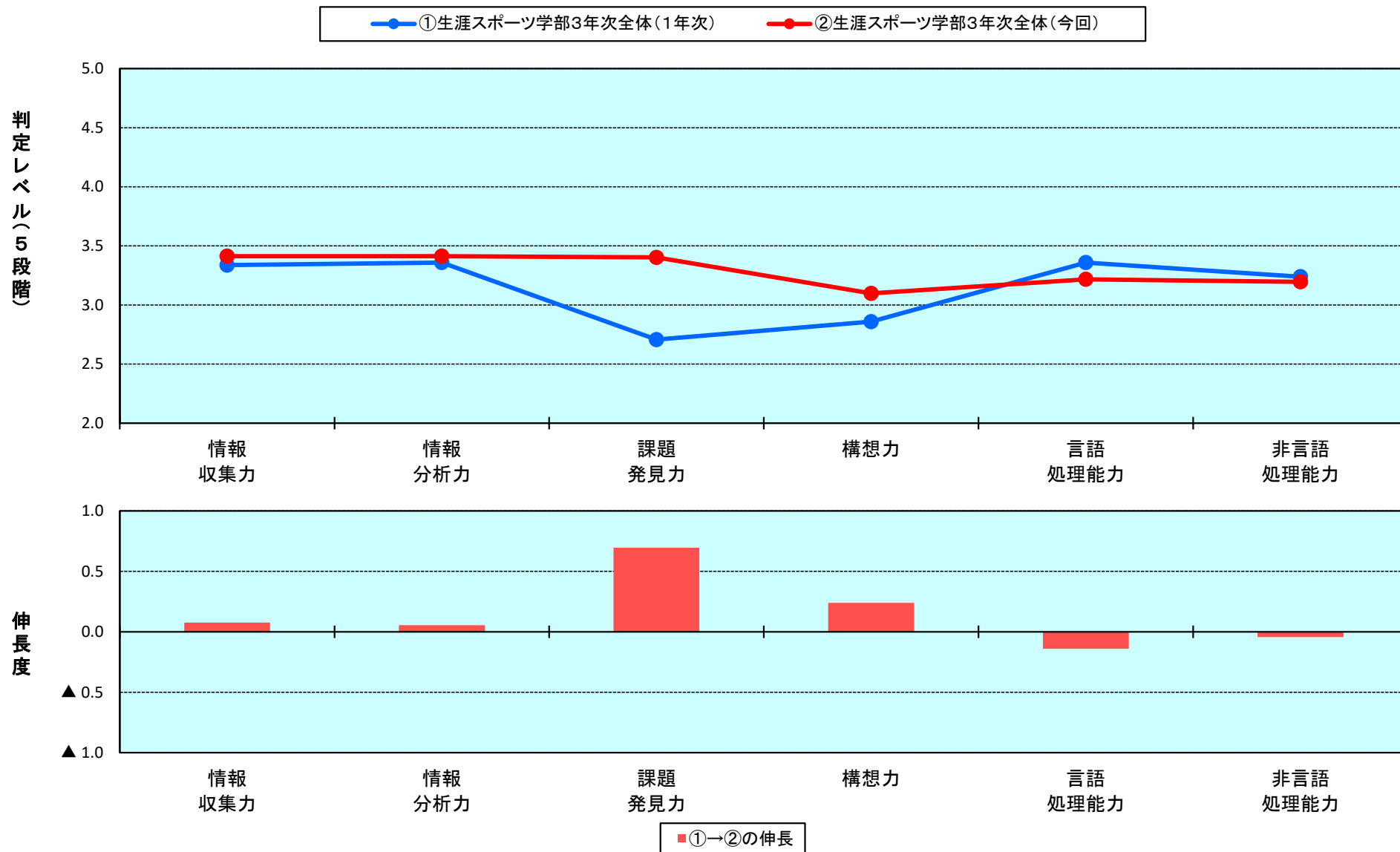
1年次受験に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル4の割合が大きい。

リテラシー要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長



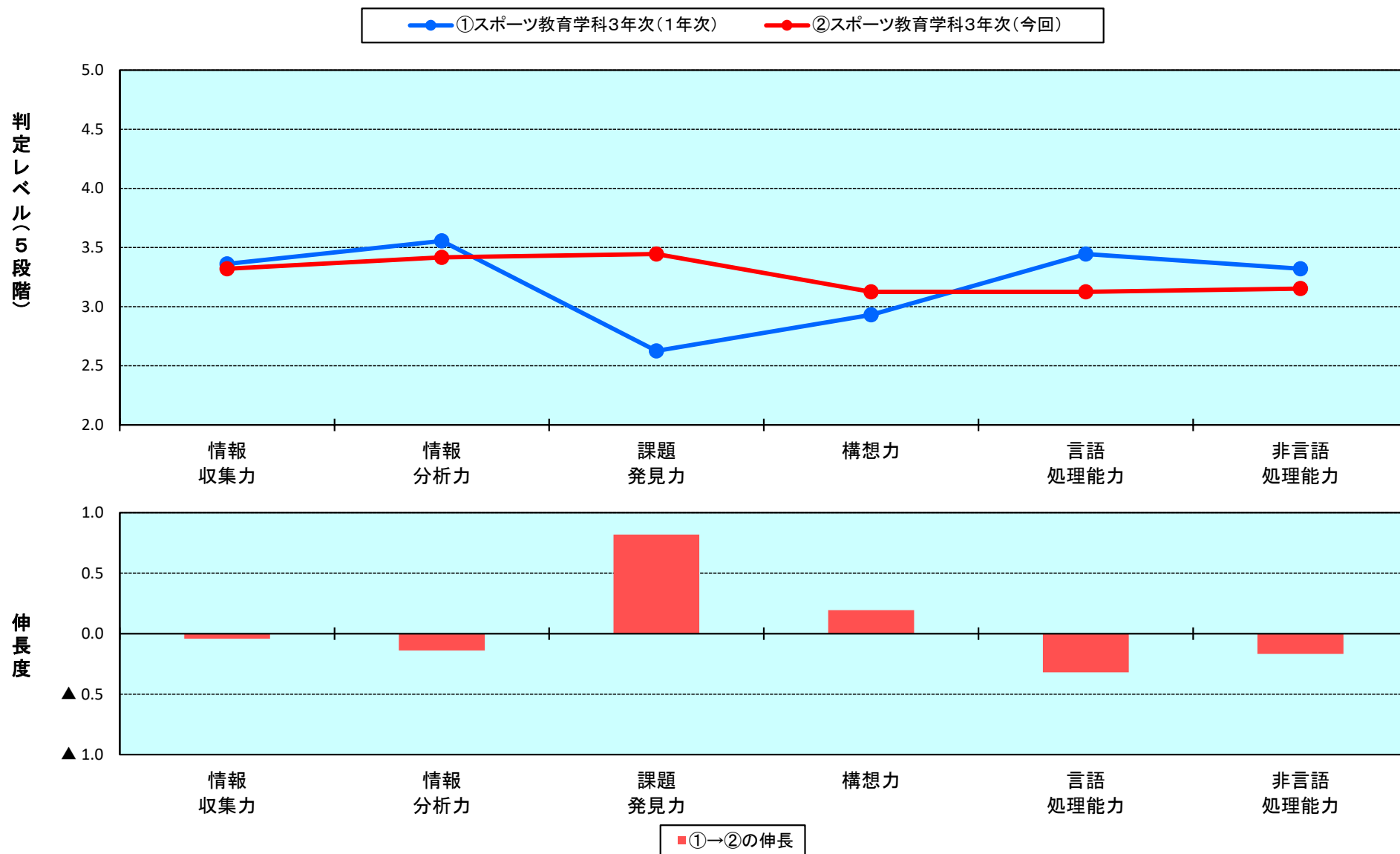
リテラシー要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年次】

課題発見力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長

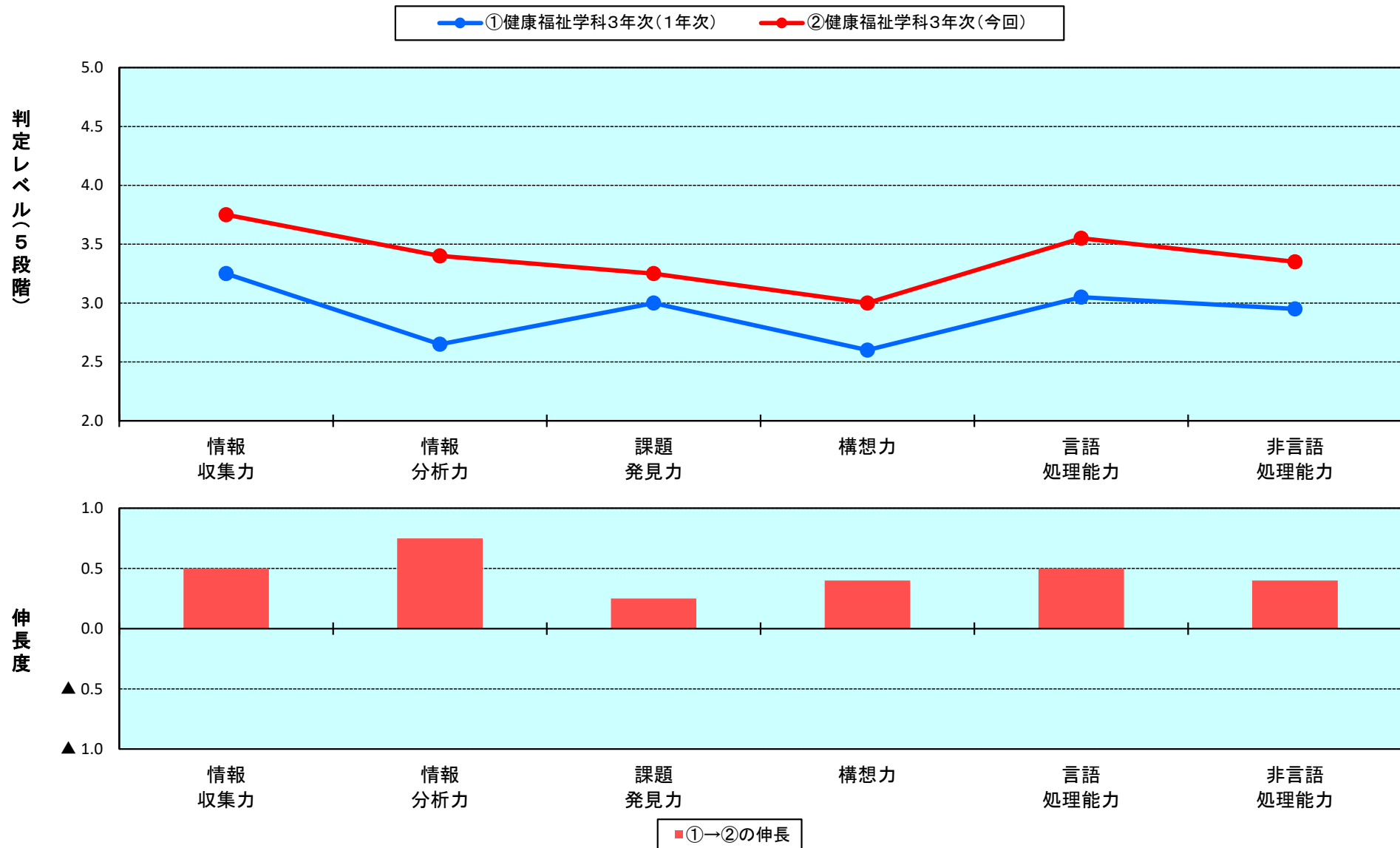


リテラシー要素（成長分析）③

【健康福祉学科3年次】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

リテラシー要素 の伸長



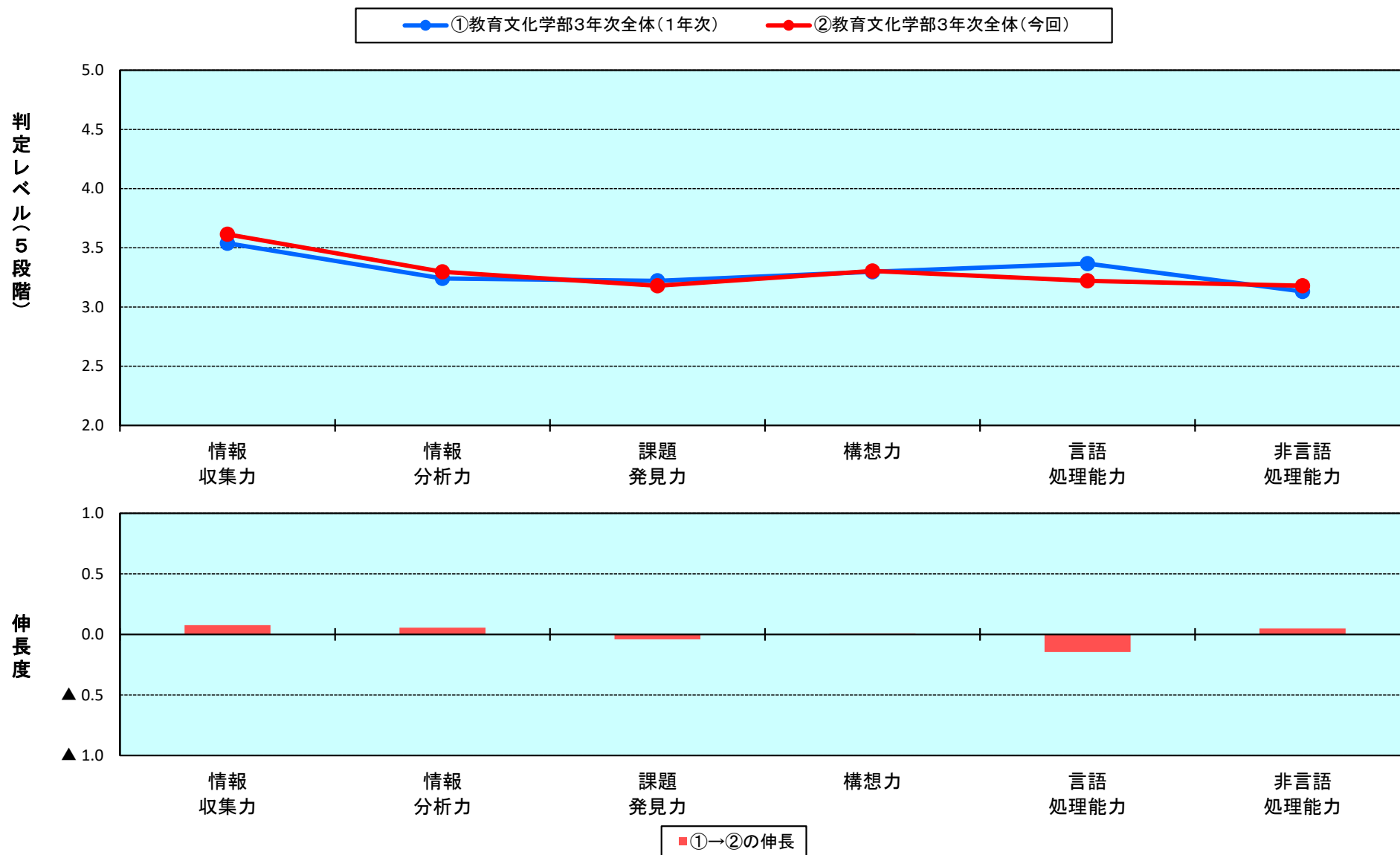
リテラシー要素（成長分析）④

【教育文化学部3年次全体】

情報収集力、情報分析力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、課題発見力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長



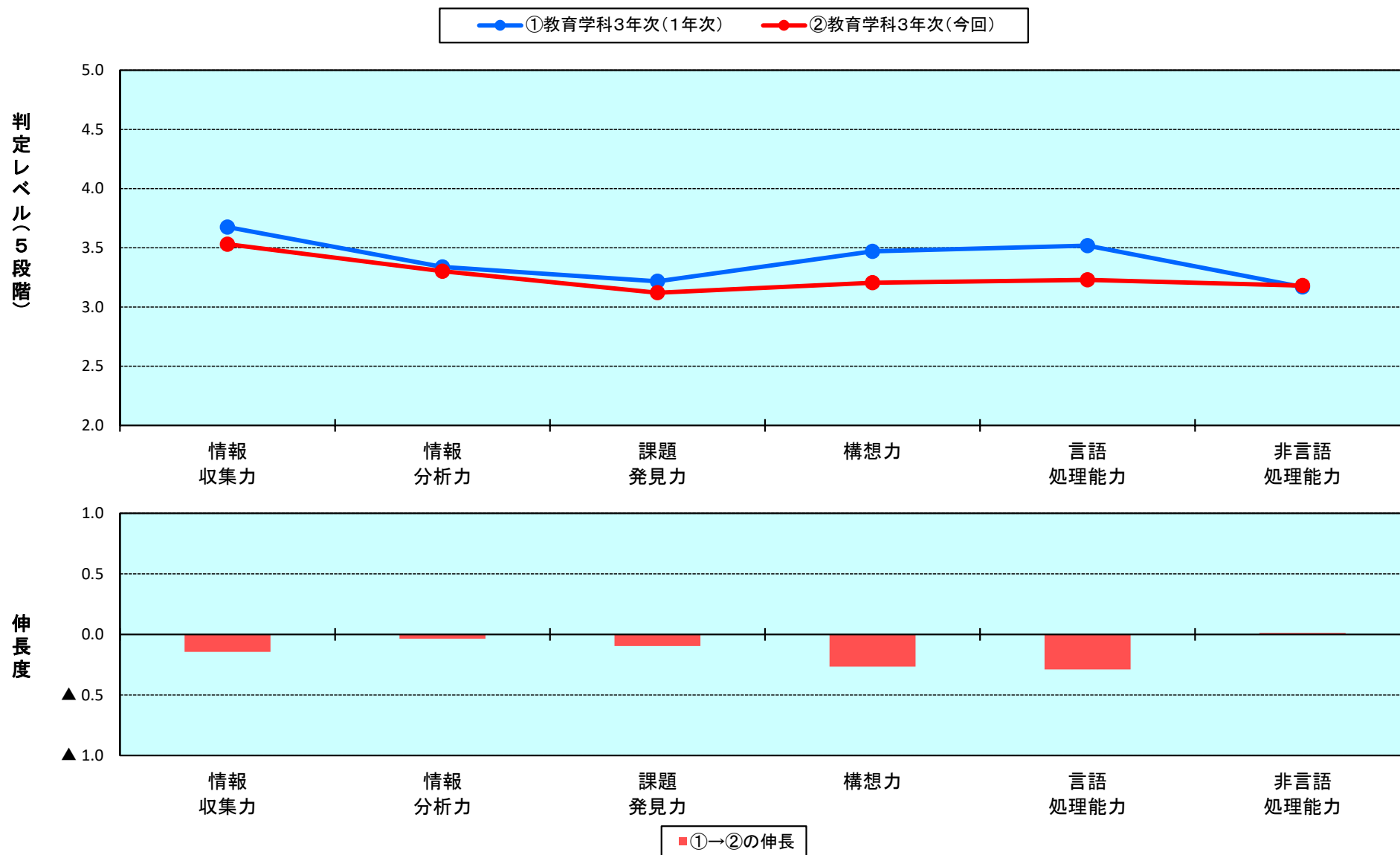
リテラシー要素（成長分析）⑤

【教育学科3年次】

非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長

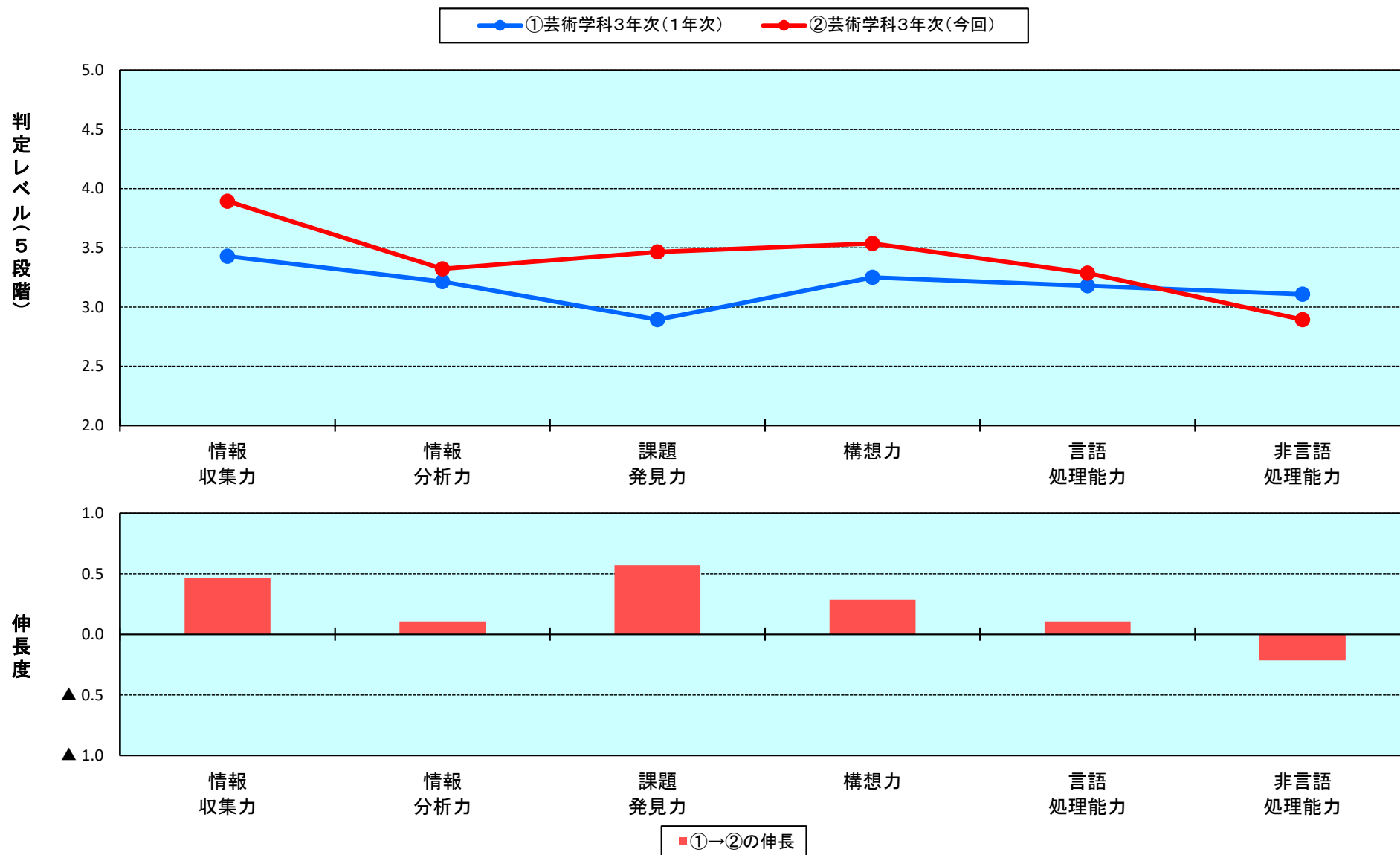


リテラシー要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年次】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長



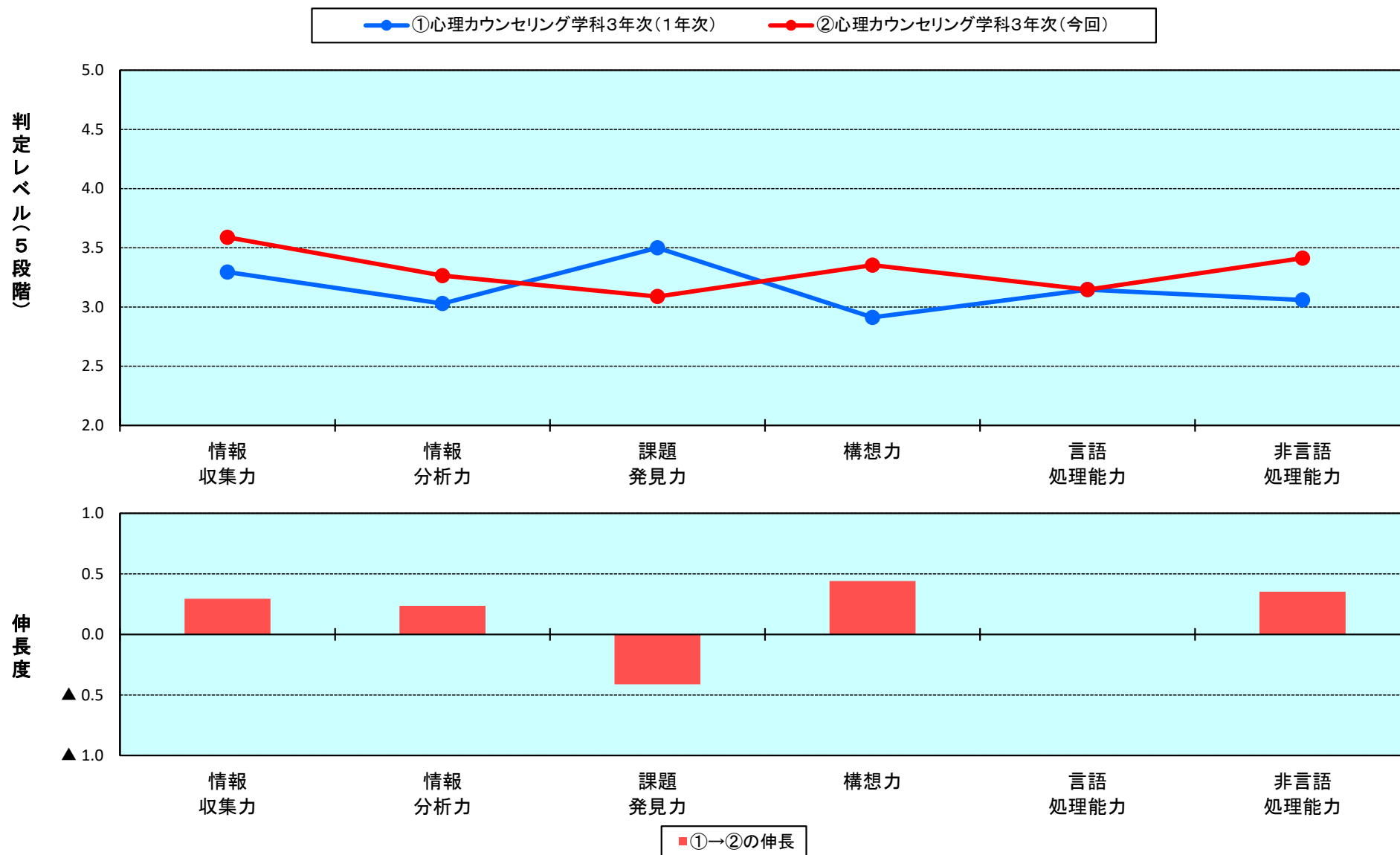
リテラシー要素（成長分析）⑦

【心理カウンセリング学科3年次】

情報収集力、情報分析力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、課題発見力は、1年次受験のスコアを下回る。

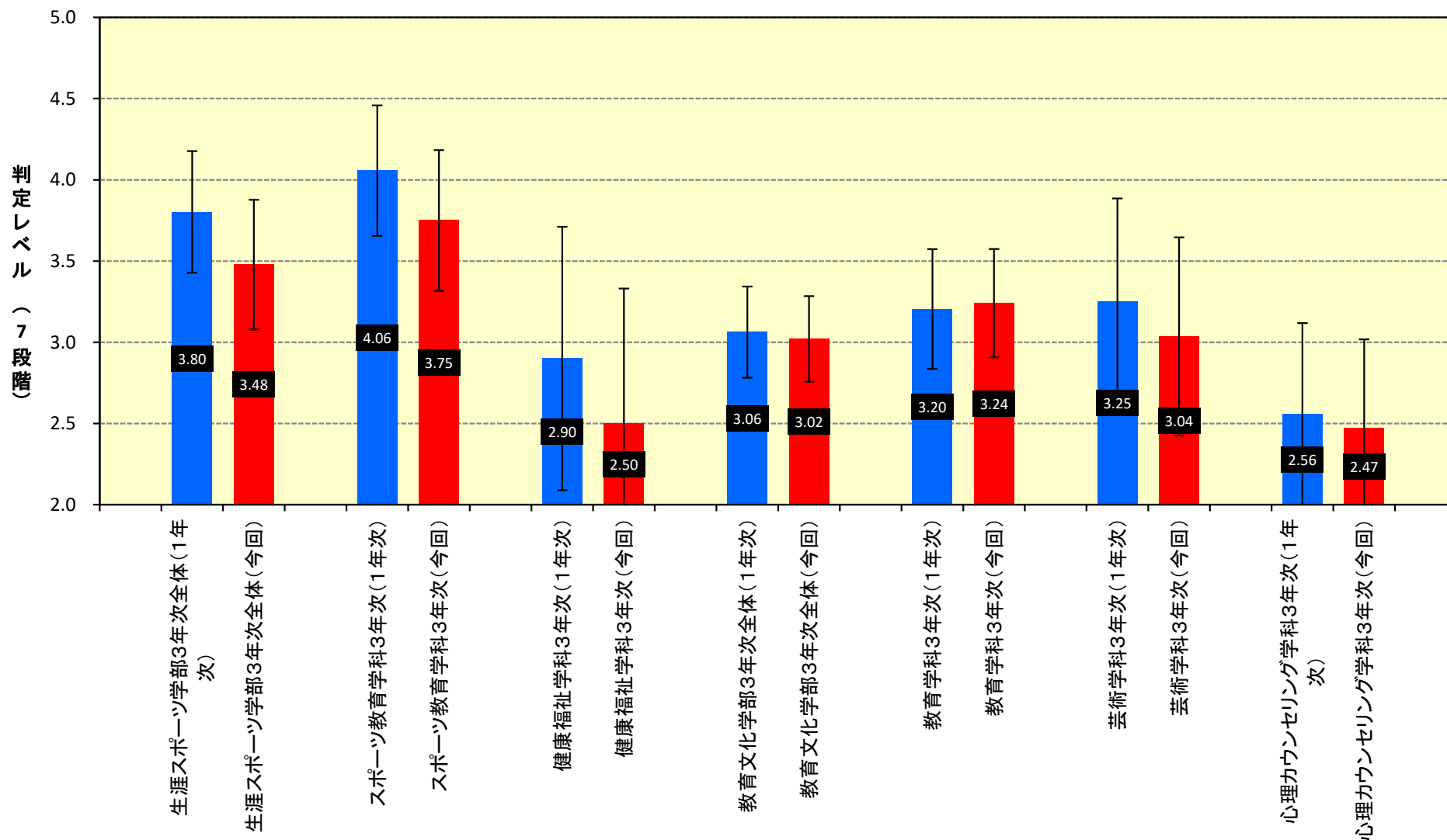
リテラシー要素 の伸長



コンピテンシー総合（成長分析）

- 教育学科3年次は、1年次受験のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部3年次全体、スポーツ教育学科3年次、健康福祉学科3年次、教育文化学部3年次全体、芸術学科3年次、心理カウンセリング学科3年次は、1年次受験のスコアを下回る。

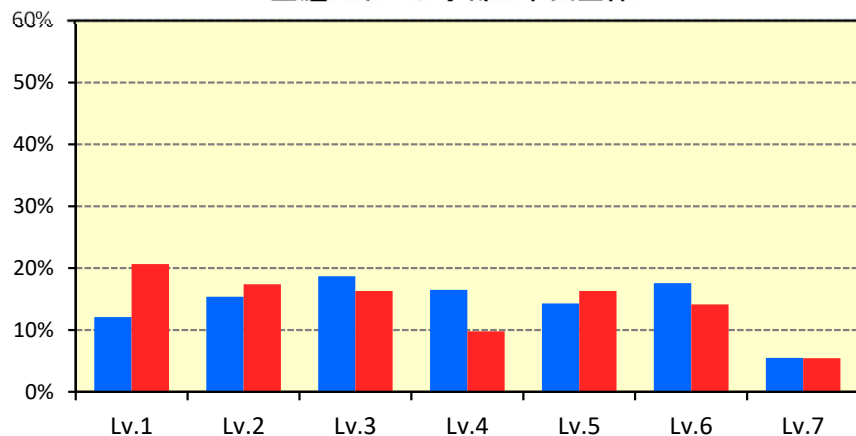
コンピテンシー総合



■ 1年次受験

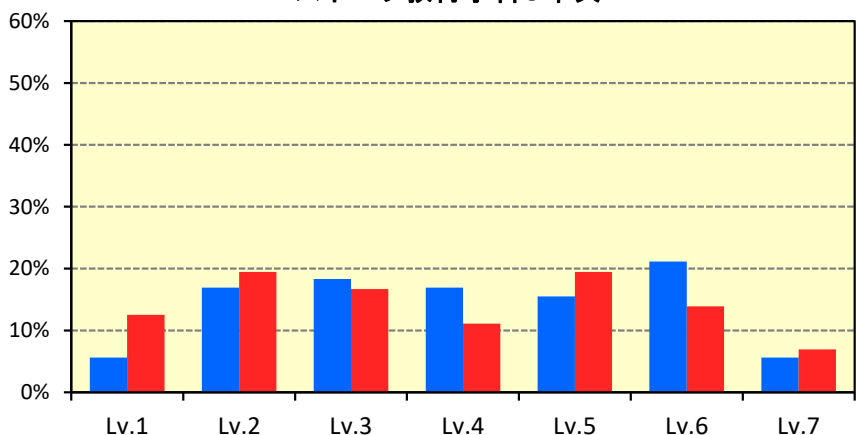
■ 今回受験

生涯スポーツ学部3年次全体



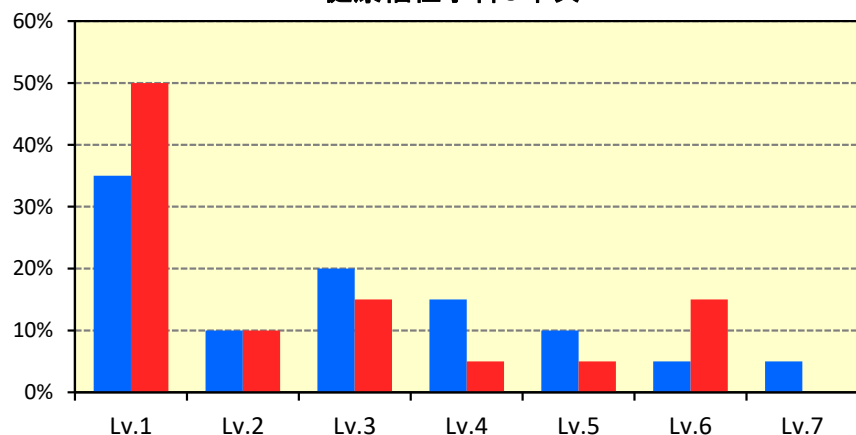
1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

スポーツ教育学科3年次



1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。

健康福祉学科3年次

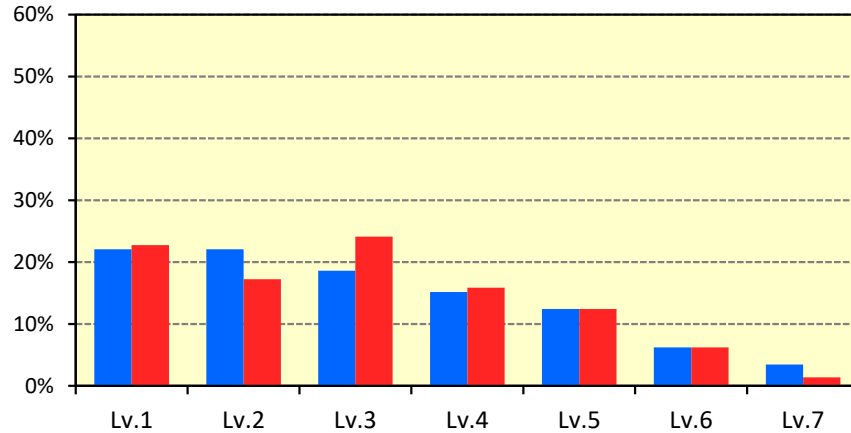


1年次受験に比べて、レベル3～5、レベル7のボリュームが小さく、レベル1、レベル6の割合が大きい。

■ 1年次受験

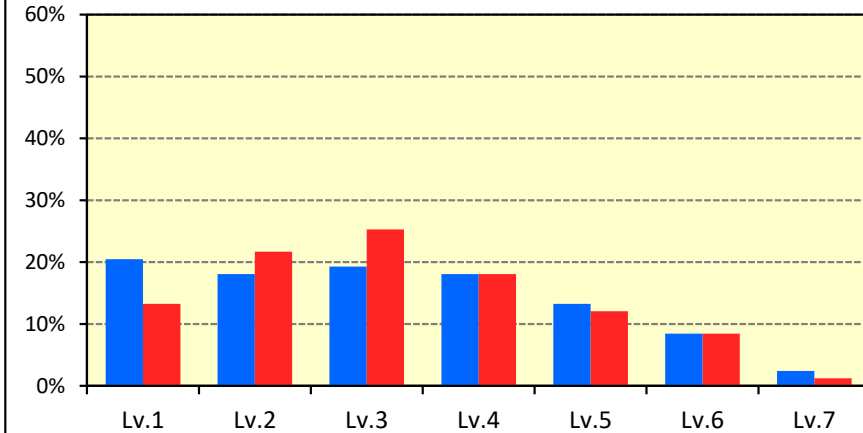
■ 今回受験

教育文化学部3年次全体



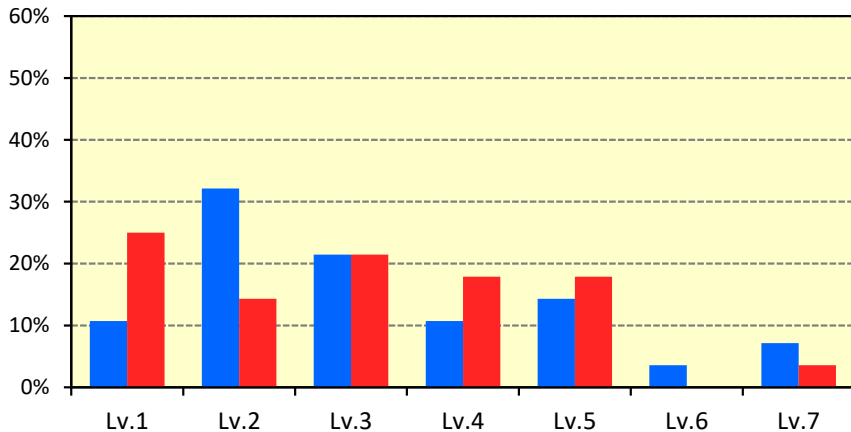
1年次受験に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。

教育学科3年次



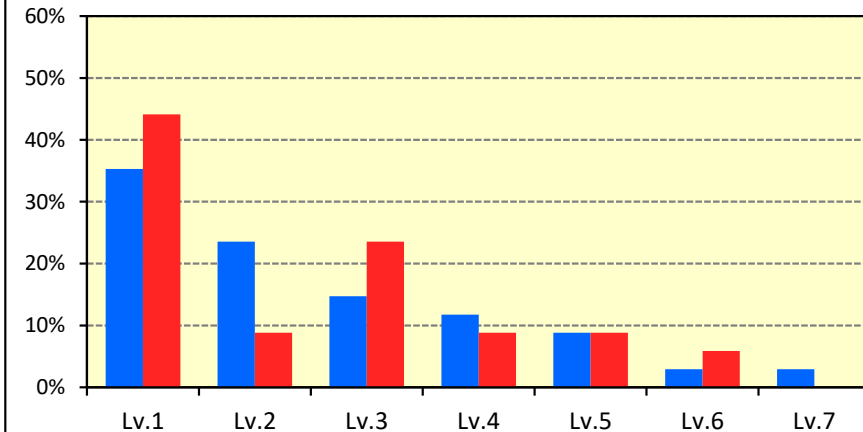
1年次受験に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。

芸術学科3年次



1年次受験に比べて、レベル2、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル1、レベル4～5のボリュームが大きい。

心理カウンセリング学科3年次



1年次受験に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル1、レベル3の割合が大きい。

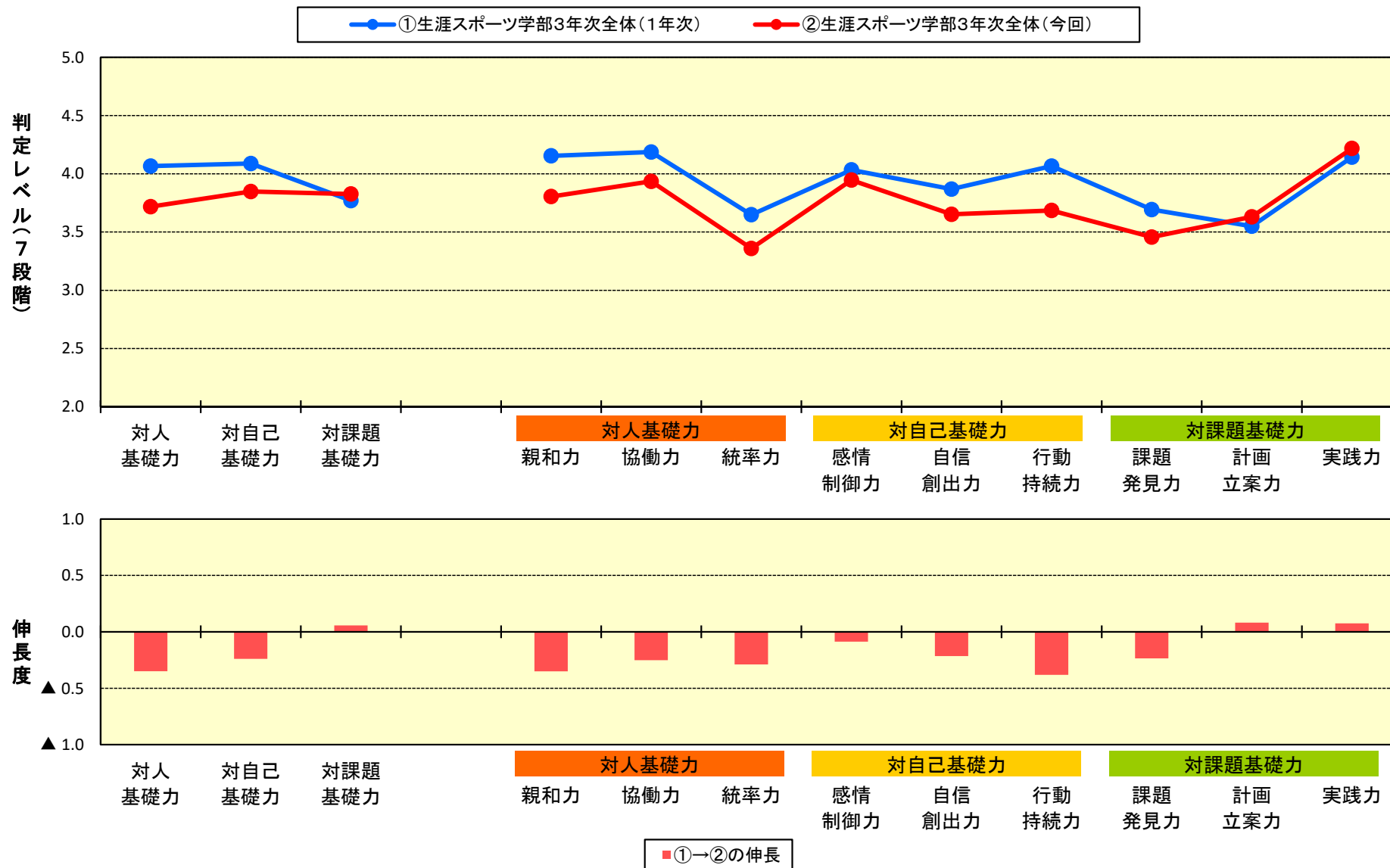
コンピテンシー大分類要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

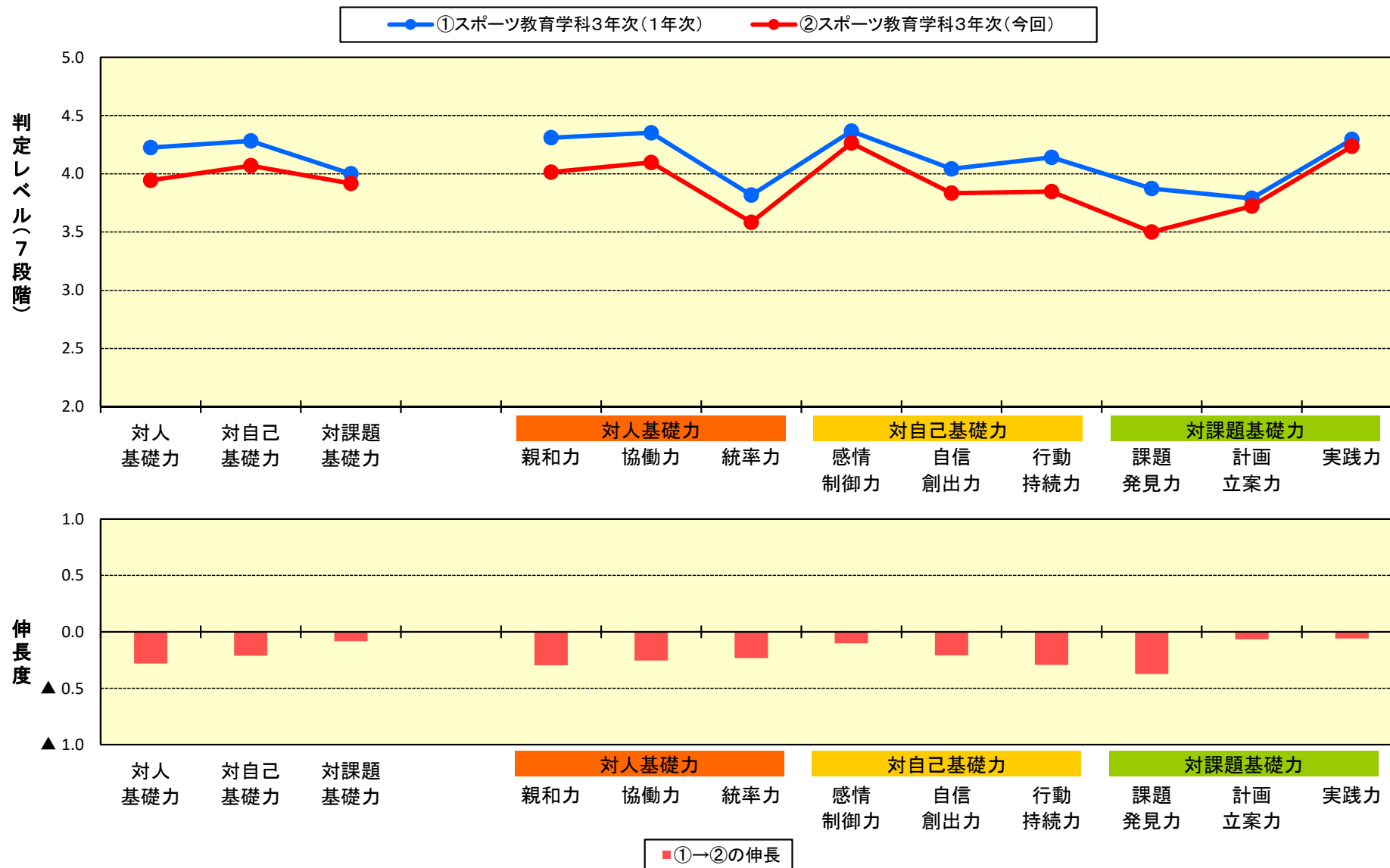


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年次】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



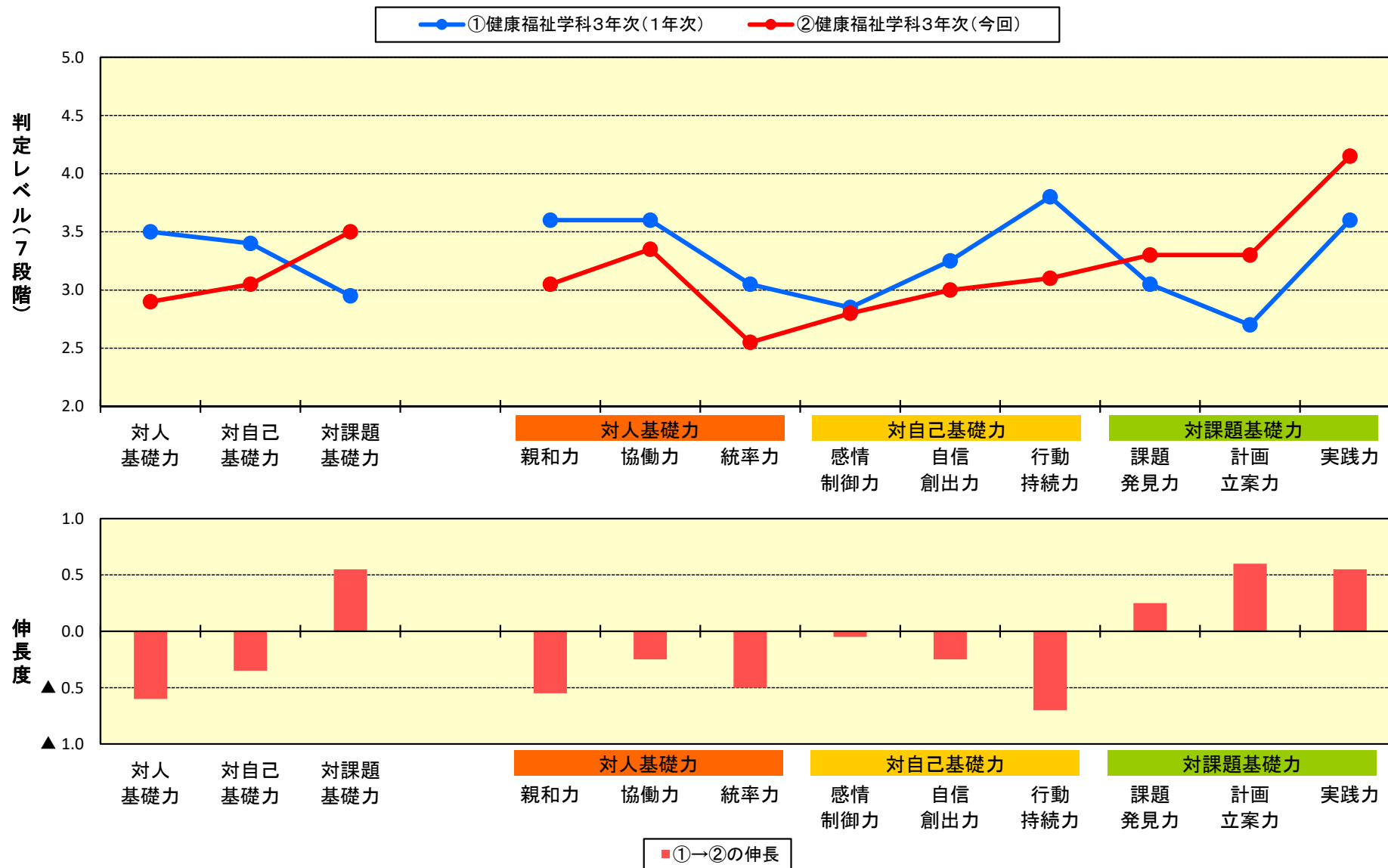
コンピテンシー大分類要素（成長分析）③

【健康福祉学科3年次】

課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



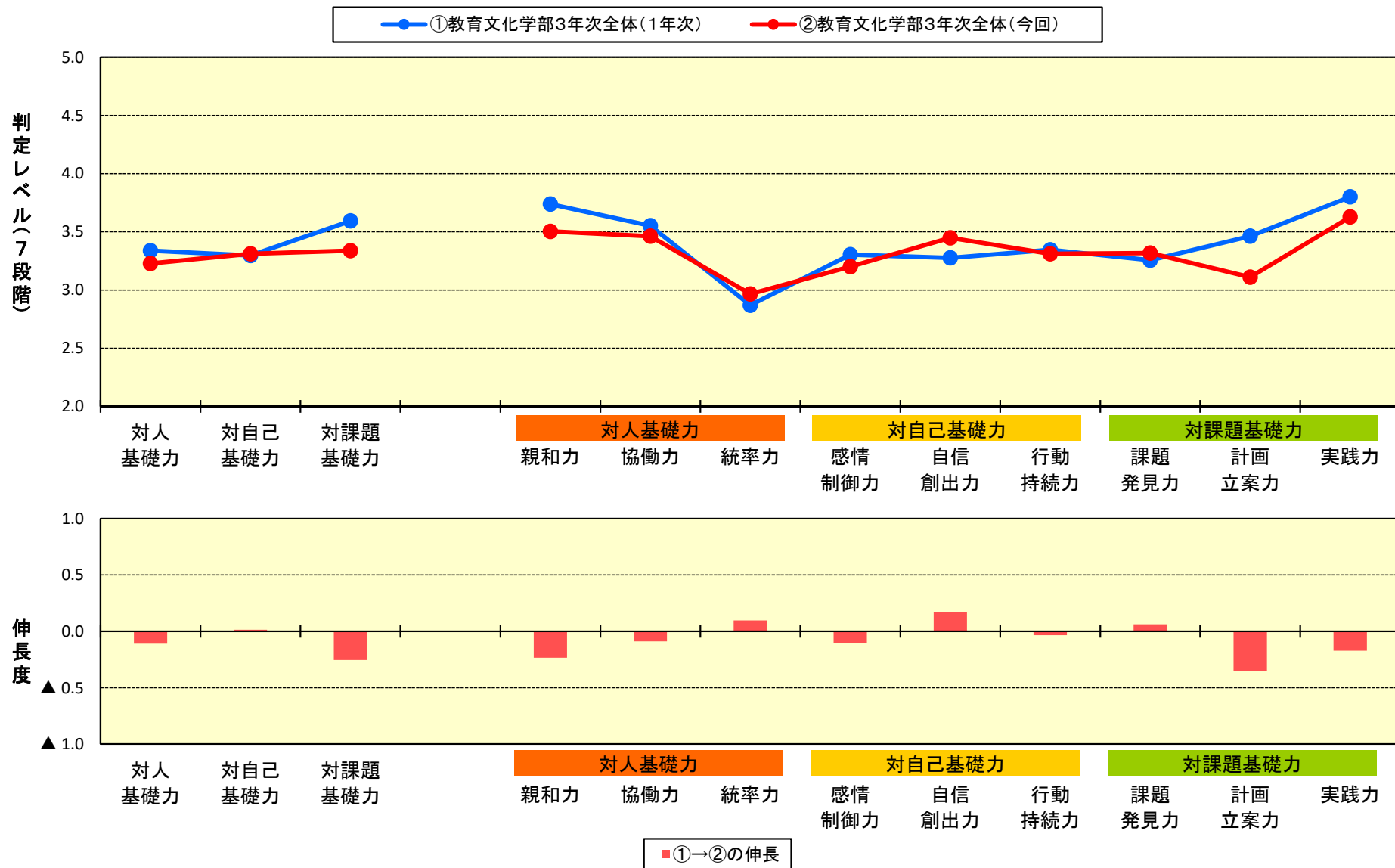
コンピテンシー大分類要素（成長分析）④

【教育文化学部3年次全体】

統率力、自信創出力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、行動持続力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



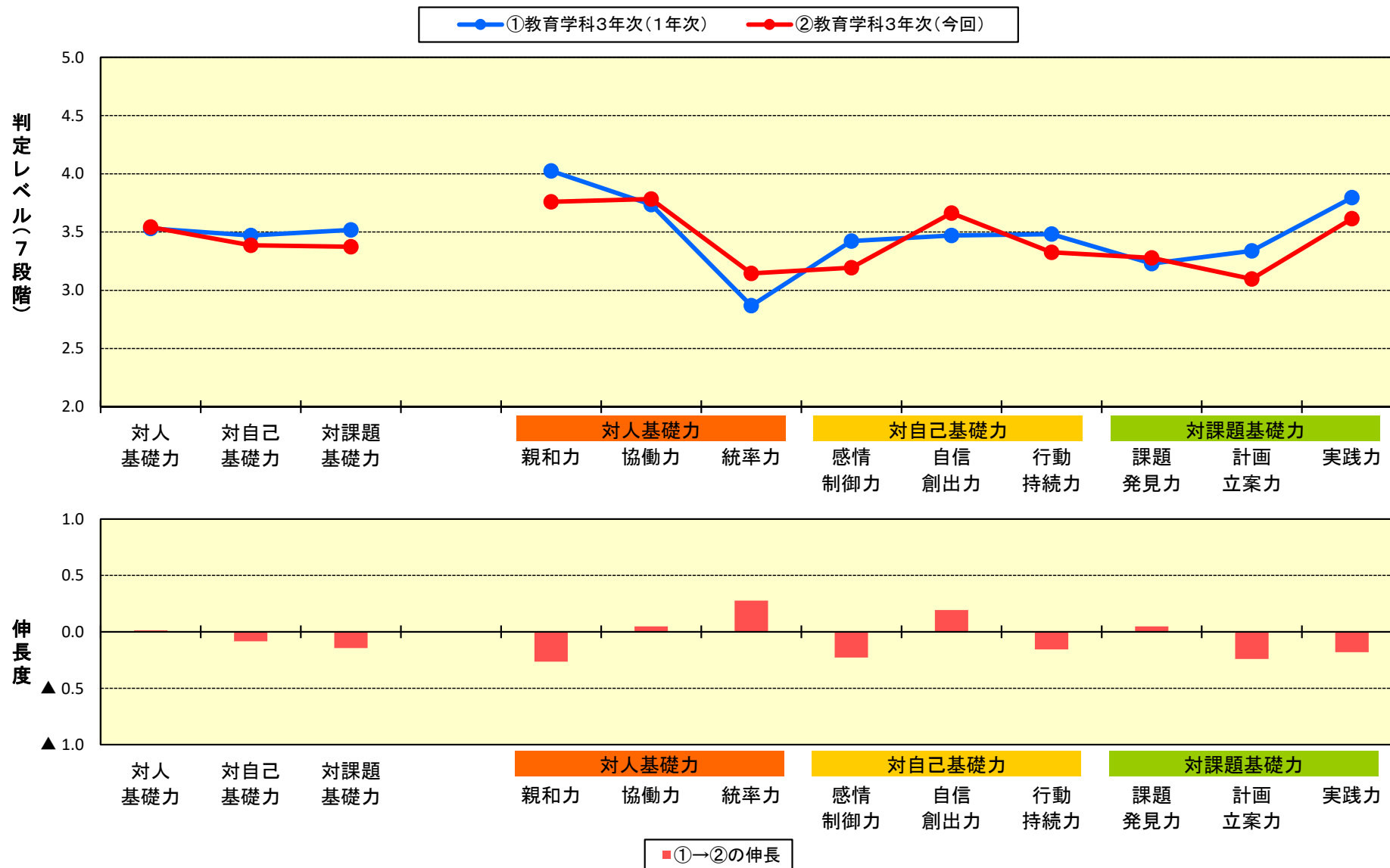
コンピテンシー大分類要素（成長分析）⑤

【教育学科3年次】

協働力、統率力、自信創出力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、感情制御力、行動持続力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



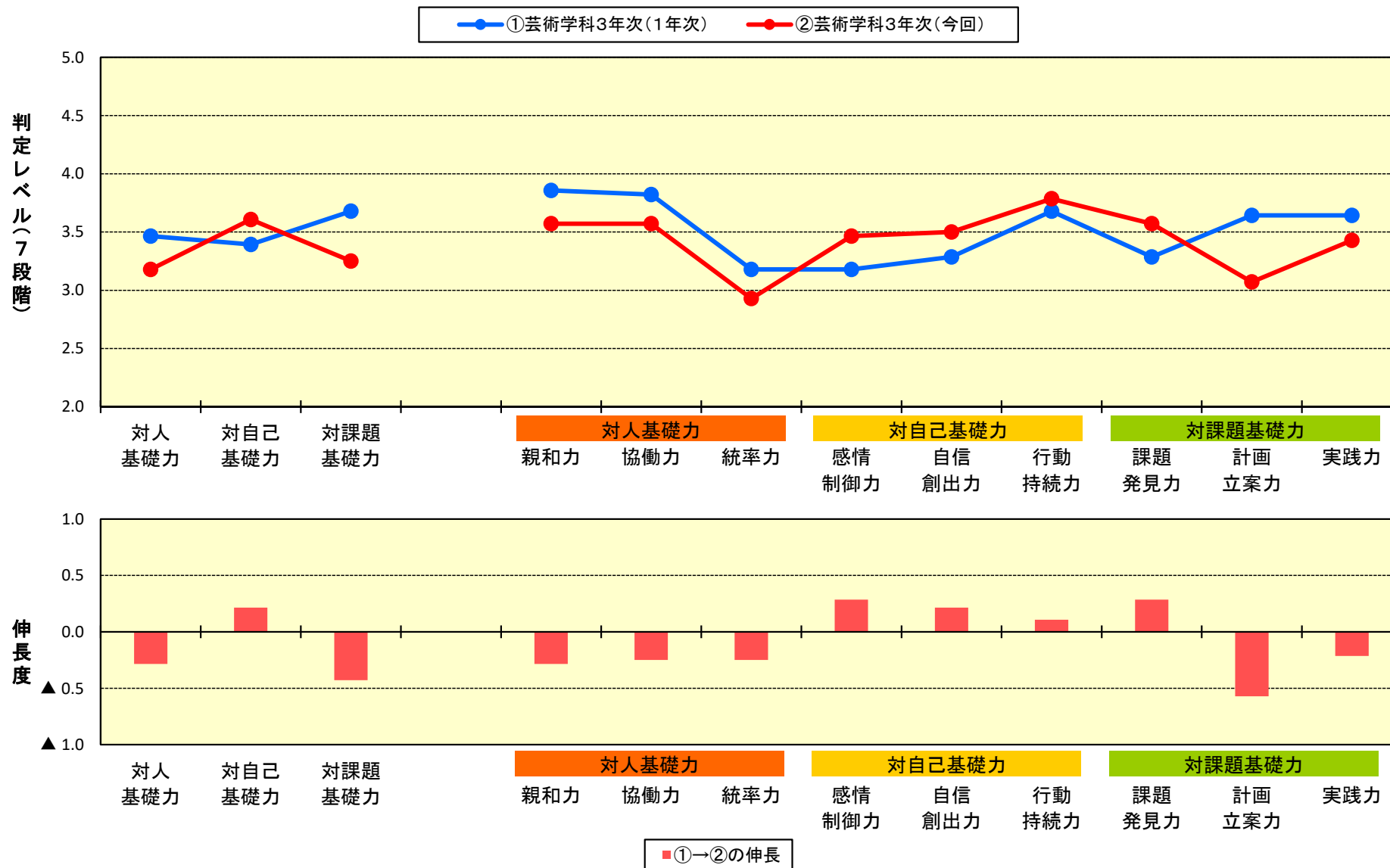
コンピテンシー大分類要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年次】

感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



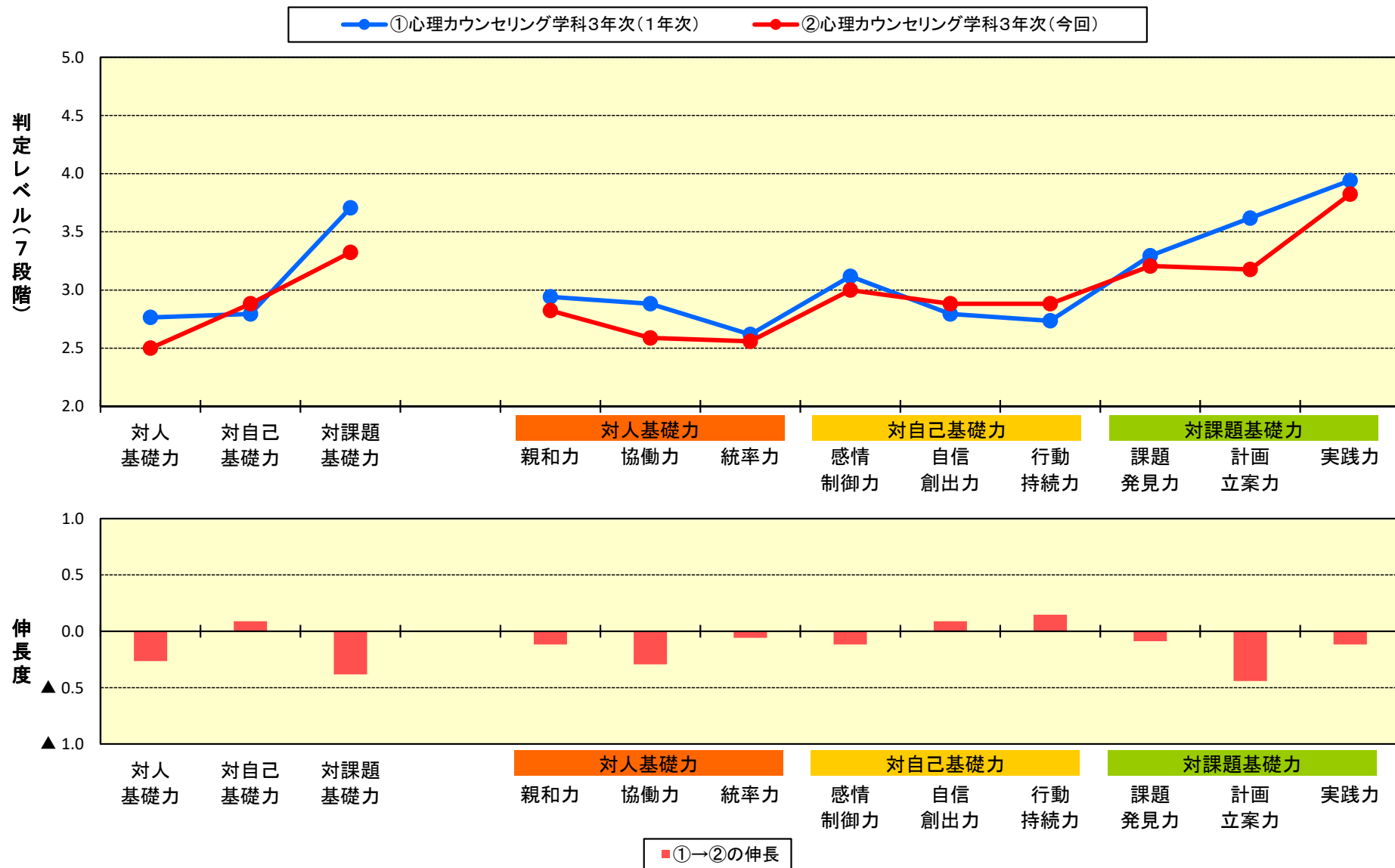
コンピテンシー大分類要素（成長分析）⑦

【心理カウンセリング学科3年次】

自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

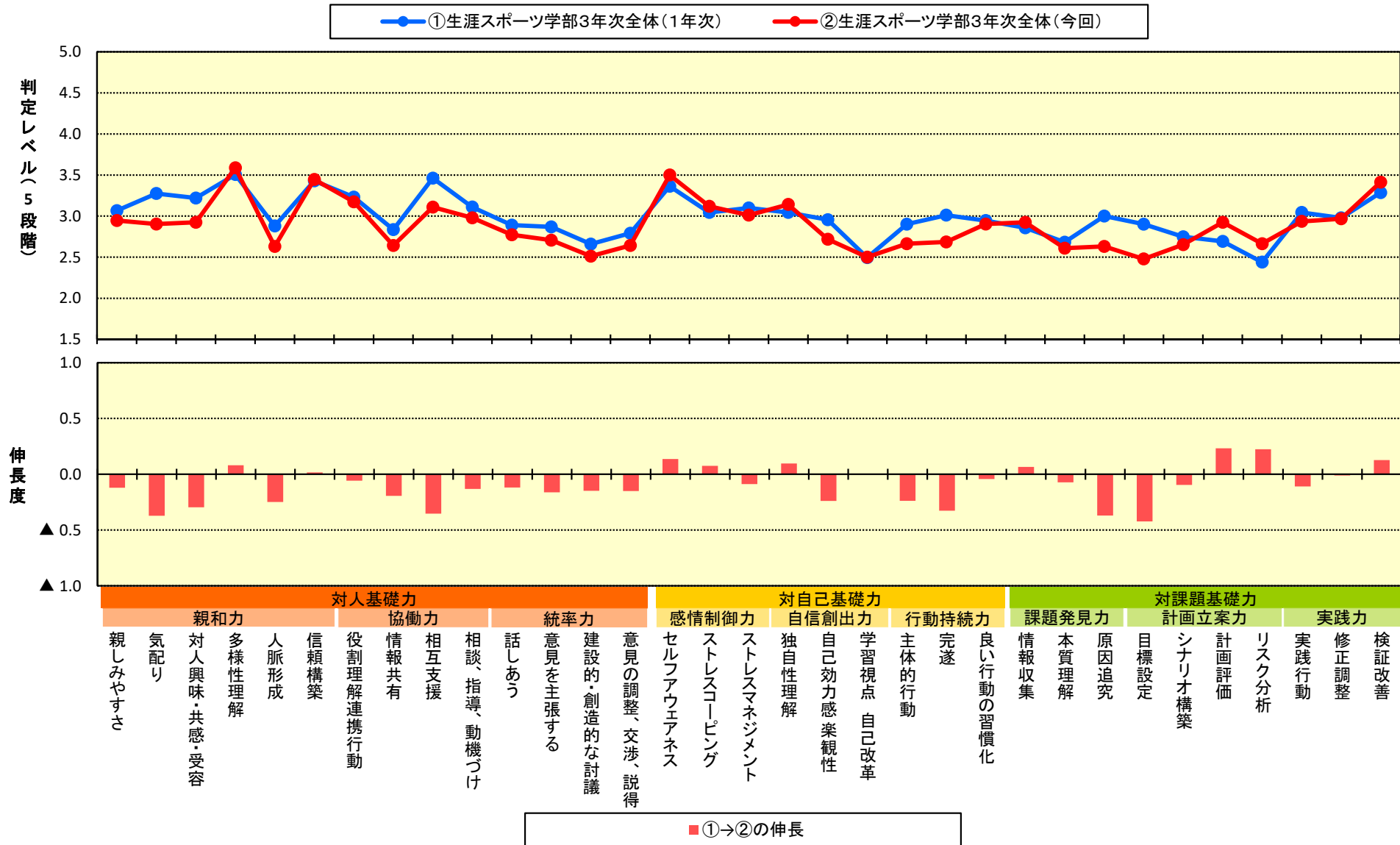
コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー小分類要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年次全体】

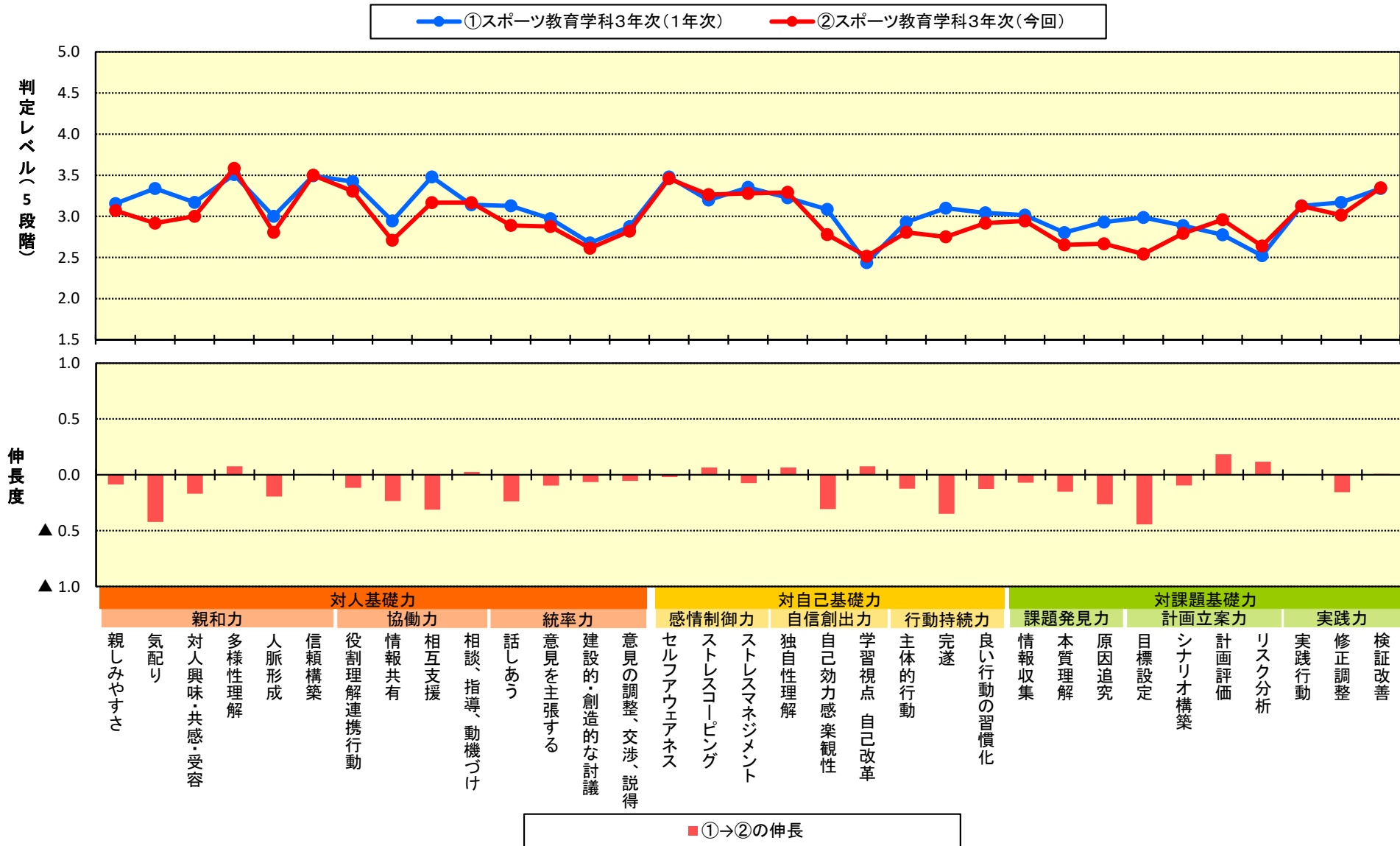
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年次】

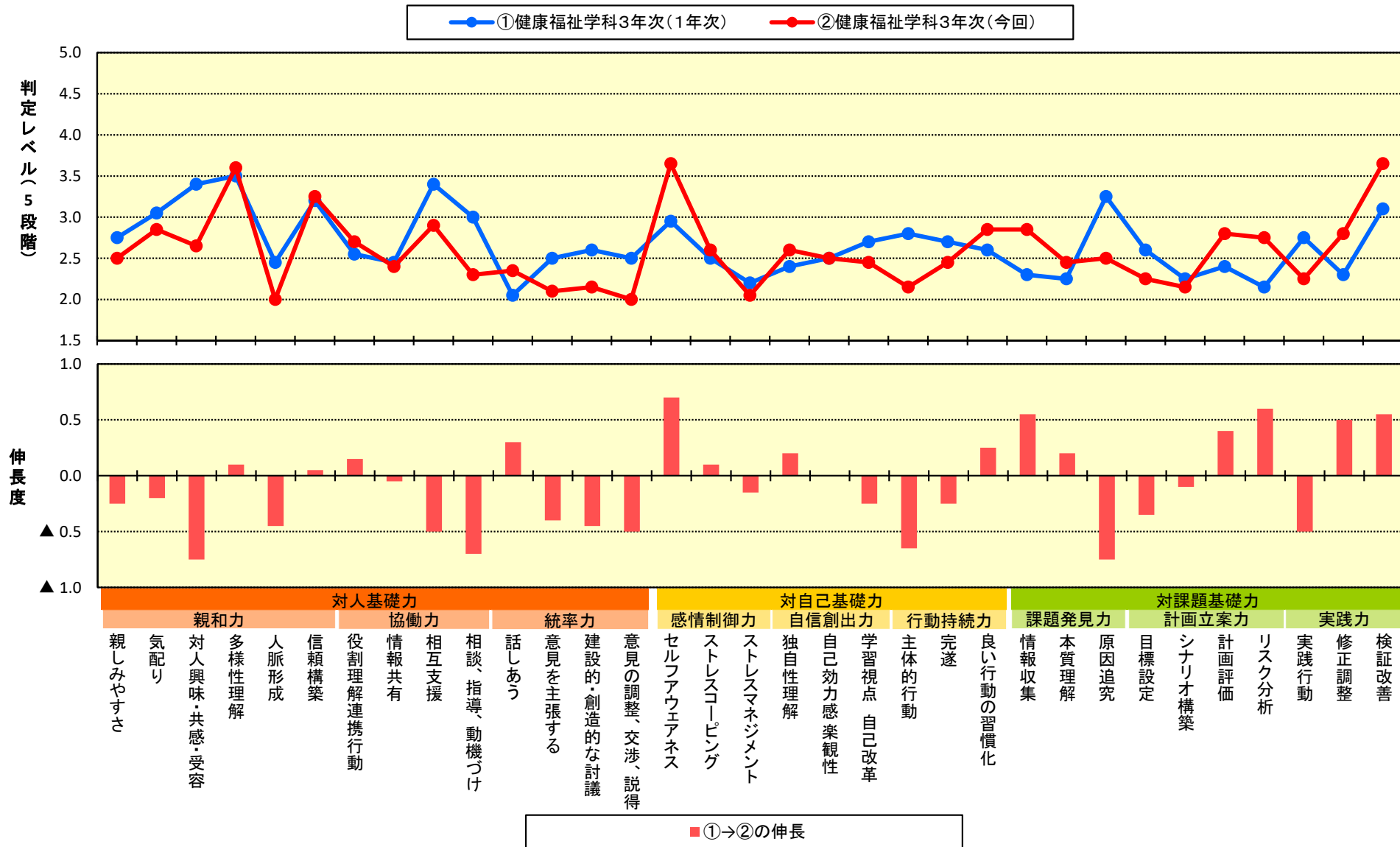
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（成長分析）③

【健康福祉学科3年次】

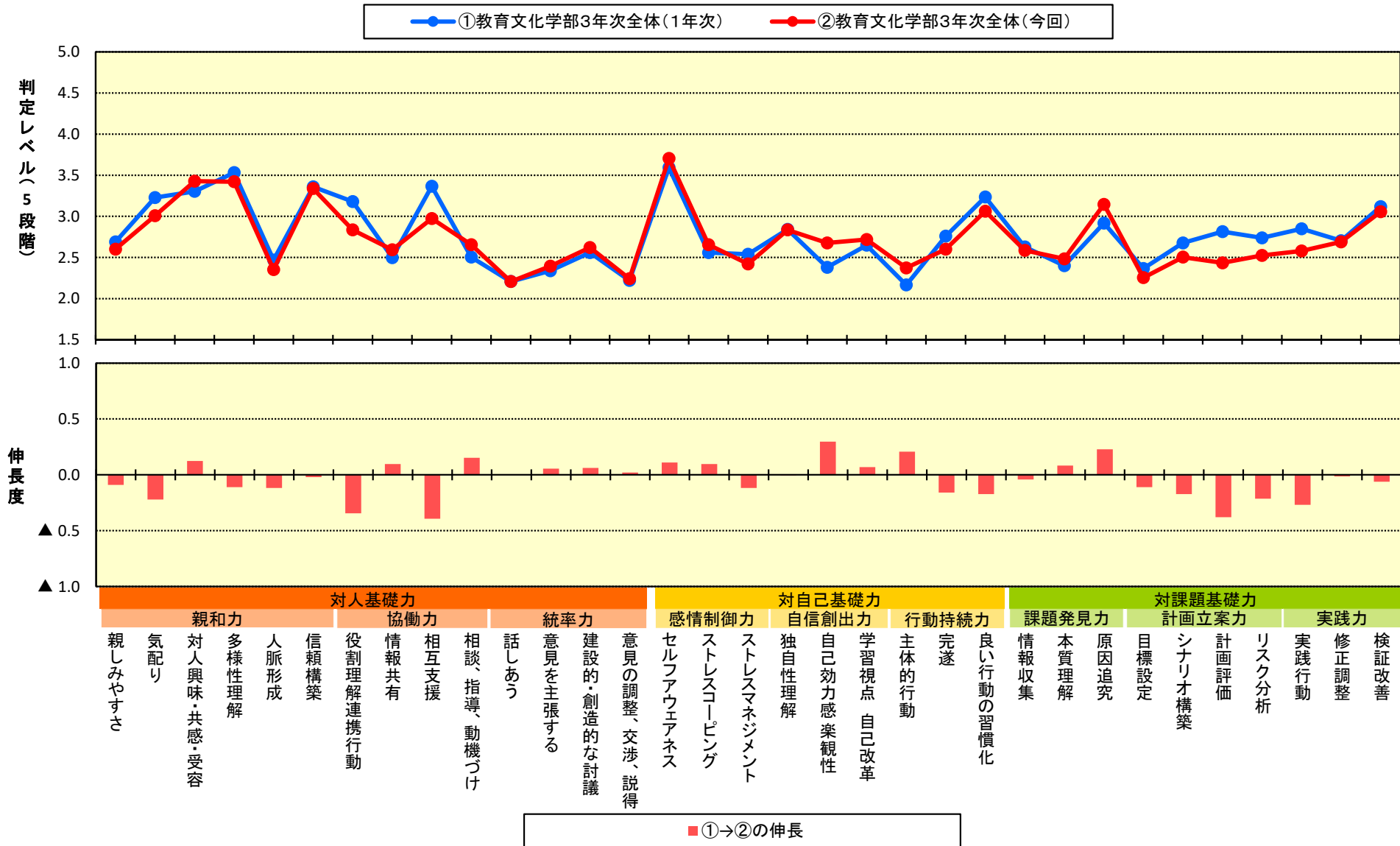
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（成長分析）④

【教育文化学部3年次全体】

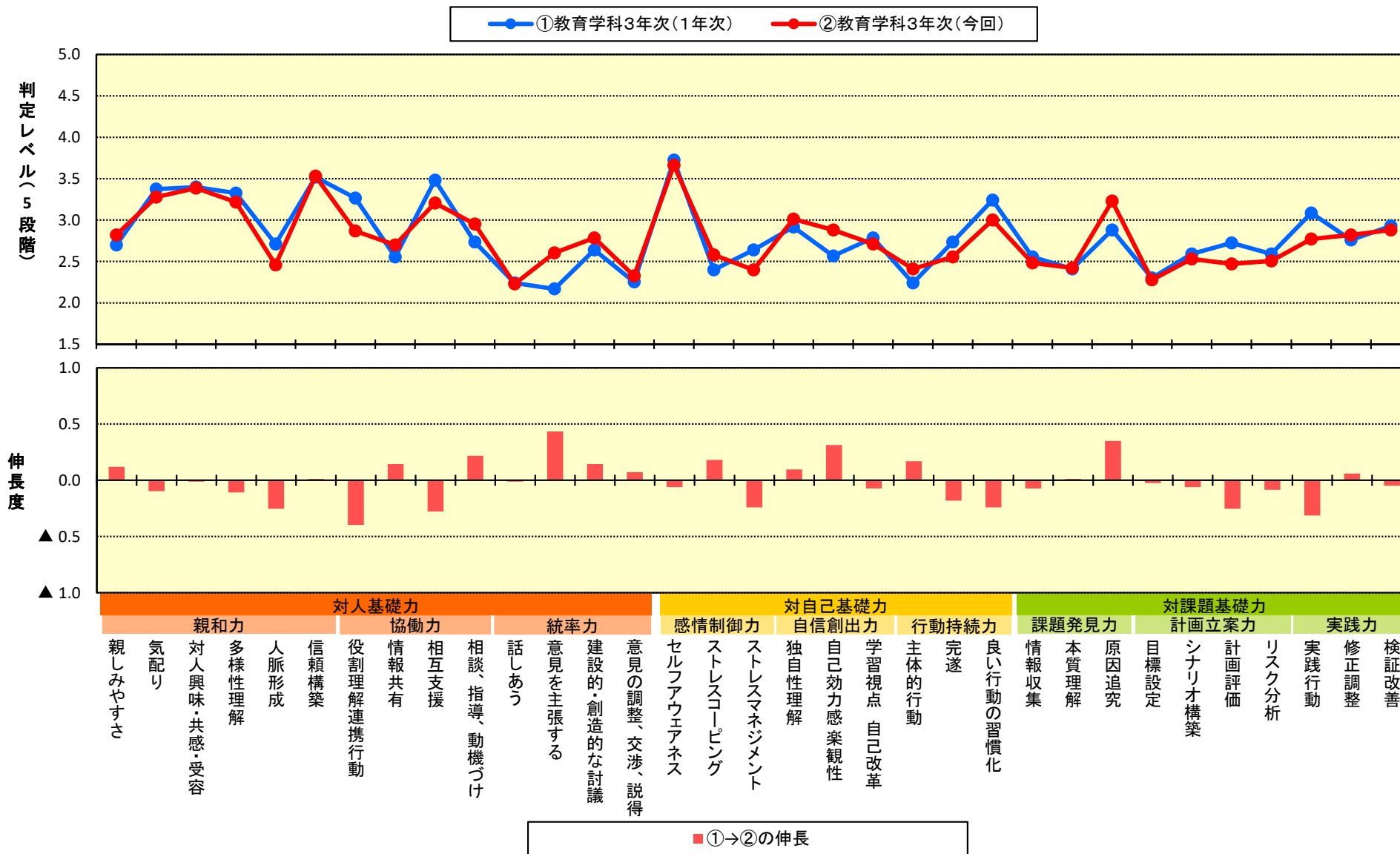
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（成長分析）⑤

【教育学科3年次】

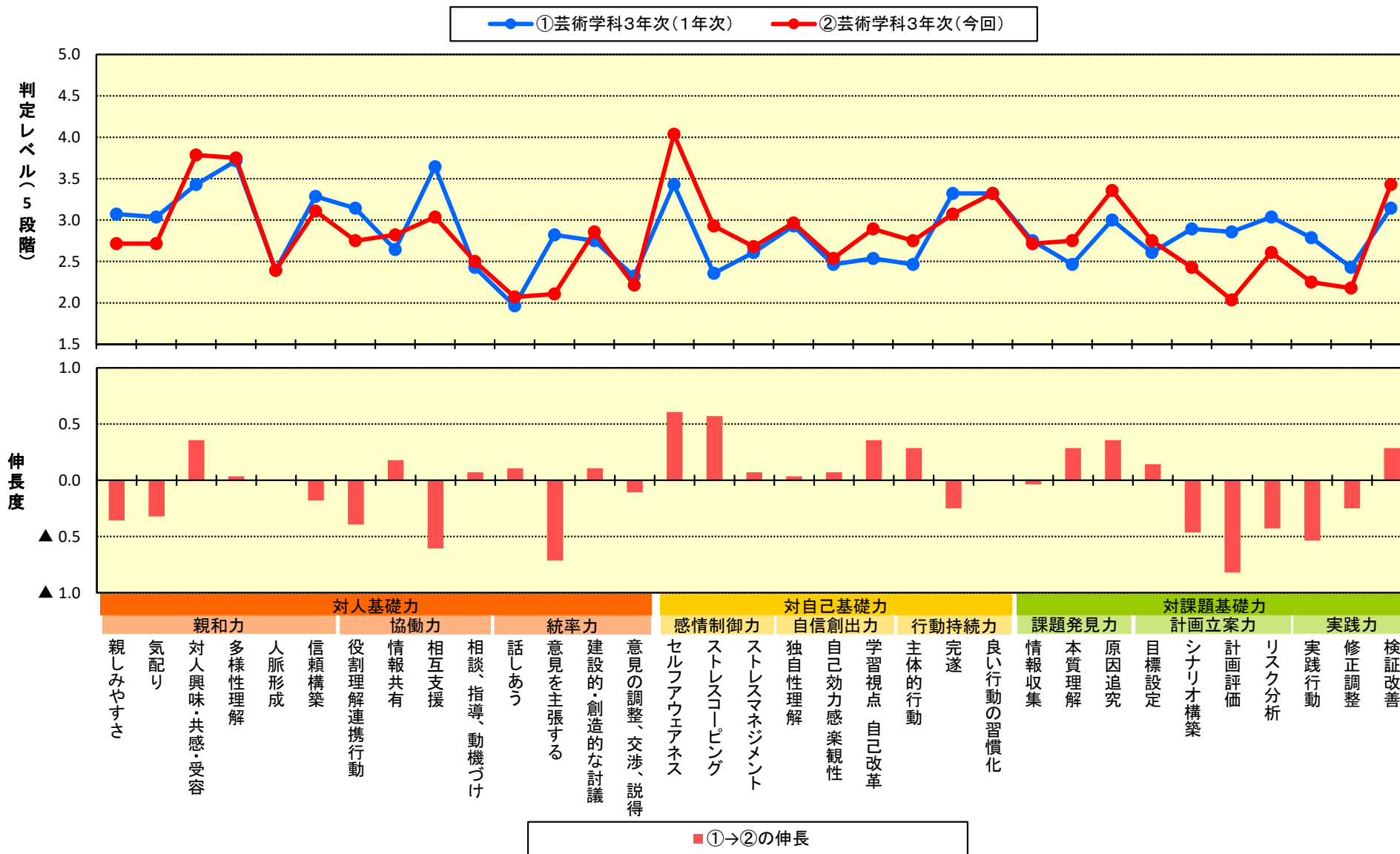
コンピテンシー小分類要素



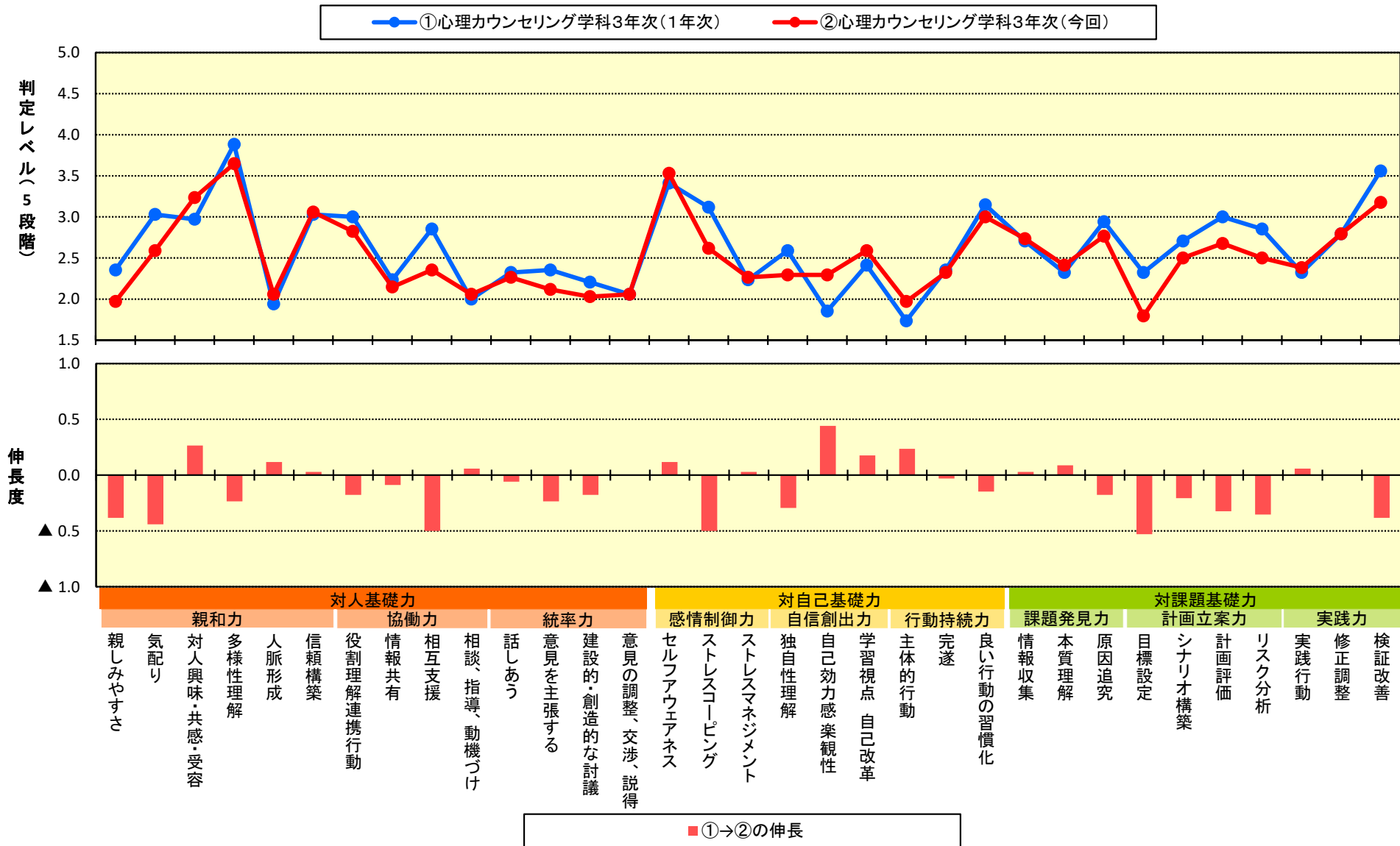
コンピテンシー小分類要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年次】

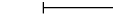
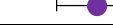
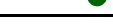
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素



ループリック リテラシー領域 情報収集力・情報分析力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	- 情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる - 情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする - アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う	簡単な情報収集の仕方について、理解している		様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.4					
		スポーツ教育学科 3 年次	3.3					
		健康福祉学科 3 年次	3.7					
		教育文化学部 3 年次全体	3.5					
		教育学科 3 年次	3.4					
		芸術学科 3 年次	3.8					
		心理カウンセリング学科 3 年次	3.4					
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.3					
		私立大学 3 年	3.5					

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方	簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.4				
		スポーツ教育学科 3 年次	3.4				
		健康福祉学科 3 年次	3.4				
		教育文化学部 3 年次全体	3.3				
		教育学科 3 年次	3.2				
		芸術学科 3 年次	3.3				
		心理カウンセリング学科 3 年次	3.2				
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.2				
		私立大学 3 年	3.4				

ループリック リテラシー領域 課題発見力・構想力

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.3					
		スポーツ教育学科 3 年次	3.4					
		健康福祉学科 3 年次	3.3					
		教育文化学部 3 年次全体	3.2					
		教育学科 3 年次	3.2					
		芸術学科 3 年次	3.4					
		心理カウンセリング学科 3 年次	3.0					
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.0					
		私立大学 3 年	3.1					

構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業を漏れなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.0					
		スポーツ教育学科 3 年次	3.0					
		健康福祉学科 3 年次	3.0					
		教育文化学部 3 年次全体	3.3					
		教育学科 3 年次	3.2					
		芸術学科 3 年次	3.5					
		心理カウンセリング学科 3 年次	3.2					
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.0					
		私立大学 3 年	3.1					

ループリック コンピテンシー領域 対人基礎力

コンピテンシー（対人）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受け入れる。また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	4.0							
		スポーツ教育学科 3 年次	4.2							
		健康福祉学科 3 年次	3.2							
		教育文化学部 3 年次全体	3.5							
		教育学科 3 年次	3.7							
		芸術学科 3 年次	3.8							
		心理カウンセリング学科 3 年次	3.0							
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.6							
		私立大学 3 年	3.6							
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	4.1							
		スポーツ教育学科 3 年次	4.3							
		健康福祉学科 3 年次	3.4							
		教育文化学部 3 年次全体	3.4							
		教育学科 3 年次	3.7							
		芸術学科 3 年次	3.6							
		心理カウンセリング学科 3 年次	2.7							
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.5							
		私立大学 3 年	3.5							
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるることができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話すことができる	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあっても孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
		生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.4							
		スポーツ教育学科 3 年次	3.7							
		健康福祉学科 3 年次	2.5							
		教育文化学部 3 年次全体	3.0							
		教育学科 3 年次	3.1							
		芸術学科 3 年次	3.3							
		心理カウンセリング学科 3 年次	2.7							
		私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.0							
		私立大学 3 年	3.0							

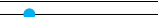
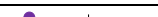
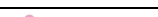
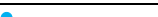
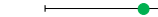
ループリック コンピテンシー領域 対自己基礎力

コンピテンシー（対自己）	定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制御力	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなししていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
	生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.9							
	スポーツ教育学科 3 年次	4.2							
	健康福祉学科 3 年次	2.8							
	教育文化学部 3 年次全体	3.3							
	教育学科 3 年次	3.2							
	芸術学科 3 年次	3.7							
	心理カウンセリング学科 3 年次	3.1							
	私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.3							
	私立大学 3 年	3.3							

自信創出力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力	・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
	生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.7							
	スポーツ教育学科 3 年次	3.9							
	健康福祉学科 3 年次	3.0							
	教育文化学部 3 年次全体	3.4							
	教育学科 3 年次	3.5							
	芸術学科 3 年次	3.6							
	心理カウンセリング学科 3 年次	3.0							
	私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.2							
	私立大学 3 年	3.2							

行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力	・人からの指示を待つて行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みよう心がけている	・任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
	生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.8							
	スポーツ教育学科 3 年次	3.9							
	健康福祉学科 3 年次	3.1							
	教育文化学部 3 年次全体	3.4							
	教育学科 3 年次	3.4							
	芸術学科 3 年次	3.9							
	心理カウンセリング学科 3 年次	3.0							
	私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.4							
	私立大学 3 年	3.3							

ループリック コンピテンシー領域 対課題基礎力

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題 発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなるがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
			生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.5						
			スポーツ教育学科 3 年次	3.6						
			健康福祉学科 3 年次	3.3						
			教育文化学部 3 年次全体	3.3						
			教育学科 3 年次	3.3						
			芸術学科 3 年次	3.4						
			心理カウンセリング学科 3 年次	3.3						
			私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.5						
			私立大学 3 年	3.5						
計画 立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえ具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなるがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの分担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
			生涯スポーツ学部 3 年次全体	3.7						
			スポーツ教育学科 3 年次	3.8						
			健康福祉学科 3 年次	3.2						
			教育文化学部 3 年次全体	3.2						
			教育学科 3 年次	3.2						
			芸術学科 3 年次	3.0						
			心理カウンセリング学科 3 年次	3.2						
			私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.4						
			私立大学 3 年	3.4						
実践 力	実践行動をとる	計画をすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることもしない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功が失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる
			生涯スポーツ学部 3 年次全体	4.2						
			スポーツ教育学科 3 年次	4.2						
			健康福祉学科 3 年次	3.9						
			教育文化学部 3 年次全体	3.6						
			教育学科 3 年次	3.6						
			芸術学科 3 年次	3.3						
			心理カウンセリング学科 3 年次	3.8						
			私立大学 3 年（入試難易度（偏差値）40未満）	3.6						
			私立大学 3 年	3.7						

Part.10

学生アンケートと基礎力の関連分析 ＜2024年度1年生、3年生、短期大学1年生＞

※WEB受験を実施した1・3年次について、解答姿勢が低かったと想定される学生のスコアを除いて分析を実施しました。
アンケート集計は全回答を集計しています。

北翔大学1年次

調査概要

- 調査対象：PROGとアンケートに回答した1年次393名
- PROG受験時期：2024年5月～6月

●相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといいます。一般的には0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関があるとしています。

●有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5 %有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。

0.01以下であれば1 %有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

※以下のように得点化し、相関分析を実施している

設問	5点	4点	3点	2点	1点
Q3～Q5			①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない
Q6		①全く不安はない	②あまり不安はない	③少し不安である	④とても不安である
Q7		①はっきりとした考えがある	②これから考える	③考えているがはっきりしていない	④まったく考えていない
Q8		①とても楽しみだ	②まあ楽しみだ	③あまり楽しみでない	④全く楽しみでない
Q9～Q10		①大変満足している	②満足している	③あまり満足していない	④満足していない
Q11		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心に取り組んでいない	④熱心に取り組んでいない
Q13		①とても感じている	②やや感じている	③あまり感じていない	④まったく感じない
Q14		①とてもそう思う	②まあそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない

設問	3点	2.5点	1.5点	1点	0点
Q12	①3時間以上	②2時間～3時間	③1時間～2時間	④1時間程度	⑤していない

- 基礎力伸長と各設問との相関係数は以下の通り。
次ページ以降、±0.2以上の相関係数が認められた項目について詳細を見ていく。

相関係数

【全体】N=393 (ただし各設問無回答は除く)

** 相関係数は 1 %水準で有意
* 相関係数は 5%水準で有意

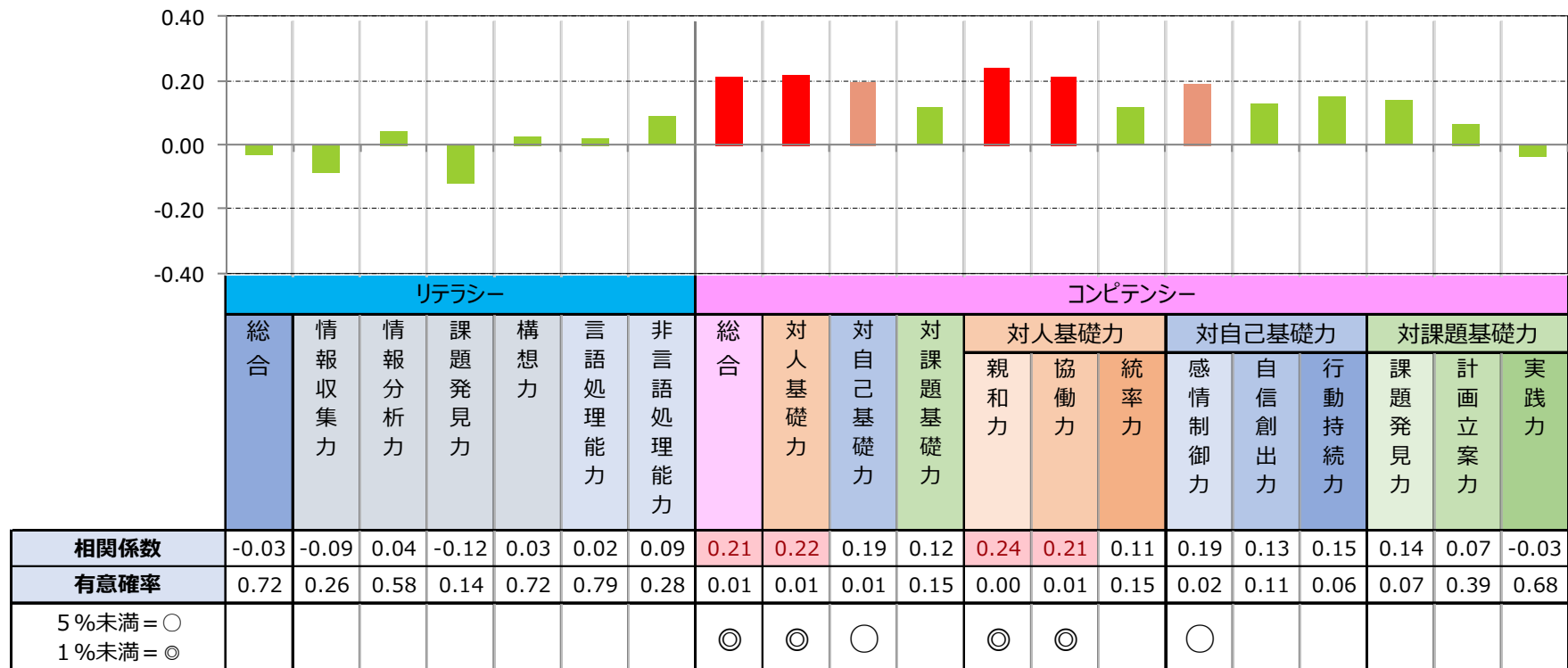
0.2以上 0.3未満	0.3以上 0.35未満	0.35以上
----------------	-----------------	--------

	リテラシー								コンピテンシー											
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語 処理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
												親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.18*	-0.06	-0.05	-0.08	-0.11	-0.09	-0.16*	0.03	0.06	0.10	-0.07	0.04	0.16*	-0.02	0.04	0.06	0.14	-0.08	-0.03	0.00
Q4.ボランティア活動についてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.03	-0.09	0.04	-0.12	0.03	0.02	0.09	0.21**	0.22**	0.19*	0.12	0.24**	0.21**	0.11	0.19*	0.13	0.15	0.14	0.07	-0.03
Q5.アルバイトについてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.03	-0.15*	-0.06	-0.12	-0.02	-0.03	0.03	0.13	0.13	0.11	0.05	0.22**	0.07	0.06	0.12	0.07	0.11	0.11	0.04	-0.07
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。(ひとつ選択)	0.08	0.06	-0.05	0.01	0.11	-0.07	0.12*	0.07	0.05	0.08	0.12*	0.04	0.07	0.05	-0.01	0.11	0.06	0.12*	0.11	0.07
Q7.あなたは卒業後の進路(就職・公務員・教員・進学・留学など)について、現在どのような考えを持っていますか。(ひとつ選択)	-0.08	-0.01	-0.06	-0.07	-0.06	-0.06	-0.04	0.29**	0.29**	0.23**	0.04	0.32**	0.29**	0.12*	0.16**	0.17**	0.25**	0.10	0.00	0.02
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。(ひとつ選択)	-0.05	-0.06	-0.10	-0.01	-0.04	-0.10	0.05	0.28**	0.2**	0.28**	0.14*	0.19**	0.24**	0.12*	0.2**	0.27**	0.19**	0.14*	0.10	0.06
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。(ひとつ選択)	-0.08	0.05	-0.18**	-0.08	-0.04	-0.10	-0.01	0.11	0.10	0.07	0.07	0.16**	0.18**	-0.07	0.05	0.09	0.10	0.07	0.04	0.10
Q10.北翔大学の教育内容についてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.04	0.00	-0.13*	-0.03	0.00	-0.06	0.02	0.08	0.10	0.05	0.07	0.13*	0.14*	-0.05	0.01	0.09	0.04	0.04	0.04	0.08
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(ひとつ選択)	0.04	0.07	-0.05	-0.02	0.03	0.03	0.03	0.23**	0.18**	0.17**	0.17**	0.22**	0.14*	0.09	0.12*	0.2**	0.16**	0.11	0.16**	0.16**
Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(ひとつ選択)	0.03	-0.02	-0.03	-0.04	0.09	0.04	0.01	0.10	0.14*	-0.01	0.14*	0.17**	0.14*	0.02	-0.01	-0.02	0.07	0.12*	0.10	0.14*
Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。(ひとつ選択)	-0.13*	-0.02	-0.09	-0.17**	-0.03	-0.19**	-0.01	0.13*	0.08	0.12*	0.06	0.09	0.07	0.06	0.08	0.09	0.10	0.08	0.01	0.06
Q14.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。(ひとつ選択)	0.02	0.10	-0.03	-0.07	-0.04	0.02	-0.03	0.03	0.01	-0.01	0.04	0.09	0.09	-0.10	-0.08	0.05	-0.02	-0.03	0.07	0.13*

● Q4. ボランティア活動：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【親和力】【協働力】

■ 基礎力との相関【Q4. ボランティア活動についてお伺いします。（ひとつ選択）】

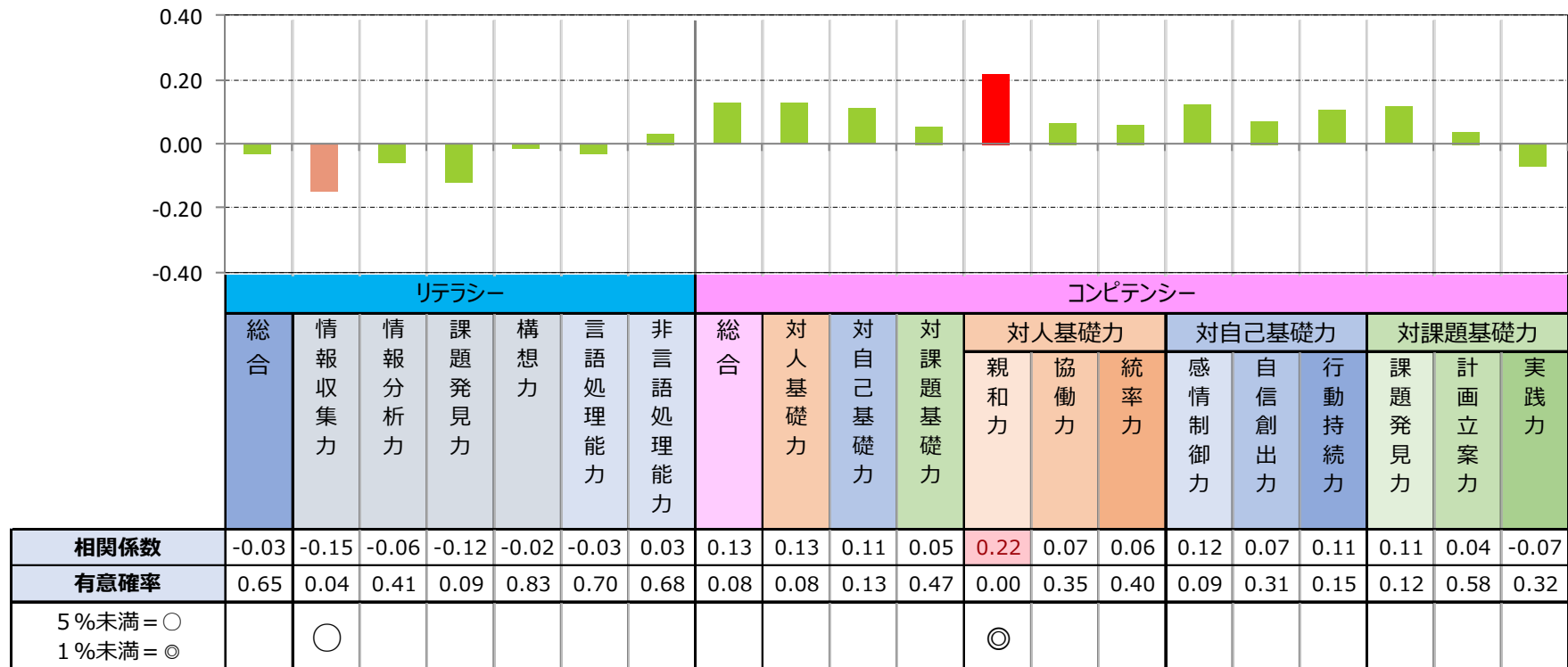
(n=393 *ただし無回答は除く)



●Q5.アルバイト：【親和力】

■基礎力との相関【Q5.アルバイトについてお伺いします。（ひとつ選択）】

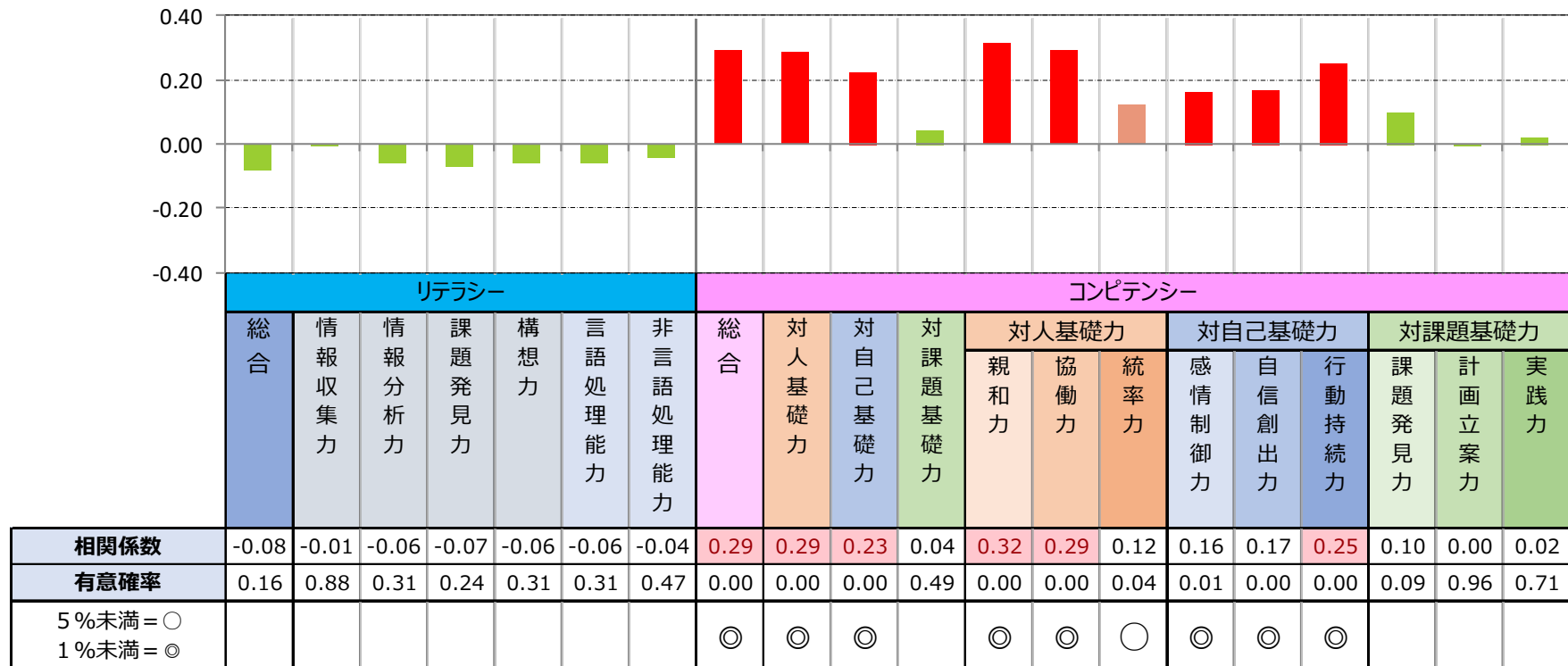
(n=393 *ただし無回答は除く)



● Q7.卒業後の進路の明確度：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【對自己基礎力】【親和力】【協働力】【行動持続力】

■ 基礎力との相関【Q7.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（ひとつ選択）】

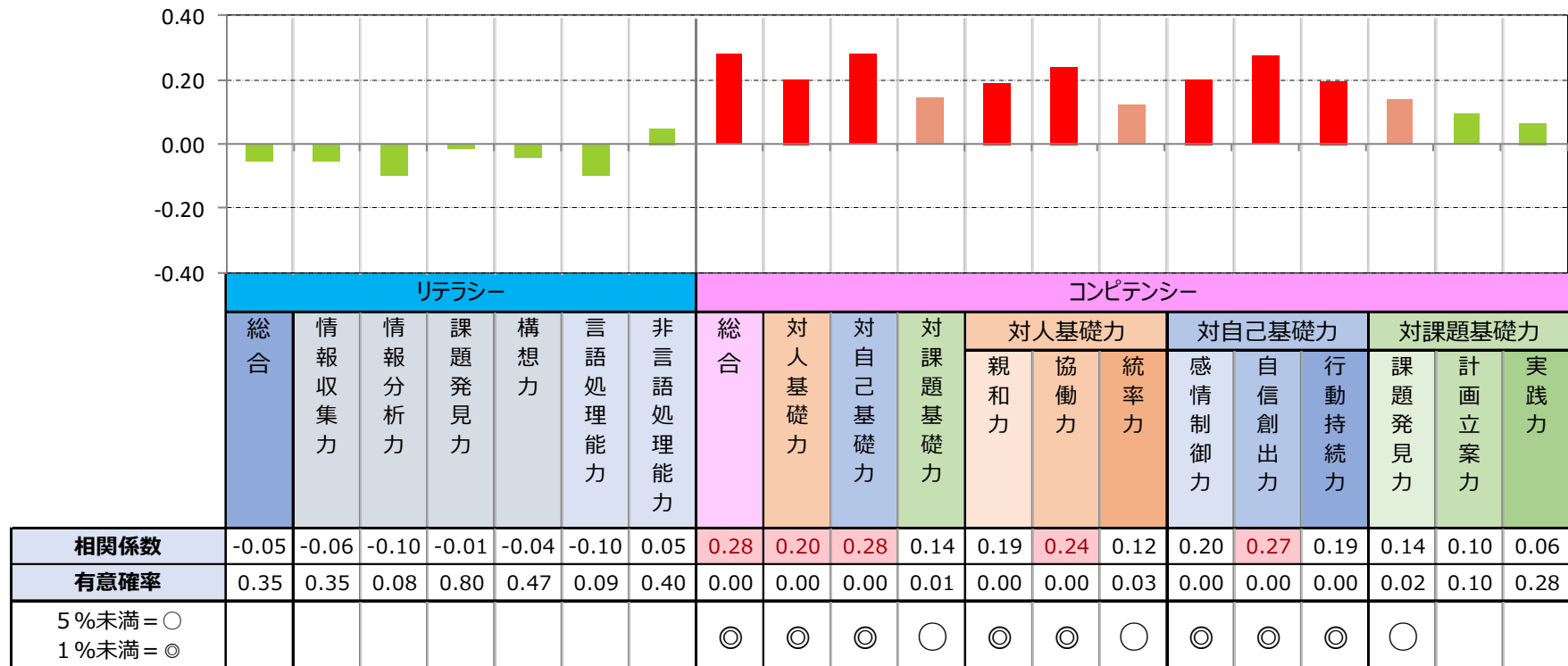
(n=393 *ただし無回答は除く)



● Q8. 社会人になることへの楽しみ：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【對自己基礎力】【協働力】【自信創出力】

■ 基礎力との相関【Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（ひとつ選択）】

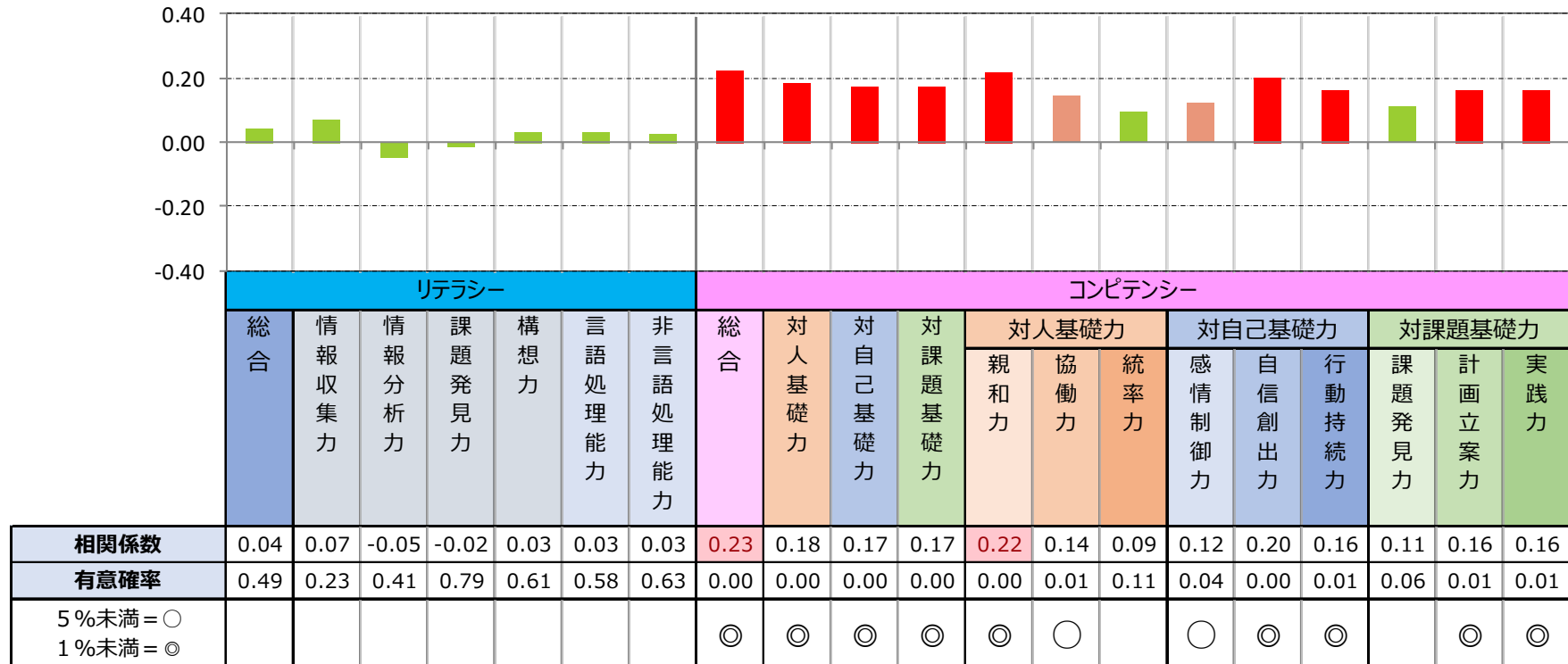
(n=393 *ただし無回答は除く)



● Q11.授業への取り組み：【コンピテンシー総合】【親和力】

■ 基礎力との相関 【Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。（ひとつ選択）】

(n=393 *ただし無回答は除く)



- 基礎力伸長と各設問の回答別の平均値は以下の通り。

次ページ以降、回答別比較が可能な設問（N＝10以上の選択肢が2項目以上）について詳細を見ていく。

N≥10の場合：

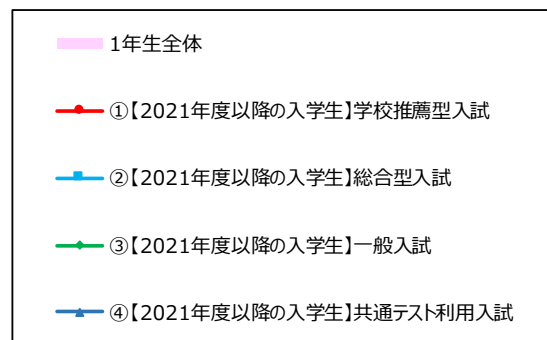
全体+0.5以上
全体-0.5以下

設問	選択肢	N数	リテラシー							コンピテンシー												
			総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語処 理能力	非言語 処理能 力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
														親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
全体		293	3.65	3.27	3.21	2.91	3.01	3.05	3.02	3.05	3.49	3.27	3.27	3.89	3.73	2.95	3.07	3.18	3.45	3.08	3.25	3.47
Q1.入試形式について 教えてください。	①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	138	3.64	3.27	3.33	2.99	2.88	3.07	3.01	2.91	3.34	3.12	3.42	3.76	3.69	2.74	2.80	3.14	3.21	3.01	3.47	3.68
	②【2021年度以降の入学生】総合型入試	92	3.40	3.04	3.00	2.72	3.07	2.93	2.86	3.26	3.77	3.53	3.07	4.20	3.86	3.17	3.38	3.36	3.71	3.07	2.90	3.36
	③【2021年度以降の入学生】一般入試	32	4.13	3.72	3.28	3.06	3.56	3.06	3.16	2.75	3.19	2.91	3.13	3.53	3.41	2.97	2.97	2.63	3.41	3.03	3.06	3.16
	④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	21	4.24	3.48	3.71	3.24	3.05	3.62	3.57	3.29	3.52	3.52	3.52	3.76	3.67	3.10	3.38	3.43	3.62	3.62	3.67	3.33
	⑤【2021年度以降の入学生】その他	9	3.44	3.89	2.33	2.33	2.78	2.78	3.11	3.22	3.78	3.33	2.78	4.11	4.22	3.22	3.67	3.11	3.78	3.00	3.00	2.89
	⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	1	1.00	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	4.00	6.00	5.00	5.00	6.00	6.00	5.00	4.00	4.00	5.00	6.00	6.00	6.00	4.00
Q2.入試形式について教 えてください。	①【2020年度以前の入学生】推薦入試	26	3.12	3.08	2.81	2.54	3.04	2.65	2.77	2.88	3.12	3.42	3.31	3.65	3.54	2.77	2.92	3.65	3.46	3.00	3.23	3.42
	②【2020年度以前の入学生】AO入試	9	3.11	2.89	2.89	2.44	3.22	2.78	2.44	3.11	4.00	3.22	3.11	4.89	4.22	2.44	3.11	3.11	3.56	3.78	2.89	3.33
	③【2020年度以前の入学生】一般入試	2	4.50	3.50	3.00	4.00	4.00	2.50	4.50	2.50	2.50	4.50	1.50	2.50	2.50	2.50	4.00	4.50	4.50	1.00	1.50	1.50
	④【2020年度以前の入学生】センター入試	0																				
	⑤【2020年度以前の入学生】その他	2	2.50	2.50	3.50	2.00	2.50	3.00	2.50	3.00	4.00	3.00	2.50	5.00	3.50	4.00	2.50	3.50	4.00	3.50	3.00	2.50
	⑥【2021年度以降の入学生】の方はこちらにチェックしてください	254	3.72	3.31	3.26	2.96	3.00	3.10	3.06	3.07	3.52	3.25	3.30	3.88	3.74	2.98	3.08	3.12	3.43	3.08	3.28	3.51

- 2021年度の入試経路別にみると、「共通テスト利用入試」でのリテラシーや課題発見力の水準が高い。

■ 基礎力平均スコア比較

Q1.入試形式について教えてください。

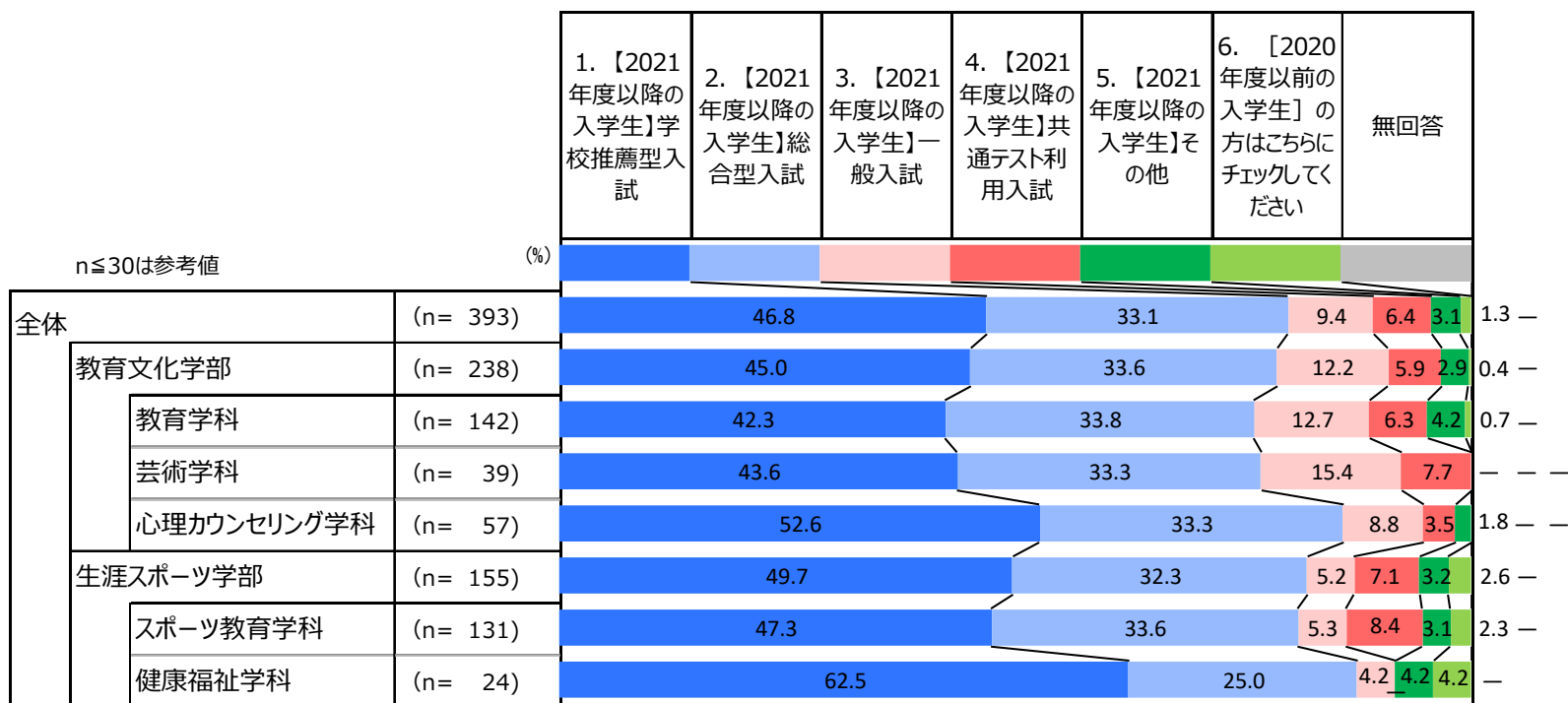


n≥10の場合
 5.00 全体+0.5ポイント以上
 5.00 全体-0.5ポイント以下

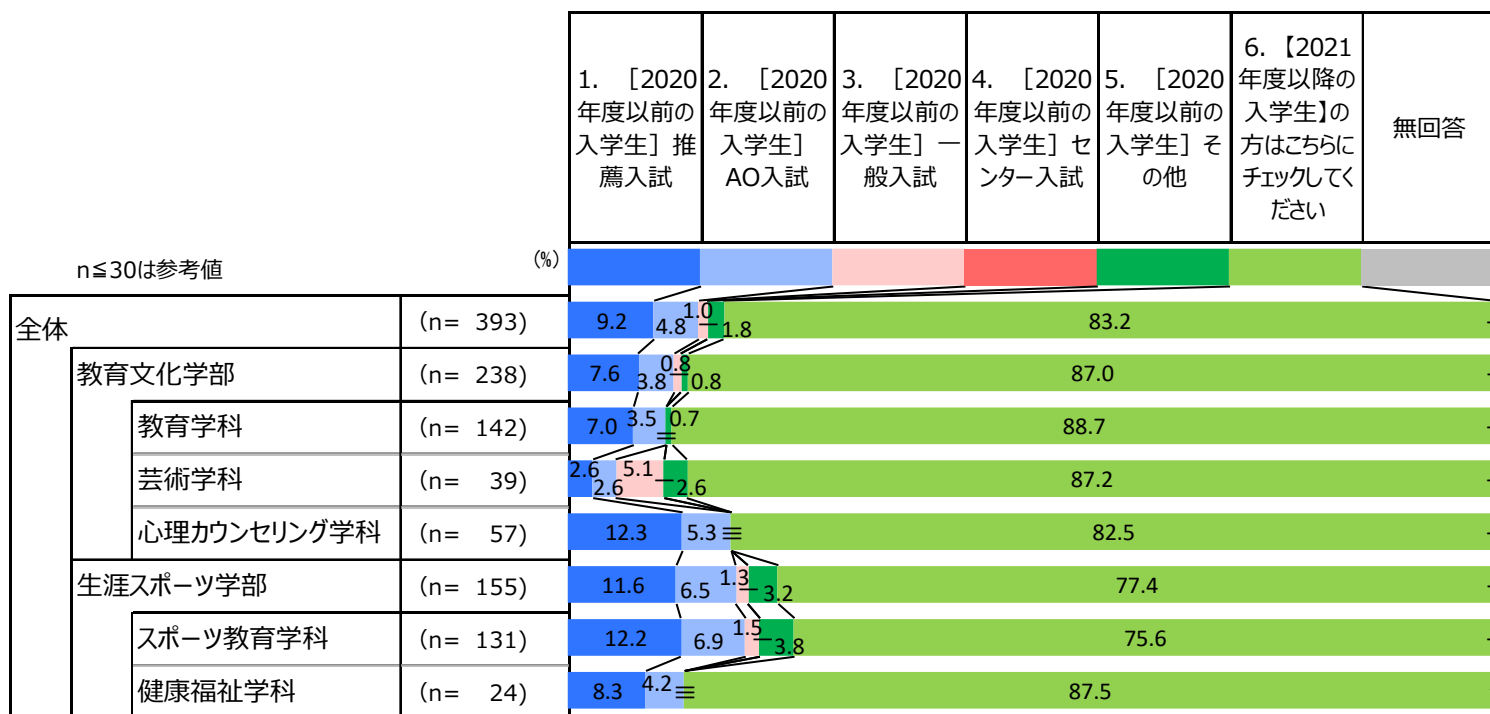
1年生全体		293	3.65	3.27	3.21	2.91	3.01	3.05	3.02	3.05	3.49	3.27	3.27	3.89	3.73	2.95	3.07	3.18	3.45	3.08	3.25	3.47
	①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	138	3.64	3.27	3.33	2.99	2.88	3.07	3.01	2.91	3.34	3.12	3.42	3.76	3.69	2.74	2.80	3.14	3.21	3.01	3.47	3.68
	②【2021年度以降の入学生】総合型入試	92	3.40	3.04	3.00	2.72	3.07	2.93	2.86	3.26	3.77	3.53	3.07	4.20	3.86	3.17	3.38	3.36	3.71	3.07	2.90	3.36
	③【2021年度以降の入学生】一般入試	32	4.13	3.72	3.28	3.06	3.56	3.06	3.16	2.75	3.19	2.91	3.13	3.53	3.41	2.97	2.97	2.63	3.41	3.03	3.06	3.16
	④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	21	4.24	3.48	3.71	3.24	3.05	3.62	3.57	3.29	3.52	3.52	3.52	3.76	3.67	3.10	3.38	3.43	3.62	3.62	3.67	3.33
	⑤【2021年度以降の入学生】その他	9	3.44	3.89	2.33	2.33	2.78	2.78	3.11	3.22	3.78	3.33	2.78	4.11	4.22	3.22	3.67	3.11	3.78	3.00	3.00	2.89
	⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	1	1.00	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	4.00	6.00	5.00	5.00	6.00	6.00	5.00	4.00	4.00	5.00	6.00	6.00	6.00	4.00

※無回答は除く ※グラフからはn=10未満は除く

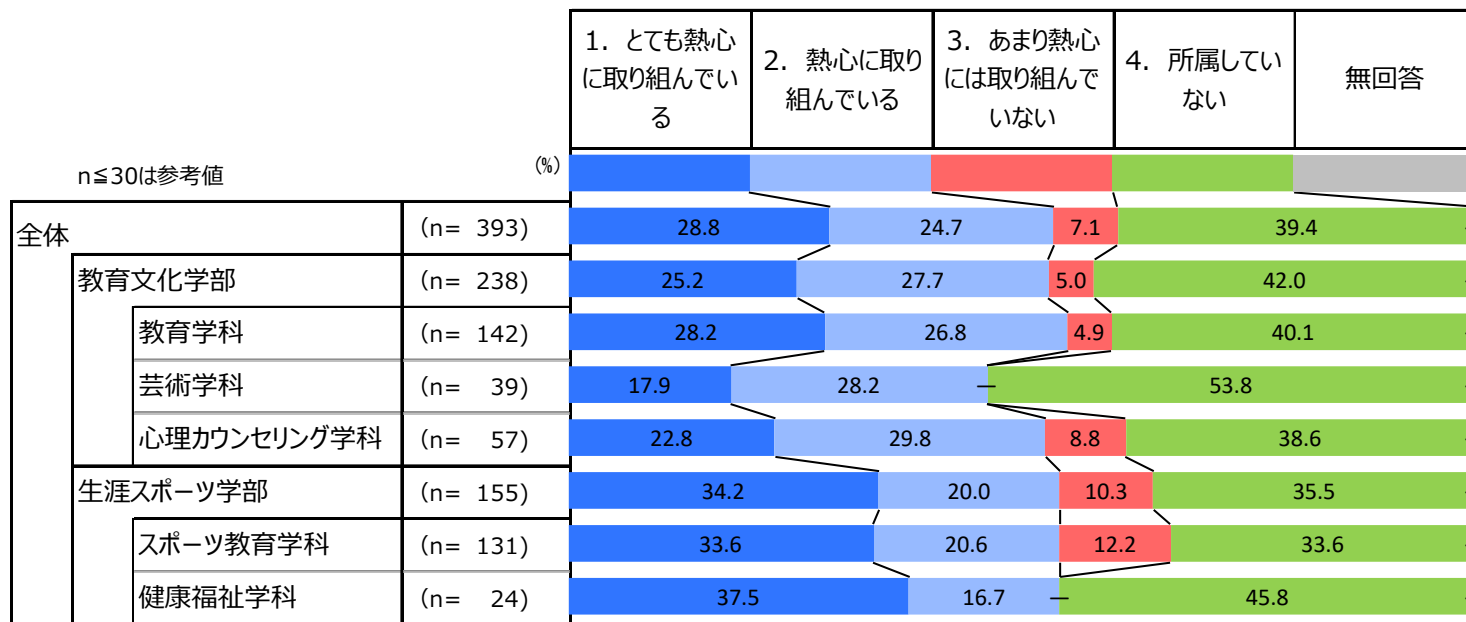
Q1.入試形式について教えてください。【2021(令和3)年度以降入学生】は選択肢1～5からひとつ選択してください。【2020(令和2)年度以前の入学生】の方は6にチェックをしてください。(全体／単一回答)



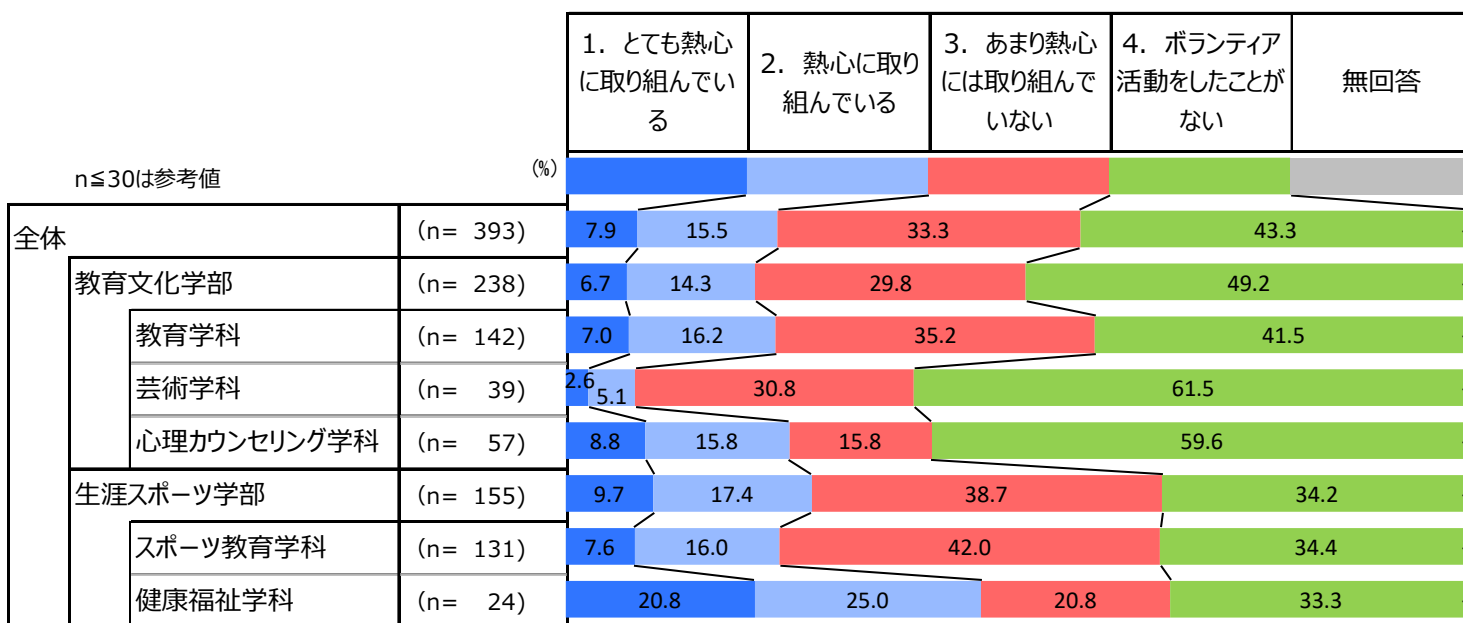
Q2.入試形式について教えてください。〔2020(令和2)年度以前の入学生〕は選択肢1～5からひとつ選択してください。〔2021(令和3)年度以降入学生〕の方は6にチェックをしてください。(全体／単一回答)



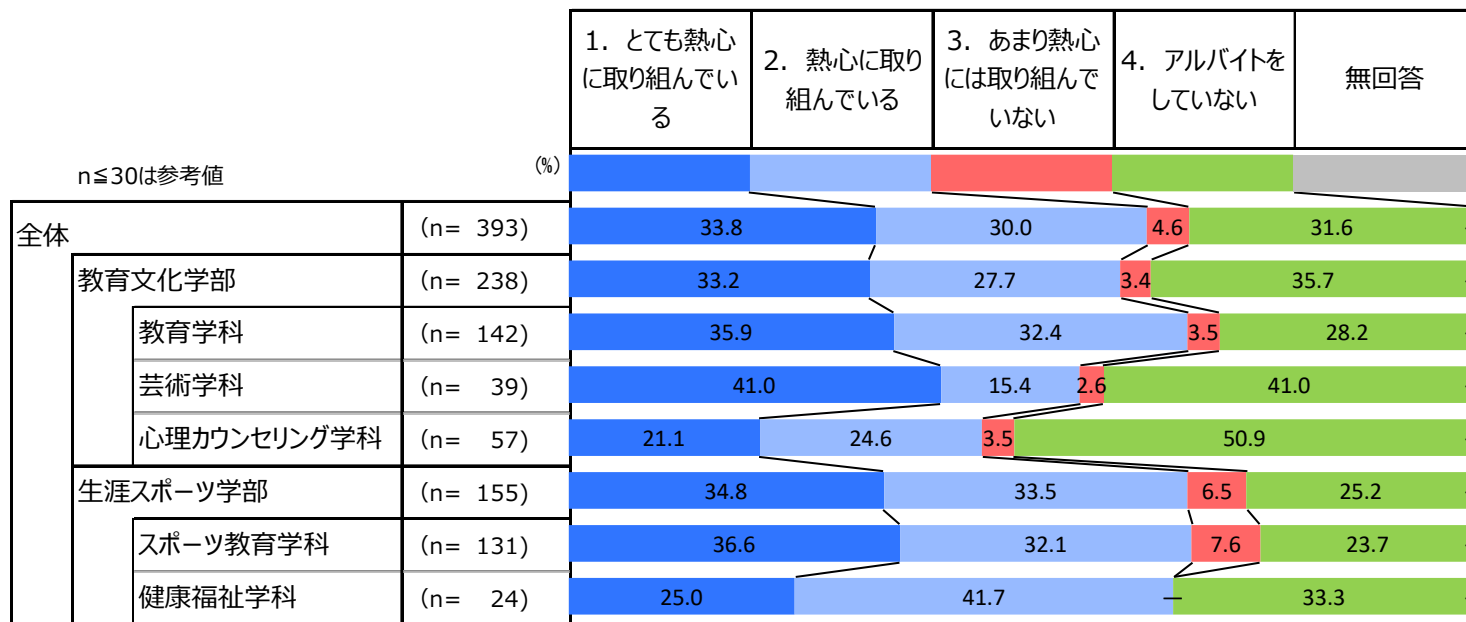
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



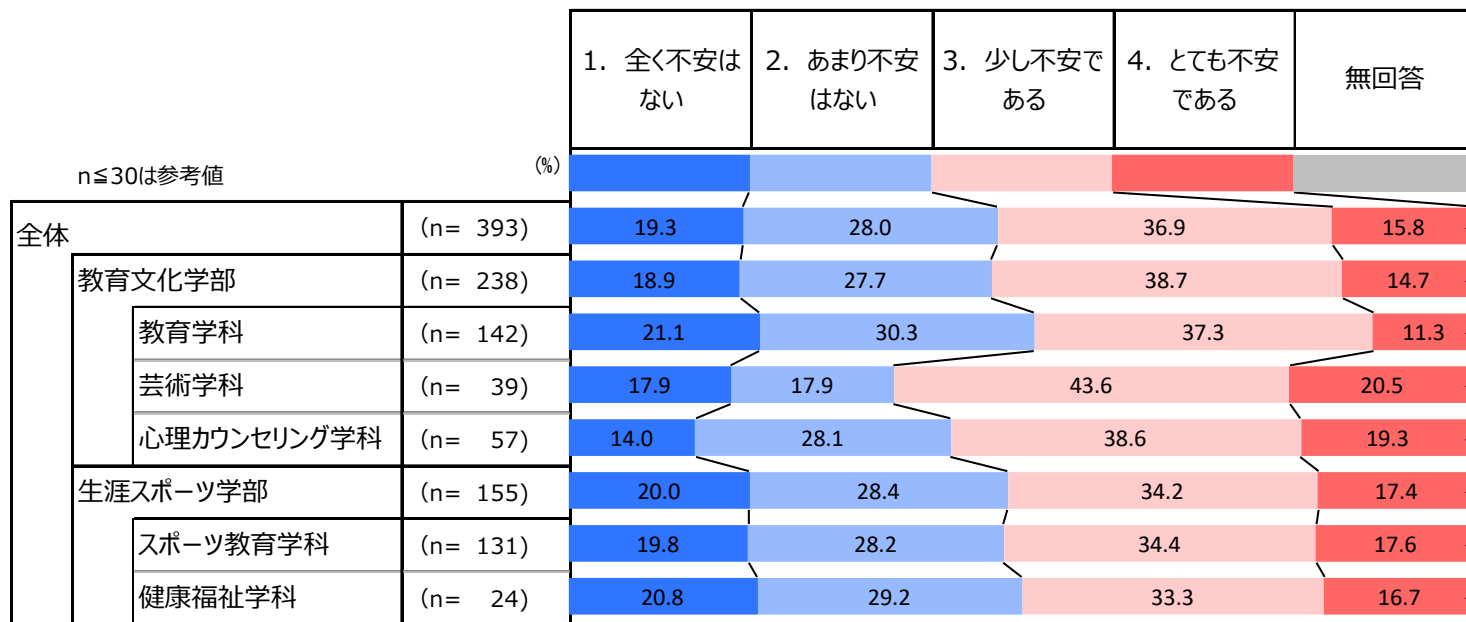
Q4. ボランティア活動についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



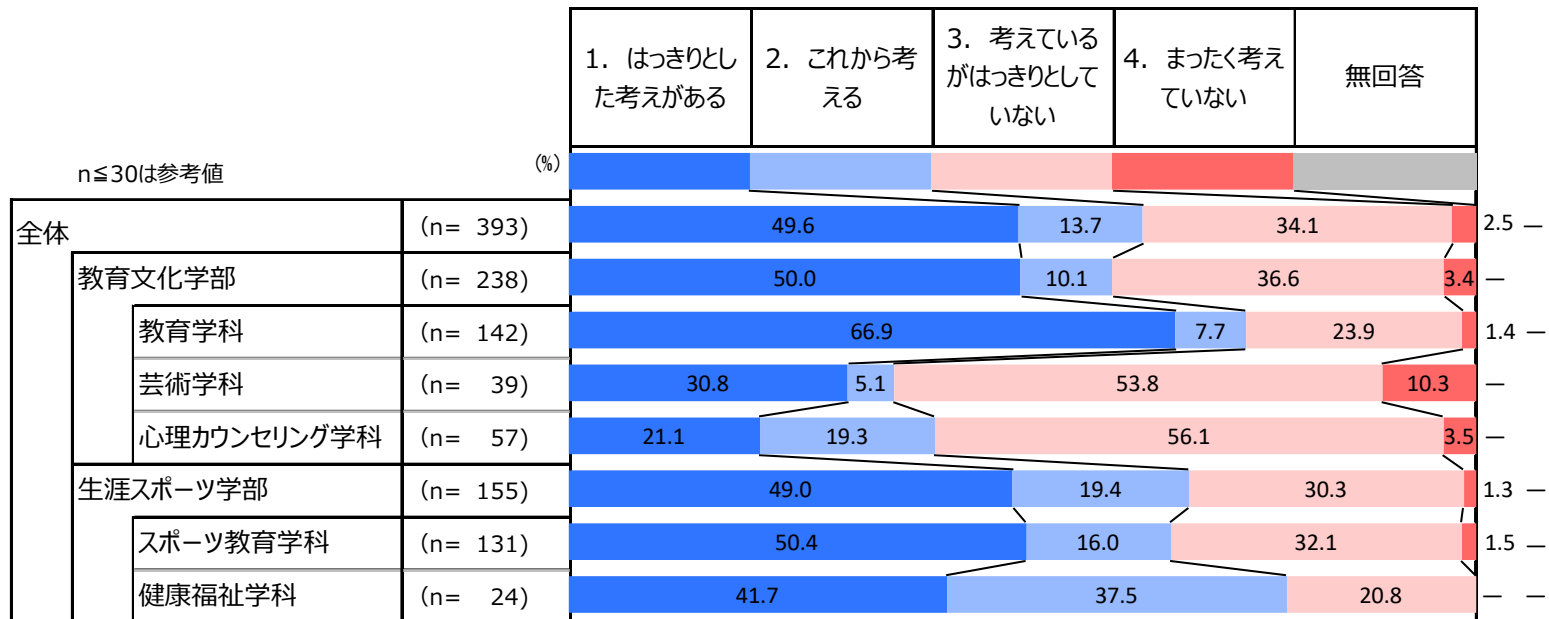
Q5.アルバイトについてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



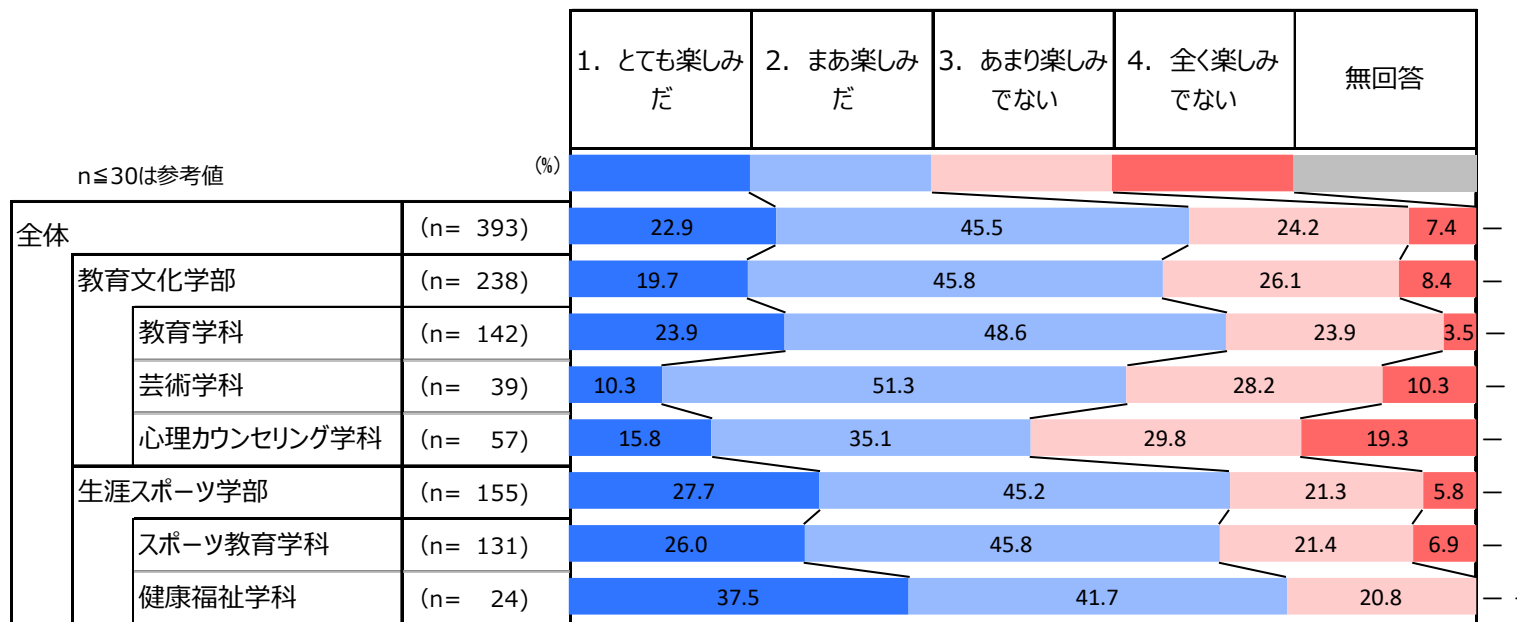
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



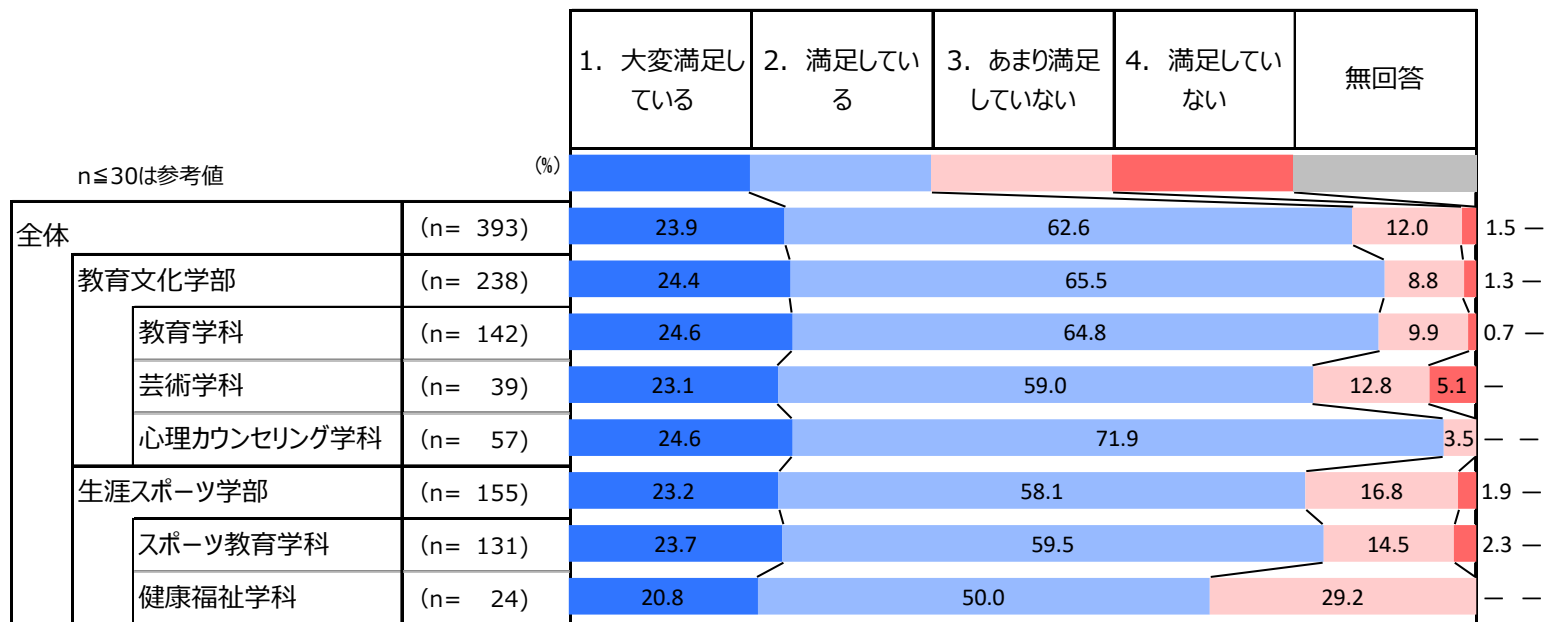
Q7.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（ひとつ選択）（全体／単一回答）



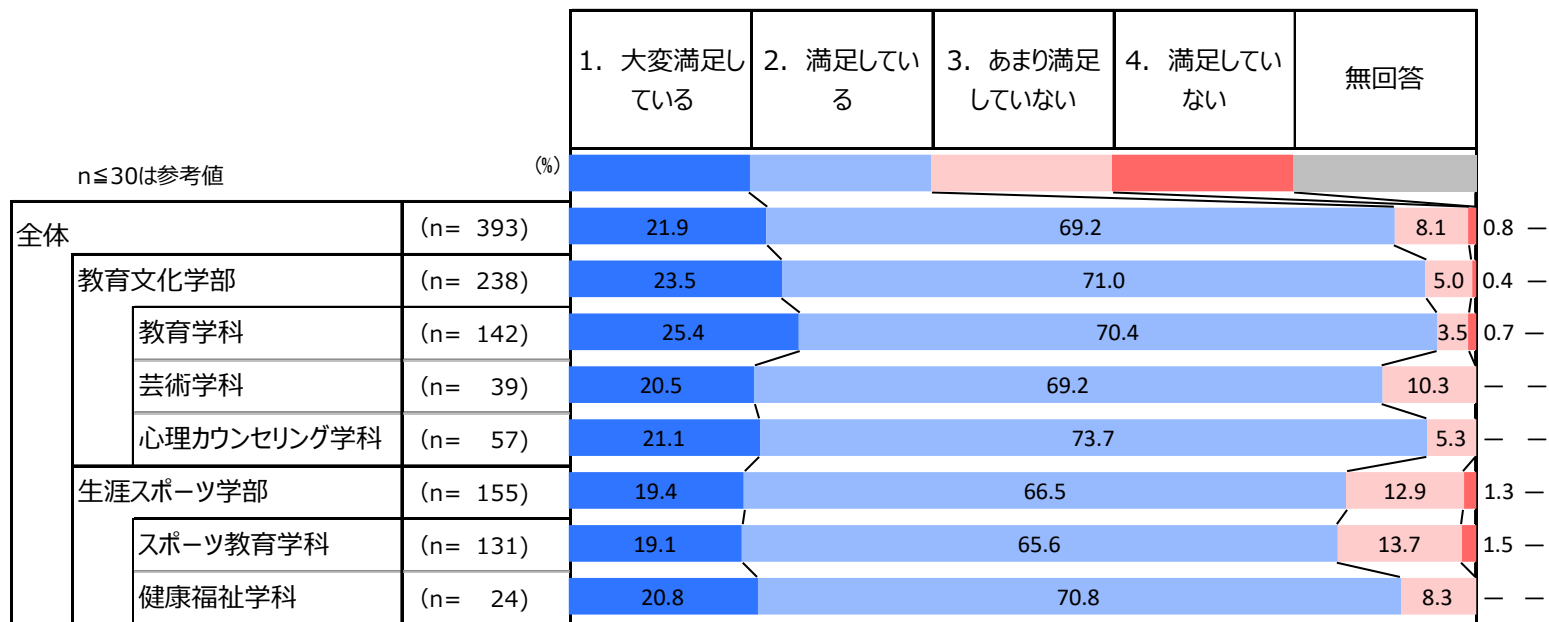
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（ひとつ選択）（全体／単一回答）



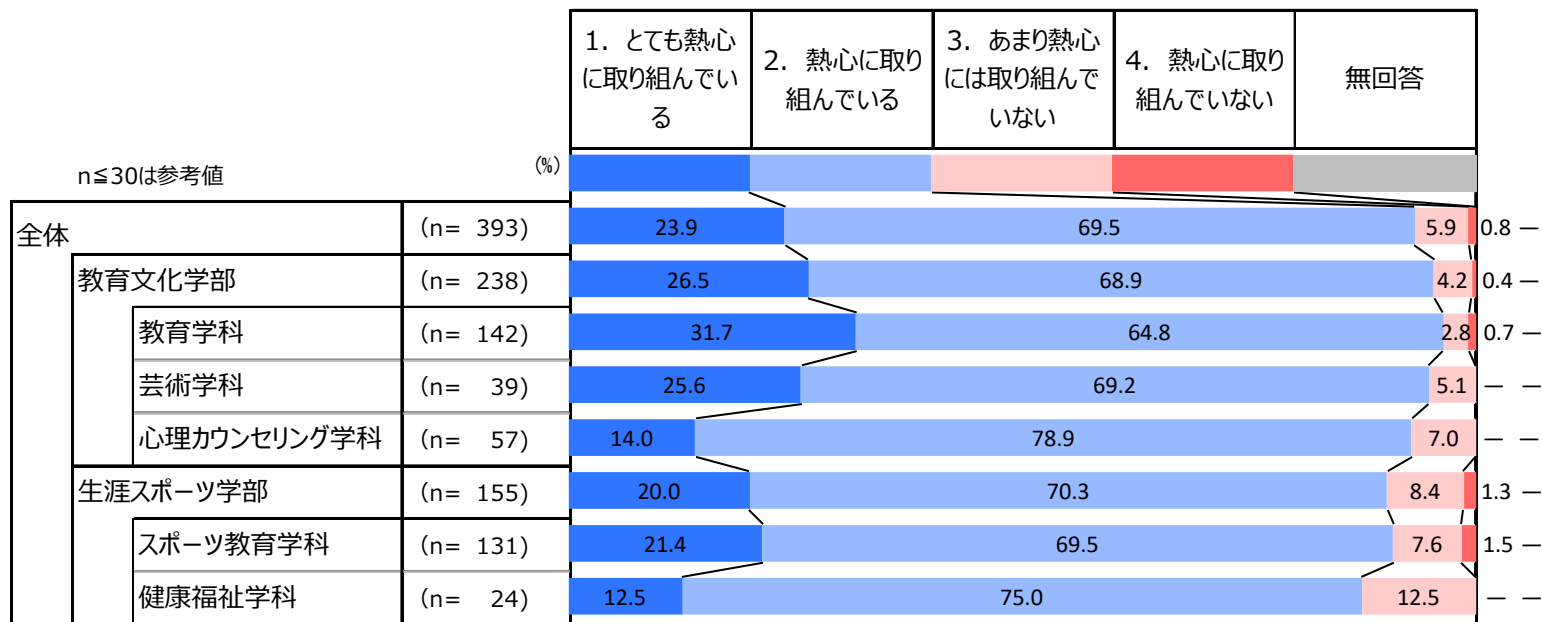
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



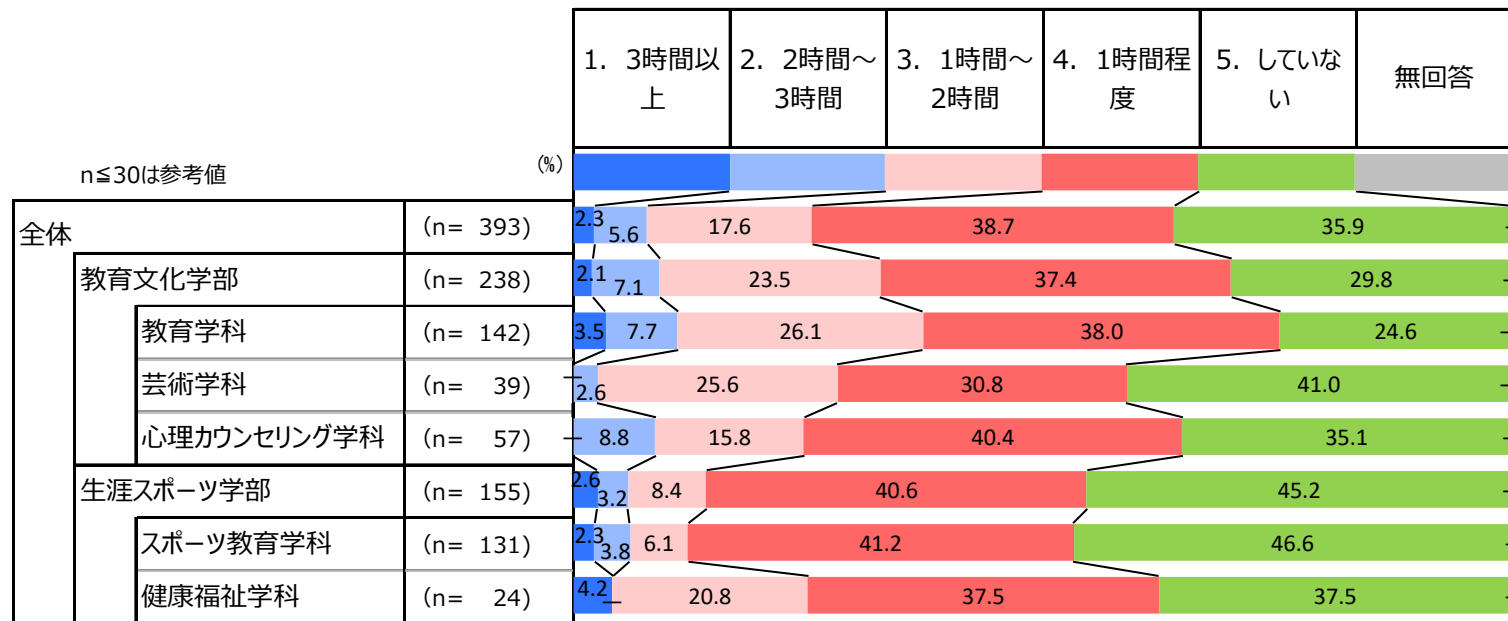
Q10.北翔大学の教育内容についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



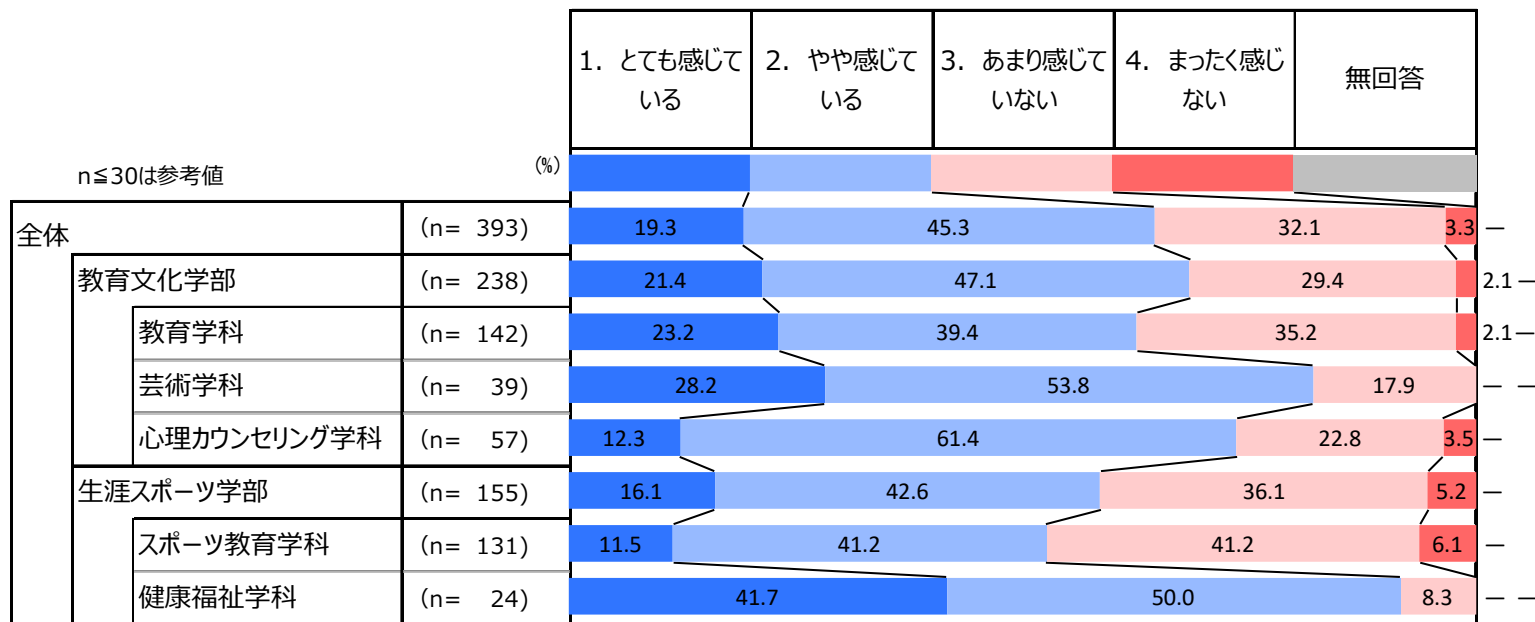
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



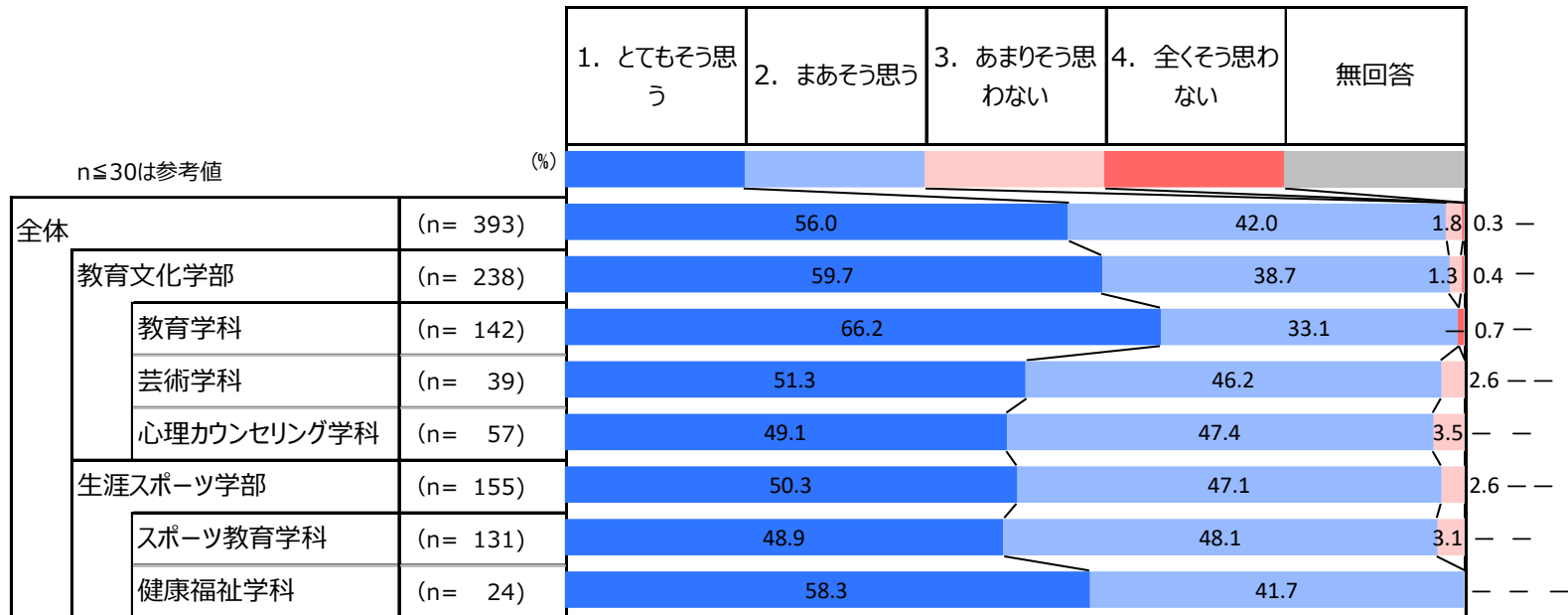
Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q14.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。
(ひとつ選択) (全体／単一回答)



北翔大学3年次

調査概要

- 調査対象：PROGとアンケートに回答した3年次393名
- PROG受験時期：（1回目）2022年5月～6月、（2回目）2024年11月

●相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといえます。一般的には0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関があるとしています。

●有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5 %有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。

0.01以下であれば1 %有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

※以下のように得点化し、相関分析を実施している

設問	5点	4点	3点	2点	1点
Q3～Q5			①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない
Q6		①全く不安はない	②あまり不安はない	③少し不安である	④とても不安である
Q7		①はっきりとした考えがある	②これから考える	③考えているがはっきりしていない	④まったく考えていない
Q8		①とても楽しみだ	②まあ楽しみだ	③あまり楽しみでない	④全く楽しみでない
Q9～Q10		①大変満足している	②満足している	③あまり満足していない	④満足していない
Q11		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心に取り組んでいない	④熱心に取り組んでいない
Q13		①とても感じている	②やや感じている	③あまり感じていない	④まったく感じない
Q14		①とてもそう思う	②まあそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない

設問	3点	2.5点	1.5点	1点	0点
Q12	①3時間以上	②2時間～3時間	③1時間～2時間	④1時間程度	⑤していない

- 基礎力伸長と各設問との相関係数は以下の通り。
次ページ以降、 ± 0.2 以上の相関係数が認められた項目について詳細を見ていく。

相関係数

【全体】N=393 (ただし各設問無回答は除く)

** 相関係数は 1 %水準で有意
* 相関係数は 5%水準で有意

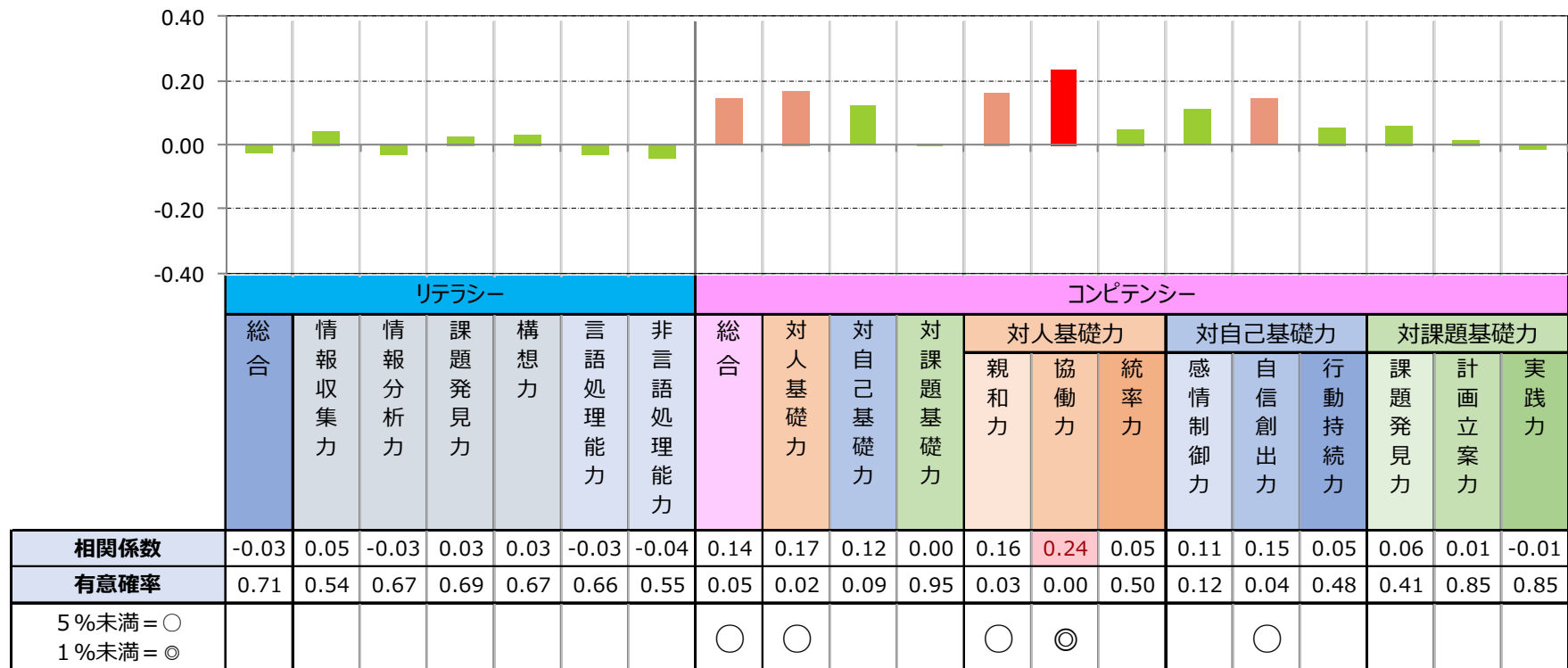
0.2以上 0.3未満	0.3以上 0.35未満	0.35以上
----------------	-----------------	--------

	リテラシー								コンピテンシー											
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語 処理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
												親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.14	-0.17	-0.12	0.01	-0.12	-0.08	-0.14	-0.07	-0.03	-0.07	0.04	0.03	-0.10	-0.08	0.05	-0.13	-0.02	-0.04	0.08	-0.12
Q4.ボランティア活動についてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.03	0.05	-0.03	0.03	0.03	-0.03	-0.04	0.14*	0.17*	0.12	0.00	0.16*	0.24**	0.05	0.11	0.15*	0.05	0.06	0.01	-0.01
Q5.アルバイトについてお伺いします。(ひとつ選択)	-0.02	0.04	0.02	-0.09	-0.02	0.07	-0.04	0.11	0.14*	0.04	0.07	0.12	0.08	0.11	0.05	0.06	0.04	0.08	0.04	0.05
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。(ひとつ選択)	0.07	0.03	0.06	0.09	0.01	0.02	0.05	0.01	0.05	0.02	0.05	0.09	0.04	-0.05	-0.02	0.06	0.01	-0.03	0.07	0.06
Q7.あなたは卒業後の進路(就職・公務員・教員・進学・留学など)について、現在どのような考えを持っていますか。(ひとつ選択)	-0.08	-0.10	-0.02	0.02	-0.12	-0.07	-0.05	0.10	0.13*	0.12	-0.02	0.11	0.07	0.11	0.09	0.15*	0.11	-0.01	-0.04	0.00
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。(ひとつ選択)	0.02	-0.05	0.10	0.08	-0.04	0.10	0.02	0.15*	0.10	0.24**	0.10	0.05	0.05	0.04	0.2**	0.09	0.14*	0.05	0.09	0.10
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。(ひとつ選択)	0.11	0.09	0.11	0.03	0.03	0.08	-0.04	0.00	0.03	0.08	-0.03	0.05	-0.05	0.02	0.02	0.15*	-0.01	-0.04	-0.08	-0.04
Q10.北翔大学の教育内容についてお伺いします。(ひとつ選択)	0.10	0.00	0.16*	-0.03	0.02	0.21**	-0.01	0.03	0.06	0.05	-0.04	0.09	0.00	0.05	0.06	0.13*	-0.02	-0.03	-0.04	-0.02
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(ひとつ選択)	0.01	0.00	0.01	0.01	0.06	0.01	-0.05	0.12	0.08	0.07	0.14*	0.06	0.08	-0.01	0.08	0.11	0.01	0.08	0.17**	0.04
Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(ひとつ選択)	-0.01	-0.01	-0.06	0.03	-0.02	0.00	0.01	0.07	0.02	0.02	0.04	0.16*	0.00	-0.05	0.06	0.04	-0.01	0.14*	-0.02	0.09
Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。(ひとつ選択)	-0.02	0.08	-0.04	0.01	-0.05	-0.04	-0.05	0.11	0.09	0.10	0.01	0.14*	0.06	0.09	0.04	0.15*	0.04	0.03	0.04	-0.07
Q14.大学生での学びが将来仕事をいくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。(ひとつ選択)	0.03	-0.04	0.10	-0.04	-0.06	0.09	0.09	-0.03	-0.04	-0.09	-0.04	0.00	-0.07	-0.02	-0.05	0.07	-0.15*	-0.02	0.00	-0.04

● Q4. ボランティア活動：【協働力】

■ 基礎力との相関【Q4. ボランティア活動についてお伺いします。（ひとつ選択）】

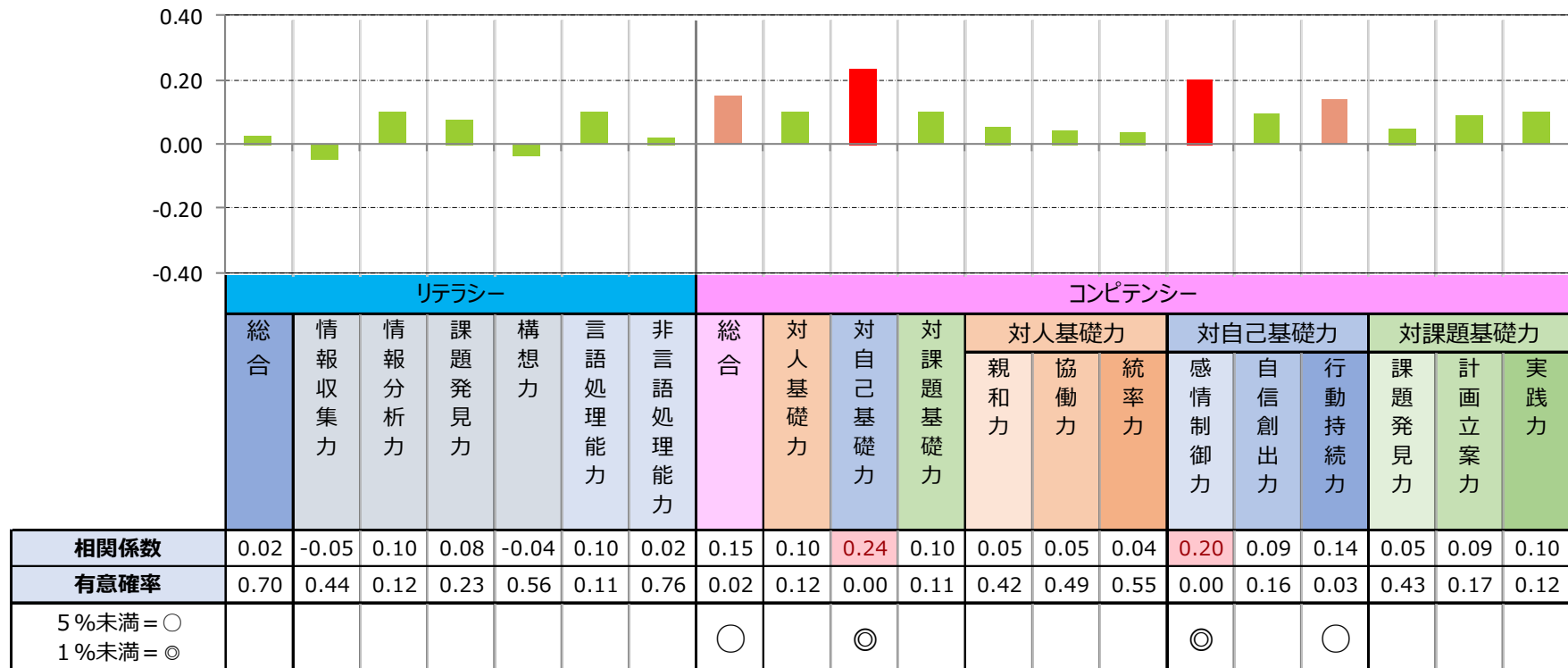
(n=393 *ただし無回答は除く)



● Q8. 社会人になることへの楽しみ：【対自己基礎力】【感情制御力】

■ 基礎力との相関【Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（ひとつ選択）】

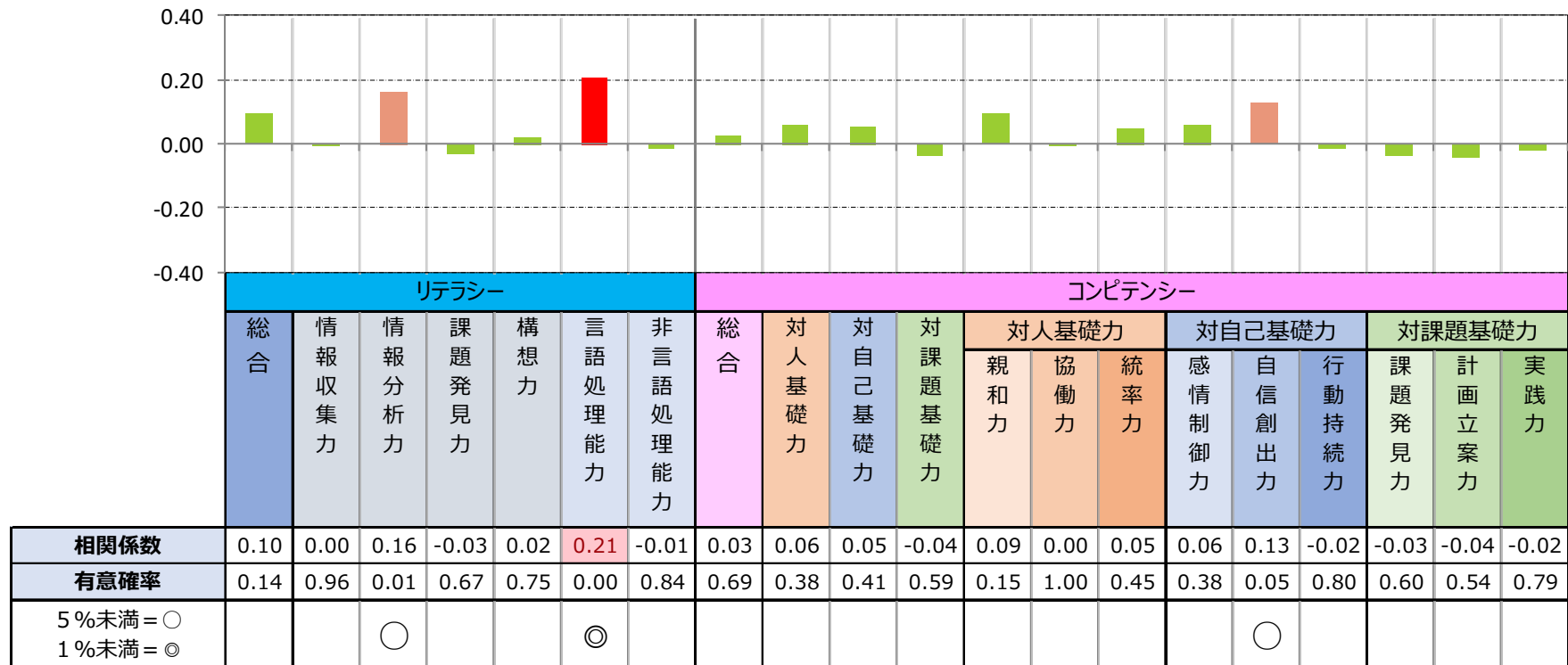
(n=393 *ただし無回答は除く)



●Q10.教育内容満足度：【言語処理力】

■基礎力との相関【Q10.北翔大学の教育内容についてお伺いします。（ひとつ選択）】

(n=393 *ただし無回答は除く)



- 基礎力伸長と各設問の回答別の平均値は以下の通り。
次ページ以降、回答別比較が可能な設問（N＝10以上の選択肢が2項目以上）について詳細を見ていく。

N≥10の場合：

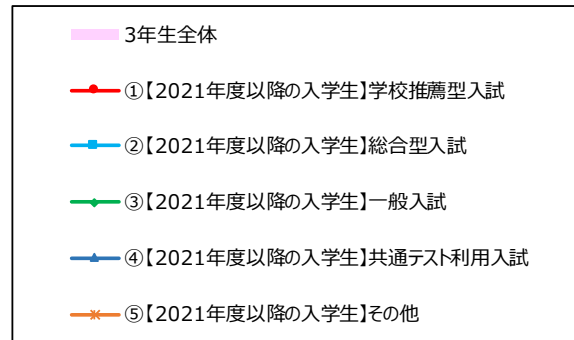
全体+5.0以上
全体-5.0以下

設問	選択肢	N数	PI値_リテラシー							PI値_コンピテンシー												
			総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語処 理能力	非言語 処理能 力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
														親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
全体		242	51.5	58.4	55.6	56.5	54.7	52.6	53.4	45.6	46.3	47.4	46.8	46.2	47.5	46.8	47.2	48.7	46.1	47.2	46.0	48.7
Q1.入試形式について教えてください。	①〔2021年度以降の入学生〕学校推薦型入試	130	49.5	57.9	56.1	53.4	52.1	51.3	52.8	46.0	47.1	47.0	47.6	46.8	48.7	47.4	47.2	48.9	44.8	47.0	46.3	49.7
	②〔2021年度以降の入学生〕総合型入試	52	55.5	59.2	57.0	61.2	61.5	55.4	55.4	43.8	44.2	47.1	44.0	42.2	44.9	48.7	46.1	47.5	46.3	43.5	45.2	47.5
	③〔2021年度以降の入学生〕一般入試	18	52.1	54.9	48.1	53.4	56.7	53.1	57.6	46.3	44.4	44.7	48.7	54.1	46.1	37.8	48.9	45.2	45.5	48.2	46.6	51.7
	④〔2021年度以降の入学生〕共通テスト利用入試	28	54.9	61.4	59.0	61.5	59.6	53.3	52.2	47.0	49.5	51.6	45.8	47.0	49.4	47.5	51.2	52.0	49.6	54.7	42.1	46.1
	⑤〔2021年度以降の入学生〕その他	11	49.6	57.6	52.8	59.6	42.4	56.2	48.6	42.8	39.5	44.7	51.7	43.2	41.6	38.0	39.4	51.5	46.9	44.4	53.9	46.9
	⑥〔2020年度以前の入学生〕の方はここにチェックしてください	3	41.7	60.0	32.3	71.3	38.3	34.0	50.3	57.3	57.3	57.0	45.3	51.3	55.3	66.0	51.0	43.0	66.7	48.7	49.7	36.7
Q2.入試形式について教えてください。	①〔2020年度以前の入学生〕推薦入試	242	51.5	58.4	55.6	56.5	54.7	52.6	53.4	45.6	46.3	47.4	46.8	46.2	47.5	46.8	47.2	48.7	46.1	47.2	46.0	48.7
	②〔2020年度以前の入学生〕AO入試	28	56.3	58.7	60.6	65.9	54.5	58.3	55.6	46.8	45.0	48.0	50.4	44.1	47.2	44.1	50.4	46.6	46.1	55.4	48.9	49.8
	③〔2020年度以前の入学生〕一般入試	8	51.6	73.5	49.1	72.9	45.5	42.9	56.8	46.9	49.3	47.8	45.1	47.8	54.8	55.0	45.5	54.3	49.8	44.5	43.3	49.5
	④〔2020年度以前の入学生〕センター入試	2	43.5	30.0	67.0	36.5	60.5	50.5	67.0	46.5	44.5	42.5	65.0	54.5	54.5	32.0	38.0	44.5	52.5	38.0	73.0	80.0
	⑤〔2020年度以前の入学生〕その他	0																				
	⑥〔2021年度以降の入学生〕の方はここにチェックしてください	2	36.0	28.0	38.0	52.5	56.5	25.5	65.0	47.5	52.5	60.0	45.0	44.5	41.5	53.5	52.5	45.5	60.0	37.0	48.5	32.0

- 2021年度の入試経路別にみると、「AO入試」「センター入試」「一般入試」でのリテラシーの伸長幅が大きい。
- 同様に、「学校推薦型入試」「総合型入試」「一般入試」での実践力の伸長幅、「共通テスト利用入試」での課題発見力の伸長幅が大きい。

■ 基礎力伸長度（PI値）平均スコア比較

Q1.入試形式について教えてください。



n≥10の場合
50.0 全体+5ポイント以上
50.0 全体-5ポイント以下

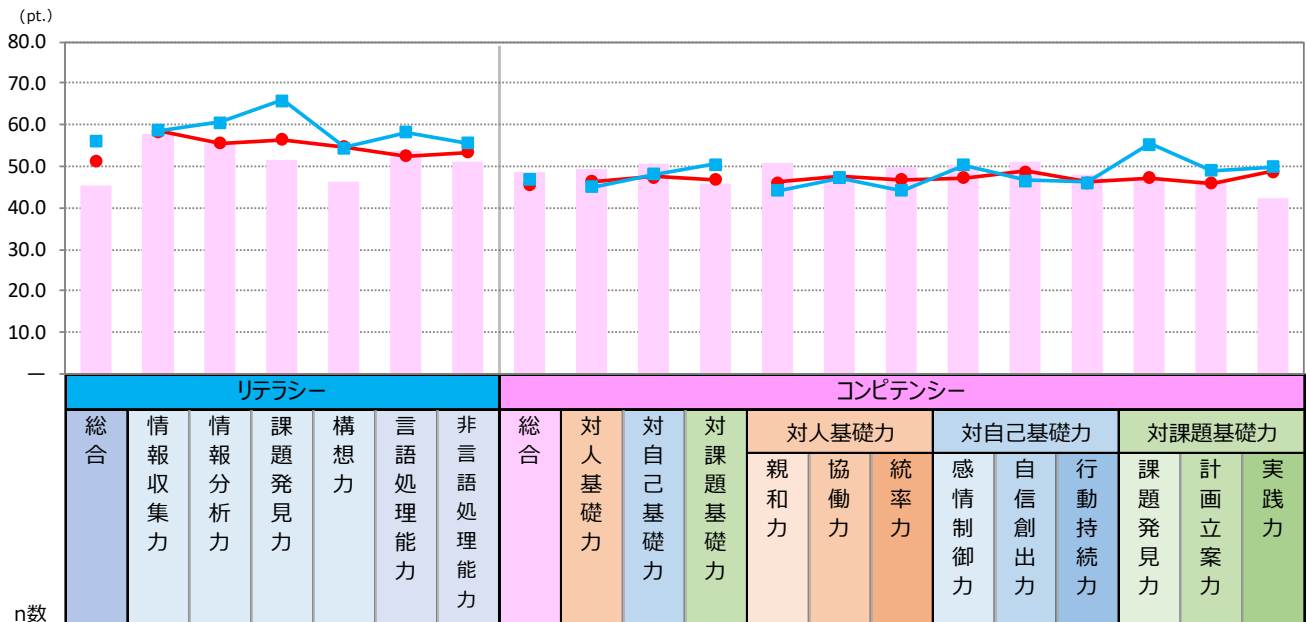
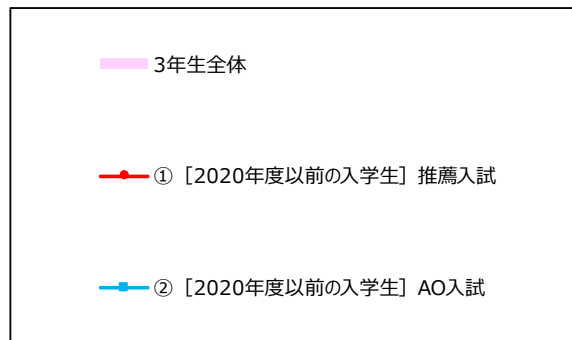
3年生全体		89	45.4	57.6	55.3	51.4	46.4	53.7	50.9	48.4	49.2	50.7	45.9	50.8	47.9	49.6	50.2	51.1	48.1	47.0	46.9	42.5
グラフ	①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	130	49.5	57.9	56.1	53.4	52.1	51.3	52.8	46.0	47.1	47.0	47.6	46.8	48.7	47.4	47.2	48.9	44.8	47.0	46.3	49.7
	②【2021年度以降の入学生】総合型入試	52	55.5	59.2	57.0	61.2	61.5	55.4	55.4	43.8	44.2	47.1	44.0	42.2	44.9	48.7	46.1	47.5	46.3	43.5	45.2	47.5
	③【2021年度以降の入学生】一般入試	18	52.1	54.9	48.1	53.4	56.7	53.1	57.6	46.3	44.4	44.7	48.7	54.1	46.1	37.8	48.9	45.2	45.5	48.2	46.6	51.7
	④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	28	54.9	61.4	59.0	61.5	59.6	53.3	52.2	47.0	49.5	51.6	45.8	47.0	49.4	47.5	51.2	52.0	49.6	54.7	42.1	46.1
	⑤【2021年度以降の入学生】その他	11	49.6	57.6	52.8	59.6	42.4	56.2	48.6	42.8	39.5	44.7	51.7	43.2	41.6	38.0	39.4	51.5	46.9	44.4	53.9	46.9
	⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	3	41.7	60.0	32.3	71.3	38.3	34.0	50.3	57.3	57.3	57.0	45.3	51.3	55.3	66.0	51.0	43.0	66.7	48.7	49.7	36.7

※無回答は除く ※グラフからはn=10未満は除く

- 2022年度の入試経路別にみると、「AO入試」でのリテラシーや課題発見力の伸長幅が大きい。

■ 基礎力伸長度（PI値）平均スコア比較

Q2.入試形式について教えてください。



n≥10の場合

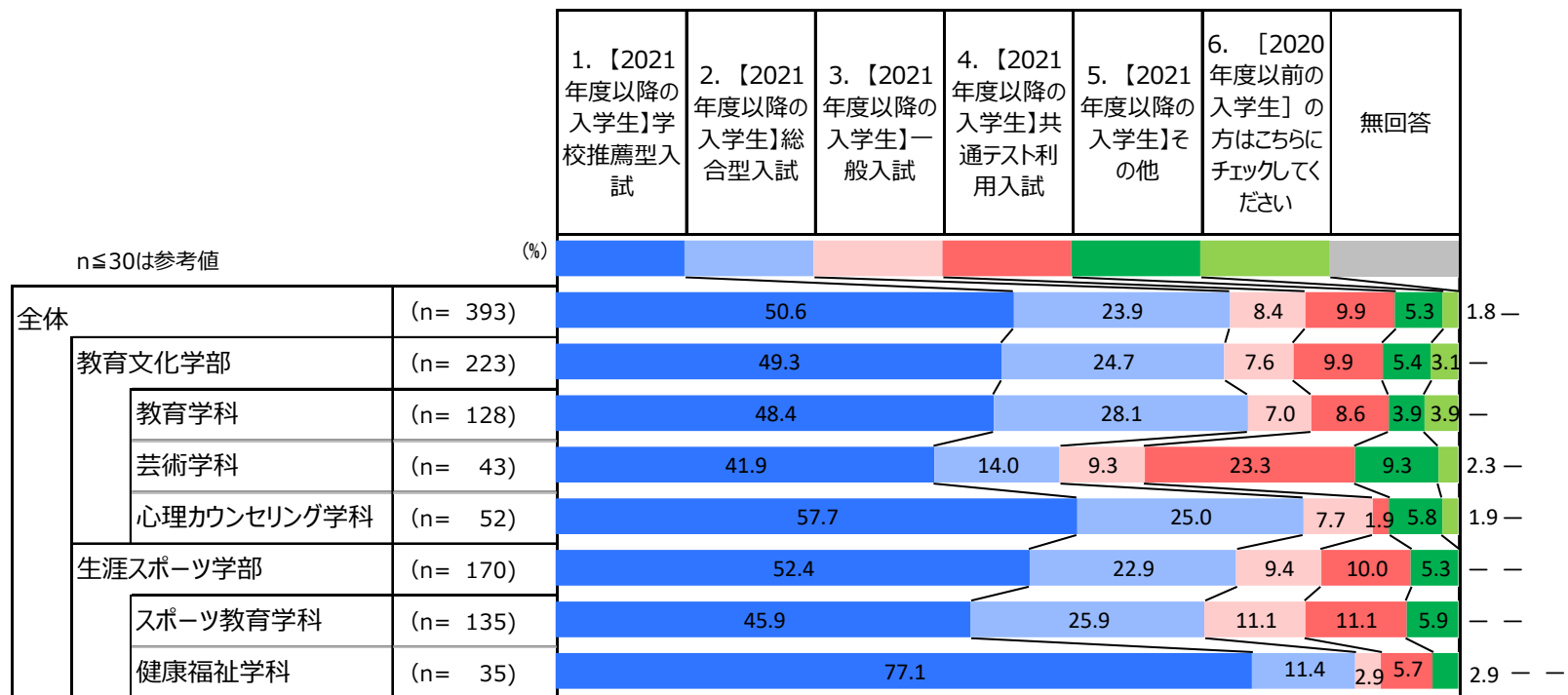
50.0 全体+5ポイント以上

50.0 全体-5ポイント以下

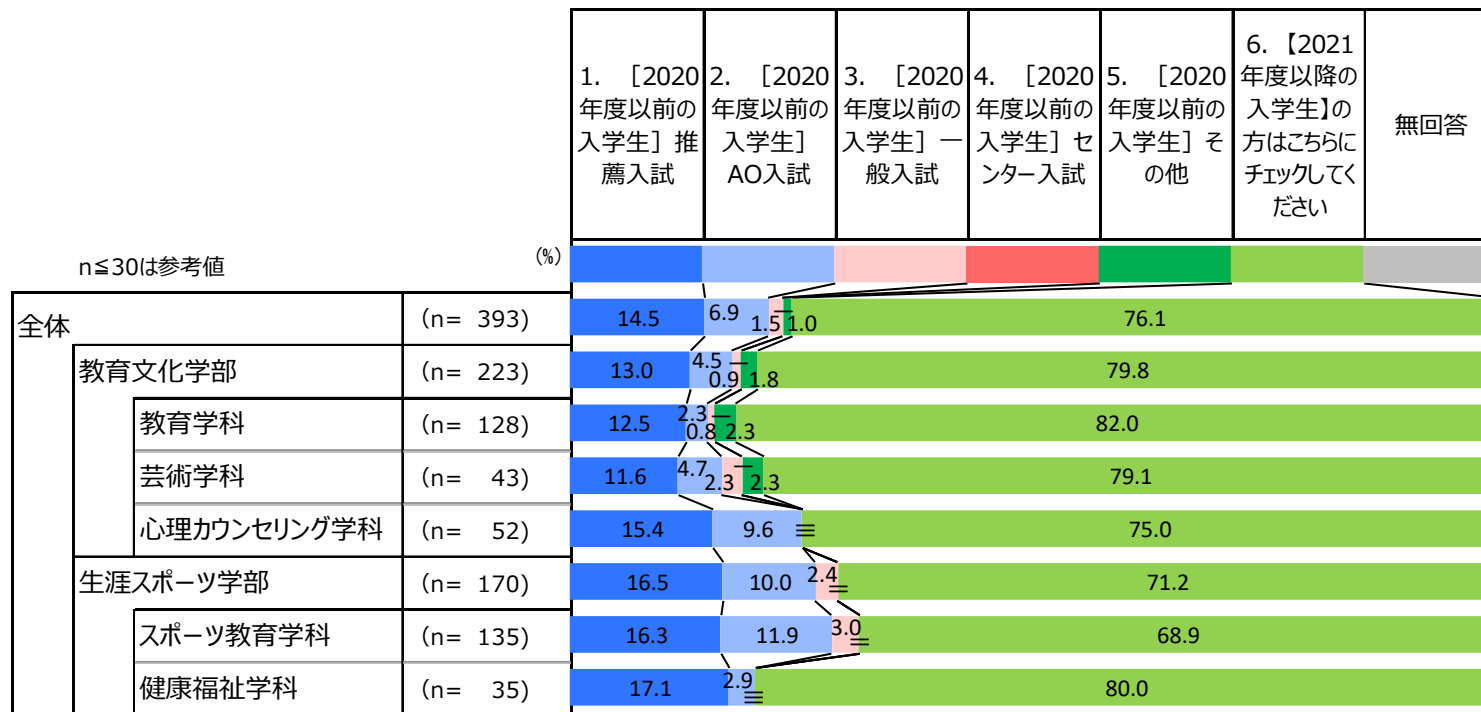
3年生全体		n数	45.4	57.6	55.3	51.4	46.4	53.7	50.9	48.4	49.2	50.7	45.9	50.8	47.9	49.6	50.2	51.1	48.1	47.0	46.9	42.5
グラフ	① [2020年度以前の入学生] 推薦入試	242	51.5	58.4	55.6	56.5	54.7	52.6	53.4	45.6	46.3	47.4	46.8	46.2	47.5	46.8	47.2	48.7	46.1	47.2	46.0	48.7
	② [2020年度以前の入学生] AO入試	28	56.3	58.7	60.6	65.9	54.5	58.3	55.6	46.8	45.0	48.0	50.4	44.1	47.2	44.1	50.4	46.6	46.1	55.4	48.9	49.8
	③ [2020年度以前の入学生] 一般入試	8	51.6	73.5	49.1	72.9	45.5	42.9	56.8	46.9	49.3	47.8	45.1	47.8	54.8	55.0	45.5	54.3	49.8	44.5	43.3	49.5
	④ [2020年度以前の入学生] センター入試	2	43.5	30.0	67.0	36.5	60.5	50.5	67.0	46.5	44.5	42.5	65.0	54.5	54.5	32.0	38.0	44.5	52.5	38.0	73.0	80.0
	⑤ [2020年度以前の入学生] その他	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	⑥ [2021年度以降の入学生]の方はこちらにチェックしてください	2	36.0	28.0	38.0	52.5	56.5	25.5	65.0	47.5	52.5	60.0	45.0	44.5	41.5	53.5	52.5	45.5	60.0	37.0	48.5	32.0

※無回答は除く ※グラフからはn=10未満は除く

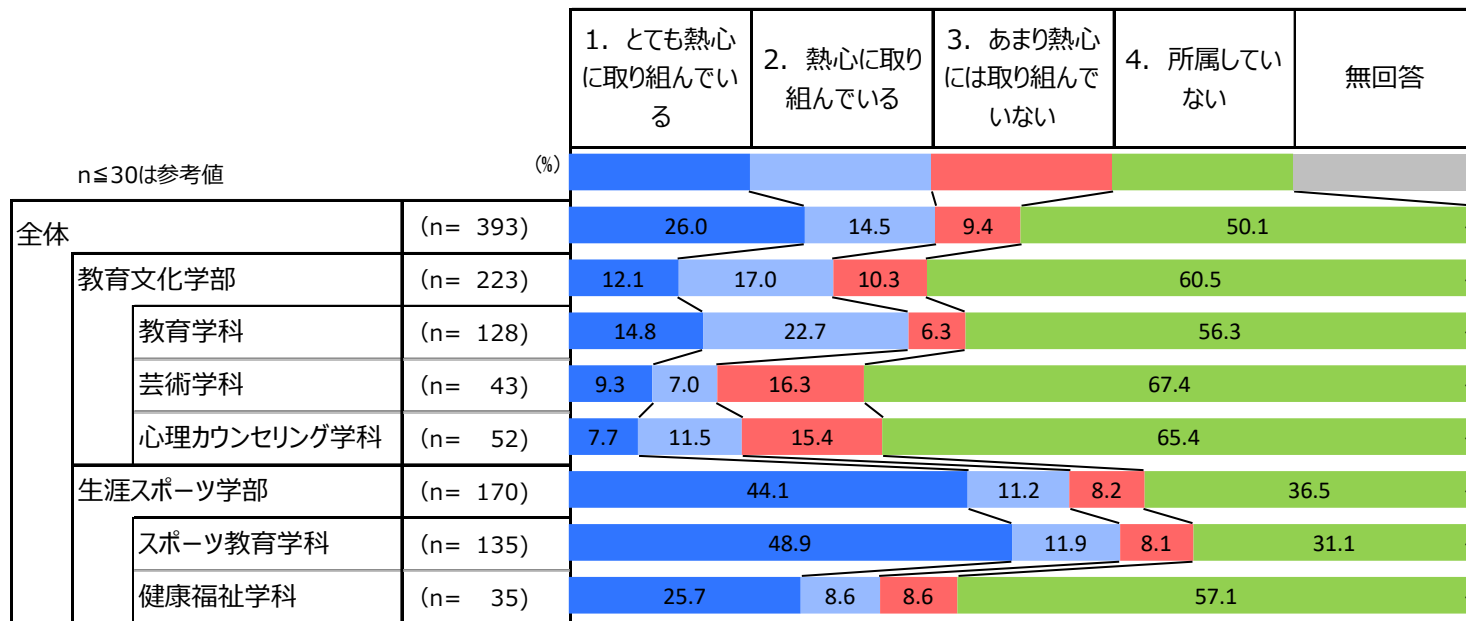
Q1.入試形式について教えてください。【2021(令和3)年度以降入学生】は選択肢1～5からひとつ選択してください。【2020(令和2)年度以前の入学生】の方は6にチェックをしてください。(全体／単一回答)



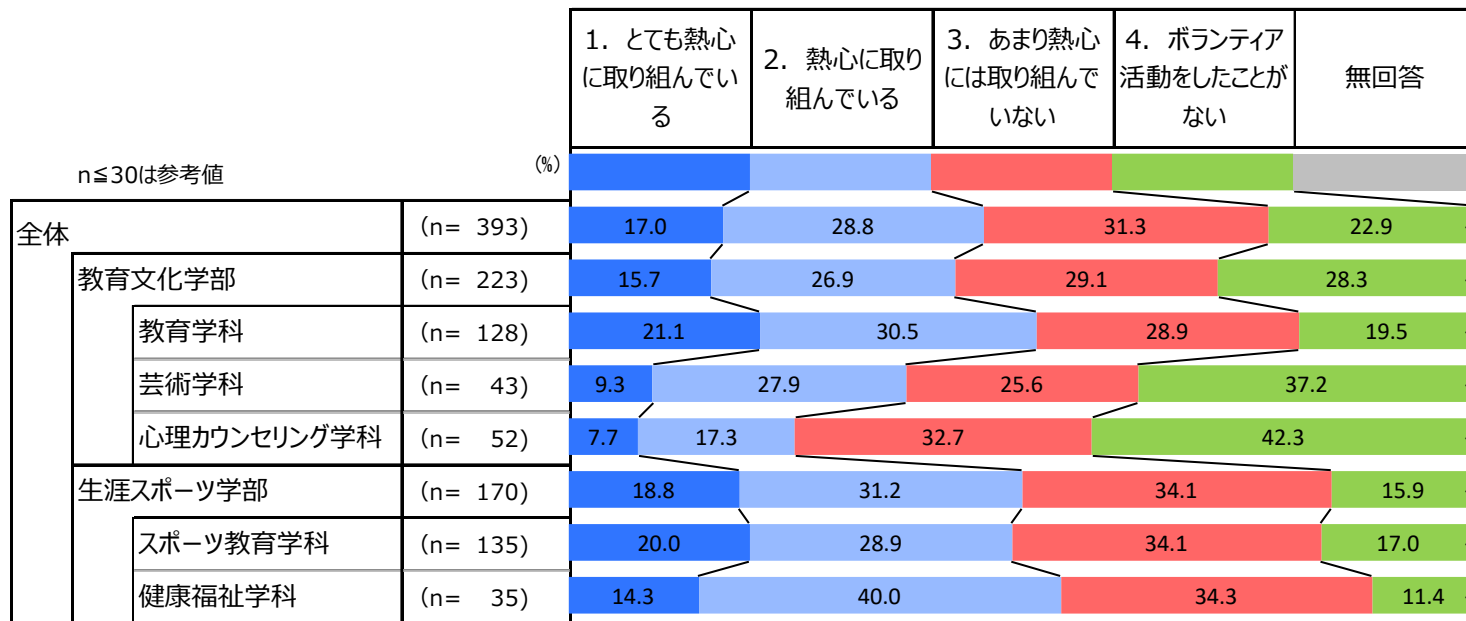
Q2.入試形式について教えてください。〔2020(令和2)年度以前の入学生〕は選択肢1～5からひとつ選択してください。〔2021(令和3)年度以降入学生〕の方は6にチェックをしてください。(全体／単一回答)



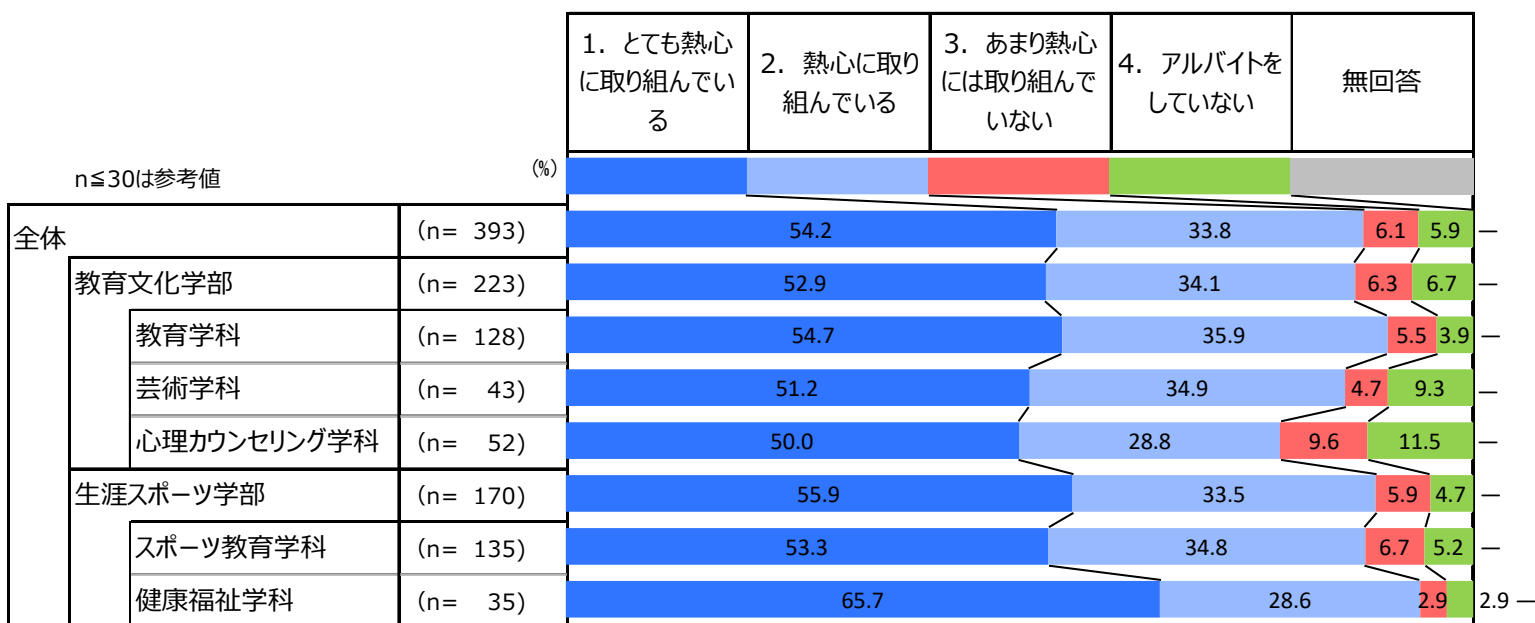
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



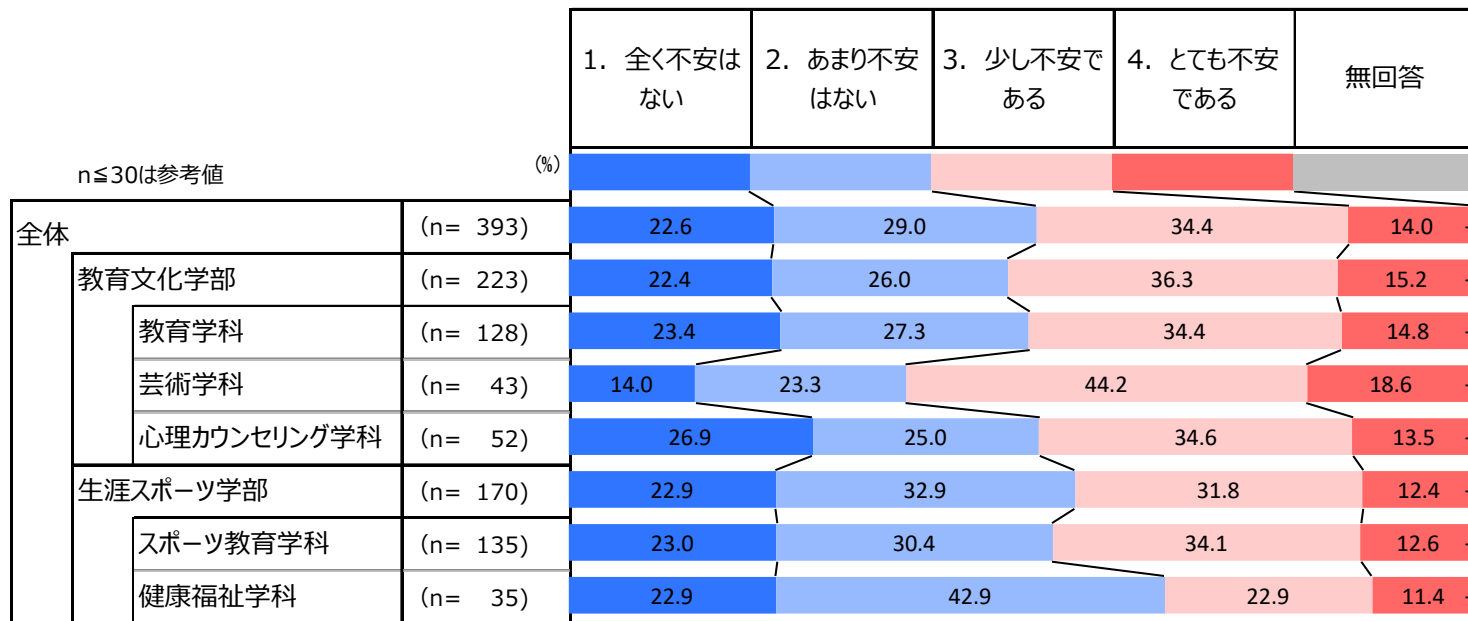
Q4. ボランティア活動についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



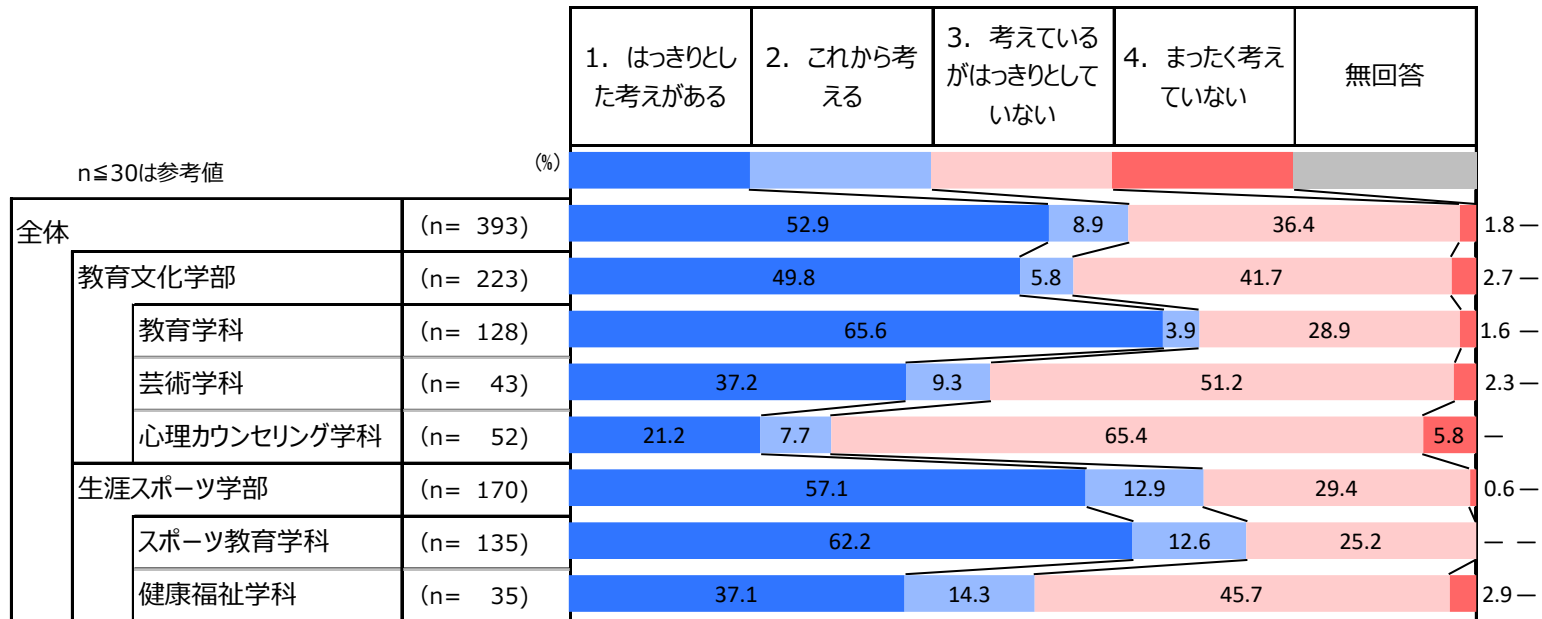
Q5.アルバイトについてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



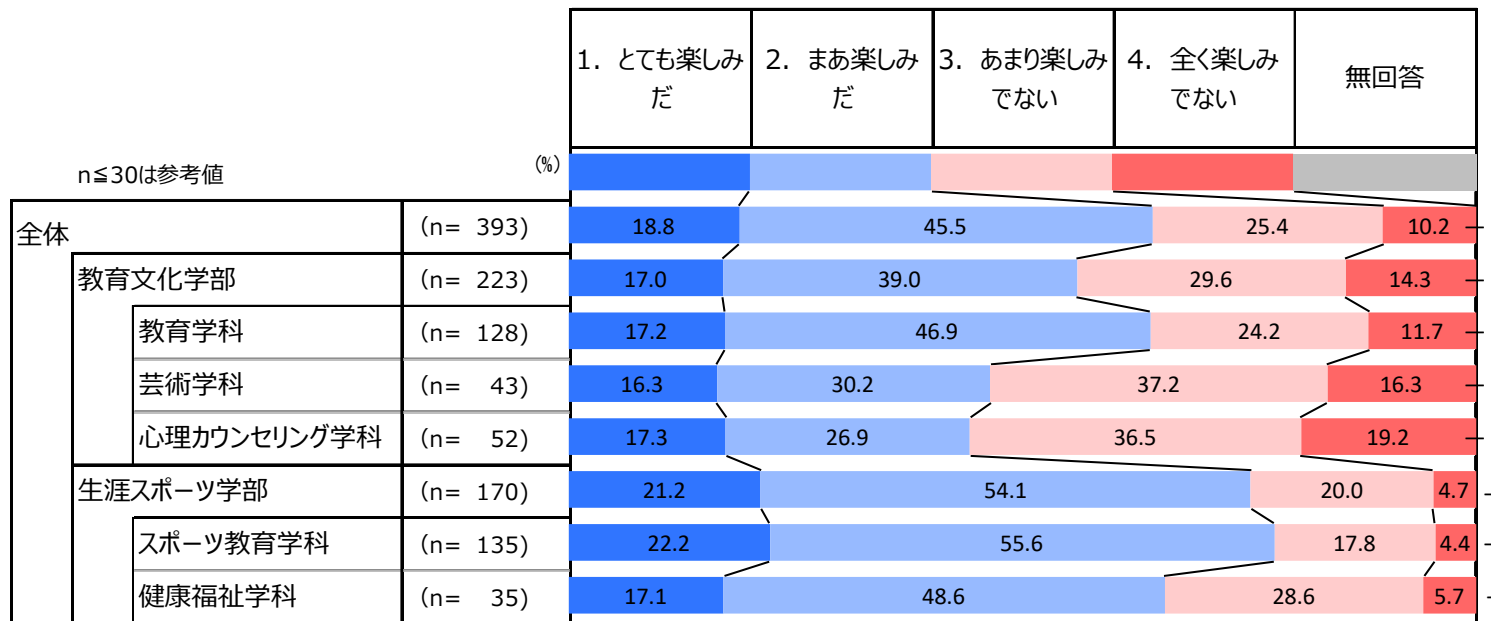
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



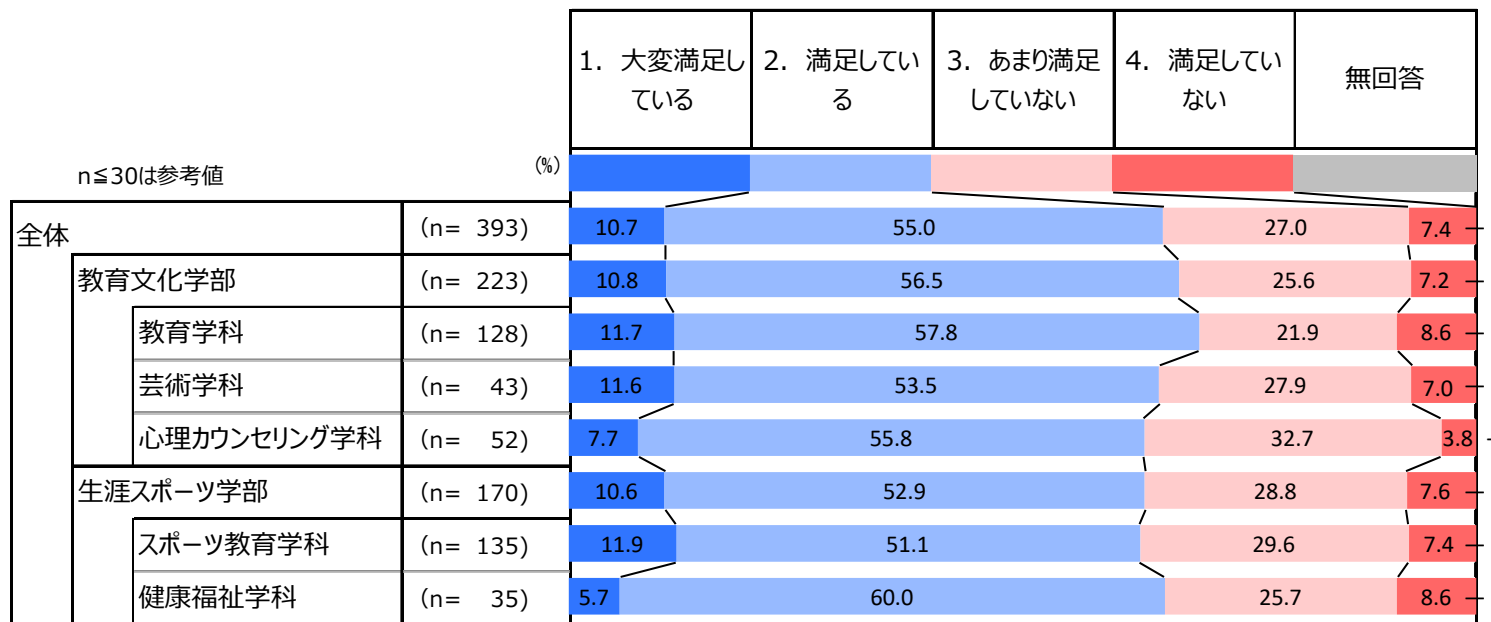
Q7.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（ひとつ選択）（全体／単一回答）



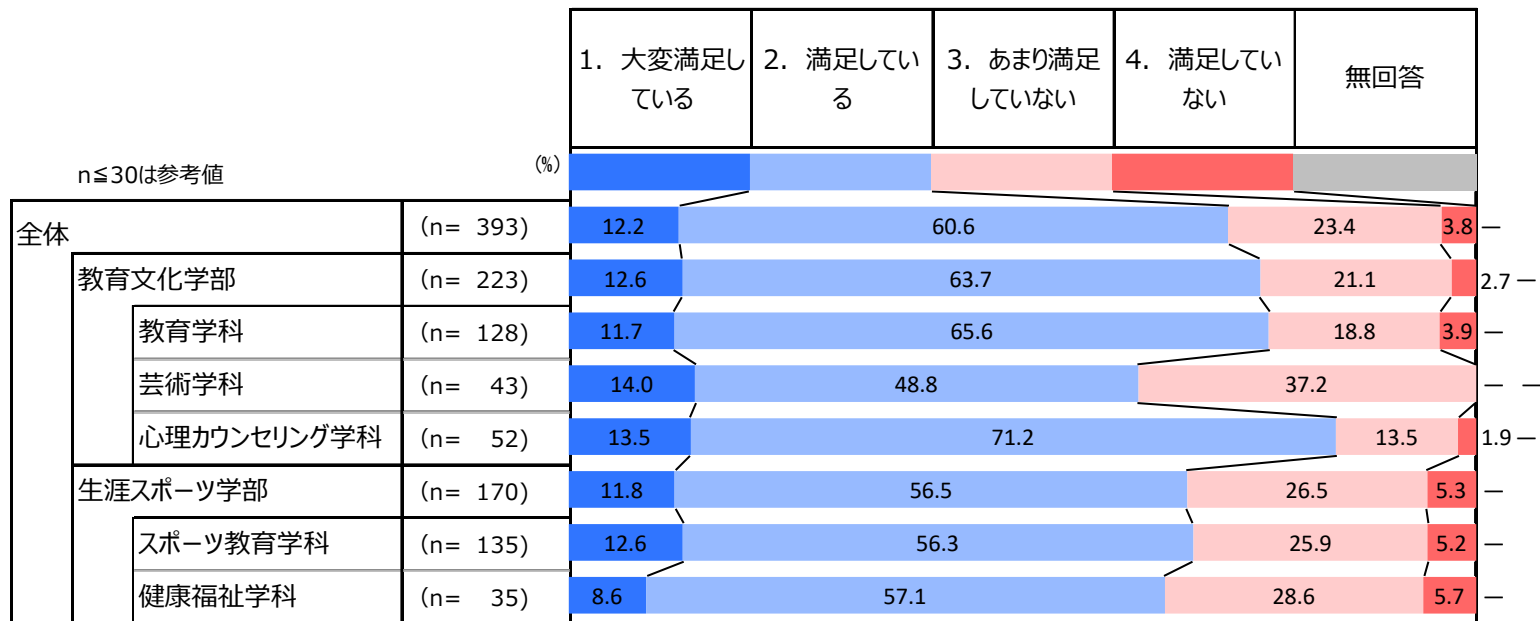
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（ひとつ選択）（全体／単一回答）



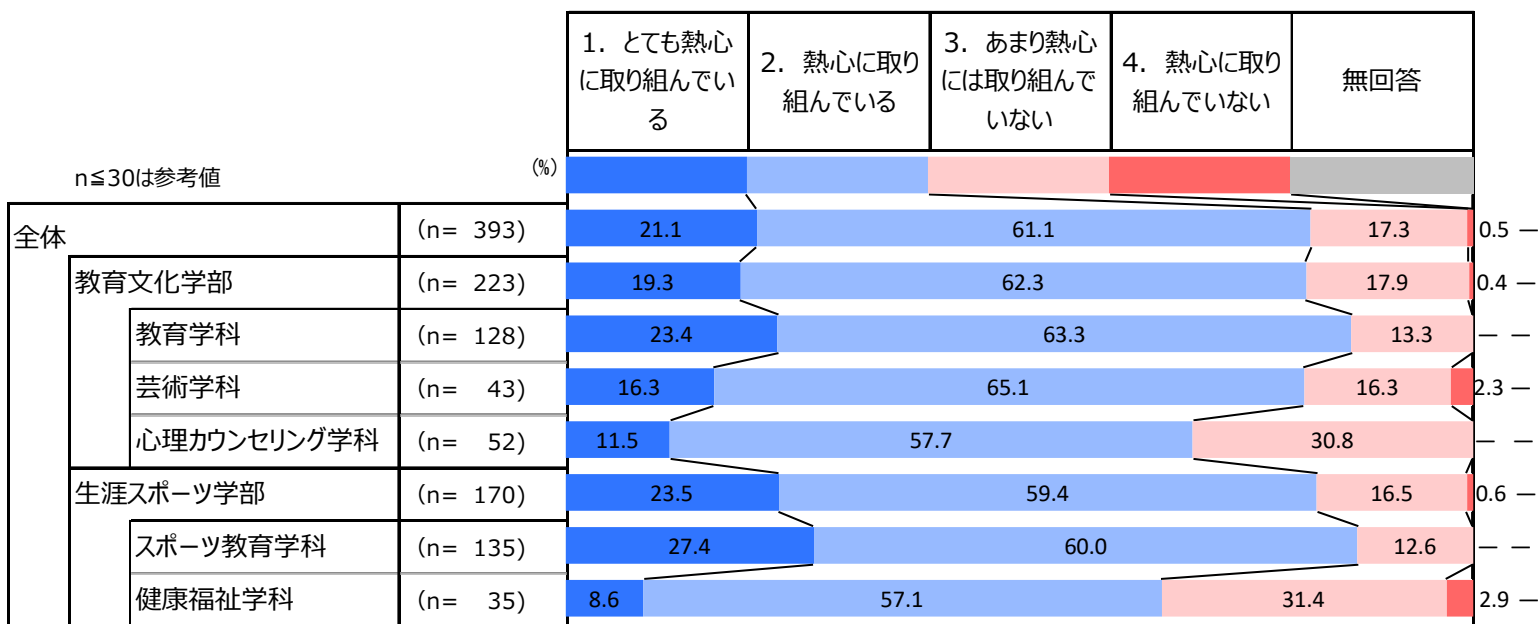
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



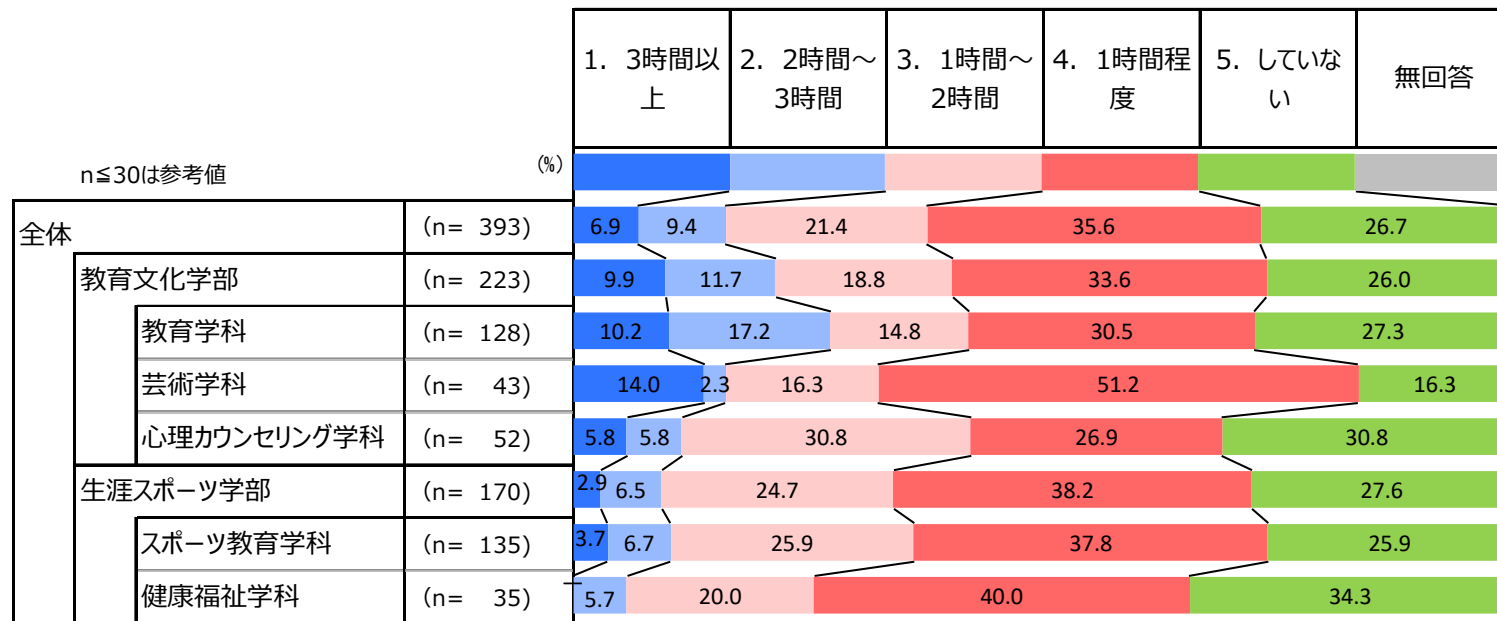
Q10.北翔大学の教育内容についてお伺いします。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



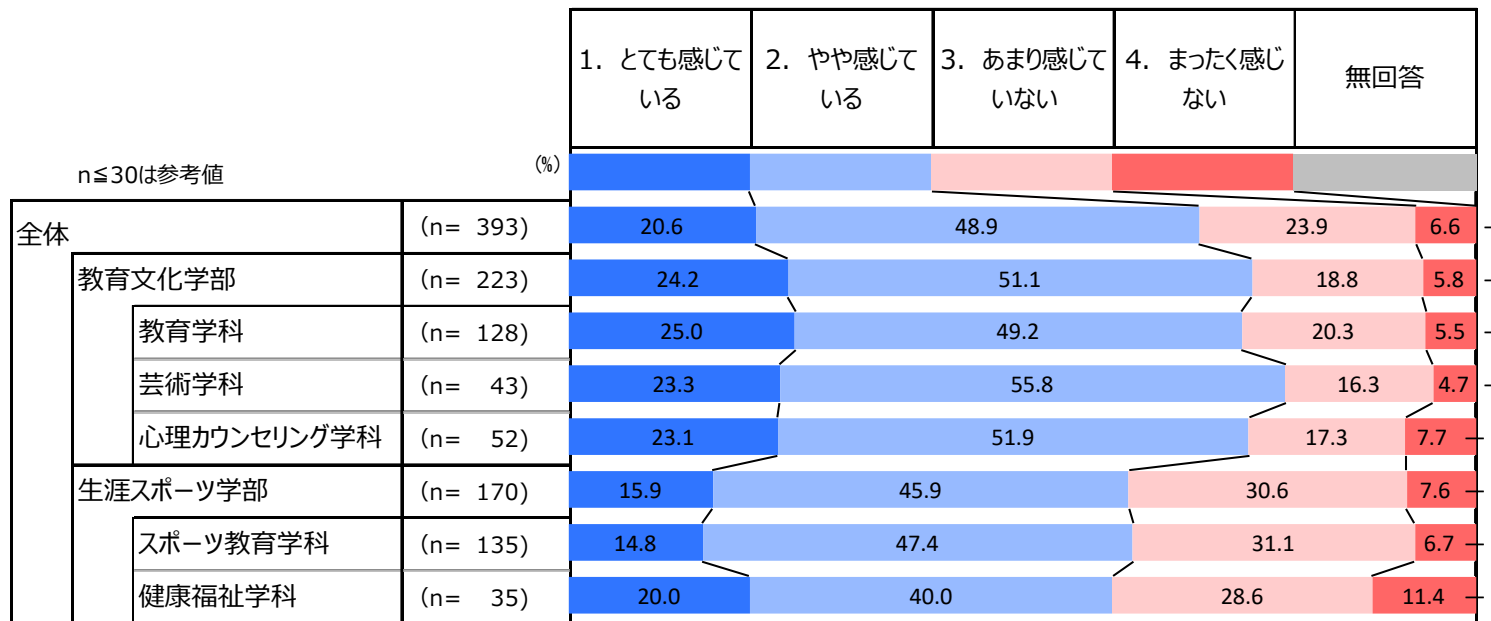
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。（ひとつ選択）（全体／単一回答）



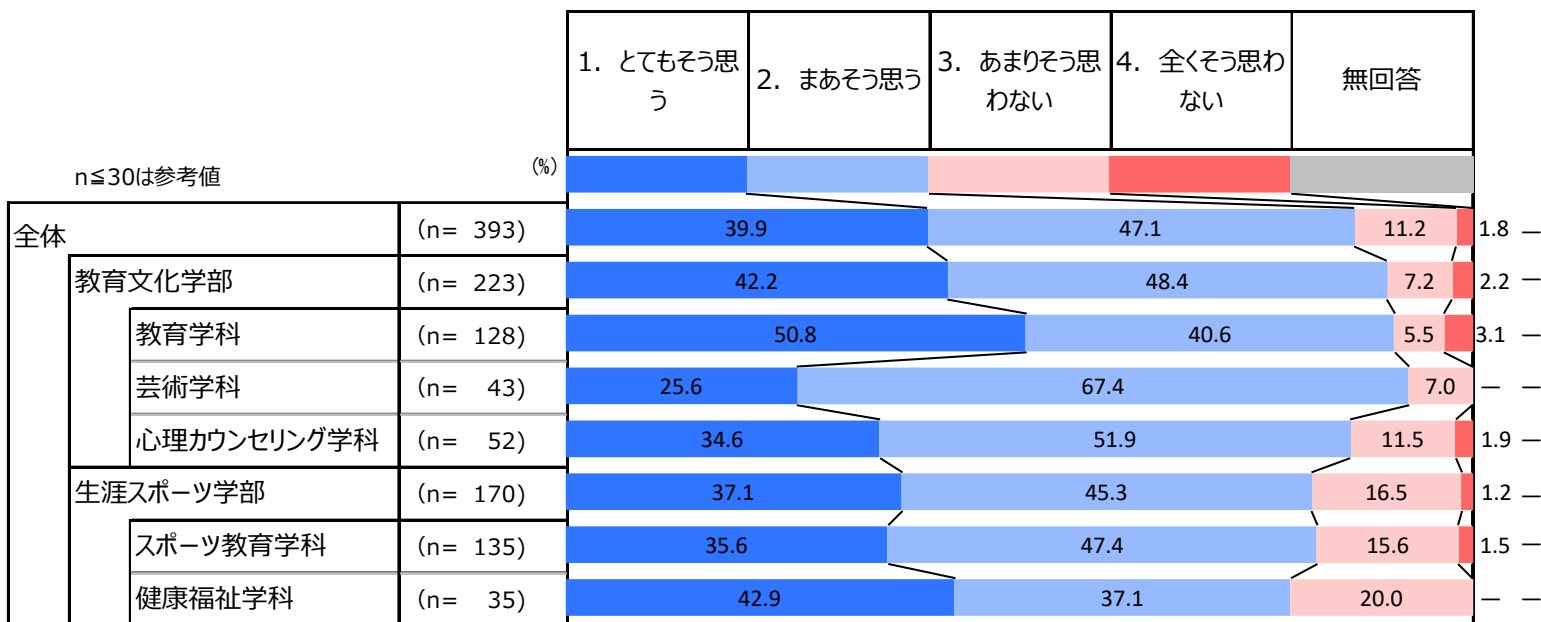
Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q14.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。
(ひとつ選択) (全体／単一回答)



北翔大学短期大学部1年次

調査概要

- 調査対象：PROGとアンケートに回答した短期大学部1年次61名
- PROG受験時期：2024年6月

●相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといえます。一般的には0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関があるとしています。

●有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5 %有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。

0.01以下であれば1 %有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

※以下のように得点化し、相関分析を実施している

設問	5点	4点	3点	2点	1点
Q3～Q5			①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない
Q6		①全く不安はない	②あまり不安はない	③少し不安である	④とても不安である
Q7		①はっきりとした考えがある	②これから考える	③考えているがはっきりしていない	④まったく考えていない
Q8		①とても楽しみだ	②まあ楽しみだ	③あまり楽しみでない	④全く楽しみでない
Q9～Q10		①大変満足している	②満足している	③あまり満足していない	④満足していない
Q11		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心に取り組んでいない	④熱心に取り組んでいない
Q13		①とても感じている	②やや感じている	③あまり感じていない	④まったく感じない
Q14		①とてもそう思う	②まあそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない

設問	3点	2.5点	1.5点	1点	0点
Q12	①3時間以上	②2時間～3時間	③1時間～2時間	④1時間程度	⑤していない

- 基礎力伸長と各設問との相関係数は以下の通り。
次ページ以降、 ± 0.2 以上の相関係数が認められた項目について詳細を見ていく。

相関係数

【全体】N=61（ただし各設問無回答は除く）

** 相関係数は1%水準で有意
* 相関係数は5%水準で有意

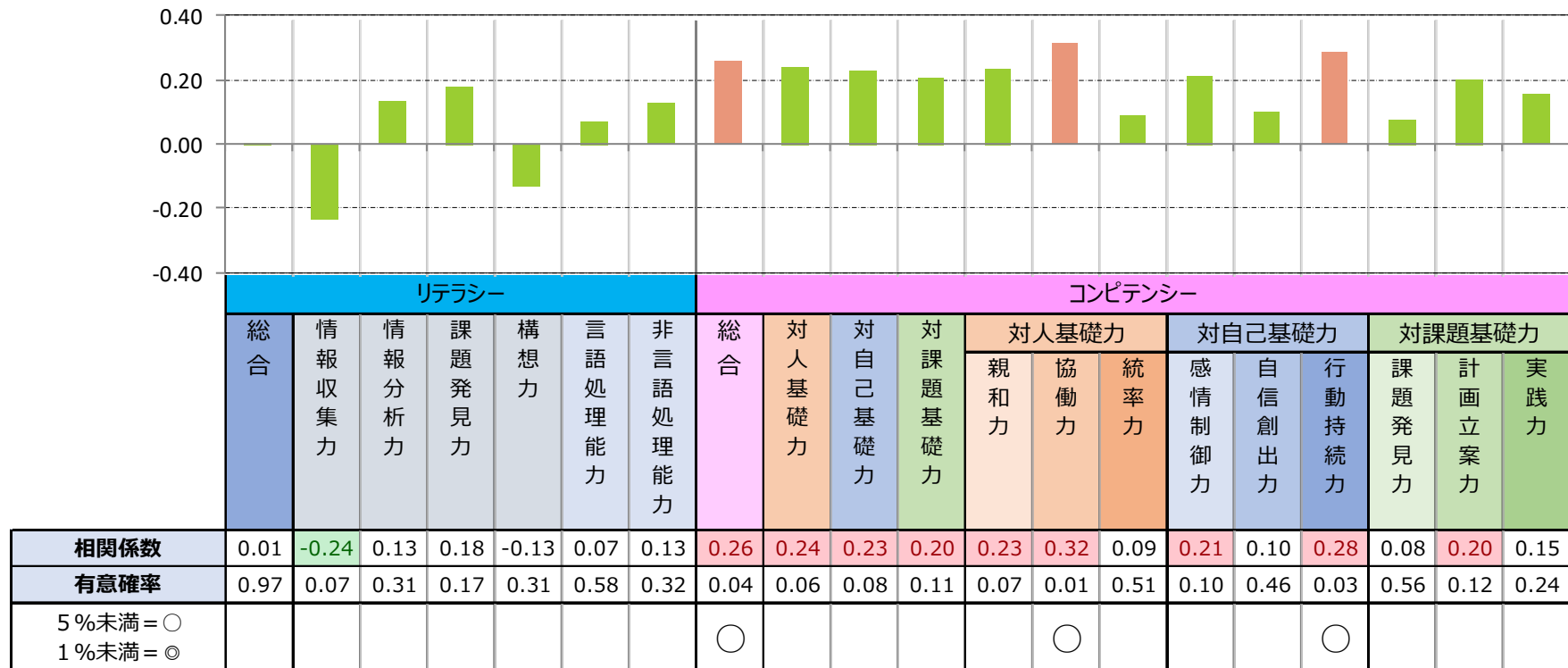
0.2以上 0.3未満	0.3以上 0.35未満	0.35以上
----------------	-----------------	--------

	リテラシー							コンピテンシー												
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語 処理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
												親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。	-0.26	0.25	-0.03	-0.42	-0.17	-0.21	-0.25	-0.14	-0.30	-0.03	0.27	-0.30	-0.30	0.02	-0.09	0.02	-0.08	-0.04	0.38	0.20
Q4.ボランティア活動についてお伺いします。	0.02	-0.15	-0.07	0.18	0.20	0.18	-0.14	0.05	0.14	-0.03	-0.16	0.10	0.32	0.01	-0.18	-0.01	0.25	-0.29	-0.02	0.22
Q5.アルバイトについてお伺いします。	-0.04	-0.17	-0.04	0.07	-0.01	0.08	0.18	0.09	0.08	0.13	-0.03	0.07	0.18	0.01	0.20	-0.11	0.17	0.02	-0.09	0.00
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。	-0.04	-0.06	-0.06	-0.10	0.09	-0.02	-0.09	-0.08	-0.10	-0.01	-0.11	-0.21	-0.15	0.15	-0.18	0.14	0.02	0.03	-0.09	-0.22
Q7.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（複数選択）	0.03	-0.03	0.00	0.12	-0.02	0.03	-0.02	0.02	-0.10	0.01	0.16	-0.11	-0.04	0.05	0.16	-0.13	0.17	0.01	0.07	0.13
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。	0.01	-0.24	0.13	0.18	-0.13	0.07	0.13	0.26*	0.24	0.23	0.20	0.23	0.32*	0.09	0.21	0.10	0.28*	0.08	0.20	0.15
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学・北翔大学短期大学部に満足していますか。	0.04	0.02	-0.12	0.08	0.00	0.03	-0.07	-0.01	-0.03	0.02	0.07	0.10	-0.03	-0.12	-0.07	-0.02	0.05	0.15	0.13	-0.07
Q10.北翔大学・北翔大学短期大学の教育内容についてお伺いします。	0.16	-0.08	-0.05	0.16	0.15	0.15	0.06	-0.02	-0.03	0.07	0.04	0.01	0.03	-0.09	0.00	-0.03	0.15	0.09	0.04	-0.03
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。（ひとつ選択）	0.06	-0.02	0.19	0.10	-0.06	0.24	-0.04	0.26*	0.32*	0.20	0.14	0.3*	0.27*	0.19	0.14	0.06	0.22	0.01	0.13	0.22
Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。（ひとつ選択）	0.05	-0.02	0.08	0.01	-0.14	0.08	0.15	0.07	0.01	0.09	0.00	0.10	0.08	-0.04	0.16	0.03	0.01	0.01	0.02	-0.03
Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。（ひとつ選択）	0.11	-0.10	0.23	0.11	-0.07	0.29*	0.03	0.06	-0.01	0.11	0.19	0.15	0.08	-0.14	-0.03	0.14	-0.04	0.14	0.16	0.23
Q14.大学・短大生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。（ひとつ選択）	0.10	-0.11	0.07	0.21	-0.04	0.22	-0.07	0.15	0.12	0.14	0.27*	0.14	0.13	0.09	0.09	0.14	0.22	0.17	0.33*	0.26*

● Q8. 社会人になることへの楽しみ：【コンピテンシー総合】【協働力】【行動持続力】

■ 基礎力との相関 【Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。】

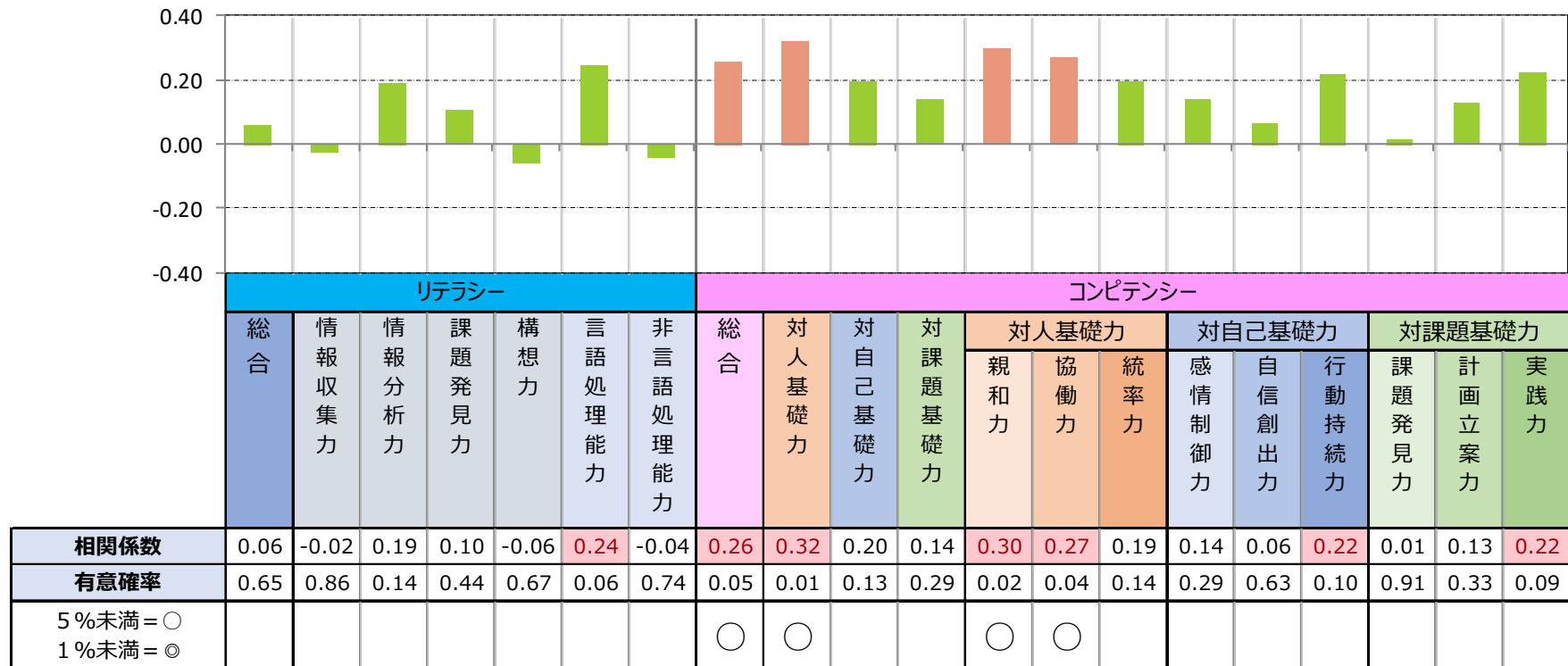
(n=61 *ただし無回答は除く)



●Q11.授業への取り組み：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【親和力】【協働力】

■基礎力との相関【Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。（ひとつ選択）】

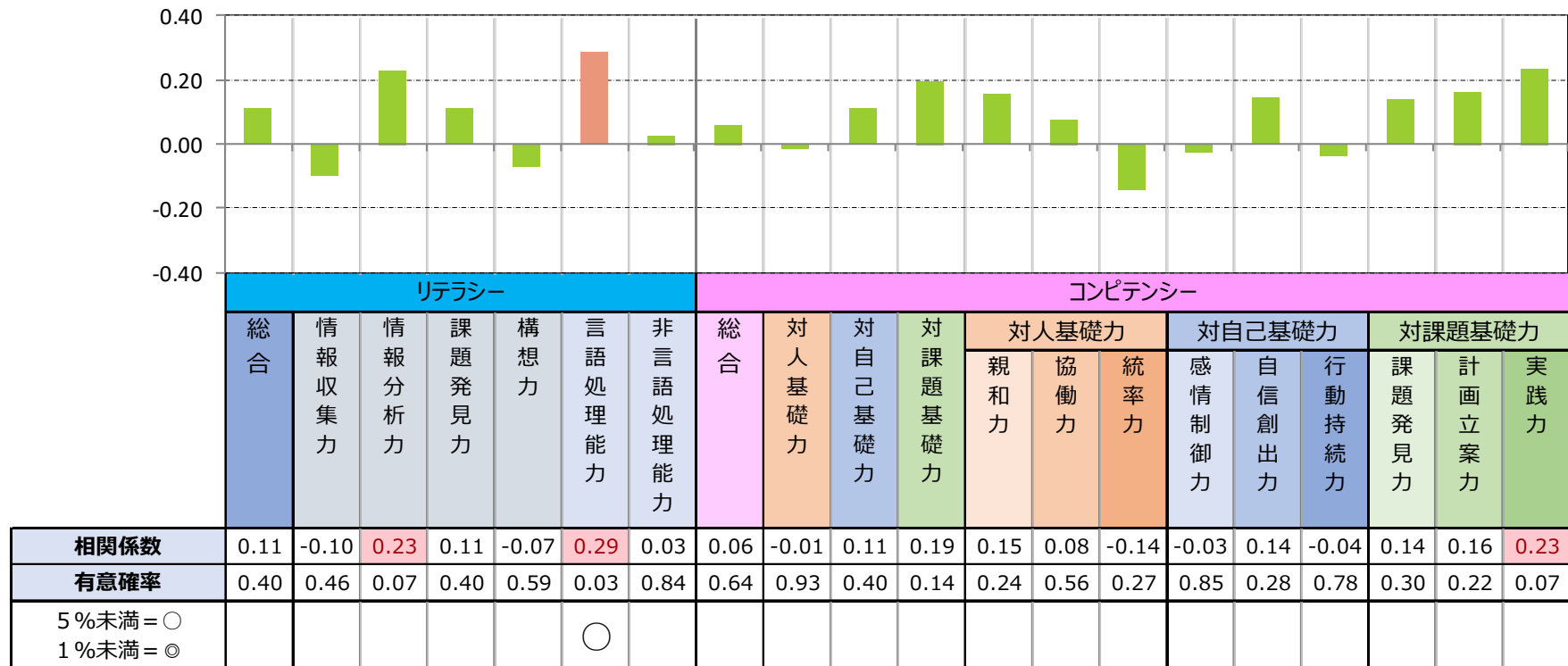
(n=61 *ただし無回答は除く)



●Q13.教員への親近感：【言語処理力】

■基礎力との相関【Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。（ひとつ選択）】

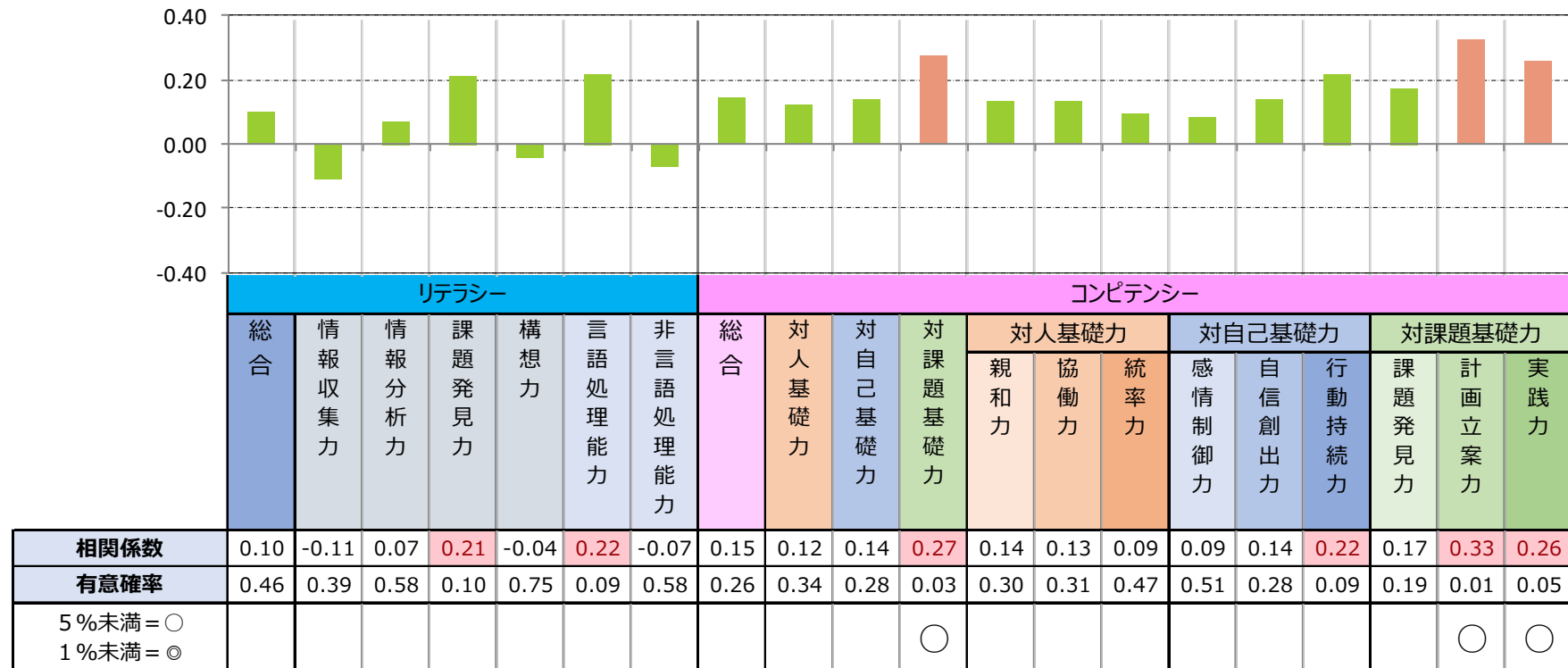
(n=61 *ただし無回答は除く)



- Q14.短大生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思うか：【対課題基礎力】【計画立案力】【実践力】

■基礎力との相関【Q14.大学・短大生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。（ひとつ選択）】

(n=61 *ただし無回答は除く)



- 基礎力伸長と各設問の回答別の平均値は以下の通り。

次ページ以降、回答別比較が可能な設問（N＝10以上の選択肢が2項目以上）について詳細を見ていく。

N≧10の場合：

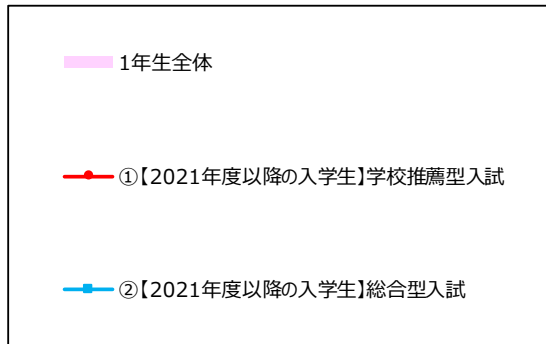
全体+0.5以上

全体-0.5以下

設問	選択肢	N数	リテラシー								コンピテンシー											
			総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語処 理能力	非言語 処理能 力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
														親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
全体		61	3.23	2.97	2.92	2.64	3.05	2.74	3.18	2.89	3.25	3.08	3.30	3.75	3.75	2.70	2.89	3.10	3.25	2.80	3.30	3.75
Q1.入試形式について 教えてください。	①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	42	3.31	2.98	2.83	2.79	3.05	2.71	3.26	2.90	3.24	3.02	3.45	3.81	3.81	2.64	2.81	2.98	3.26	2.95	3.40	4.00
	②【2021年度以降の入学生】総合型入試	16	2.81	2.81	3.13	2.06	3.00	2.69	2.81	2.69	2.94	3.13	3.00	3.19	3.44	2.75	3.00	3.38	3.13	2.25	3.13	3.19
	③【2021年度以降の入学生】一般入試	0																				
	④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	1	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	5.00	4.00	6.00	2.00	3.00	7.00	5.00	4.00	2.00	2.00	3.00	5.00	3.00	2.00
	⑤【2021年度以降の入学生】その他	2	4.00	3.50	2.50	3.50	3.50	3.00	3.50	3.50	4.50	4.50	2.50	5.50	4.50	3.00	4.00	4.00	4.00	3.00	2.50	4.00
	⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	0																				
Q2.入試形式について教 えてください。	①【2020年度以前の入学生】推薦入試	0																				
	②【2020年度以前の入学生】AO入試	0																				
	③【2020年度以前の入学生】一般入試	0																				
	④【2020年度以前の入学生】センター入試	2	3.00	2.50	3.00	2.50	3.50	2.00	3.50	5.00	5.00	4.50	5.00	5.50	6.00	4.00	4.00	4.50	5.50	4.00	4.50	4.50
	⑤【2020年度以前の入学生】その他	0																				
	⑥【2021年度以降の入学生】の方はこちらにチェックしてください	0																				

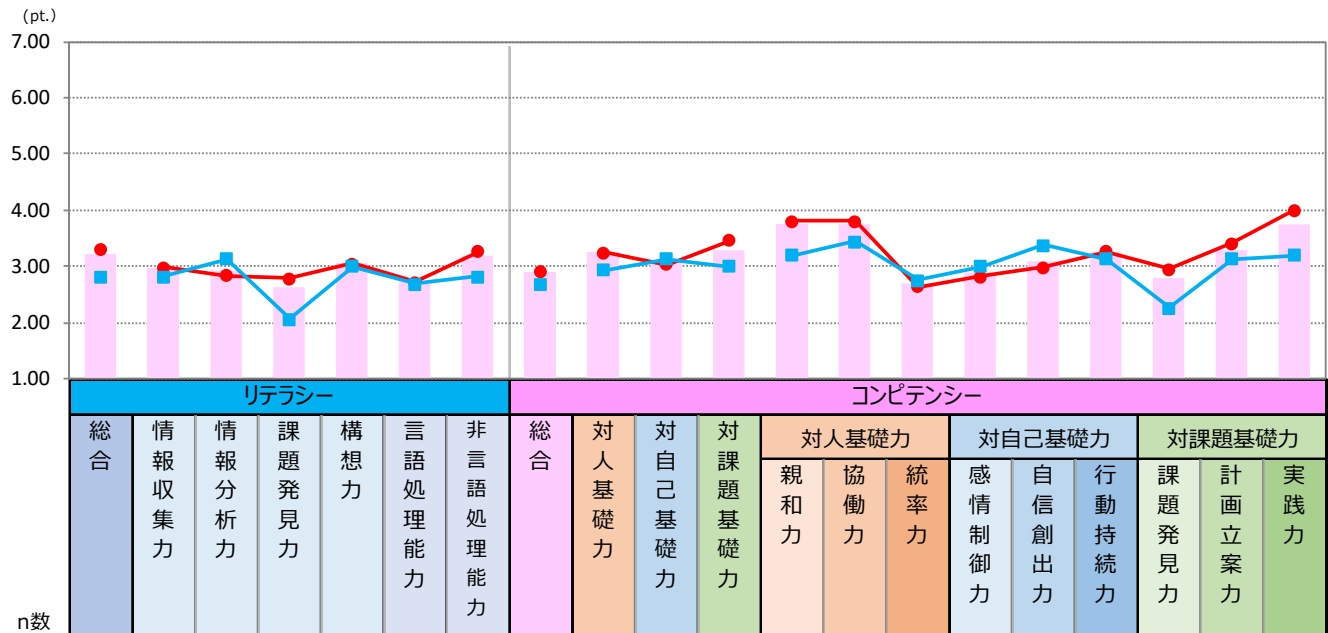
- 2021年度の入試経路別にみると、「総合型入試」での親和力、課題発見力、実践力の水準が低い傾向がみられる。

■ 基礎力平均スコア比較



n≥10の場合
5.00 全体+0.5ポイント以上
5.00 全体-0.5ポイント以下

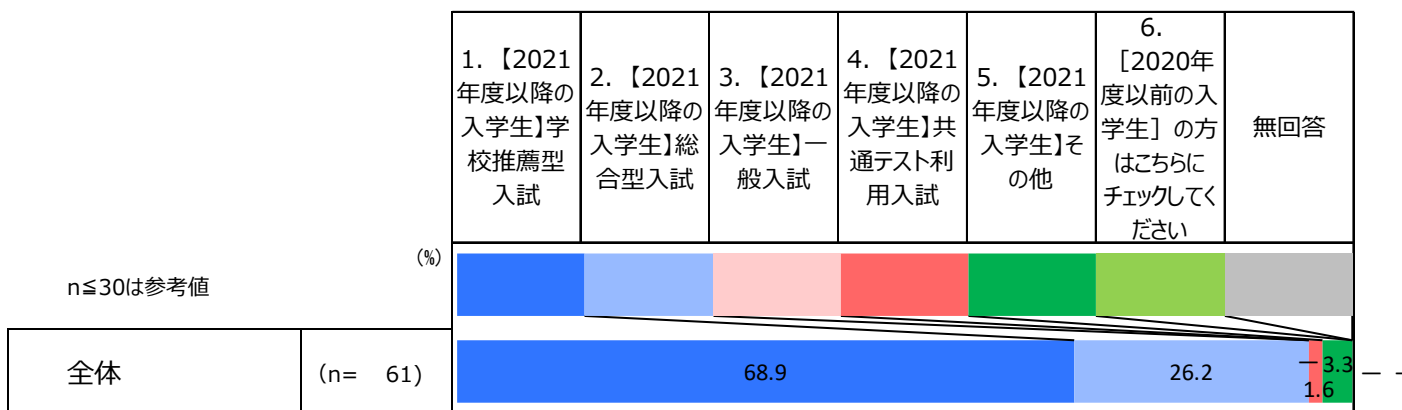
Q1.入試形式について教えてください。



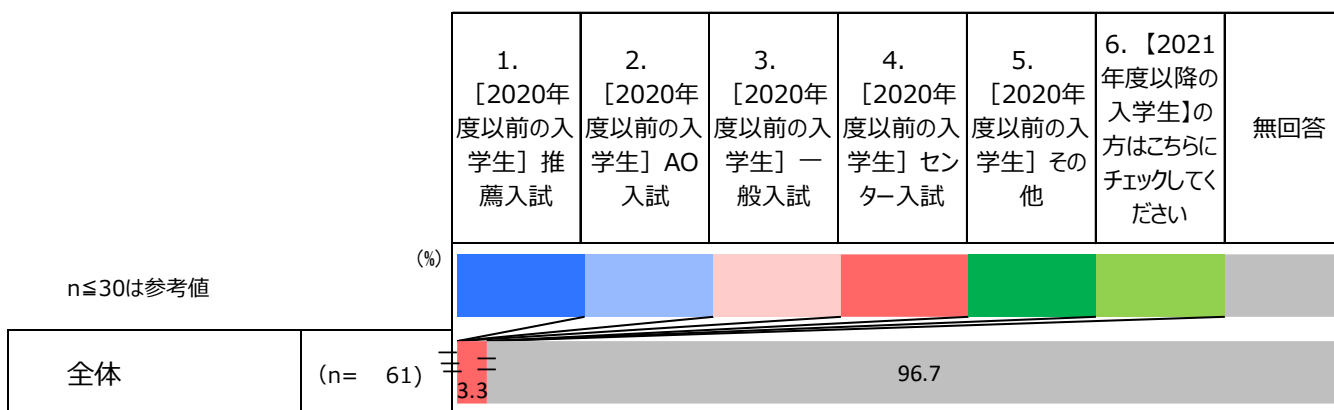
1年生全体	n数	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
1年生全体	61	3.23	2.97	2.92	2.64	3.05	2.74	3.18	2.89	3.25	3.08	3.30	3.75	3.75	2.70	2.89	3.10	3.25	2.80	3.30	3.75
①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	42	3.31	2.98	2.83	2.79	3.05	2.71	3.26	2.90	3.24	3.02	3.45	3.81	3.81	2.64	2.81	2.98	3.26	2.95	3.40	4.00
②【2021年度以降の入学生】総合型入試	16	2.81	2.81	3.13	2.06	3.00	2.69	2.81	2.69	2.94	3.13	3.00	3.19	3.44	2.75	3.00	3.38	3.13	2.25	3.13	3.19
③【2021年度以降の入学生】一般入試	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	1	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	5.00	4.00	6.00	2.00	3.00	7.00	5.00	4.00	2.00	2.00	3.00	5.00	3.00	2.00
⑤【2021年度以降の入学生】その他	2	4.00	3.50	2.50	3.50	3.50	3.00	3.50	3.50	4.50	4.50	2.50	5.50	4.50	3.00	4.00	4.00	4.00	3.00	2.50	4.00
⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※無回答は除く ※グラフからはn=10未満は除く

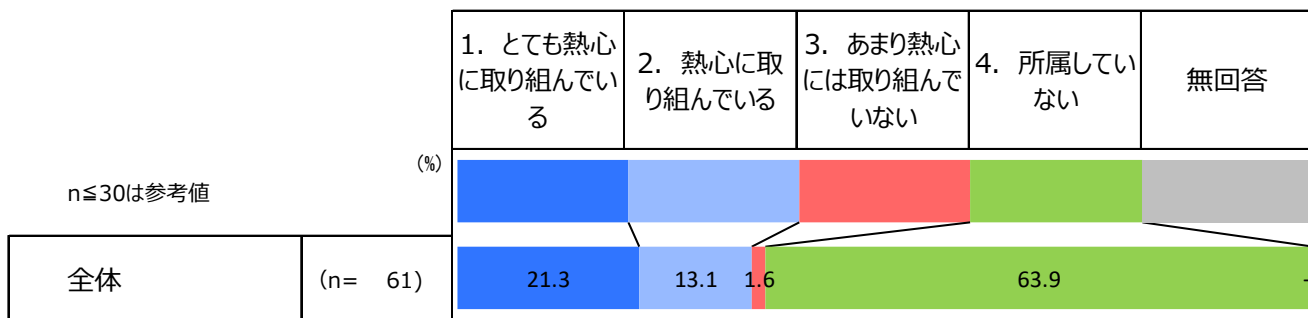
Q1.入試形式について教えてください。【2021(令和3)年度以降入学生】(全体／単一回答)



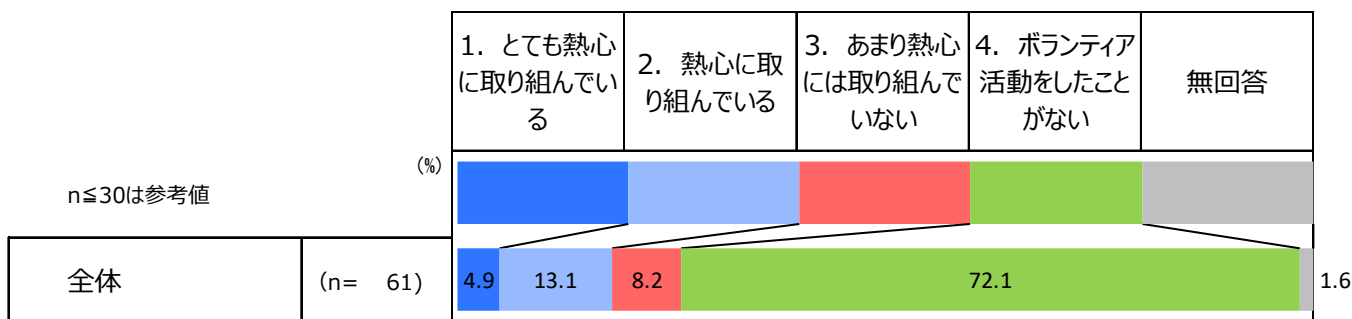
Q2.入試形式について教えてください。【2020(令和2)年度以前の入学生】(全体／単一回答)



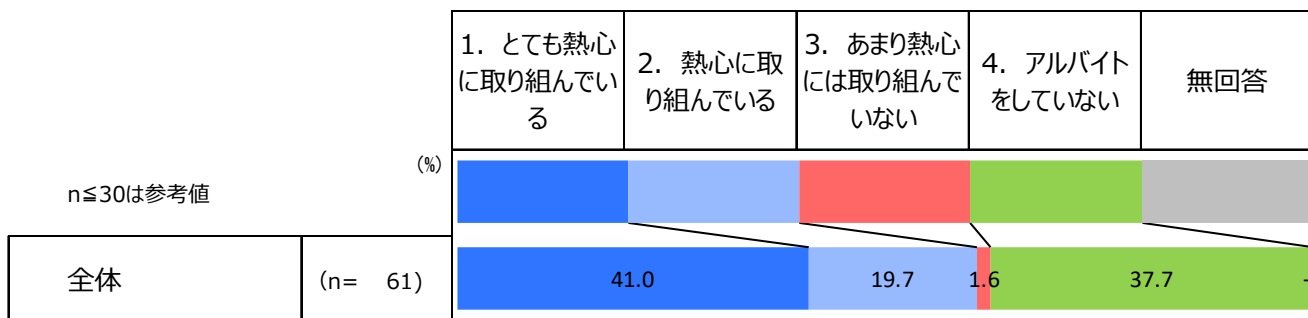
Q3.部活・サークル活動についてお伺いします。(全体／単一回答)



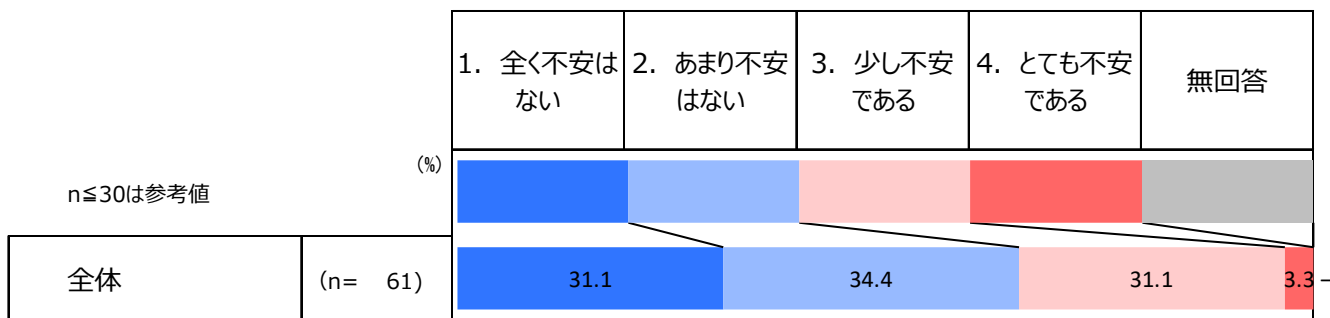
Q4.ボランティア活動についてお伺いします。(全体／単一回答)



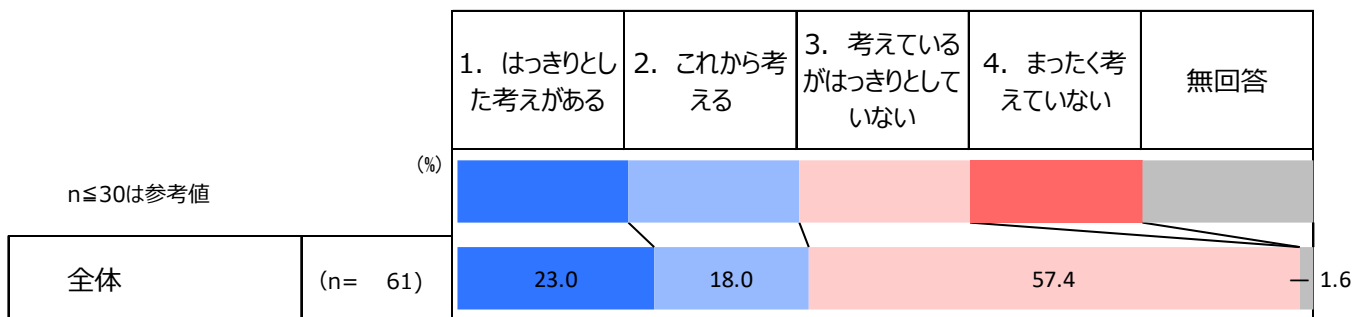
Q5.アルバイトについてお伺いします。(全体／単一回答)



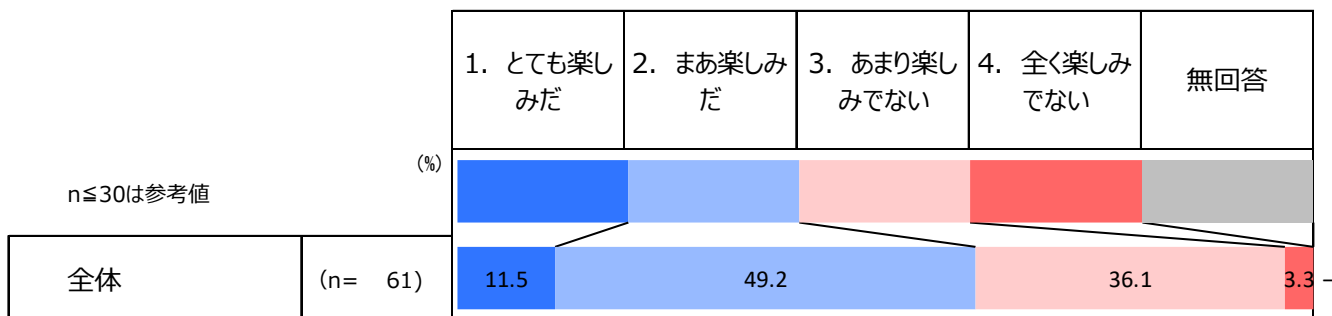
Q6.学費の支払いについて不安はありますか。(全体／単一回答)



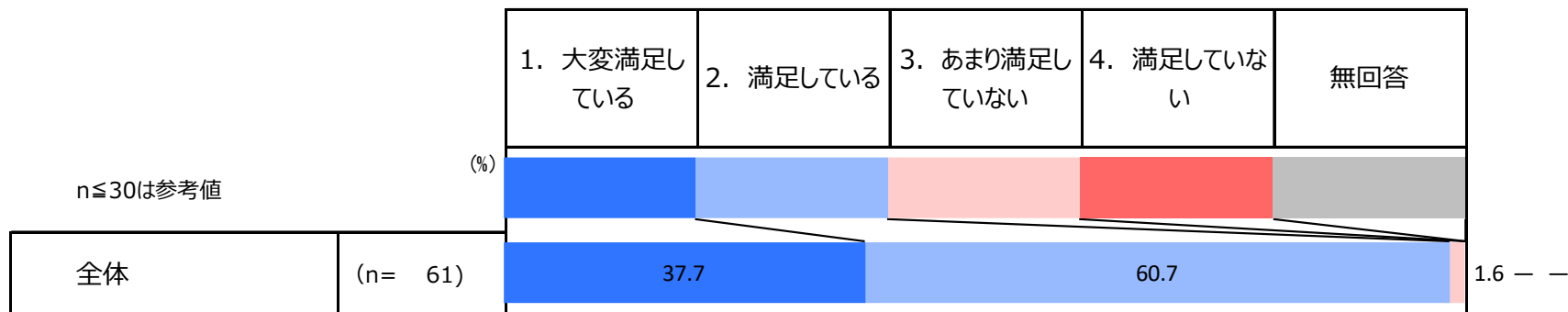
Q7.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。）（全体／単一回答）



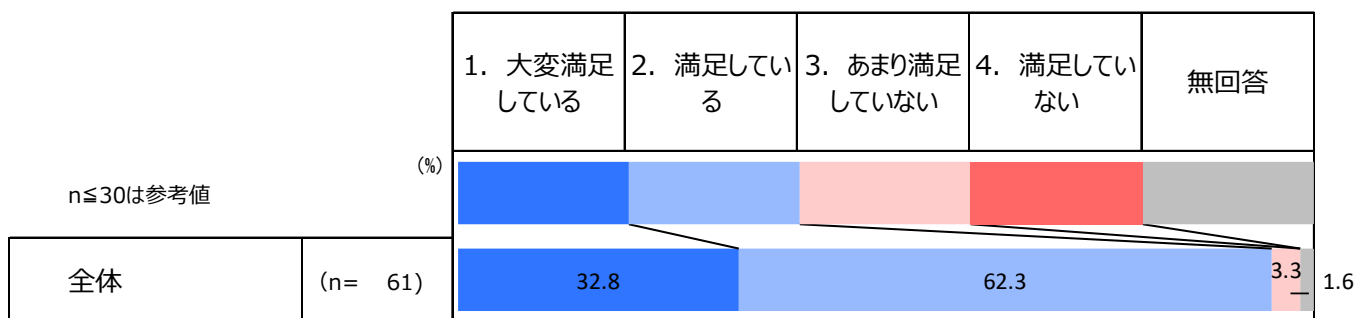
Q8.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（全体／単一回答）



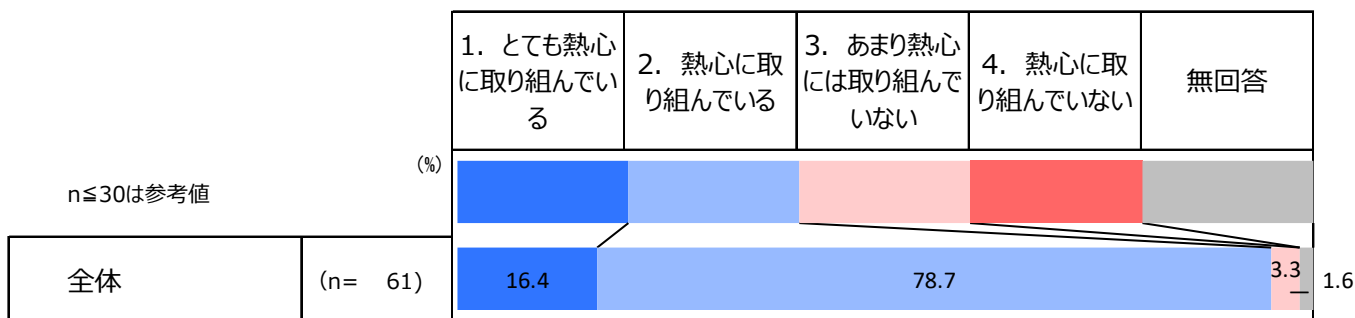
Q9.あなたは現在、全体として北翔大学・北翔大学短期大学部に満足していますか。（全体／単一回答）



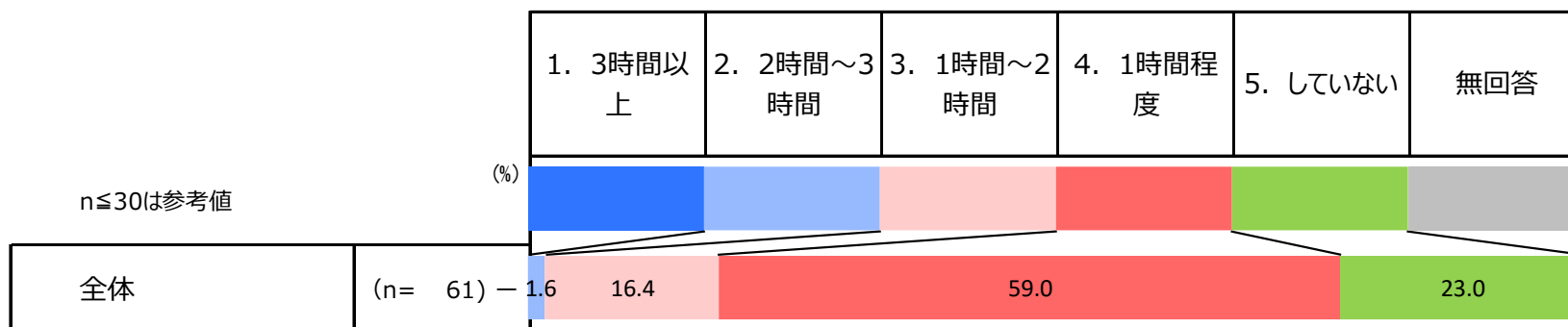
Q10.北翔大学・北翔大学短期大学部の教育内容についてお伺いします。（全体／単一回答）



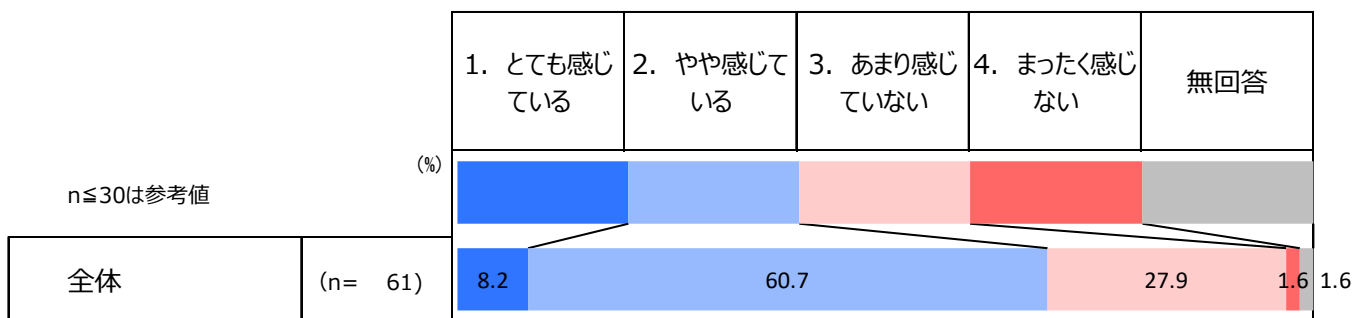
Q11.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q12.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q13.あなたは教員に親近感を感じますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)



Q14.大学・短大生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。(ひとつ選択) (全体／単一回答)

